

広大科研

19

16330165

0100453475

学級規模が授業と学校生活に与える影響に 関する比較社会学的研究

(課題番号 16330165)

平成16年度～平成18年度 科学研究費補助金
(基盤研究(B))

研究成果報告書

平成19年3月

研究代表者 **山崎博敏**
(広島大学大学院教育学研究科 教授)

広島大学図書

0100453475





学級規模が授業と学校生活に与える影響に
関する比較社会学的研究

(課題番号 16330165)

平成 16 年度～平成 18 年度 科学研究費補助金

基盤研究 (B)

研究成果報告書



平成 19 年 3 月

研究代表者 山崎 博敏

(広島大学教授)

研究の概要

本書は、平成16年度から18年度にわたり日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(B)）の交付を受けて実施した、下記の研究課題の研究報告書である。

研究課題 学級規模が授業と学校生活に与える影響に関する比較社会学的研究

研究組織

研究代表者 山崎 博敏（広島大学大学院教育学研究科教授）

研究分担者 田中 春彦（広島大学名誉教授）
高旗 浩志（島根大学教育学部助教授）
須田 康之（北海道教育大学教育学部旭川校教授）
西本 裕輝（琉球大学大学教育センター助教授）

研究協力者 李 東林（広島大学高等教育研究開発センターCOE 研究支援員）
長谷川 祐介（広島国際大学非常勤講師）
蔣 莉（広島大学大学院教育学研究科博士課程後期）
藤井 宣彰（広島大学大学院教育学研究科博士課程後期）
水野 考（広島大学大学院教育学研究科博士課程後期）

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成16年度	3,000,000	0	3,000,000
平成17年度	3,800,000	0	3,800,000
平成18年度	2,300,000	0	2,300,000
総計	9,100,000	0	9,100,000

研究発表

＜学術論文等＞

- (1)山崎博敏「公立小中学校の学校規模の法制と現実の諸類型」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部、第54号、2005年、1-10頁。
- (2)水野考「学校規模に隠された学級規模の効果—公立小・中学校の全国校長調査を中心に」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部、第54号、2005年、11-18頁。
- (3)山崎博敏・水野考・藤井宣彰・高旗浩志・田中晴彦「全国の小中学校における少人数教育とティーム・ティーチングの実施状況:2004年全国校長・教員調査報告」『学校教育実践学研究』第12巻、2006年、1-12頁。
- (4)西本裕輝「学級規模が授業に与える影響に関する実証的研究—小学校を中心に—」『人間科学（琉球大学法文学部人間科学科紀要）』第19巻、2007年、67-82頁。
- (5)藤井宣彰・水野考・山崎博敏「学校・学級規模と授業方法が授業に与える影響—中学校教員の教科別分析—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部、第55号、2007年、93-98頁。
- (6)藤井宣彰「学校・学級規模が児童生徒の学校生活に与える影響」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部、第55号、2007年、99-104頁。

- (7) 蔣莉・李東林・山崎博敏「中国の小中学校における「小班化教育」と学級規模の教育的効果」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部、第55号、2007年、153-160頁。
- (8) 水野考「児童生徒の家庭での学習と生活—その実態と学力に及ぼす影響—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部、第55号、2007年、169-176頁。
- (9) 須田康之「校長評価からみた教育目標充実度」『北海道教育大学紀要教育科学編』第57巻、第2号、2007年、41-54頁。
- (10) 高旗浩志・須田康之・藤井宣彰・西本裕輝・山崎博敏・水野考「児童生徒からみた優れたティーム・ティーチングと少人数学習」『島根大学教育学部附属教育支援センター』印刷中

<商業雑誌等>

- (1) 「学習状況は小規模校ほど良好に一学級数と教育活動の関係を調査・分析—」『内外教育』2005年9月16日、6-7頁。
- (2) 山崎博敏「小規模学級ほど学習効果上がり、生徒指導も順調」『週刊教育資料』No.911、2005年10月17日、9頁。
- (3) 「小学校で「小班化教育」の試行進む—中国の初等教育の動向を報告—」『内外教育』2006年9月26日、14-15頁。
- (4) 山崎博敏「学力を伸ばす学習環境とは」『公明』2007年2月号、35-39頁。
- (5) 山崎博敏「積極参加型授業と教師のフォローアップが学力の高い子どもを作る!」『NEW教育とコンピュータ』2007年3月号、50-53頁。

<新聞掲載>

- (1) 「親の関心学力伸ばす」読売新聞、2006年10月13日。
- (2) 「TT 経験ある子は学力高い」日本教育新聞、2006年10月16日。
- (3) 山崎博敏「朝の読書・質疑学力高める」日本経済新聞、2006年11月20日。

<口頭発表>

- (1) ○山崎博敏、○水野考、藤井宣彰「学校規模と教育活動の関係に関する実証的分析」日本教育学会第64回大会（東京学芸大学）、2005年8月25日。
- (2) ○須田康之・○西本裕輝・○藤井宣彰・水野考・高旗浩志・山崎博敏「小中学校における学級規模の教育的効果—全国校長・教員調査報告」日本教育社会学会第57回大会（放送大学）、2005年9月17日。
- (3) ○山崎博敏・○高旗浩志・須田康之・西本裕輝・藤井宣彰・水野考「全国の小中学校における少人数学習の実施状況」日本教育社会学会第57回大会（放送大学）、2005年9月17日。
- (4) ○李東林・○蔣莉・山崎博敏「中国の小・中学校における授業と学級生活—学級規模を中心に—」日本教育学会第65回大会（東北大学）、2006年8月24日。
- (5) ○高旗浩志・○藤井宣彰・○山崎博敏・須田康之・西本裕輝・水野考「児童生徒からみた優れたティーム・ティーチングと少人数学習」日本教育学会第65回大会（東北大学）、2006年8月24日。
- (6) ○山崎博敏・○須田康之・○西本裕輝・高旗浩志・藤井宣彰・水野考「学力に及ぼす授業方法・学級規模・家庭環境の影響」日本教育社会学会第58回大会（大阪教育大学）、2006年9月23日。

目次

第1部 総論

第1章 研究の目的と方法	山崎博敏	1
第2章 学校規模の効果に関する欧米の先行研究 :Glass、Slavin、STARを中心に	山崎博敏	5
第3章 公立小中学校の学校規模の法制と現実の諸類型	山崎博敏	15

第2部 少人数学習とチーム・ティーチング

第1章 全国の小中学校における少人数教育とチーム・ティーチングの実施状況 :2004年全国校長・教員調査報告	山崎博敏・水野考・藤井宣彰・高旗浩志・田中春彦	25
第2章 児童生徒からみた優れたチーム・ティーチングと少人数学習 高旗浩志・藤井宣彰・山崎博敏・水野考・須田康之・西本裕輝		37

第3部 学校・学級規模と授業・学校生活

第1章 学校規模に隠れた学級規模の効果—公立小・中学校の全国校長調査を中心に— 水野考・藤井宣彰・田中春彦・山崎博敏		51
第2章 学級規模が授業に与える影響に関する実証的研究—小学校を中心に— 西本裕輝		59
第3章 学校・学級規模と授業方法が授業に与える影響—中学校教員の教科別分析— 藤井宣彰・水野考・山崎博敏		69
第4章 学校・学級規模が児童生徒の学校生活に与える影響	藤井宣彰	75
第5章 校長評価から見た教育目標充実度	須田康之	81
第6章 学級規模が授業と学力に与える影響	須田康之	95
第7章 学校規模と部活動	長谷川祐介	109

第4部 学級規模・授業方法・家庭環境と学力

第1章 児童生徒の家庭での学習と生活：その実態と学力に及ぼす影響	水野考	125
第2章 学力に及ぼす学校・学級規模、指導方法、家庭環境の影響 山崎博敏・須田康之・西本裕輝・高旗浩志・藤井宣彰・水野考		133

第5部 中国における学校・学級規模と学校教育

第1章 中国の小中学校における「小班化教育」	蒋莉	139
第2章 中国の小中学校における学級規模の教育的効果	李東林	145

付録

調査結果の概要	校長調査	153
	教員調査	175
	児童生徒調査	183
調査票一覧	日本調査	
	校長調査	199
	教員調査	209
	児童生徒調査	213

第 1 部

総論

第1章 研究の目的と方法

山崎 博敏

1. 研究の背景と目的

1959年度以来の数次の教職員配置改善計画政策と義務教育標準法によって公立義務教育諸学校の学級規模は縮小してきた。1950年代には50人以上の学級が多く、「すし詰め学級」と呼ばれていたが、公立小学校を例にとると1960年代末までに46人を超える学級は消滅し、1990年代初頭にはほぼ40人学級が実現した。わずか30年間の間に、我が国の小学校の学級規模は最頻値が「46-49人」（1960年）から「31-35人」へと15人も縮小した。

ところが、1990年代に入り、40人以下への学級規模縮小は断念され、「指導方法の工夫など個に応じた教育の展開」という角度から定数改善が志向されるようになった。第6次計画（1993—2000年度）ではティーム・ティーチング（以後TTと略称）が導入され、2001年度より2005年度までの第7次教職員配置改善計画では、やはり40人の学級規模は維持しつつ新たに基本3教科（小学校では国語・算数・理科、中学校では英語・数学・理科）での少人数学習が導入され、ホームルームを解体して20人以下の学習集団を編成した学習指導が実施された。その後、2006年度からの「第8次」の公立義務教育諸学校教員定数改善計画では、特別支援教育の振興を重点にすることになった。

他方、1998年の中教審答申「今後の地方教育行政の在り方」を受けて、2001年度に制度が改正された。公立小・中学校の学級編制は、国の標準に従い各都道府県において基準を定めるという制度の基本は変えないが、都道府県教育委員会はその判断により、国の標準を下回る基準を定めることが可能となった。文科省の調査によれば、平成14年度において学級編制の弾力化を実施しているのは22道府県にのぼっていた。さらに、2005年度には、義務教育標準法が改正され、学級編制を学校の裁量で決められるようになった。

このような政策的な動きの一方で、1999年秋に大学生の学力低下が社会問題化し、その議論は、初等中等教育への広がりを見せるようになった。学力問題は1990年代以降21世紀初頭におけるわが国の教育の最大の問題の一つとなった。教育の条件整備の目的も、焦点が絞られ、学力向上を重要な要素とするようになった。

ここで我々が検討すべき研究問題として、教員定数を増加させることにより、学級規模を縮小したり、ティーム・ティーチングや少人数学習指導など新しい指導方法を導入することによって、果たして、どの程度の教育上の効果が見込まれるかという問題が浮かび上がってくる。この問題は、地方教育行政機関や学校の裁量が大きくなればなるほど、ますます重要な問題となってくる。もはや国だけの問題ではなくなり、地方教育委員会、各学校、それに保護者にとっても関心を持たざるを得ない問題となってくる。その際に、それらが学力に対してどのような影響を与えているかも不可欠の視点となってきた。

我々は、学級規模の縮小の推移を統計分析し、ティーム・ティーチングや少人数学習指導など新しい指導方法の実施状況を分析し、さらに、それらがどのような教育上の効果があるのかを分析した。なお、教育上の効果としては様々なものが考えられる。校長や教員

からみた学習指導・生徒指導の順調度、児童生徒の学習や学級生活の順調度、学力などが考えられる。また、学級規模の縮小は、世界的な動向でもある。中国の学級規模はわが国よりも大きい、教員の指導の状況や児童生徒の学習や学級生活はどのような状況にあり、学級規模とどのような関係にあるかを分析し、両国の学校や学級の特性とその教育的効果を比較考察した。

2 統計データ分析

文部科学省『学校基本調査』の各年度版を用い、次のような分析を行った。

A 戦後における学校・学級規模の変化

B 学校規模と学級規模の分布状況と学級数・教員数・児童生徒数等の関係

なお、学級数・教員数・児童生徒数の関係については、全国校長調査で得られた個票データを分析した。

3 全国校長調査と教員調査

われわれは、学校・学級規模の現状、学級編制、ティーム・ティーチングや少人数学習指導など新しい指導方法の実施状況とその効果に対する校長教員の評価等を調査するために、全国の小中学校の校長と教員に対する「学級規模と少人数教育に関する調査」をおこなった。

2004年11月末に全国の小中学校のリスト（『全国学校総覧』2004年度版）に掲載されている35,322校の中表3に示すような抽出率に基づいてから3804校を抽出し、校長宛に2つの質問紙を郵送し、「校長調査」の回答と「教員調査」（各校6部）の配布を依頼した。2005年2月までに1222校の校長から有効票を回収した。校長調査票と教員調査票の配布と回収の状況は表1、表2に示している。

表1 校長調査票の回収状況

		学校数	抽出率	配布数	回収数	回収率
小学校	国立	73	1/1	73	37	50.7
	公立	23,865	1/10	2,386	748	31.3
	私立	172	1/2	86	21	24.4
	計	24,110		2,545	806	31.7
中学校	国立	78	1/1	78	38	48.7
	公立	10,454	1/10	1,045	327	31.3
	私立	680	1/5	136	6	4.4
	計	11,212		1,259	371	29.5
中高併置校	国立	---	---	---	3	---
	私立	---	---	---	29	---
小中併置校	公立	---	---	---	9	---
	私立	---	---	---	1	---
特殊教育学校	公立	---	---	---	3	---
総計		35,321		3,804	1,222	32.1

表2 教員調査票の回収状況

	配布数				回収数（教員の人数）				回収率
	国	公	私	計	国立	公立	私立	合計	
小学校	438	7,158	258	7,635	202	3,901	94	4,197	55.0
中学校	234	3,135	408	3,786	189	1,796	46	2,031	53.6
中高併置	-	-	-	-	18	0	150	168	
小中併置	-	-	-	-	0	36	6	42	
合計				11,421	409	5,733	296	6,438	56.4

この調査データを用いて、次のような分析を行った。

- A 全国の小中学校におけるTTと少人数学習の実施状況、その効果に関する分析
- B 学校・学級規模が授業や学校生活に与える影響
- C 学校・学級規模が学校の目標充実度に与える影響

4 児童生徒調査

2005年11月末から2006年冬にかけて、4つの道県の小5と中2の児童生徒を対象に、各県市町教育委員会、学校の協力を得て調査票を配布した。3384人の児童生徒から回答を得た。調査対象校と児童生徒の属性は表3に示している。

表3 児童生徒調査の調査対象校と児童生徒の属性

		N				%			
		学校(学級)		児童生徒		学校(学級)		児童生徒	
		小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
全体		58	29	1,664	1,720	66.7	33.3	49.2	50.8
県	北海道	5	5	268	379	8.6	17.2	16.1	22.0
	広島県	45	18	884	800	77.6	62.1	53.1	46.5
	島根県	4	2	154	65	6.9	6.9	9.3	3.8
	沖縄県	4	4	358	476	6.9	13.8	21.5	27.7
学校規模	1-3学級	8	7	24	161	13.8	24.1	1.4	9.4
	4-6学級	23	8	265	310	39.7	27.6	15.9	18.0
	7-9学級	12	5	261	218	20.7	17.2	15.7	12.7
	10-12学級	1	6	42	622	1.7	20.7	2.5	36.2
	13-15学級	6	2	342	273	10.3	6.9	20.6	15.9
	16-18学級	3	1	239	136	5.2	3.4	14.4	7.9
	19-21学級	2	0	183	0	3.4	0.0	11.0	0.0
	22学級以上	3	0	308	0	5.2	0.0	18.5	0.0
学級規模	12人以下	(20)	(0)	89	0	(24.1)	(0.0)	5.3	0.0
	13-20人	(14)	(4)	208	66	(16.9)	(6.6)	12.5	3.8
	21-25人	(12)	(8)	263	138	(14.5)	(13.1)	15.8	8.0
	26-30人	(17)	(3)	431	79	(20.5)	(4.9)	25.9	4.6
	31-35人	(11)	(29)	352	848	(13.3)	(47.5)	21.2	49.3
	36-40人	(9)	(17)	321	589	(10.8)	(27.9)	19.3	34.2

調査票は、好きな教科、授業の理解度、学校での学習や学級の状況、授業方法、家庭での

勉強や生活の状況、親のライフスタイルなどの質問と、国語と算数・数学に関する学力テスト（各 10 分）からなる。その内容は、以下の通りである。

表 4 児童生徒調査票の構成

Q1 性、学級規模、担任教師の性	Q11 クラブ活動：加入状況、活動状況
Q2 好きな教科	Q12 家庭での勉強や生活
Q3 授業の理解度	Q13 家族構成
Q4 望ましい学級規模、教科別の授業の人数	Q14 家庭での学習
Q5 学校での学習の状況	Q15 家庭での生活
Q6 質問や発表をしない理由	Q16 小さい頃の家庭教育
Q7 授業方法	Q17 家庭の文化
Q8 学級風土、教師の児童生徒理解	Q18 進学アスピレーション
Q9 TT：授業経験、その形態、感想	Q19 国語のテスト
Q10 少人数学習：授業経験、その形態、感想	Q20 算数・数学のテスト

国語のテストは、漢字の読み取り、つながりのことば、表現等に関する 3 問（小 5）、2 問（中 2）からなり、算数・数学のテストは、四則演算、数式・方程式に関する 2 問からなる。制限時間は、各教科とも 10 分である。テスト問題は、新学社の作成した学力検査の問題を使用した。

なお、A 県の B 市で配布した調査票では、上記の質問のうち、Q13、Q16、Q17 は含まれていない。また質問がいくつかの質問で質問文が異なっているものがあり、これらについては分析から除外した。

この調査から、次のような分析を行った。

- A TTと少人数学習の実施状況、それに対する生徒からの評価に関する分析
- B 学校・学級規模が授業や学校生活に与える影響
- C 家庭での学習と生活に関する分析
- D 学力に与える学校・学級規模、授業方法、家庭環境の影響

5 中国調査

中国の小中学校の学級規模の現状と「小班化教育」改革の動きを分析するとともに、遼寧省大連市の小中学校の校長、教員、児童生徒に対して、日本の調査票に修正を加えた中国版質問紙を作成し、質問紙調査を行った。その内容については、第 5 部を参照されたい。

謝辞

以上、日本と中国で、校長、教員、児童生徒に対してさまざまな質問紙調査を行った。調査にご協力下さった関係者の皆様にはこの場を借りて厚くお礼を申し上げる次第である。

第2章 学級規模の効果に関する欧米の先行研究：Glass, Slavin, STAR を中心に

山崎 博敏

学級規模の効果に関する先行研究の検討は、杉江修治（1996）が最も包括的であり、わが国で戦後直後から1993年頃までに行われた多数の実証研究の研究結果とその研究方法を逐一検討している。さらに、Glassをはじめとする欧米の研究結果についてもかなりの検討を加えている。テネシー州のSTARプロジェクトなどアメリカの研究と政策については、八尾坂修（1998, 2005）による紹介がある。

本章では、学級規模研究で避けて通れない重要な文献のうち、Glassら（1982）、Slavin（1989）の研究、テネシー州のSTARプロジェクトを中心に、上記の研究者によるレビュー内容と重複しないように、方法論的、技術的側面を中心に、検討を加えたい。

1節 Glassらのメタ・アナリシス

20世紀初頭以来の学級規模研究

Glassらは、まず、20世紀初頭から1979年までの学級規模に関する研究を、ERICやDissertation Abstracts、先行研究の文献目録等から網羅的に収集し、約300の論文や著書を収集し、内容を検討した。このうち、半数の文献には利用可能なデータが示されておらず、残りの文献について詳細に検討した。この期間の学級規模に関する研究は、次の4つの段階に分かれるという（Glassら, 1982, 35頁）。

第1期：前実験期（1895-1920年） 第2期：プリミティブ実験期（1920-1940年）
第3期：大規模技術期（1950-1970年） 第4期：個人化時期（1970年-）

収集した文献の中から、学力と学級規模に関する77の実証研究文献を抽出し、研究成果を詳細に整理した。77の研究文献には、725の学級規模の大小による比較が掲載されていた。研究の出版年で分類すると、1910年代（25.4%）、1920年代（19.0%）、1960年代（20.8%）、1970年代（16.7%）が多かった。また、学校種別には、小学校以下と中学校以上は半分づつであった。中学校以上では教科別には数学と国語が多かった（Glassら, 1982, 41-43頁）。

725の比較の結果のうち、大規模学級と小規模学級間の実験研究による比較結果は109ペアあった。その際、実験の時間が100時間を越えるか否かで区分し、また、児童生徒が実験群統制群にランダムに配置されているか否かに注意した。109の実験研究のペアデータのうち81パーセントは、小規模学級の方が学力において優れているという報告をしていた。同様に、態度、感情、授業の実態についても、大規模学級と小規模学級について成果のペアのデータを分析した（Glassら, 1982, 47-48頁）。

メタ・アナリシスによる学級規模の効果分析

彼らは、実際に調査をして、独自のデータをとって学級規模の大小によって教育上の効果があるか否かを分析したわけではない。彼らは、過去の数多くの実証的な研究の結果を同じ土俵の上に載せ、それを再分析するという方法で学級規模の効果を明らかにしようとした。これがメタ・アナリシスという独自の方法である。

メタアナリシスの方法は、以下の通りである。

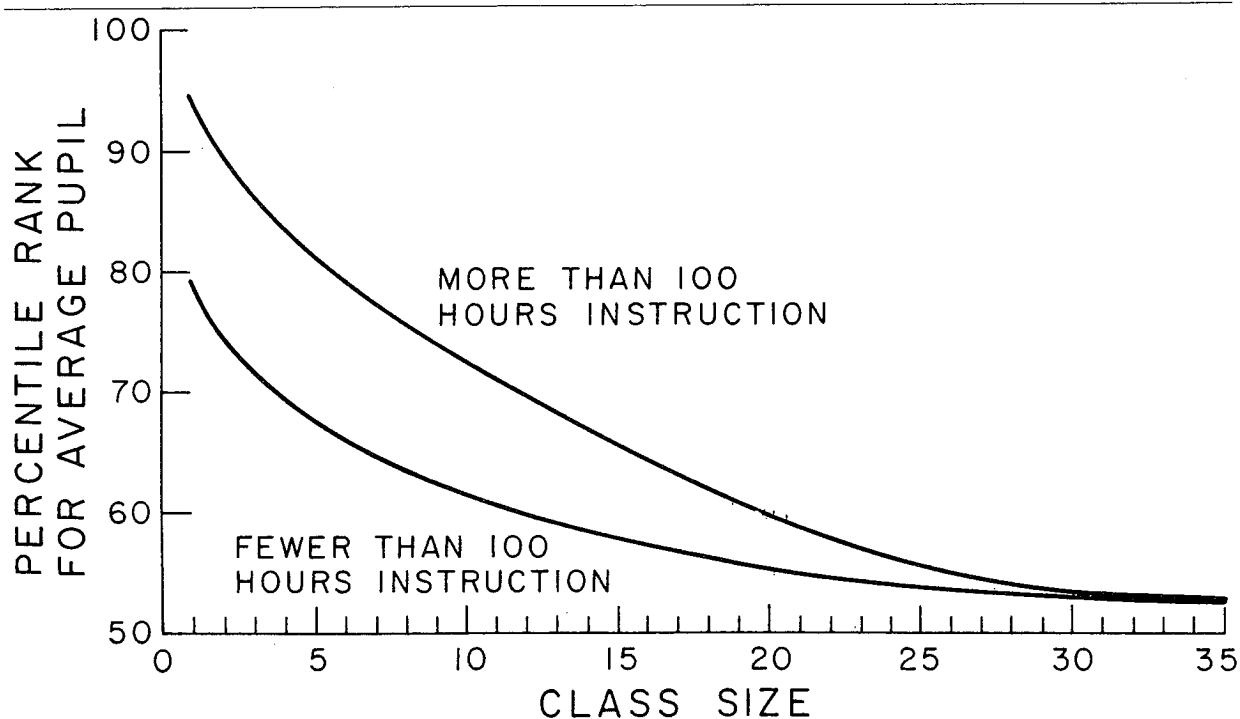
学級規模の効果を表す指標「規模効果」は次の式で表現される。

$$\Delta_{S-L} = \frac{\bar{X}_S - \bar{X}_L}{\bar{\delta}}$$

ここで、 \bar{X}_S はS人の小規模学級の成績の平均値、 \bar{X}_L はL人の大規模学級の成績の平均値、 δ は、学級内の標準偏差（2つの学級間で同等であると仮定）である。ただし、Xの値は、規模以外の条件が統制されていることが必要である（Glassら, 1982, 46頁）。

109の実験比較結果に基づいてかれらが最終的に示した学業成績と学級規模のメタアナリシスの結果は、図2-1に示している。この図はあまりにも有名であるが、やや複雑なので簡単な説明をしておこう。横軸は、学級規模であり、0人から35人まで目盛りで示されている。問題は縦軸である。50から100までの数字はパーセンタイルランクである。100が最大で、0が最低の数値である。40人学級の平均的な児童生徒が50になるように調整されており、図は、その児童生徒が、40人以下の学級で学習したとき、相対的にどの程度学習成果が上昇するかを示している（Glassら, 1982, 50頁）。

図表 2-1 研究文献で示された109実験比較データに基づく学級規模と児童生徒の学力の関係



この図から明らかなことは、40人学級の児童生徒が20人学級で（100時間以上）学習した場合、パーセントイルランクは約10上昇し、約60になる。仮に児童生徒が100人だとすると、順位は上位50人から上位40人に上昇することになる。学習時間が100時間以下の場合、上昇は5-6人分と小さくなる。いずれにしても、学級規模が小さくなるほど、学習の成果は大きくなることが明らかである。

さらに、学級規模が40人から30人に縮小した場合と30人が20人に縮小した場合を比較すると、パーセントイルランクの上昇の程度は、後者の方が大きいことが明らかである。グラスらのメタアナリシスの図をそのままみると、学級規模が小さいほど教育効果の「伸び」が大きいことになる。

学級規模と教育成果の関係がこのような曲線で表現されるのは、得られたデータを対数関数で回帰したからである。本書の巻末の付録に、計算の手続きが説明されているので、以後、それを手がかりに筆者なりの考察を加えてみたい。

グラスは、学級規模と成績の関係は指数関数や幾何関数で表現されうるといふ。つまり、一人の教師から一人の生徒がある量のものを学ぶとしたとき、2人の生徒はそれより少ない量を学び、3人は、それよりももっと少ない量を学ぶ。さらに、1人から2人に人数が増加する際の学習の量の減少の程度は、2人から3人に増加する際の減少の程度よりも大きいと考えられる。

とすれば、対数で表現される次式が成り立ちうる。

$$z = \alpha - \beta \log_e C + \varepsilon$$

1人の学級とC人の学級との間の学級規模の差に基づく教育成果の差は、次の式で表現される。

$$\Delta_{1-c} = \beta \log_e C + e$$

ここで、eは平均ゼロの正規分布に従う。これより、下の式が得られる。

$$\Delta_{s-l} = \beta \log_e (S/L) + e$$

この式は、L人の大規模学級とS人の小規模学級との間の成果の差は、対数関数で表現されることを意味している（以上はGlass, 1982, pp. 139-143より）。

図表2-2は、メタアナリシスに使用された学力に関する14の研究・30比較実験のデータを示している（Glassら, 1982, 141頁）。

このデータをもとに単回帰分析を行った結果は以下の通りである。

$$\Delta_{s-l} = 0.27 \beta \log_e (S/L) + e \quad r = 0.64 \quad r^2 = 0.42$$

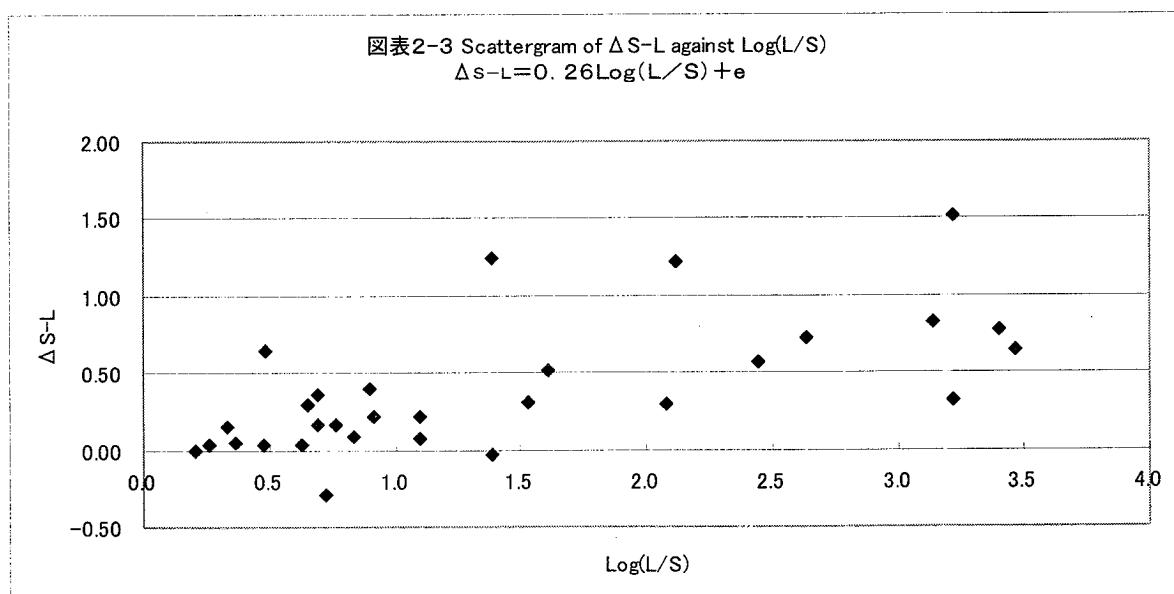
直線の傾きは0.27となっており、各実験ペアの学級規模の大小の格差が大きいほど、成果としての学力の格差は大きくなっている。なお、図表2-3に示されている回帰式では、傾きが0.26と書かれていて、一致していない。しかし、相関係数（0.64）の値からも想像出来るように、図2-3のデータのプロットは広範囲に散らばっている。これを元に描かれた対数曲線の信頼区間の幅は広く、回帰直線の推定誤差は大きい。直線で表現できることは確からしくみえるが、体育の授業や大学の授業もふくまれており、このデータによる分析結果をあまり神格化することはできないと言ふべきであろう。

なお、グラスらは、実験時間が100時間以上とそれ以下の場合について、単回帰直線の傾きを報告しており、100時間以下の場合には0.23だが、100時間以上の場合には0.45と高くなるという（Glassら, 1982, 144頁）。実験時間が長いほど、学級規模の大小の効果が大きくでくる。

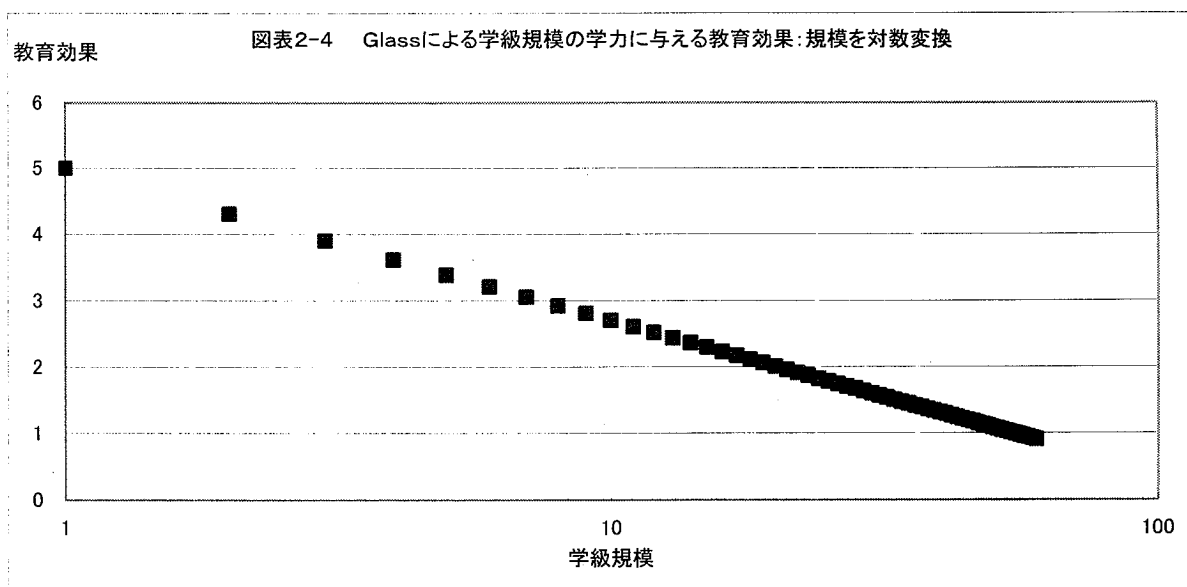
いずれにしても、この単回帰分析結果から、先述の図表2-1のような横軸を学級規模（人数）とする曲線（対数関数）を描いている。

図表2-2 児童生徒をランダムに割り当てた研究での学級規模と成績の関係に関するデータ

比較 No.	研究番号 no	大規模学級 人数L	小規模学級 人数S	Log(L/S)	$\Delta S-L$	対象学校種
1	1	25	1	3.22	0.32	
2	2	3	1	1.10	0.22	小中
3	2	25	1	3.22	1.52	小中
4	2	25	3	2.12	1.22	小中
5	3	35	17	0.72	-0.29	小中
6	4	112	28	1.39	-0.03	
7	5	2	1	0.69	0.36	
8	5	5	1	1.61	0.52	
9	5	23	1	3.14	0.83	
10	5	5	2	0.92	0.22	
11	5	23	2	2.44	0.57	
12	5	23	5	1.53	0.31	
13	6	30	15	0.69	0.17	小中
14	7	23	16	0.36	0.05	小中
15	7	30	16	0.63	0.04	小中
16	7	37	16	0.84	0.08	小中
17	7	30	23	0.27	0.04	小中
18	7	37	23	0.48	0.04	小中
19	7	37	30	0.21	0.00	小中
20	8	28	20	0.34	0.15	小中
21	9	50	26	0.65	0.29	
22	10	32	1	3.47	0.65	小中
23	11	37	15	0.90	0.40	
24	11	60	15	1.39	1.25	
25	11	60	37	0.48	0.65	
26	12	8	1	2.08	0.30	小中
27	13	45	15	1.10	0.07	
28	14	14	1	2.64	0.72	小中
29	14	30	1	3.40	0.78	小中
30	14	30	14	0.76	0.17	小中
平均				1.42	0.38	



グラスは原著第2章の最後で、この図には費用が盛りこまれていないと述べている (Glass ら, 1982, 50頁)。費用を盛りこむためには、図表2-1の横軸を対数にすればよい。そうすると、費用と成果の関係は直線で表現される (図表2-4参照)。先に、「学級規模が小さいほど教育効果の「伸び」が大きいことになる」と述べた。たしかに、学級規模を30人から20人に縮小する時の効果は、40人から30人に縮小する時よりも大きいのだが、前者の方が教員数の増加分が多い (50%増加対30%増加) から、効果は投入した費用に比例しているのである。言い換えれば、30人から20人に縮小したら効果があるが、40人から30人に縮小しても効果が少ないと解釈するのは皮相的であり、費用を考慮した場合、効果は同等となる。この研究で明らかになったのは、学級規模が小さくなると教育効果があることを示したことである。



態度・感情・授業についてのメタアナリシス

学力以外の側面ではどうだろうか。「態度、感情、授業」については、過去 130 の研究を調べた。メタアナリシスには、59 研究・371 比較実験のデータが使われた。全体として、学級規模が小さいほど、児童生徒、授業、教師の活動は向上した。そして 30 人を下回る小規模になると、児童生徒と授業に対してよりも教師に対する効果が大きかった。逆に 30 人を上回ると、児童生徒と授業も低下したが、教師の活動はもっと低下した。効果の内容に関する彼らのことばを直接引用すると以下の通りである。

「学級規模は学級環境の質に影響を与える。学級規模が小さいと、一人ひとりの生徒のニーズにみあった授業をする機会が増大する。風土はより友好的になり、学習に前向きになる機会が増大する。生徒は各自、学習に直接的に取り組むようになる。

また、学級規模は、生徒の態度にも影響を与える。態度は成績の原因でもあり結果でもあり、成績と相互依存関係にある。小規模学級では、生徒は学習により大きな関心を示す。おそらく、気が散ったり無関心になったりすることが少なく、摩擦や不満も小さくなる。

学級規模は教師にも影響を与える。小規模学級では、教師の士気は高くなり、生徒を好きになり計画を立てる時間が増加し、自分の仕事に満足している」 (Glass ら, 1982, 64-65 頁)。

2節 スラビン (Slavin) の研究

スラビンは、編著 School and Classroom Organization(1989)の第10章の論文「学級規模の大規模な縮小が学力に及ぼす影響」において、新しいデータを使って一種のメタアナリシスを行った。最終的な結論はGlassと似たようなものである。

スラビンは、Glassら(1982)のメタ・アナリシスの結果について再検討した。グラスらが最終的に使用した14実験研究のデータのうち、テニスの授業を対象とした1研究、30分程度の短時間の実験による2研究、高等教育機関を対象とした3研究を除いた残りの8実験研究について検討した。その結果は次の図表2-5のように整理された(Slavin, 1989, 249頁)。スラビンは、「これがグラスとその同僚が、「学級規模を大規模に縮小すれば、教育者の力を超えないで達成できる程度の学習上の便益が期待できる」と主張する証拠の全てである」という。さらに、「この表から明らかなように、そのような学習上の便益は、学級規模が3人まで縮小されないと現れない。学級規模を平均で31人から16人のほとんど半分に縮小した研究については、平均的な規模効果はわずか0.4でしかない。・・・グラスらの14実験研究すべてについても、規模効果の中央値は、小規模側の学級規模が14人から17人までのものについては、0.6から0.8である。」と主張する(以上、Slavin, 1989, 248-9頁)。以上のように、スラビンは、グラスらのデータを再分析した結果、10数人の小規模学級までに縮小しても、学力に関しては向上しないと結論づける。相関的な研究においても、そのような状況には変わりがない。

図表2-5 小学校と中等学校におけるランダムに配置された学級の規模が成績に与える規模効果

	小規模学級の人数			
	1	3	14-17	20-23
	0.65 (1-32)	1.22 (3-25)	0.17 (14-30)	0.15 (20-28)
	0.78 (1-30)		0.17 (15-30)	0.04 (23-27)
	1.52 (1-25)		0.08 (16-37)	0.04 (23-30)
	0.72 (1-14)		0.04 (16-30)	0.0 (30-37)
	0.30 (1-8)		0.05 (16-23)	
	0.22 (1-3)		-0.17 (17-35)	
平均値	0.69		0.04	0.06
中央値	1.69		0.66	0.04

注) 規模効果の数字は全て、Glass, Cahen, Smith and Filby (1982)、142頁表A.1の数字である。

スラビンは、続いて独自に収集した過去の研究結果のデータを用いて考察した(図表2-6を参照)。かれは、小学校(K-6)の国語と算数の学力について、次の3つの条件を満たした研究のデータを利用した。第1に、標準化されたテストを使って1年以上実験をしたもの、第2に、30パーセント以上学級規模の格差があるデータでかつ小規模学級が20人未満の学級を調査しているもの、第3に、学級をランダム配置した研究ないしは学級規模以外は条件が平等のペアからなる学級のデータ、である(Slavin, 1989, 251頁)。

この条件を満たす8研究について分析結果を検討した結果、「学級規模を相当縮小すると、たしかに学力は向上するが、その効果は小さい傾向にある」(Slavin, 1989, 251頁)と結論した。そして、「もちろん、学級規模の縮小は、教師や生徒の士気など、それ以外の変数に対しては大きな効果を与えている。学級規模の縮小は、このような学校生活の質の向上という側面では正当化されるかもしれない。しかし、生徒の学力向上という手段としては、学級規模を大きく縮小させたとしても、明確なインパクトはほとんどないのである」(Slavin, 1989, 254頁)と主張した。

表 2-6 スラビンの小学校における学級規模と成績の関係に関する研究の分析表(一部)

論文	学年	サンプル数	規模効果				
			規模小 vs 大		教科・学年等		効果総計
Shapson et al (1980)	4-5	62 学級	S vs L		国語	算数	
			16 vs 37		-0.03	+0.36	
			16 vs 30		+0.01	+0.51	
			16 vs 23		-0.05	+0.22	
Doss & Holley(1982) Christner(1987)	K-6	2 学級比較	L=22	1 年目	国語	算数	+0.17
			S=15	2 年生	+0.26	+0.12	
				3 年生	+0.16	+0.24	
				4 年生	+0.10	+0.12	
				5 年生	+0.21	+0.27	
				6 年生	+0.08	+0.18	
				2-6 年目	(0)	(0)	
Whittingen et al(1985) Dennis(1987)	1-2	14 学級	L=25		国語	算数	+0.53
			S=15	1 年生	+0.57	+0.49	
Wagner(1981)	2	2 学校	L=25		国語		+0.55
			S=15	2 年生(2 年目)	(0)	(0)	

Slavin, 1989, 252-3 頁をもとに作成。8つの実験結果のうち4つのみを示した。

なぜ、学級規模縮小の影響が小さいのだろうか。スラビンはその理由を「教師が、大規模・小規模の学級で教授法を変えないからであり、小規模学級にふさわしい授業をしないから。本来はもっと効果があるはずである」(Slavin, 1989, 254頁) と述べている。

最後に、政策的取組に対する示唆と最適学級規模について考察している。

第1は、アメリカの連邦教育法第一章 (Chapter 1) についてである。チャプターワンとは、貧困率75%以上の学校では、学校全体で学力向上のための取り組みを行わなければならない、そのための教員加配の費用は連邦政府が支出する、という1980年代後半に規定された条項である。スラビンは、この経費を使って学級規模を縮小しても、学力は上昇しないかもしれないが、SESの低い地域の学校については、上昇するという先行研究の結果を紹介している。

第2に、最適学級規模があるとすると、3人以下であり、チュートリアル授業は学力に効果的であろうと述べている。個人指導 (one-to-one 指導) は効果的であり、それを At Risk Students に対して実施すると、効果的であると述べている (以上 Slavin, 1989, 254-5 頁)。

3 節 テネシー州の STAR プロジェクト

その背景

STAR プロジェクトは学級規模研究の研究史上、画期的な研究としてあまりにも有名である。これまで矢尾坂 (1998, 2005) などでもわが国には概要は紹介されているので、ここではその技術的側面と分析結果を中心に紹介したい。テネシー州は、1980年代、教育熱心なアレクサンダー知事の下で様々な教育改革を行っていた。1984年に、テネシー州議会は Better Schools Program という総合的な教育改革の法案を可決した。テネシー州立大学 (TSU) の Center for Teaching of Basic Skills では所長の Hellen Bain が学級規模の効果に関する研究を始めていた。それはインディアナ州で実施されて

いた Prime Time プロジェクトをモデルとしたものであった。インディアナとTSUの動きはテネシー州教育委員会や州議会に知られることになった。州下院議員代表 Steve Cobb は小学校の最適学級規模に関心をもっていた。その当時、有名であったグラスのメタアナリシス (1982) は、児童生徒の学力を大きく向上させるためには学級規模を1人から15人程度まで縮小することを主張していた。しかし、グラスの研究で対象となっていた学校の種類や小規模学級の生徒の特性は、通常のアメリカの公立学校とはかけはなれたものであった。さらに、そこで言う「小規模学級」はチュートリアル指導の学級であった。Cobb は、グラスらの研究結果の結論が説得的でなく、学級規模の縮小に要する費用が莫大なものになるため、多額の費用を要するプログラムに予算を投入する前に、よく計画された学級規模研究を実施することを州に要求した。1985年5月に下院で544法が通過することによって、小学校3年まで(K-3)の学級規模縮小の効果研究の予算が承認された。4年計画の1年目の予算は約300万ドルであった。

テネシー州教育委員会は研究組織を同州の4大学(メンフィス州立大学、テネシー州立大学、テネシー大学ノックスビル校、バンダービルト大学)からなるコンソーシアム組織としてつくり、Elizabeth Word をプロジェクトディレクターに任命した。この研究は Student/Teacher Achievement Ratio 研究と呼ばれたことから、STAR という短縮名称が使われることになった。4大学の研究者の他、外部からの専門家2名(オンタリオ教育研究所 D.Ryan, イーストカロライナ大学 R.Forbes) とコンサルタントとして J.Finn が委嘱された(以上、Word, et al, 1990, 1-2頁)。

調査と分析の方法

1985年から1989年までの4年間の研究では、テネシー州の全公立小学校に参加が要請された。42学区の79校が参加した。学校の所在地域別内訳は、都心部17、郊外16、都市部8、農村部38であった。さらに、ハロー効果を除去するために、統制群として22校51普通学級が参加した。

研究では、学級規模のタイプを、小規模(13人から17人まで、S)、通常規模(22人から25人まで、R) および常勤の補助教師(Teacher Aide)を有する通常学級(22人から25人まで、R/A)の3タイプに分け、参加する学校の1学年は3つのタイプの学級をそれぞれ1つ以上もつことが必要とされた。従って、1学年で57人以上の児童を有する学校しか参加できない。そして、教員も生徒もランダムに3つのタイプの学級に割り当てられた。また、どの学級も同じカリキュラム、同じような教員と施設で教育を受けなければならない。こうすることで、学級規模以外の要因がすべて実験的に統制されることになる。

3つの類型を各学校でどのように割りふって学級編成するかは、図表2-7に示している。

図表2-7 学校内の生徒と学級の割り当て

割り当て類型	生徒数	学級数	学級類型	教室追加の必要
1	57-67	3	S, R, R/A	不要
2	68-78	4	S, S, R, R/A	要
3	79-92	4	S, R, R/A, R/A 又は S, R, R, R/A	不要
4	93-109	5	S, S, R, R, R/A 又は S, S, R, R/A, R/A	要
5	110-134	6	S, S, R, R, R/A, R/A	要
6	135以上	7以上	個別に計画	要

注) S=小規模学級(1:13-17), R=通常学級(1:22-25), S/A=専任補助教師付き通常学級(1:22-25) 原著6頁。

1985-6年については小規模学級(S)は128学級、生徒数約1,900人、通常学級(R)は101学級、2,300人、専任補助教師付の通常学級(R/A)は99学級、2,200人であった(Word, et al, 1990,5-6頁)。

方法論は、実験計画に基づくクロスセクションデータをつかった分散分析と、追跡調査である。分散分析を行うに際して、学級類型(S,R,R/A)、学校類型(都心部、都市部、郊外、農村部)は固定変数であり、学校、学級、生徒はランダム変数である、と仮定する。

生徒の学力は、SAT(スタンフォード学力テスト)とBSF(Basic Skills First Test)で測定された。またSCAMIN自己概念・動機テストも実施された(Word, et al, 1990,7-8頁)。

学級規模の効果の分析結果

学業成績の分散分析結果は、図表2-8(Word, et al, 1990,12頁)に示している。これから、独立変数間の交互作用はないこと、学級類型(Type)は小学校1, 2, 3年で特に大きな影響を与えており、幼稚園ではその影響力は有意なものが多いがやや小さいことが明らかである。なお、人種(Race)は1, 2年で、学校所在地域は2,3年で大きいことが明らかである。

図表2-8 学業成績におよぼす効果の分散分析結果

	Word Study Skills		Total Reading		Total Math		Total Listening		
	K-1	1-3	K-1	1-3	K-1	1-3	K-1	1-3	
GRADE	.01	.001	.01	.001	.01	.001	.01	.001	[A]*
LOC X GRADE	.01	N.S.	.01	.01	N.S.	N.S.	---	N.S.	[B]
TYPE	.01	.001	.01	.001	.01	.001	---	.01	[C]
TYPE X GRADE	.05	N.S.	.01	N.S.	N.S.	N.S.	---	N.S.	[D]
LOC X TYPE X GRADE	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	---	N.S.	[E]
RACE	---	.01	---	.001	---	.01	---	.01	[F]
RACE X GRADE	.01	N.S.	.05	N.S.	N.S.	N.S.	---	N.S.	[G]
RACE X LOC X GRADE	.05	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	---	N.S.	[G]
RACE X TYPE	---	N.S.	---	N.S.	???	N.S.	---	N.S.	[H]
RACE X TYPE X GRADE	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	---	N.S.	[I]
RACE X LOC X TYPE X GRADE	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	---	N.S.	[I]

* Results are discussed on the following pages using the designations [A]-[I] to identify the results being discussed.

N.S.= Not Significant; significance levels p<.001, .01, or .05 reported.

縦断的分析の結果はここには示さないが、変数間の交互作用はないこと、学級類型はきわめて大きな影響があることが明らかになっている (Word, et al, 1990,14 頁)。

学力に対する規模効果の影響の要約 (バンダービルト大学 Folger による) は以下の通りである。

1. 小規模学級の生徒の学力は、学校所在地域や学年にかかわらず、通常学級や補助教員付きの通常学級よりも大きい。
2. 小規模学級の影響力は、1年生を過ぎると小さくなる。
3. 生徒の学力向上という点では、どの学年でも、補助教員は小規模学級よりも効果的ではない。
4. 算数と国語に対する効果は同じ程度である。
5. 小規模学級は社会経済的地位の低い生徒の学力を向上させるが、社会経済的地位の高い生徒にも同等の影響をもっている (以上、Word, et al, 1990,17-20 頁)。

このほか、小規模学級では留年が少なくなること、教員の現職研修は生徒の学力を向上させないこと、などが明らかになっている。(Word, et al, 1990,20-21 頁)

小規模の「規模効果」の推定値を人種別、学年別に示したのが下の図表 2・9 である。この表より、学級規模縮小による効果は、国語、算数とも、小学校 1 年生が最も大きく、次第に小さくなっていく。また規模縮小による効果は、人種別には黒人の方が大きく、社会的に恵まれておらず学力が低い者にとって有効であることがわかる。

最後に、学級規模の縮小は、専任の補助教員を雇用するよりも費用がかかるが、費用あたりの効果は大きい (cost effective) ことを主張した。なお、1996 年から 8, 10 年生を対象とするフォローアップ調査も実施されたが、ここでは省略する。

図表 2-9 学級規模の「規模効果」

	集団	幼稚園	1 年生	2 年生	3 年生
B S F - 国語	白人	0.18	0.25	0.19	0.17
	黒人	0.25	0.52	0.42	0.32
	全体	0.21	0.34	0.26	0.24
B S F - 算数	白人	0.20	0.25	0.19	0.17
	黒人	0.09	0.38	0.27	0.22
	全体	0.15	0.33	0.23	0.21

文献

杉江修治, 1996, 「学級規模と教育効果」『中京大学教養論集』第 37 巻第 1 号、147-190 頁。

八尾坂修, 1998 「学級編制改革米国に見る 少人数で学力向上実証」日本経済新聞 1998 年 10 月 25 日。

八尾坂修, 2005, 『明日をひらく 30 人学級』かもがわ出版。

Gene. V. Glass, L. S. Cahen, M. L. Smith and N. N. Filby, 1982, *School Class Size: Research and Policy*, Sage Publication.

Robert E. Slavin, 1998, "Chapter 10: Achievement Effects of Substantial Reductions in Class Size", in Robert E. Slavin(eds), *School and Classroom Organization*, Lawrence Erlbaum Associates Publishing.

Elizabeth Word, et al, 1990, *The State of Tennessee's Student/Teacher Achievement Ratio (STAR) Project Final Summary Report 1985-1990*, Tennessee State Department of Education.

第3章

公立小中学校の学校規模の法制と現実の諸類型

山崎博敏

Types of School Size in Japanese Primary and Junior High Schools :
Its Legal and Actual Structures

Hirotohi Yamasaki

Legal regulations on school size, class size and faculty number were examined. Various aspects of school size were examined using statistical data, and relationships among number of faculty, students and classrooms were examined. Six types of school size in Japanese Primary and Junior High Schools were suggested. Finally transformation of the distribution of school size since 1959 and regionally unequal distribution of school size are analyzed.

Key words: School Size, Class Size, Optimal Size, Educational Law

キーワード：学校規模，学級規模，適正規模，教育法規

本論文の目的

学校規模は、教育行財政上、極めて重要な事項である。例えば、児童生徒の減少に伴い学校統廃合が行われる場合、常に地域を巻き込んだ大きな社会問題になる。小規模であればどのような不都合があり、統合すればどのようなメリットがあるかを住民に説明しなければならない。しかし、我が国では、学級規模の研究に比べて、学校規模に関する研究は意外に少ないのが現状である。

本論文は、学校規模に関する法令上の枠組みを整理し、文部科学省の統計データを用いて2003年度現在の我が国の小学校と中学校の学校規模の現状を分析し、さらに、筆者らが行った校長調査のデータを用いて学校規模を構成する学級数・児童生徒数・教員数などの間の関係を検討する。最後に、戦後の約50年間における学校規模の分布の推移と都道府県間の学校規模の分布の多様性を分析する。

これらを通じて、現実の学校規模の分布状況に照らして、法令上の「適正な学校規模」にある学校がどの程度存在し、学校規模の類型化を行いたい。なお、本論文は、本紀要に掲載されている水野・藤井・田中・山崎による論文の前編とも言うべきものである。

1. 学校規模と学級規模に関する法制

(1) 学校規模に関する法規

学校規模に関する最上位の法令は「学校教育法施行規則」であり、その第17条は、標準的な学級数を定めており、「12学級以上18学級以下を標準とする」と規定している。

義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令の第3条（適正な学校規模の条件）の第1項の1においても、同様の記述が見られる。しかし、それはあくまでも原則である。その第1項の2においては、「通学距離が、小学校にあつてはおおむね4キロメートル以内、中学校にあつてはおおむね6キロメートル以内であること」という記述があり、山間地や島嶼部など通学距離が長い地域では、学級数が小さな学校も認められている。さらに、その第2項では、学校統廃合の実施中においては、例外的に上限は18学級ではなく24学級までとすると規定されており、一時的には19学級以上24学級以下の大規模校も認められている。

このように法令には「標準」とか「おおむね」とか「ただし」とかいう言葉が随所に現れており、本校の12から18学級までという適正な学級規模の規定は、法令上でも緩やかなものである。事実、後に示すように、この適正規模の範囲内にある学校の割合は小さいのが

実態である。

(2) 学級規模と学校規模、児童生徒数・学級数・教員数

学校の規模は、学級数、児童生徒数、教職員数、などによって定義されるが、この中で、教育行政上、中核的なものが学級数である。公立学校の場合、「教職員定数の標準に関する法律」によって、学級数から教員数はほぼ自動的に定まる。学級数はまた、学校の施設設備等についても決定要因となっている。なお、学校の学級数は、1学級40人などという学級編制基準を通して、同学年の児童生徒数によって決定される。

このように学校規模と学級規模には深い関係がある。児童生徒数、学級数、教員数の関係は、図1に示されよう。

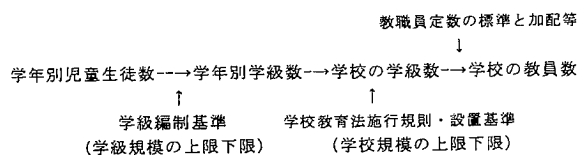


図1. 学校規模と学級規模の関係

(3) 学級規模と学級編制基準

では、上の図1の左から右の方向に、法令の規定を整理してみよう。まず、学級編制の基準である。

その基本的な構造は、公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律の第3条（学級編制の標準）に下記のように規定されている。

第3条（学級編制の標準）

公立の義務教育諸学校の学級は、同学年の児童又は生徒で編制するものとする。ただし、当該義務教育諸学校の児童又は生徒の数が著しく少いかその他特別の事情がある場合においては、政令で定めるところにより、数学年の児童又は生徒を一学級に編制することができる。

2 各都道府県ごとの、公立の小学校又は中学校（中等教育学校の前期課程を含む。）の一学級の児童又は生徒の数の基準は、次の表の上欄に掲げる学校の種類及び同表の中欄に掲げる学級編制の区分に応じ、同表の下欄に掲げる数を標準として、都道府県の教育委員会が定める。ただし、都道府県の教育委員会は、当該都道府県の児童又は生徒の実態を考慮して特に必要があると認める場合については、この項本文の規定により定める数を下回る数を、当該場合に係る一学級の児童又は生徒の数の基準として定めることができる。

（この本文に続く付表は右上に掲載）

学校の種類	小学校	中学校
学級編制の区分	同学年の児童で編制する学級 2の学年の児童で編制する学級 学校教育法第75条に規定する特殊学級	同学年の生徒で編制する学級 2の学年の生徒で編制する学級 学校教育法第75条に規定する特殊学級
一学級の児童又は生徒の数	40人 16人 第一学年の児童を1学級にあつては、8人 8人	40人 8人 8人

この学級編制の原則は、戦後幾度か改善されてきた。

1959年度以来、教職員配置改善計画あるいは教職員定数改善計画という政策によって全国的に学級規模縮小が実現してきた。各次の教職員配置改善計画の内容は、表1に示している。1950年代には第一次ベビーブーム世代が入学してきたため、50人以上の学級が多く、「すし詰め学級」と呼ばれていた。第1次改善計画は、すし詰め学級の解消をねらい、学級規模を50人以下にすることを目的とした。第2次計画は、同学年1学級編制の場合を除き45人以下の学級規模に縮小するとともに、複式学級の規模を縮小するものであった。第3次計画は、引き続き45人学級を推進し、全学年一学級の単級学級を解消し、4学年までの複式学級を解消することを目指した。第4次計画では、最終年度の1978年度までに45人学級を実現することを目指すとともに、複式学級を2学年だけのものとした。1980年度からの第5次計画では、40人学級の実現が目指され、複式学級の規模縮小がはかられた。

学校基本調査のデータを調べると、公立小学校では1960年代末までに46人を超える学級は消滅し、1990年代初頭に41人を超える学級はほぼ消滅した。（この戦後における学級規模縮小の推移については山崎ほか（2000）の図を参照されたい。）つまり、小学校も中学校も、1学級40人という学級規模は、公立学校については、第5次計画終了の1990年代初めに完成していた。45人学級から40人学級を実現するのに約11年を要した。その後の第6次計画以降は、40人の学級定数を縮小することは断念され、代わって新しい指導方法を導入するために教員数の定数増加がはかられるようになった。教職員定数を加配する方法は、第3次計画で小学校の専科教員の導入時に現れたものだが、1993年度以降は、教員定数の増加の主要手段となった。

表1. 戦後における学級編制基準の改善の経緯

計画年次	第1次	第2次	第3次	第4次	第5次	第6次	第7次
計画期間	1959-63	1964-68	1969-73	1974-78	1980-91	1993-2000	2001-05
小学校	同学年の児童で編成	50 (49*)	45	45	45	40	40
	2学年〃(複式)	35	25	22	20(12*)	18(10*)	16(8*)
	3学年〃(複式)	35	25	15	-	-	-
	4・5学年〃(複式)	30	25	-	-	-	-
	全ての学年〃(複式)	20	15	-	-	-	-
中学校	同学年の児童で編成	50	(49*)	45	45	40	40
	2学年〃(複式)	35	25	15	12	10	8
	全ての学年〃(複式)	30	-	-	-	-	-
	特殊学級	15	15	13	12	10	8
	盲ろう養護学校(小・中)	10*	10	8(重複5)	8(重複5)	7(重複3)	6(重複3)
重点事項	すし詰め学級の解消	複式学級改善 養護教諭 事務職員配置	単級学級解消、専科教員、教育困難校加配	研修等定数	教頭複数化 栄養職員	チームティーチング	基本3教科の少人数学習等
注*)	養護学校の規定無し	同学年1学級編成の場合		1年を含むもの			

(4) 学級数から規定される教職員数

ある学校の学級数が決定すれば、学校の教員数は自動的に決定する。それは、「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準」による。それは次のように規定している。

公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準法第6条の2 「校長の数は、小学校及び中学校並びに

中等教育学校の前期課程の数の合計数に1を乗じて得た数とする。」

第7条 「教頭、教諭、助教諭及び講師の数は、次に定めるところにより算定した数を合計した数とする。

1 次の表の上覧に掲げる学校の種類ごとに同表の中欄に掲げる学校規模ごとの学校の学級総数に当該学校規模に応ずる同表の下欄に掲げる数を乗じて得た数(1未満の端数を生じたときは、1に切り上げる)の合計数

次ページの表2は、第7条の付表に書かれている校長、教諭、養護教諭等の算定基準とそこから算出される教員定数を、学級数ごとに表にしたものである。図2は、その結果として1つの学校に配置される最低限の教員数を示している。これより、小規模校には手厚く教員を配置するように基準が定められていることがよく分かる。中学校は教科担任制のため、3学級の学校でも10人が配置され、小学校よりも教員総数は多くなる。図3は、校長・教頭・教諭・養護教諭の合計数を図示したものである。

12学級から18学級までの適正規模校の教員は、次のような構成となる。小学校では、養護教諭を含めて17人(12学級)から24人(18学級)となる。12学級の場合、学級担任12名の他に、校長・教頭・養護教諭各1人と学級単位でない教諭が2人いることになる。18学

級の学校の場合、学級担任18名に校長・教頭・養護教諭各1人と学級単位でない教諭が3人ということになる。中学校の場合、12学級の場合、教員定数は21名で、校長・教頭・養護教諭各1人の他に、18名の教諭が配置されることになる。

これは1学年1学級編制の小規模校ではどのようになるだろうか。小学校では6学級で、教員定数10名で、校長・教頭・養護教諭各1人、学級担任が6名、学級担任を持たない教員が1名となる。中学校では、3学級で、教員定数は10名で、校長・教頭・養護教諭各1人、教科等の担任の教諭は7名となる。国語、社会、

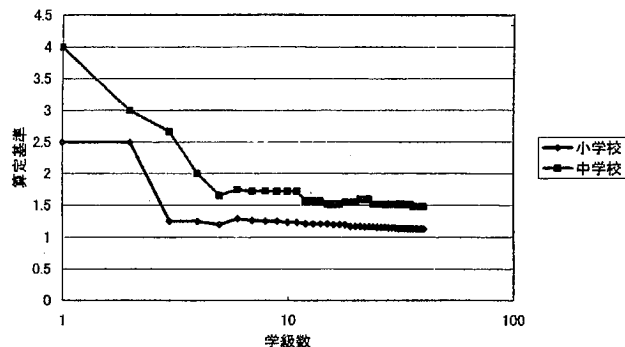


図2. 教諭等算定基準

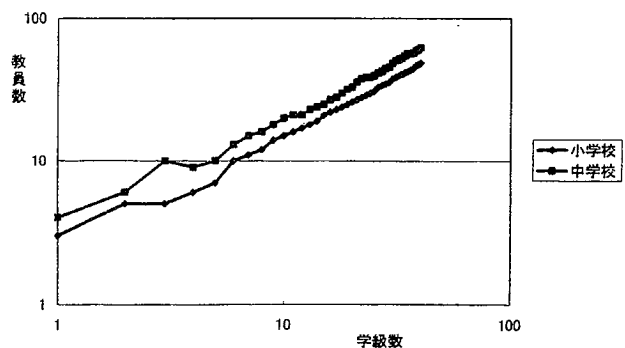


図3. 学級数別教員総数

表2. 公立義務教育諸学校の教職員定数の標準

	小 学 校							中 学 校												
	学級数	教諭等		校長		教頭(内数)		養護教諭		学級数	教諭等		校長		教頭(内数)		養護教諭		教員総数	
		算定基準	教諭等数	算定基準	校長数	算定基準	教頭数	算定基準	養護教諭数		算定基準	教諭等数	算定基準	校長数	算定基準	教頭数	算定基準	養護教諭数		
分校	1	2.5	3							3	1	4	4						4	
	2	2.5	5							5	2	3	6						6	
	3	1.25	4							5	3	2.667	9			0.5	1	1	10	
	4	1.25	5							6	4	2	8			0.5	1	1	9	
	5	1.2	6							7	5	1.66	9			0.5	1	1	10	
本校	6	1.292	8	1	1	0.7	5	1	1	10	6	1.75	11	1	1	1	1	1	13	
	7	1.264	9	1	1	0.7	5	1	1	11	7	1.725	13	1	1	1	1	1	15	
	8	1.249	10	1	1	0.7	5	1	1	12	8	1.725	14	1	1	1	1	1	16	
	9	1.249	12	1	1	1	1	1	1	14	9	1.72	16	1	1	1	1	1	18	
	10	1.234	13	1	1	1	1	1	1	15	10	1.72	18	1	1	1	1	1	20	
	11	1.234	14	1	1	1	1	1	1	16	11	1.72	19	1	1	1	1	1	21	
	適正規模	↑	12	1.21	15	1	1	1	1	1	17	12	1.57	19	1	1	1	1	1	21
			13	1.21	16	1	1	1	1	1	18	13	1.57	21	1	1	1	1	1	23
			14	1.21	17	1	1	1	1	1	19	14	1.57	22	1	1	1	1	1	24
			15	1.21	19	1	1	1	1	1	21	15	1.52	23	1	1	1	1	1	25
			16	1.2	20	1	1	1	1	1	22	16	1.52	25	1	1	1	1	1	27
		17	1.2	21	1	1	1	1	1	23	17	1.52	26	1	1	1	1	1	28	
		18	1.2	22	1	1	1	1	1	24	18	1.55	28	1	1	1	1	1	30	
		19	1.17	23	1	1	1	1	1	25	19	1.55	30	1	1	1	1	1	32	
	20	1.17	24	1	1	1	1	1	26	20	1.55	31	1	1	1	1	1	33		
	21	1.17	25	1	1	1	1	1	27	21	1.595	34	1	1	1	1	1	36		
	22	1.165	26	1	1	1	1	1	28	22	1.595	36	1	1	1	1	1	38		
	23	1.165	27	1	1	1	1	1	29	23	1.595	37	1	1	1	1	1	39		
	24	1.165	28	1	1	1	1	1	30	24	1.52	37	1	1	1	1	1	39		
	25	1.155	29	1	1	1	1	1	31	25	1.52	38	1	1	1	1	1	40		
	26	1.155	31	1	1	1	1	1	33	26	1.52	40	1	1	1	1	1	42		
	27	1.155	32	1	1	1	1	1	34	27	1.517	41	1	1	1	1	1	43		
	28	1.15	33	1	1	1	1	1	35	28	1.517	43	1	1	1	1	1	45		
	29	1.15	34	1	1	1	1	1	36	29	1.517	44	1	1	1	1	1	46		
	30	1.15	35	1	1	1.5	2	2	2	38	30	1.517	46	1	1	1.5	2	2	49	
	31	1.14	36	1	1	1.5	2	2	2	39	31	1.517	48	1	1	1.5	2	2	51	
	32	1.14	37	1	1	1.5	2	2	2	40	32	1.517	49	1	1	1.5	2	2	52	
	33	1.14	38	1	1	1.5	2	2	2	41	33	1.515	50	1	1	1.5	2	2	53	
	34	1.137	39	1	1	1.5	2	2	2	42	34	1.515	52	1	1	1.5	2	2	55	
	35	1.137	40	1	1	1.5	2	2	2	43	35	1.515	54	1	1	1.5	2	2	57	
	36	1.137	41	1	1	1.5	2	2	2	44	36	1.483	54	1	1	1.5	2	2	57	
	37	1.133	42	1	1	1.5	2	2	2	45	37	1.483	55	1	1	1.5	2	2	58	
	38	1.133	44	1	1	1.5	2	2	2	47	38	1.483	57	1	1	1.5	2	2	60	
	39	1.133	45	1	1	1.5	2	2	2	48	39	1.483	58	1	1	1.5	2	2	61	
	40	1.13	46	1	1	1.5	2	2	2	49	40	1.483	60	1	1	1.5	2	2	63	

注) 公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律第7条の表をもとに筆者が作成

数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語の9必修教科の他、道徳、特別活動、選択教科、総合的な学習の時間がある。校長と養護教諭を含めて10人の教員では、必修9教科の教員を全て配置できない。1人の教諭が2つの教科を担当するか、教科によっては隣接校の教諭の併任とするか、非常勤講師を雇用するなどの方策が必要となる。

しかし、これはあくまでも最低限の基準であり、都道府県によってはこれを上回る基準で配置されている。また、国・地方自治体による教員の加配や自治体雇用の教員により、実際の教員の配置は、地方によって、学校によってかなり異なってくる。

(5) 教員数の加配

学級規模を小規模にすることは、1970年代末あたりから国家の財政難のために実現が困難になっている。第4次計画により45人学級が実現した後、40人学級の

実現を目指す第5次計画はすぐには認められず、1979年度1年間が空白の一年になった。また第5次と第6次計画の間に1992年度1年間が空白の一年になっているのも大蔵省の抵抗のためだった。

そこで、文部省は、1990年代に入ると、新しい原理で教職員定数の増加をはかるようになった。第6次計画では、40人学級という基本的な枠組みは維持しつつ、ティーム・ティーチングという新しい指導方法を導入することによって定数増加を要求し成功した。さらに、2000年12月には第7次計画(平成13-17年度)が復活折衝で認められた。その内容は、表3に示している。小中学校はもちろん特殊教育諸学校ですら学級規模を縮小する事項はない。5年間、小学校では国語・算数・理科、中学校では英語・数学・理科で20人以下の学習集団を編成した学習指導を行うため等に加配された。

表3. 第7次公立義務教育諸学校
教員定数改善計画の内容

改善事項	改善総数	内容
小・中学校 ○少人数による授業など きめ細かな指導を行う学 校の具体的な取り組みに対 する支援 小学校 中学校	人 22,500 8,600 13,900	教員1人あたり児童生徒数を欧米並みの 水準に改善 小学校18.6人 中学校14.6人
学校運営の円滑化 ○教頭複数配置 ○養護教諭等定数	3,274 612 974	複数配置の拡充 複数配置の拡充 児童生徒の心身の健康への適切な対応を 行う学校への加配
○学校栄養教諭定数	962	単独校及び共同調理場の定数改善 児童生徒の食の指導への対応を行う学校 への加配
○事務職員定数	726	きめ細かな学習指導や教育の情報化の支 援のために事務部門の強化対応を行う学 校への加配
小・中学校計	25,774	
特殊教育諸学校	914	教頭複数配置、教育相談担当・生徒指導 担当・自立活動担当の拡充、聾学校通級 担当教員、養護教諭等複数配置
研修等定数	212	
	26,900	

(出所：財務課「教職員定数の改善について」『教育委員会月報』平成13年2月号、50頁)

2. 学校規模の現状： 学級数と児童生徒数

次に、文部科学省の『学校基本調査』のデータを使っ
て、小中学校の学校規模の現状をしらべてみよう。ま
ず、学級数、次に児童生徒数を、それぞれ設置者別に
図表にして示す。なお、同調査には教員数のデータは
あるが、規模別に集計された表はないので、ここでは
触れない。

(1) 国公立別に見た学級数の分布

表4は、2003年度における学級数の分布を設置者別
に示している。小学校では、全体として7～12学級が

最も多く、左右対称な正規分布に近いかたちになって
いる。国立では13～18学級（1学年3学級以下）が最
も多く、公立と私立ではそれよりもやや小規模の7～
12学級（1学年2学級以下）が最も多く、公立は分布
の幅が広い。

図4は国公立合計・本校分校の小学校全体を1学
級刻みで図示したものである。6学級と7学級（1学
年1学級程度）のあたりに大きな山があり、12・13・
14学級（1学年2学級程度）にやや高い山があり、
18・19・20学級（1学年3学級程度）に低い山がある。
また、5学級以下の複式学級の学校もかなりの数にの
ぼっている。本校でも1～3学級の学校が1400校以上
もある。それは、地理的な条件等で通学困難なため統
合不可能で、小規模な状態にある学校が多いことを示
していると思われる。

中学校をみると（図5）、3学級編制（1学年1学級）
の学校が最も多いが、その右にも山があり、6～7学
級に一つの山があり、10から12学級あたりにも山があ
る。分布は幅広い。

なお、図表を略するが、国立は7～12学級の学校が
圧倒的に多い。公立は7～12学級が最も多く、次いで
13～18学級の学校が多いが、1～3学級、4～6学級
の学校も数多い。私立も多様で7～12学級が最も多いが、
1～3学級、4～6学級の学校を合計すると7～12学
級の学校の数を上回っている。小規模校が多いように
みられるが、これは中高一貫校が多いからでもあろう。

(2) 児童生徒数の分布：国公立別、2003年度

児童生徒数別の分布は、学級数の分布よりも複雑で
ある。

国立の小学校（図略）は400人以上799人以下の学校
圧倒的多数を占めており、小規模な学校は少ない。公
立の小学校（図6）は49人以下の学校が14%以上を占
めて最も多い。50人から299人までの学校は急激に減

表4. 学級数別学校数：2003年度

	学校数計	1-3学級	4-6	7-12	13-18	19-24	25-30	31-36	37-42
小計	23,188	1,679	5,034	6,508	5,754	3,085	991	126	11
小学校									
本校	22,898	1,417	5,011	6,506	5,751	3,085	991	126	11
分校	290	262	23	2	3	0	0	0	0
国立	73	0	0	21	28	22	2	0	0
公立	22,939	1,671	4,987	6,417	5,685	3,054	988	126	11
私立	176	8	47	70	41	9	1	0	0
中計	11,037	1,568	1,519	3,751	2,984	1,048	160	7	0
中学校									
本校	10,979	1,518	1,511	3,751	2,984	1,048	160	7	0
分校	58	50	8	0	0	0	0	0	0
国立	76	0	2	62	12	0	0	0	0
公立	10,302	1,465	1,370	3,451	2,838	1,017	155	6	0
私立	659	103	147	238	134	31	5	1	0

注) 計は、学級数0の学校を除く学校数である。『学校基本調査（初等中等教育論）』平成15年度版より。

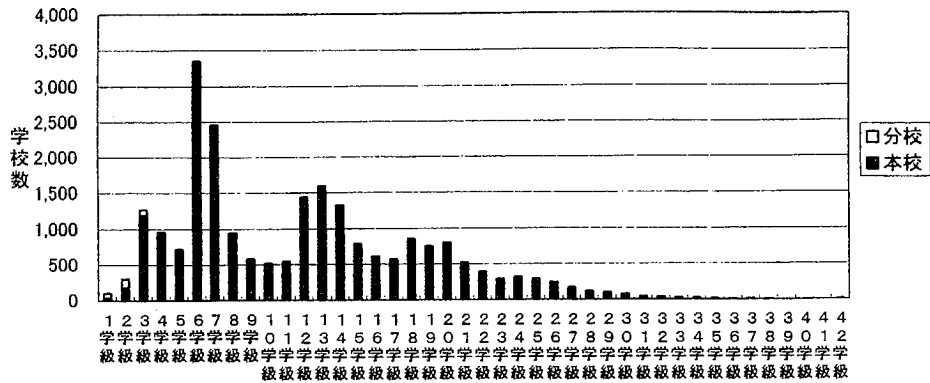


図4. 小学校の学級数

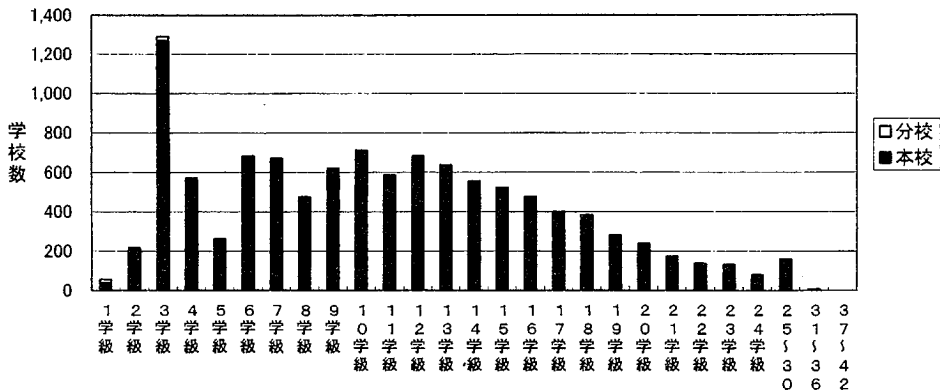


図5. 中学校の学級数

少するが、300～399人の学校が12%を越えて第2のピークを形成している。それ以上の規模の学校は急激に減少している。私立の小学校の小学校（図略）は400～499人の学校が18%を越えて最大であるが、大規模から小規模まで分散が大きい。

中学校の分布傾向は小学校と概して似ている。国立は圧倒的の大多数の中中学校が300人から499人の幅にある。公立（図7）は、小学校と同様、小規模と中規模に2つの山があるが、小学校よりも小規模校の割合は小さい。私立中学校の場合、山が2つあり、50～99人の小規模校と500人から599人の中規模校に分かれている。

3. 児童生徒数・学級数・教員数の関係

ここまでは学級数と児童生徒数の分布をそれぞれ個別に検討してきたが、この章では、われわれが実施した校長調査のデータを用いて、公立の学校に絞って、学校規模の主要な構成変数である児童生徒数・学級数・教員数の3者の相互関係を分析したい。これは集計データである文部科学省の『学校基本調査』では不可能な分析である。

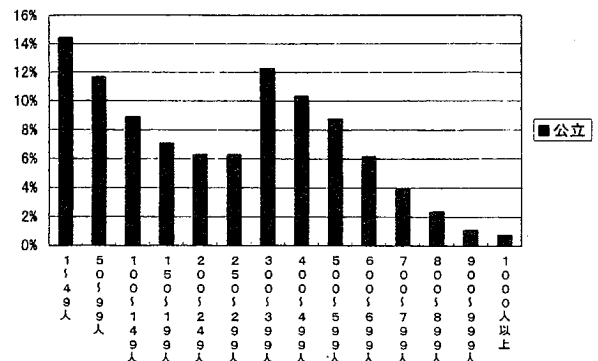


図6. 小学校児童数：公立

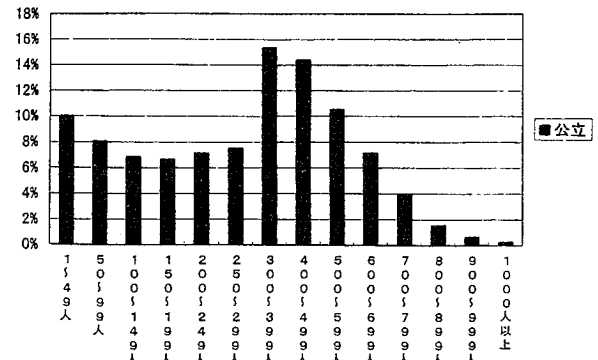


図7. 中学校児童数：公立

まず、校長データについて簡単に説明しておく。われわれは、2004年から3年間の計画で実施している「学級規模と少人数学習の教育的効果に関する比較社会学的研究」の一環として「全国校長調査」を行った。その調査では、2004年11月末に、全国の小中学校約35,000校の中から1/10の割合でランダムに選んだ全国の3,804校に「学級規模と少人数学習に関する全国校長調査」質問紙を発送し、1,222人の校長から回答を得た。ここではそのうち公立小学校校長748人、公立中学校校長327人のデータを使用する。回収の状況及び回答者の属性は本紀要に掲載されている水野ほかの論文を参照されたい。

(1) 児童生徒数と学級数

まず、児童生徒数と学級数の関係をグラフによって検討してみよう。図8は、公立小学校の児童数を横軸（対数目盛）に、学級数を縦軸にとって学校をプロットさせたものである。これを見ると、小学校では、つぎのようなことが明らかになる。

まず第1に、児童数が200人、学級数で言えば6学級を越えたあたりから、児童数に比例して学級数が増加する。第2に、児童数が60人程度から200人程度までは学級数は6から8程度の範囲内にある。第3に、児童数が60人程度よりも少ない学校は6学級未満（複式学級あり）になっているようである。第4に、児童数が10人を下回ると2～3学級になっている。

表1で現在の国の学級編制基準を見ると、複式になるのは16人（ただし1年生の場合は8人）であった。しかし、実際の公立学校では、児童数60人程度（1学

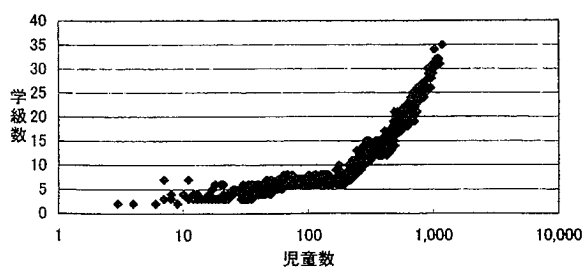


図8. 公立小学校の学級数と児童数の分布

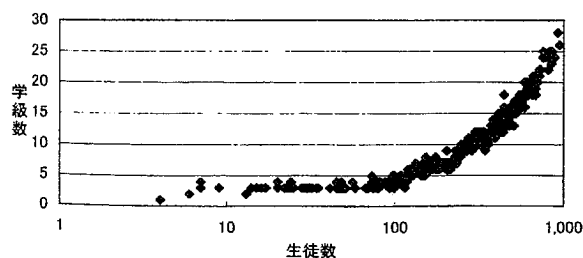


図9. 公立中学校の学級数と児童数の分布

年平均10人程度)の小規模校でも1学年1学級編制になっているようである。

中学校では、第1に、生徒数が200人程度を越えると、生徒数に比例して学級数が増加していく。第2に、生徒数120人を越えると6学級になる。第3に、生徒数約10人から約100人までの学校に3学級編制の学校が多い。

適正規模は、法令上12から18学級であったが、後にも見るように、適正規模以下の小規模学校が現実には多い。小学校では1学年1学級計6学級の学校では、児童数50人を下回る学校も多い。中学校では1学年1学級計3学級の学校では、児童数10人から80人程度の学校も多い。これは、一つには、特殊学級（小中とも8人以下の学級編制）の有無によるところが大きい。それはさらに、都道府県や地方自治体の判断で、国の学級編制の基準を大幅に上回って学級を編制している学校が非常に多いことを示している。

これらの図は、小規模校とそれ以上の規模の学校を分ける境界がどこにあるかを示していると言えよう。

(2) 学級数と教員数

学級数が確定すると、国の教職員定数の標準に基づいて教員が配置される。実際には、公立学校ではどの程度の教員が配置されているのだろうか。

図10は、公立小学校の学級数（横軸）と教員数（縦軸）の関係を示している。同様に、図11は公立中学校の場合を示している。全体としては、両者は1本の直線で表現されるようで、学級数に比例して教員数は増加している。ただ、分散は大きい。同じ学級数でも10

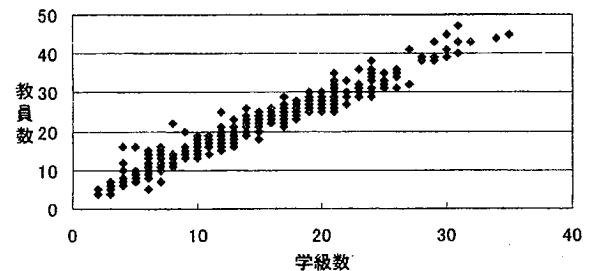


図10. 公立小学校の学級数と教員数

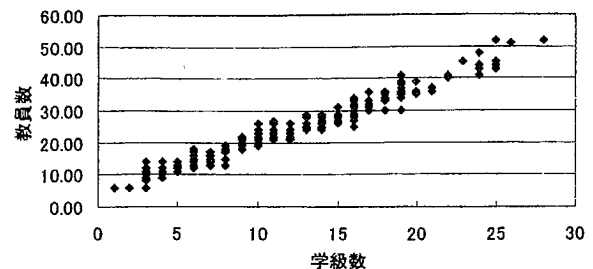


図11. 公立中学校の学級数と教員数

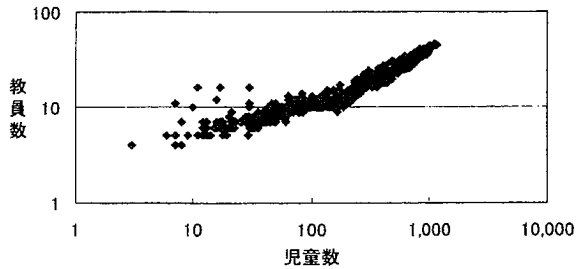


図12. 公立小学校の児童数と教員数

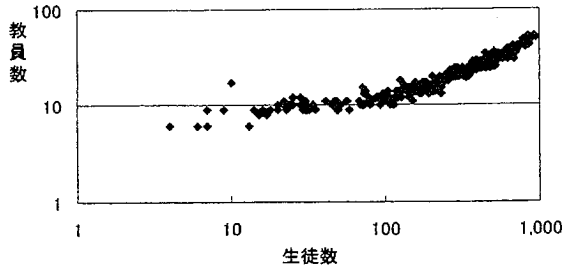


図13. 公立中学校の生徒数と教員数

人程度の幅がある。例えば、小学校では12学級でも26人の学校と15人の学校がある。これは、TTや少人数など国の教員加配の有無、地方自治体予算雇用の教員の有無、特殊学級では介助指導員等の数で大きく異なる。図12, 13は、児童生徒数と教員数の相関図である。

4. 学校規模の類型化

学校教育法施行規則第17条では、小学校の適正規模は12学級以上18学級以下を「標準とする」、と書かれ、同18条では、「特別な事情のある場合を除き」小学校の分校の5学級以下とする、と書かれている。

しかし、これまでのデータを見ると、適正規模よりも小さな学校が多く、本校ですら5学級以下の学校が

多かった。条文からも明らかなように、これらの規定は「標準」であり、「特別な事情のある場合」はその限りではない。1学年1学級の中学校では、国の標準に従う限り、法令で定める必修教科の教員を全員確保することは難しい。都道府県が独自に設定した基準や市町村独自の予算措置などで、小人数の学校ではあるが1学年1学級を実現し、法令に定める以上の多数の教員を配置している学校が多いのであろう。

12学級以下の小規模校といっても、実際は多様である。法令上の適正規模、それ以下、それ以上の3つの類型では粗すぎるので、表5の類型を設定してみた。これは単純化のため、特殊教育学級がない場合である。現実にはもっと複雑であることを断っておく。

法令上の適正規模に満たない小規模な学校は、さらに3つの分けられよう。「過小規模」は、小学校では5学級以下、中学校では2学級以下の学校であり、実際はともかく、学校教育法施行規則18条では分校となり、学級編制基準では複式学級が生まれる。小学校児童数の上限は、176人、中学校生徒数の上限は48人となる。

「1学年1学級編制」は、小学校では6学級、中学校では3学級である。中学校は施行規則18条上は分校となる。児童数は94人から240人の範囲をとるが、中学校では生徒数27人から120人までとなる。

「1学年1学級超」は、小学校では7から11学級までの学校で、児童数は126人から440人までの範囲にある。中学校では範囲が広く、4から11学級までの学校で、生徒数は59人から440人までの範囲となる。

「適正規模」は、小中とも12から18学級までだが、児童数は246人から720人まで、生徒数は363人から720人までとなる。以下は省略するが、6つの類型を图示したのが図14である。

表5. 特殊学級がない場合の学校規模の類型：法令上の規定から

	類型	小学校	中学校
小規模	小規模Ⅰ : 過小規模	5学級以下(分校、複式) 176(16+40*4)人以下	2学級以下(分校、複式) 48(8+40)人以下
	小規模Ⅱ : 1学年1学級	6学級 94(9+17*5)人から240(40*6)人まで	3学級(分校) 27(9*3)人から120(40*3)人まで
	小規模Ⅲ : 1学年1学級超	7から11学級まで (1学年2学級未満) 126(17*5+41)人から440(40*11)人まで	4から11学級まで (1学年2-3学級) 59(9*2+41)人から440(40*11)人まで
適正規模	12から18学級まで (1学年2-3学級) 246(41*6)人から720人(120*6)	12から18学級まで (1学年4-6学級) 363(121*3)人から720(240*3)人まで	
大規模	大規模Ⅰ : 学校統廃合時の経過措置	19から24学級まで 526人(81*5+121)から960(160*6)人まで	19から24学級まで 643(201*2+241)人から960(320*3)人まで
	大規模Ⅱ	25学級以上 766(121*5+161)人以上	25学級以上 883(281*2+321)人以上

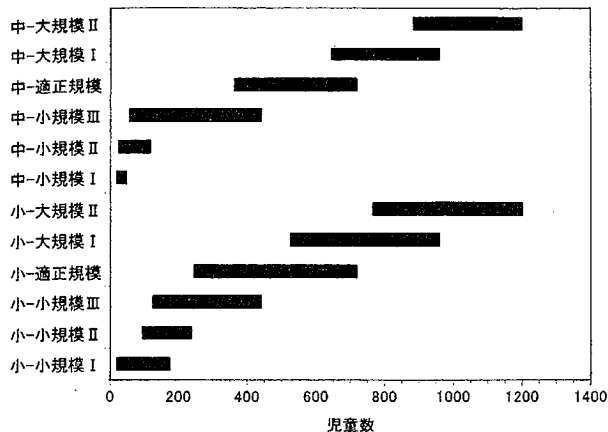


図14. 学校規模類型別の児童生徒数の分布：
公立小・中学校

5. 戦後における学校規模分布の推移：1959-2003

戦後のベビーブーム世代が入学した時代には多数の児童生徒で学校はあふれ、高度成長期にはマンモス学校も誕生した。少子化が進む今日まで我が国の学校規模はどのように変化しただろうか。図15は1959年から最近までの2003年までの小学校について、学級数別の推移を構成比で図示している。

図から明らかなように、6学級以下の小規模校は長期的に減少の傾向にある。19学級以上の大規模校は、第二次ベビーブーム世代が入学した1980年には割合が

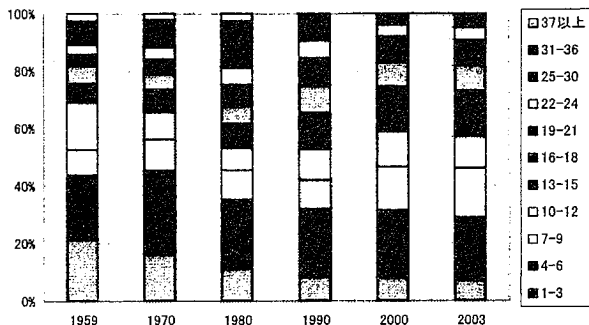


図15. 小学校の学校規模分布：国公私計・本校分校計

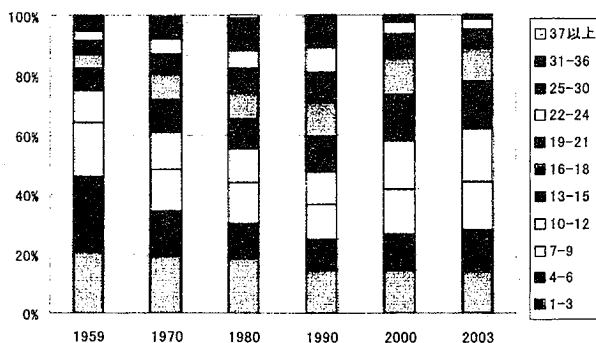


図16. 中学校の学校規模分布：国公私計・本校分校計

増加したが、それ以後最近まで減少傾向にある。代わって7学級以上18学級以下の中規模校の割合が増加している。ちなみに、12から18学級までの適正規模の学校の割合（学級数ゼロの休校中の学校を除く割合）は、23.1（1959）、18.2（1970）、18.9（1980）、28.3（1990）、31.3（2000）、30.7（2003）と1970年以降はおおよそ増加の傾向にある。

中学校は、図16に示している。1959年以降第二次ベビーブーム世代が入学した1990年まで、6学級以下の小規模校は減少したが、その後漸増の傾向が見られる。なお小学校に比べて3学級以下の学校の比率の多いのは、中学校の修業年限が3年であるからである。他方、19学級以上の大規模校は、1990年まで増加したが、2000年以後急減している。代わって7学級から12学級までの学校は増加している。ちなみに、12から18学級までの適正規模の学校の割合（学級数ゼロの休校中の学校を除く%）は、14.9（1959）、24.2（1970）、22.3（1980）、27.6（1990）、33.8（2000）、32.9（2003）と1980年以降はおおよそ増加の傾向にある。

6. 都道府県別にみた学校規模の特徴

人口が稠密な大都市と過疎が続く地方、都市部と農村、平野部と山間・島嶼部。我が国の地形は複雑で、地域間の経済的な格差も大きい。これらを反映して、学校規模の多様性は大きい。ここでは、公立の小学校と中学校について、都道府県別に法令上の「適正規模」の学級と小規模、大規模の学級の割合を調べてみよう。

表6は、適正規模の学校が占める割合が小さい順に都道府県を並べたものである。小学校では徳島県は11.2%で全国最小で、以下、鹿児島県、高知県の順になっている。逆に東京都は58.9%と全国最高になっている。中学校では、適正規模の学校の割合が小さいのは鹿児島県、高知県、島根県などとなっており、大阪府、神奈川県、埼玉県は適正規模校の割合が大きく50%を越えている。

全体的には、中国、四国、九州、東北の各地方で適正規模の学校の割合が小さい県が多く、首都圏、関西都市圏および愛知県で適正規模の学校が占める割合が大きい。

7. まとめ

この論文では、第1章で、学校規模およびそれに深く関連している学級編制に関する教育法規の条文をもとに学校規模を構成する児童生徒数、学級数、教員数が教育行政の制度上どのような関係にあるかを検討

表6. 都道府県別にみた適正規模の学校の分布：
公立，本校分校計，2003年度

小学校	小規模	適正規模	大規模	中学校	小規模	適正規模	大規模
	11学級以下	12-18学級	19学級以上		11学級以下	12-18学級	19学級以上
徳島県	80.6%	11.2%	8.3%	鹿児島県	78.9%	13.1%	8.0%
鹿児島県	77.7%	11.9%	10.4%	高知県	83.7%	15.6%	0.7%
高知県	81.1%	12.4%	6.5%	島根県	78.9%	15.6%	5.5%
山形県	74.9%	13.7%	11.5%	和歌山県	76.9%	16.8%	6.3%
島根県	79.6%	14.7%	5.6%	岩手県	79.2%	16.9%	3.9%
秋田県	75.2%	15.6%	9.1%	長崎県	77.3%	17.2%	5.6%
大分県	76.1%	15.7%	8.1%	徳島県	70.5%	17.9%	11.6%
岩手県	77.3%	16.0%	6.7%	秋田県	72.9%	18.8%	8.3%
愛媛県	69.0%	16.7%	14.3%	大分県	71.9%	21.2%	6.8%
山口県	67.7%	18.2%	14.1%	北海道	73.3%	21.4%	5.2%
福島県	68.5%	18.3%	13.1%	熊本県	67.0%	21.6%	11.3%
沖縄県	47.1%	18.9%	33.9%	愛媛県	64.5%	21.7%	13.8%
熊本県	69.3%	19.1%	11.6%	山口県	72.0%	22.8%	5.3%
和歌山県	72.6%	19.3%	8.0%	佐賀県	67.4%	23.2%	9.5%
宮崎県	61.1%	20.0%	18.9%	青森県	69.2%	23.2%	7.6%
青森県	70.0%	20.6%	9.4%	宮崎県	71.1%	23.9%	4.9%
長崎県	69.3%	21.2%	9.5%	山形県	67.7%	24.1%	8.3%
新潟県	65.4%	22.2%	12.5%	福島県	64.0%	26.4%	9.5%
岡山県	63.8%	22.5%	13.7%	福井県	59.8%	26.8%	13.4%
広島県	60.3%	22.6%	17.1%	岡山県	57.9%	26.9%	15.2%
北海道	66.6%	24.2%	9.2%	広島県	63.1%	27.5%	9.4%
三重県	62.9%	25.7%	11.4%	新潟県	65.2%	27.5%	7.4%
宮城県	55.6%	26.1%	18.3%	沖縄県	55.8%	27.6%	16.6%
福井県	67.9%	26.3%	5.8%	山梨県	66.3%	28.7%	5.0%
石川県	60.2%	27.2%	13.8%	石川県	59.8%	29.9%	10.3%
鳥取県	65.4%	27.4%	7.3%	岐阜県	58.7%	30.1%	11.2%
栃木県	58.8%	27.9%	13.3%	富山県	55.3%	31.8%	12.9%
香川県	58.1%	28.4%	13.5%	栃木県	50.6%	32.0%	17.4%
佐賀県	58.4%	28.4%	13.2%	三重県	60.0%	32.2%	7.8%
長野県	48.7%	29.6%	21.8%	滋賀県	40.2%	32.4%	27.5%
山梨県	59.8%	29.7%	10.5%	宮城県	58.9%	32.6%	8.5%
全国	52.0%	30.1%	17.9%	長野県	53.6%	32.7%	13.8%
奈良県	43.4%	30.1%	26.6%	全国	55.9%	32.8%	11.4%
富山県	59.4%	30.8%	9.8%	鳥取県	56.7%	35.0%	8.3%
静岡県	40.7%	31.9%	27.3%	東京都	62.5%	35.1%	2.5%
茨城県	52.7%	32.1%	15.1%	香川県	50.0%	36.9%	13.1%
岐阜県	51.4%	32.7%	15.9%	奈良県	43.5%	38.0%	18.5%
兵庫県	41.2%	33.6%	25.2%	群馬県	54.7%	38.0%	7.3%
滋賀県	42.6%	36.3%	21.1%	静岡県	45.6%	39.1%	15.3%
京都府	47.5%	36.6%	15.8%	福岡県	46.5%	39.6%	13.9%
福岡県	43.3%	38.3%	18.4%	兵庫県	39.4%	41.0%	19.6%
群馬県	43.4%	38.9%	17.7%	千葉県	45.5%	42.9%	11.7%
千葉県	38.5%	39.0%	22.5%	京都府	45.8%	43.0%	11.2%
愛知県	28.3%	41.8%	29.9%	愛知県	29.6%	44.7%	25.7%
神奈川県	12.6%	42.0%	45.3%	茨城県	44.9%	45.7%	9.4%
埼玉県	22.3%	44.5%	33.1%	埼玉県	34.6%	50.8%	14.4%
大阪府	18.5%	46.9%	34.6%	神奈川県	27.1%	51.3%	21.6%
東京都	27.9%	58.9%	13.1%	大阪府	24.4%	56.0%	19.6%

(出典：文部科学省『学校基本調査』初等中等教育編，平成15（2003）年度版）

した。第2章では学校基本調査の統計データをもとに2003年現在の我が国の小学校と中学校の学校規模の現状を鳥瞰し、第3章では、校長調査から得られた個票データをもとに学校規模の3要素たる児童生徒数、学級数、教員数の関係を分析した。その結果、複式学級を回避し1学年1学級を実現するために国の標準や基準を上回って学級編制をしている学校が多いことが明らかとなった。それは、複式学級になるような小規模学校においてTTなどの指導方法の改善を行うなどのためにも教員が加配され、その結果として1学年1学級編制が可能になっているからであろう。

さまざまな方法で複式学級を回避し、1学年1学級編制を堅持する学校が多いことは、同学年で学級を編制しようとする努力の現れである。本分析の結果から、学級規模は小さくなくても、同学年で学級を編制しようとする学校や教育行政の努力の大きさが読みとれる。

【参考文献】

- Barker, R. G. & P. V. Gump (eds.), 1964, *Big School, Small School: High School Size and Student Behavior*, Stanford University Press (バーガー・ガンブ、安藤延男監訳『大きな学校、小さな学校』新曜社、1982年)。
- 岡田典子・山崎博敏・田中春彦、2001、「戦後における小中学校の学級規模の縮小—教職員配置改善計画政策効果分析—」『広島大学教育学部紀要』第三部第49号、39-48頁。
- 桑原敏明編、2002、『学級編制に関する総合的研究』多賀出版。
- 財務課、2001、「教職員定数の改善について」『教育委員会月報』平成13年2月号、50頁
- 高浦勝義編、2000、『適正な学校・学級規模に関する校長及び教員の意識と指導及び勤務の実態に関する調査結果』（平成11年度～平成12年度科学研究費補助金研究成果報告書）、国立教育研究所。

第 2 部

少人数学習とチーム・ティーチング

第1章

全国の小中学校における少人数教育とティーム・ティーチングの実施状況： 2004年全国校長・教員調査報告

山崎博敏・水野 考*・藤井宣彰*・高旗浩志**・田中春彦

Small Group Teaching and Team Teaching in Japanese primary and Junior High Schools: A Report of 2004 National Principal and Teacher Survey

Hirotooshi YAMASAKI, Kou MIZUNO, Nobuaki FUJII, Hiroshi TAKAHATA and Haruhioko TANAKA

Abstract. Team teaching is conducted in the two thirds of primary and junior secondary schools, especially in mathematics and Japanese language. Small group teaching is conducted in the half of primary schools, especially in mathematics, and also in the two thirds of junior secondary schools, especially in English and mathematics. More additional teachers are allocated to schools for small group teaching than for team teaching.

Principals and teachers evaluate more positively small group teaching than team teaching. Small group teaching is supposed to be effective for academic subjects.

1. 研究の背景と目的

1959年度以来の数次の教職員配置改善計画政策と義務教育標準法によって公立義務教育諸学校の学級規模は縮小してきた。1950年代には50人以上の学級が多く、「すし詰め学級」と呼ばれていたが、公立小学校を例にとると1960年代末までに46人を超える学級は消滅し、1990年代初頭にはほぼ40人学級が実現した。わずか30年間の間に、我が国の小学校の学級規模は最頻値が「46-49人」（1960年）から「31-35人」へと15人も縮小した（岡田・山崎・田中，2000）。

ところが、1990年代に入り、40人以下への学級規模縮小は断念され、「指導方法の工夫など個に応じた教育の展開」という角度から定数改善が志向されるようになった。第6次教職員配置改善計画（1993-2000年度）ではティーム・ティーチング（以後TTと略称）が導入され、2001年度より2005年度までの第7次教職員定数改善計画では、やはり40人の学級規模は維持しつつ新た

に基本3教科（小学校では国語・算数・理科、中学校では英語・数学・理科）での少人数学習指導が導入され、ホームルームを解体して20人以下の学習集団を編成した学習指導が実施された。

2005年秋、文科省は少人数学習の継続的实施を中心とする第8次の公立義務教育諸学校教員定数改善計画を概算要求したが、認められなかった。

なお、文部科学省は、第7次計画において少人数授業を行う趣旨等を説明した文書の中で、少規模学級編制を採用しない理由を次のように述べている。「一部に、一律30人以下学級など少人数学級編制を求める声があるが、これについては、① 個々の児童生徒にとって多数の教員が関わることできめ細かな指導を行い、一人ひとりの児童生徒の個性を育てていく上で効果的であること、② 学級は生徒指導や学校生活の場として、児童生徒の社会性を育成する観点から一定の規模が必要であること、③ また、教育指導を効果的に行うには、固定的な学級という考え方にとらわれな

*広島大学大学院教育人間科学専攻，***島根大学

いで、教科や指導内容等に応じて少人数指導を行うなどきめ細かな工夫が必要であること、④学級規模と教育効果の関連が、必ずしも明確になっていないこと、⑤国・地方を通じて相当の財政負担が必要となること、などの点を総合的に判断すれば、必ずしも望ましい方法とはいえないと考えており、学級編制の標準については、現行どおり40人とする事としてしている」(財務課「教職員定数の改善について」『教育委員会月報』平成13年2月号, 51頁)。

他方、1998年の中教審答申「今後の地方教育行政の在り方」を受けて、2001年度に法令が改正され、都道府県教育委員会は、国の標準を下回る学級編制基準を定めることが可能となった。文科省の調査によれば、平成14年度において学級編制の弾力化を実施しているのは22道府県にのぼっている。2005年度には、文科省は学級編制を学校の裁量で決められるよう義務教育標準法改正案を通常国会に提出するという。

果たして、学級規模を縮小したり、新しい学級教授組織を導入することによって、教育上の効果は向上するのだろうか。この問題は今後、地方教育行政機関や学校の裁量が大きくなればなるほど、ますます重要な問題となってくる。われわれはこの問題にアプローチすべく、全国の小中学校の校長と教員に対する「学級規模と少人数教育に関する調査」をおこなった。

この論文では、そのうち、TTと少人数学習が全国の小中学校でどのように実施されているか、その実態と効果に関する分析結果を報告する。特

に、TTとの比較の観点で少人数学習の小中学校と中学校における実施形態や効果の違い、教科による違いなどについて分析を行い、考察を行いたい。

2. 全国校長調査と教員調査の概要

2004年11月末に全国の小中学校のリスト(『全国学校総覧』2004年度版)に掲載されている35,322校のうち、表1に示すような抽出率に基づいて3804校を抽出し、校長宛に2つの質問紙を郵送し、「校長調査」の回答と「教員調査」(各校6部)の配布を依頼した。なお、校長にも教員にも、記入済の調査票はすべて、同封の返信用封筒にて回答者自身が送付するよう依頼した。

校長調査票は、2005年2月までに校長等から郵送により回収した。有効票は1,222校で、回収率は小学校で31.7%、中学校で29.5%、全体で32.1%であった。教員調査票も同様に、2005年2月までに郵送により回収した。有効票は6,438で、回収率は27.5%、中学校で26.8%、全体で28.2%であった。

3. TTと少人数学習の実施率

表2にはTTと少人数学習の実施率を小学校、中学校別、さらに設置者別に示した。TTを実施している学校は小学校、中学校ともそれぞれ65%を超えている。私立では小学校の実施率が高い。一方、少人数学習は中学校では68.5%の実施率に対し、小学校は52.9%にとどまっている。

設置者別には、小学校では、TT、少人数学習とも国立、公立、私立の順に実施率が高い。中学校

表1 校長調査票の回収状況

		校長調査票					教員調査票		
		学校数	抽出率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
小学校	国立	73	1/1	73	37	50.7	438	202	46.1
	公立	23,865	1/10	2,386	748	31.3	7,158	3,901	54.5
	私立	172	1/2	86	21	24.4	258	94	36.4
	計	24,110		2,545	806	31.7	7,635	4,197	27.5
中学校	国立	78	1/1	78	38	48.7	468	189	40.4
	公立	10,454	1/10	1,045	327	31.3	6,270	1,796	28.6
	私立	680	1/5	136	6	4.4	816	46	5.6
	計	11,212		1,259	371	29.5	7,572	2,031	26.8
中高併置校	国立	—	—	—	3	—	—	18	—
	私立	—	—	—	29	—	—	150	—
小中併置校	公立	—	—	—	9	—	—	36	—
	私立	—	—	—	1	—	—	6	—
特殊教育学校	公立	—	—	—	3	—	—	0	—
総計		35,321		3,804	1,222	32.1	22,842	6,438	28.2

表2 TTと少人数学習の学校種別・設置者別実施率(%)

		小学校	中学校	小学校			中学校		
		計	計	国立	公立	私立	国立	公立	私立
T T	1. 現在, 実施している	66.2	67.6	64.9	66.1	73.7	45.9	70.8	33.3
	2. かつて実施	11.7	17.2	2.7	12.4	5.3	16.2	17.0	33.3
	3. 実施したことがない	22.0	15.2	32.4	21.4	21.1	37.8	12.2	33.3
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	N	767	355	37	709	19	37	312	6
少 人 数 学 習	1. 現在, 実施している	52.9	68.5	11.1	55.1	57.9	29.7	73.1	66.7
	2. かつて実施	5.2	6.3	11.1	4.9	5.3	5.4	6.5	0.0
	3. 実施したことがない	41.9	25.3	77.8	40.1	36.8	64.9	20.4	33.3
	合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	N	756	352	36	699	19	37	309	6

では, TTは公立校の70.8%が実施しているのに対し, 国立と私立の実施率はさほど高くない。

いっぽう, 少人数学習では, 小学校, 中学校とも, 国立の実施率の低さが目立つ。つまり小学校では, 公立, 私立が55%を超える実施率であるのに対し, 国立ではわずかに1割程度に止まっている。中学校では, 公立73.1%, 私立66.7%と7割前後の学校が実施しているのに対して, 国立での実施率は3割に満たない。

表3は公立校のみを対象とし, TTと少人数学習の実施状況を学校規模(児童生徒数)別に示した。これによるとTTは, 小学校の場合, 100人以上の規模では概ね75%以上の学校で実施されている。特に実施率が高いのは, 200人以上400人未満の小学校であった。中学校では若干, 学校規模によるバラツキがあるが, 50人以上の規模であれば, 6割以上の学校がTTを実施している。

これに対して, 少人数学習では, 学校規模と実施率の間に正の相関を伺うことができる。すなわち, 規模が大きいくほど, 少人数学習を導入する学校が多く, 特に600人以上の場合, 小学校, 中学校とも, 9割近い実施率となっている。

4. TTの実施状況

(1) 教科別学年別実施状況

ここではTTの実施状況を詳細に検討する。表4には, 教科別のTT実施状況を小学校と中学校に分け, 設置者別に示した。これによると小学校, 中学校ともにTTの実施率が高いのは, 1位が算数(数学), 2位が国語であった。中学校での英語の実施率が低いことは意外である。なお, 設置者別の違いを検討したところ, 国立では小学校, 中学校ともに国語, 算数(数学), 体育, 総合的な学習の時間での実施率が高い。一方, 公立では

表3 学校規模(児童生徒数)別のTTと少人数学習の実施状況(公立校のみ)

		TT (%)					少人数学習 (%)				
		現在実施している	かつて実施した	実施したことがない	N		現在実施している	かつて実施した	実施したことがない	N	
小 学 校	1人以上50人未満	31.3	8.7	60.0	115	***	19.1	0.0	80.9	110	***
	50人以上100人未満	47.8	14.1	38.0	92		8.0	4.5	87.5	88	
	100人以上200人未満	76.5	7.6	16.0	119		41.2	6.1	52.6	114	
	200人以上400人未満	80.9	12.7	6.4	157		76.7	7.5	15.7	159	
	400人以上600人未満	76.0	16.0	8.0	100		87.0	8.0	11.0	100	
	600人以上	77.3	18.2	4.5	88		87.8	2.2	10.0	90	
	合計	65.9	12.5	21.6	671		54.0	5.0	41.0	661	
中 学 校	1人以上50人未満	46.2	10.3	43.6	39	***	3.0	9.1	87.9	33	***
	50人以上100人未満	71.4	9.5	19.0	21		42.9	19.0	38.1	21	
	100人以上200人未満	63.5	21.2	15.4	52		69.8	5.7	24.5	53	
	200人以上400人未満	76.0	16.7	7.3	96		77.9	8.4	13.7	95	
	400人以上600人未満	65.6	22.2	12.2	90		78.0	3.3	18.7	91	
	600人以上	77.8	13.9	8.3	36		89.2	0.0	10.8	37	
	合計	67.7	17.4	15.0	334		68.2	6.4	25.5	330	

表4 TTの教科別実施状況：「現在実施している」学校の数と割合：教科別（校長調査）

校種	教科	実 数				比 率 (%)				順位
		国立	公立	私立	全体	国立	公立	私立	全 体	
小学校 全学年計	国語	25	280	9	314	17.4	9.9	10.0	10.3	2
	社会科	5	39	0	44	3.5	1.4	0.0	1.5	
	算数	45	1,432	10	1,487	31.3	50.8	11.1	48.7	1
	理科	11	135	0	146	7.6	4.8	0.0	4.8	
	生活科	15	105	4	124	10.4	3.6	4.4	4.1	
	体育	10	189	13	212	7.0	6.7	14.4	7.0	3
	総合的な学習	30	174	5	209	20.8	6.2	5.6	6.9	4
	その他	9	90	6	105	6.3	3.2	6.7	3.4	
中学校 全学年計	国語	21	210	7	238	15.1	8.2	7.9	8.5	2
	社会科	3	38	0	41	2.2	1.5	0.0	1.5	
	数学	40	1,313	8	1,361	28.8	51.1	9.0	48.6	1
	理科	13	157	1	171	9.4	6.0	1.1	6.1	
	英語	18	129	22	169	12.9	5.0	24.7	6.1	
	体育	8	164	11	183	5.8	6.4	12.3	6.5	4
	総合的な学習	29	168	5	202	20.9	6.6	5.6	7.3	3
	その他	7	84	10	101	5.1	3.3	11.3	3.6	

(注) 数は1学年を1件と数えている。

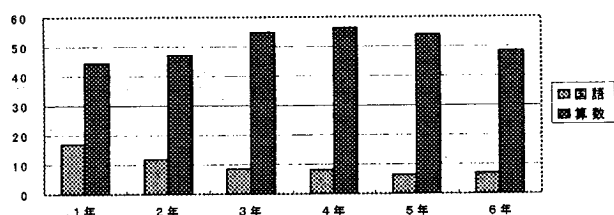


図1 TTの実施率(%)：公立小学校

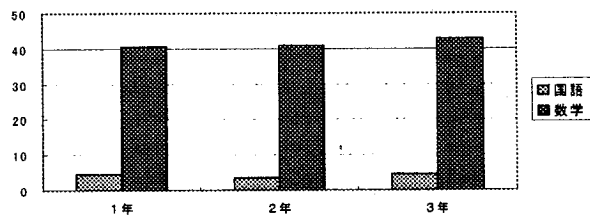


図2 TTの実施率(%)：公立中学校

算数・数学に著しく偏り、また私立は特に中学校の英語での実施率が高い。

図1、図2は、小学校と中学校の学年別の実施状況を、国語と算数(数学)のみについて示したものである。これによると、公立小学校で算数におけるTTの実施率が高いのは3～5年生で50%を越えている。また国語では、学年が低いほど実施率が高い。一方、中学校では、数学で、学年が上がるにつれTTの実施率が高くなっている。

(2) TTの実施期間

TTの実施期間(表5)は小学校、中学校ともに「特定の教科について、1年間継続して実施している」と回答する校長がもっとも多く、小学校

で79.6%、中学校では85.4%であった。

(3) TT実施における教師間の協力分担の方法

表6によると、小学校では「一方が主に授業をし、他方が児童生徒の個別指導をする」(60.2%)のに対し、中学校では「一方が主に授業をし、他方がその補助をする」(63.0%)傾向が強い。

なお教員調査のデータを教科別に検討したところ、小学校、中学校ともに、どの教科でも「一方が主に授業し、他方がその補助をする」タイプが多い。ただし、算数と数学では「一方が主に授業をし、他方が児童生徒の個別指導をする」タイプも多く、40%を越えていた。

表5 一教科あたりのTTの実施期間(%)

校長	校種	1年間	1学期間	1単元全体	1単元の一部	計	人数
		小学校	79.6	3.2	7.3	9.9	100.0
中学校	85.4	3.8	4.2	6.7	100.0	240	

表6 TTに携わる教師間の協力分担の方法(%)

		2人が交互に授業	一方が主に授業し、 他方が補助	一方が授業し、 他方が個別指導	計	人数
校長	小学校	17.4	53.2	60.2	複数回答	512
	中学校	22.9	63.0	47.7	複数回答	243
教員 小学校	国語	15.2	48.0	36.8	100.0	342
	理科	18.2	51.9	29.9	100.0	187
	算数	13.6	45.4	41.0	100.0	2,725
	体育	26.8	51.3	22.0	100.0	355
	総合的な学習	31.0	48.7	20.3	100.0	394
教員 中学校	国語	29.2	43.8	27.0	100.0	89
	理科	12.5	60.4	27.1	100.0	144
	数学	6.2	49.5	44.4	100.0	471
	英語	25.9	60.8	13.2	100.0	355
	体育	27.8	59.7	12.5	100.0	72
	総合的な学習	34.7	44.0	21.3	100.0	75

表7 少人数学習の教科別実施状況(校長調査, %)

校種	教科	数				割合(%)				順位
		国立	公立	私立	全体	国立	公立	私立	全体	
小学校 全年計	国語	4	221	9	234	16.7	12.8	13.6	12.9	2
	社会科	2	27	0	29	8.3	1.6	0.0	1.6	
	算数	5	933	8	946	20.8	53.7	12.1	51.7	1
	理科	5	97	0	102	20.8	5.6	0.0	5.6	
	生活科	4	67	0	71	16.7	3.9	0.0	3.9	
	体育	2	105	13	120	8.3	6.1	19.7	6.6	
	総合的な学習	6	103	1	110	25.0	6.0	1.5	6.1	
中学校 全年計	国語	7	16	0	23	19.4	3.4	0.0	4.2	
	社会科	5	15	0	20	13.9	3.2	0.0	3.7	
	数学	9	151	0	160	25.0	32.0	0.0	29.1	2
	理科	8	83	2	93	22.2	17.7	5.1	17.0	3
	英語	14	180	28	222	38.9	38.1	66.7	40.3	1
	体育	5	39	0	44	13.9	8.4	0.0	8.1	
	総合的な学習	6	15	0	21	16.7	3.2	0.0	3.9	

(注) 数は1学年を1件と数えている。

5. 少人数学習の実施状況

(1) 教科別学年別実施状況

表7には少人数学習の教科別実施状況を、小学校と中学校に分け、さらに設置者別に示した。小学校では算数(51.7%)が圧倒的に多く、次いで国語(12.9%)となっている。中学校では英語(40.3%)が最も多く、次いで数学(29.1%)、理科(17.0%)となっている。第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画では、小学校では国語・算数・理科、中学校では英語・数学・理科の基本3教科で少人数学習が実施されることになっている。しかし実際には、小学校において特に理

科はあまり実施されていない。小学校では国語・算数の2教科、中学校では英語・数学・理科の3教科が多く、全体として「読み・書き・そろばん」が中心となっている。

設置者別に見た場合、少人数学習を導入する教科に著しい違いがある。小学校では国立が国語、算数、理科、生活科、総合的な学習の時間といった5教科で、ほぼ20%前後の学校が実施しているのに対し、公立は算数に著しく偏っている。一方、中学校では、国立が英語、数学、理科、国語の順に少人数学習を採り入れているのに対して、公立は英語と数学に偏り、また、私立では6割を

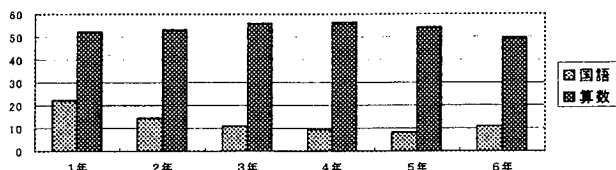


図3 少人数学習の実施率(%)：公立小学校

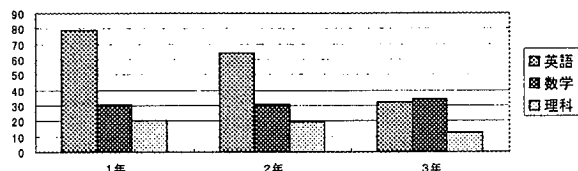


図4 少人数学習の実施率(%)：公立中学校

越える学校で英語での導入がなされている。

図3、図4は学年別の少人数学習実施状況を、小学校、中学校別に示した。算数の場合、いずれの学年でも50%を越えているが、特に3～5年生の実施率が高い。なお、6年生での実施率は他の学年よりも低い。その理由として、児童の学力差を埋めるための努力が、中学年を中心に振り向けられていることの表れと考えることもできる。一方、国語については低学年ほど実施率が高く、3、4、5年生で順に実施率が下がり、6年生で再び上昇している。

一方、中学校では、特に英語は学年が上がるにつれ実施率が下がる。それも、1年生で8割近くの実施率だったものが、3年生では3割を越える程度に下っている。これは早い段階で学力差がつくことを避けるため、1年生の時点で導入される傾向が強いものと考えられる。これとは対照的に、数学は3割程度の実施率だが、学年が上がるにつれ微増の傾向にある。

(2) 少人数学習の実施期間

表8から小学校、中学校ともに一教科あたりの少人数学習の実施期間は概ね1年間とするケースが多い。ただ、中学校が比較的長期間に及ぶのに比べ、小学校は「ひとつの単元」あるいは「ひとつの単元の一部」といった短期間の実施が多い。

特定の教科に限定して分析したところ、小学校の場合、国語は1年間実施されるケースが多いのに対し、理科や算数では単元の全体あるいは単元の一部も多く、両極に分かれている。中学校では、1年間あるいは1学期間と比較的長期間実施される教科が多いが、理科では単元の一部で実施されるケースも多い。

(3) 学級集団と少人数学習集団の関係

ここでは少人数学習集団の編制方式と学級集団との関係について検討する。表9によると、小学校では「個々の学級を越えて編制している」が40.8%、「ひとつの学級集団を2つに分割して集団を編制している」が59.2%であり、ホームルームを解体しないで少人数学習を実施するケースが多いようである。中学校ではその傾向がさらになくなってきている。すなわち、「ひとつの学級集団をふたつに分割して集団を編制している」ケースが圧倒的に多く、全体の4分の3を占めている。これは、中学校の平均的な学級規模が大きいためであろう。

なお、同じ質問を教員調査でも実施し、その結果を特定の教科について示した。これによると、小学校、中学校ともに、国語、理科、数学、英語といった教科では約6割以上が「ひとつの学級を2つに分割して集団を編制している」ことがわか

表8 一教科あたりの少人数学習集団の実施期間 (%)

		1年間	1学期間	1単元の全体	1単元の一部	計	人数
		校長	小学校	76.0	1.3	11.5	11.3
	中学校	89.3	4.1	2.5	4.1	100.0	243
教員 小学校	国語	56.7	5.6	13.3	24.5	100.0	233
	理科	45.7	5.7	25.7	22.9	100.0	35
	算数	49.1	4.3	21.3	25.3	100.0	2,098
教員 中学校	国語	61.7	11.1	13.6	13.6	100.0	81
	理科	56.6	10.8	7.2	25.3	100.0	83
	数学	73.9	9.0	5.3	11.8	100.0	398
	英語	76.6	10.5	3.9	9.0	100.0	256

表9 少人数学習集団の編制方法：学級集団との関係（％）

		個々の学級を越えて集団を編成した(2学級を3集団など)	一つの学級集団を2つに分割して集団を編成した	計	人数
校長	小学校	40.8	59.2	100.0	392
	中学校	22.4	77.6	100.0	241
教員 小学校	国語	41.0	59.0	100.0	227
	理科	35.3	64.7	100.0	34
	算数	40.6	59.4	100.0	2,093
教員 中学校	国語	33.3	66.7	100.0	78
	理科	27.2	72.8	100.0	81
	数学	31.2	68.8	100.0	394
	英語	27.2	72.8	100.0	254

る。教科ごとの差を見ると、小学校の理科、中学校の理科と英語でこの傾向がより強く表れていた。

(4) 少人数学習集団の編制原理

学級集団を解体する／しないにせよ、少人数学習集団をどのような原理に基づいて編制するかは重要な問題である。まず、少人数学習集団は教科ごとに編制されるのか、それともどの教科でも共通の学習集団が作られるのだろうか。表10は校長調査の結果である。これによると、小学校、中学校ともに8割を越える学校で「教科によって異なった学習集団を編制している」。

表11には、その具体的な編制原理の違いを示した。これによると、少人数学習を実施するすべての小学校、中学校が習熟度別編制を採用してい

ることが判る。テーマ別・課題別編制をしているのは中学校で15.3％、小学校で19.3％、等質（ランダム）編制は小学校で29.3％、中学校で35.8％であった。

これを教科ごとに検討してみよう。教員調査の結果によれば、小学校国語、算数では習熟度別編制が半数以上と最も多く、その一方、3割程度が等質集団に編制している。また小学校理科ではテーマ別・課題別の編制が多く62.9％であった。

一方、中学校の場合、数学は他の教科よりも習熟度別編制を採用する傾向が強く、65.4％であった。また英語は習熟度別もしくは等質集団による編制が半々の割合であった。国語は習熟度、テーマ別・課題別、等質集団による編制と、ほぼ均等に分かれている。理科では等質集団編制が半数を

表10 少人数学習集団は教科によって個別に編制されているか

		教科によって異なった学習集団を編成している	どの教科でも共通の学習集団を編成している	計	人数
校長	小学校	83.2	16.8	100.0	413
	中学校	80.5	19.5	100.0	205

表11 少人数学習集団の編制原理：習熟度別・テーマ課題別・ランダム

		習熟度別に編成	テーマ別・課題別に編成	等質(ランダム)に編成	計	人数
校長	小学校	100.0	19.3	29.3	複数回答	387
	中学校	100.0	15.3	35.8	複数回答	240
教員 小学校	国語	53.7	13.2	33.0	100.0	227
	理科	22.9	62.9	14.3	100.0	35
	算数	57.0	10.9	32.2	100.0	2,086
教員 中学校	国語	28.6	35.1	36.4	100.0	77
	理科	17.3	30.9	51.9	100.0	81
	数学	65.4	8.1	26.5	100.0	393
	英語	49.6	7.5	42.9	100.0	252

表12 少人数学習集団は、どの程度永続的か

		1年間、 固定	1つの学期の間、 固定	1つの単元の間、 固定	随時にメンバーの 異動あり	計	人数
校長	小学校	13.8	8.3	49.7	28.1	100.0	398
	中学校	34.3	23.4	27.6	14.6	100.0	239
		1年間は不変	学期中は不変	単元毎に編成を変えた			
教員 小学校	国語	19.1	14.8	66.1		100.0	
	理科	14.3	5.7	80.0		100.0	
	算数	6.9	14.2	78.9		100.0	
教員 中学校	国語	35.8	30.9	33.3		100.0	
	理科	43.8	16.3	40.0		100.0	
	数学	26.6	32.9	40.5		100.0	
	英語	38.6	44.2	17.3		100.0	

表13 TTと少人数学習の担当教員確保の方法(%)

	TT		少人数学習	
	小	中	小	中
1.教諭(常勤講師)が配置されている	49.0	59.9	79.1	81.7
2.非常勤の教員が配置されている	19.6	15.2	10.2	8.5
3.教員は特に配置されていない	31.4	24.9	10.7	9.8
N	506	237	402	246

占め、テーマ別編制が3割となっている。このように、少人数学習の編制原理は、校種と教科によって異なっている。

(5) 少人数学習集団の継続期間

表12に示すとおり、小学校では「ひとつの単元の間、固定している」(49.7%)、「随時、メンバーの異動がある」(28.1%)と、比較的短期間にメンバーが移動する学校が多い。これに対し、中学校では「1年間固定している」(34.3%)、「1つの学期の間固定している」(23.4%)を合わせて3分の2を越えており、比較的長期間固定する傾向が強い。

このことを、教員調査の結果から詳細に検討しよう。まず小学校では、国語、理科、算数のいずれにおいても、「単元ごとに編成を変えた」という回答が3分の2を超えており、比較的短期間の編成であった。一方、中学校では教科によるバラツキが目立つ。まず、国語では長期間の編成、短期間の編成がいずれも3割程度であった。理科では「1年間は不変」「単元ごとに編成を変えた」と、長期間の編成、短期間の編成に分かれ、それぞれ4割程度であった。数学は「単元ごとに編成

表14 TTと少人数学習の実施率比較(教員)

	小学校		中学校	
	TT	少人数	TT	少人数
国語	10.3	12.9	8.5	4.2
社会科	1.5	1.6	1.5	3.7
算数	48.7	51.7	48.6	29.1
理科	4.8	5.6	6.1	17.0
生活科	4.1	3.9	—	—
英語	—	—	6.1	40.3
体育	7.0	6.6	6.5	8.1
総合的学習	6.9	6.1	7.3	3.9
その他	3.4	2.6	3.6	6.4

を変えた」が最も多く約4割であった。英語は「1年間は不変」「学期中は不変」と、比較的その継続期間は長いようである。

6. TTと少人数学習：その実施方法と比較

(1) TTと少人数学習に係る教員確保の方法

表13より、おおよそ半数以上の学校で、TTを担当する「教諭(常勤講師)が配置されている」(小学校：49.0%、中学校：59.9%)。また、小学校では19.6%、中学校では15.2%の学校で非常勤講師が配置されている。これらを合わせると小学

表15 TT・少人数学習・一斉授業の組み合わせ

		少人数学習をTTと 組み合わせている	少人数学習を一斉学習と 組み合わせている	少人数学習だけを 実施している	計	N
校長	小学校	51.1	23.6	25.3	100.0	399
	中学校	37.8	14.3	47.9	100.0	238
教員 小学校	国語	47.8	26.8	25.4	100.0	228
	理科	47.1	41.2	11.8	100.0	34
	算数	50.3	22.1	27.6	100.0	2,075
教員 中学校	国語	21.5	32.9	45.6	100.0	79
	理科	45.0	13.8	41.3	100.0	80
	数学	34.4	20.3	45.2	100.0	389
	英語	37.8	21.5	40.6	100.0	251

校では68.6%，中学校では75.1%の学校がTTの実施に係って何らかの教員が配置されていることになる。逆に言えば小学校の場合，特別な教員配置の無いままにTTを実施している学校が31.4%にのぼるということである。

一方，少人数学習の実施にあたっては，TTよりも担当教員の配置が優遇されている。小学校，中学校とも，約8割の学校で「少人数学習を担当するための教諭（または常勤講師）が配置されている」と回答している。「非常勤の教員が配置されている」と合わせると，9割の学校で何らかの教員の措置がなされていることになる。

(2) TTと少人数学習の実施状況の教科別比較

表14には教員調査の結果をもとにTTと少人数学習の実施状況を，校種別，教科別に示している。これによると，まず小学校の算数では，TTも少人数学習のいずれも実施率が高く，約半数の学校が「実施している」と回答している。また国語の場合，少人数学習の実施率がやや高い。

一方，中学校では，数学でのTT実施率が48.6%と高い。これに対して英語は少人数学習の実施率が高く40.3%に及ぶ。理科もまた少人数学習の実施率が高いが17.0%であった。

(3) TT・少人数学習・一斉授業の組み合わせ

表15では，TT，少人数学習，一斉授業という形式がどのように組み合わせられているのかを検討した。まず，小学校では「少人数学習をTTと組み合わせて実施している」（51.1%）傾向が強い。のに対して，中学校では「少人数学習だけを実施

している」（47.9%）傾向が強い。

このことを，教員について，教科別に検討してみよう。小学校の場合，国語，算数については「少人数学習とTTとを組み合わせる」パターンが約半数を占める。これに対して理科の場合，「少人数学習とTTを組み合わせる」「少人数学習を一斉指導と組み合わせて実施している」の方法に分かれ，それぞれ47.1%，41.2%であった。

一方，中学校の場合，国語，理科，数学，英語のいずれにおいても，約4割程度が「少人数学習だけを実施している」と回答している。そうでない者については，理科，数学，英語については「少人数学習とTTを組み合わせる」方法が，国語については「少人数学習を一斉指導と組み合わせる」傾向が強い。

表16 「少人数学習はTTと組み合わせると効果的である」（「そう思う」の%）

	小学校	中学校
国語	64.5	46.9
理科	74.3	59.0
算数・数学	62.0	53.8
英語	—	54.5

表16は「少人数学習はTTと組み合わせると効果的である」という質問に対する担当教員の回答を教科別に示したものである。これによると，小学校では6割から7割の者が「組合せは効果的」と考えるのに対し，中学校では約50%に止まっている。

7. TTと少人数学習に対する評価

表17はTTと少人数学習に対する校長の評価を、表18は教員の評価を示している。数値はいずれも「そう思う」と答えた者の比率である。以下ではTTと少人数学習の効果を4つの観点から検討する。

(1) 教師の学習指導に及ぼす効果

校長と教員の評価を総合すると、学習指導に及ぼす効果については、TTよりも少人数学習を高く評価していた。表17に不等号で示したとおり、校長は学習指導に関する4つの項目中2つ（「習熟度が高い児童生徒に対する発展的な指導」「多様な関心や興味に応じた指導」）で、TTよりも少人数学習を高く評価している。なお、TTの方を高く評価した項目は皆無であった。

一方、教員（表18）も、4項目中3つの項目で少人数学習を高く評価していた。ただし、「習熟の程度が低い児童生徒に対して、分かるまで指導ができた」については、わずかにTTの方に評価が高い（小学校国語、小学校算数、中学校数学）。ただ、中学校英語ではTTよりも少人数学習に評価が高く、習熟の程度が低い児童生徒に対する指導上の効果については甲乙つけがたいと言えよう。

(2) 児童生徒の成果に及ぼす効果

校長、教員とも、「成果」に関する2項目でTTよりも少人数学習を肯定的に評価していた。すなわち、少人数学習の方が児童生徒の学力向上と学習意欲の向上に効果があったと指摘している。なお、生徒指導上の成果については、TTを教員が肯定的に評価している。

(3) 教員間の協同・連携に及ぼす効果

「教員間の協力が得られた」については、校長、教員ともTTを高く評価していた。教員調査では少人数学習の方が「教員間での事前の調整が大変であった」「教員間の協力・連携が難しかった」と回答する者が多くみられた（小学校国語、算数、数学）。このように少人数学習に困難を感じる理由として、TTは1993年に始まり、経験も蓄積も豊富であるのに対し、少人数学習は2001年度から始まった新しい指導方法であるからかも知れない。

しかし、別の要因も考慮する必要がある。少人数学習の指導は、異なった教員が別々の教室で授業を行うため、担当教員間での事前の協議が重要なウェイトを占める。TTが1つの指導案について2人の教員間の打ち合わせとなり、同じ教室で展開されるのに対し、少人数学習は異なった教室での複数の指導案作成について、教員間のより一

表17 TTと少人数学習に対する校長の評価（「そう思う」の％）

		TT		差	少人数学習			
		小	中		小	中		
学習指導	児童生徒の多様な学力水準に応じた指導ができた	70.9	68.6		76.2	71.5		
	習熟の程度が高い児童生徒に対して、発展的な指導ができた	27.2	26.2	<<	48.6	57.2		
	習熟の程度が低い児童生徒に対して、分かるまで指導ができた	77.4	65.5	**	77.6	70.5	*	
	児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた	44.8	45.1	<	53.9	53.3		
成果	児童生徒の学力が向上した	66.8	52.1	**	<<	78.6	67.2	**
	児童生徒の学習意欲が向上した	78.0	73.8	<	83.1	81.1		
	生徒指導上の成果が得られた	52.4	56.8		50.7	59.5	**	
協同・連携	相手の教員のおかげで効果的な授業をすることができた	66.4	66.4					
	教員間の協力が得られた	75.0	69.5	>	72.2	60.2	**	
	相手の教員から学ぶことが多かった	62.9	61.3					
	教員間での事前の調整が大変であった	52.7	48.3		57.1	49.0		
	教員間の協力・連携が難しかった	27.1	27.0		30.5	28.1		
総括的評価	TT（少人数学習）は実施するに値すると思う	86.4	82.7	<	93.4	92.7		
	TT（少人数学習）は労力の割には効果が少ない	6.0	9.4	**	>	5.2	2.1	
	指導上の工夫次第では、TT（少人数学習）はもっと良くなると思う	91.9	87.7		92.4	91.8		
	TT（少人数学習）を本格的に実施するには教員数が少なすぎる	85.5	82.5		88.9	88.5		

表18 TTと少人数学習に対する教員の評価（「そう思う」の％）

小 学 校		国語		算数			
		TT	少人数	TT	少人数		
学習指導	多様な学力水準の児童生徒に応じた指導ができた	68.1	74.5	61.3	< 72.7		
	習熟の程度が高い児童生徒に対して発展的な指導ができた	23.9	< 51.1	23.7	< 51.6		
	習熟の程度が低い児童生徒に対して分かるまで指導ができた	79.7	74.4	73.7	71.3		
	児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた	37.3	< 55.2	27.4	< 36.2		
成果	児童生徒の学力が向上した	62.4	69.1	59.5	67.7		
	児童生徒の学習意欲が向上した	64.1	75.5	61.5	< 76.3		
	生徒指導上の成果が得られた	54.8	> 44.0	42.6	> 34.2		
協同	教師間の協力が増えた	78.8	> 67.8	71.9	65.6		
	教員間での事前の調整が大変であった	43.0	< 58.4	44.6	58.3		
	教師間の協力・連携が難しかった	30.5	35.6	31.5	35.5		
総括	TT（少人数学習）は実施するに値すると思う	74.6	77.8	71.6	76.6		
	TT（少人数学習）は労力の割には効果が少ない	7.6	5.2	10.0	8.5		
	指導の工夫次第ではTT（少人数学習）はもっとよくなる	85.4	85.0	82.6	83.3		
中 学 校		国語		数学		英語	
		TT	少人数	TT	少人数	TT	少人数
学習指導	多様な学力水準の児童生徒に応じた指導ができた	62.9	65.9	48.4	< 72.4	43.7	< 62.6
	習熟の程度が高い児童生徒に対して発展的な指導ができた	32.6	37.8	18.1	< 54.7	31.5	< 55.6
	習熟の程度が低い児童生徒に対して分かるまで指導ができた	67.4	> 57.3	58.7	57.7	38.9	47.7
	児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた	47.2	53.7	19.4	< 35.9	40.9	40.5
成果	児童生徒の学力が向上した	43.8	41.5	38.6	< 61.5	31.2	< 55.1
	児童生徒の学習意欲が向上した	66.3	68.3	42.5	< 70.2	58.1	70.2
	生徒指導上の成果が得られた	67.4	> 54.9	51.6	44.9	44.8	48.1
協同	教師間の協力が増えた	71.9	> 45.1	65.0	> 53.3	70.6	> 48.4
	教員間での事前の調整が大変であった	56.2	52.4	36.7	< 50.3	56.6	50.4
	教師間の協力・連携が難しかった	29.5	< 41.5	31.3	33.6	43.0	35.4
総括	TT（少人数学習）は実施するに値すると思う	67.4	72.0	60.0	< 82.3	69.3	< 81.0
	TT（少人数学習）は労力の割には効果が少ない	17.0	14.6	14.7	> 10.4	15.4	> 9.3
	指導の工夫次第ではTT（少人数学習）はもっとよくなる	81.8	76.8	74.8	85.9	83.7	93.0

層緊密な協同と連携が必要とされる。

りも少人数学習の方が評価が高い。

(4) 総括的評価

少人数学習は教員間の事前の調整に困難を伴うが、総括的にはTTよりも高く評価されている。「少人数指導は実施するに値すると思う」校長は小学校、中学校ともに9割を越え、小学校では7％、中学校では10％もTTより高く評価されていた。また「労力の割には効果が少ないと思う」という否定的な意見もTTより少なかった。

また教員調査の結果から、特に中学校で少人数学習はTTよりも高く評価されていた。「TTは実施するに値すると思う」「少人数学習は実施するに値すると思う」という問いに対する回答を比較すると、数学では22.3％、英語では12.7％もTTよ

8. 総括と課題

少人数指導、TTのいずれも、「本格的に実施するには教員数が少なすぎる」という「現実」がある。本調査結果から見る限り、予算という制約の中で、今後の加配措置の方向として「TTよりも少人数学習」というインプリケーションが得られたと言えよう。

なお、今後の課題として、下記の4点を挙げることができる。

- 1) 少人数学習の集団編制：習熟度別・課題別・等質編制の効果
- 2) 教科による違い、学校・学級規模との関連、学級内集団との関連

- 3) 「児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導」にふさわしい授業とはどのような授業なのか。
- 4) 「指導の工夫次第では、TT, 少人数学習はもっとよくなる」とすれば、どのような工夫なのか。これらの点を踏まえた児童生徒からみた学習効果を検証する調査研究が、今後、実施される必要がある。

参考文献

- 岡田典子・山崎博敏・田中春彦, 2000, 「戦後における小中学校の学級規模の縮小—教職員配置改善計画の政策効果分析」『広島大学教育学部紀要』第三部, 第49号, 39-48頁。
- Gene V. Glass, L.S. Cahen, Mary L. Smith and Nikola N. Filby, 1982, *School Class Size : Research and Policy*, Sage Publications.

第2章 児童生徒からみた優れたチーム・ティーチングと少人数学習

高旗浩志・藤井宣彰・山崎博敏・須田康之・西本裕輝・水野 考

I. 研究の背景と目的

1959年度以来の数次の教職員配置改善計画政策と義務教育標準法によって公立義務教育諸学校の学級規模は縮小し、1990年代初頭にほぼ40人学級が実現した。その後、学級規模縮小は断念され、「指導方法の工夫など個に応じた教育の展開」という角度から定数改善が図られた。第6次計画（1993-2000年度）ではチーム・ティーチング（以後TTと略称）が導入され、第7次計画（2001-2005年度）では、基本3教科（小学校では国語・算数・理科、中学校では英語・数学・理科）での少人数学習が導入された。

伝統的な授業方法は、HRを基礎にした一人の教員による一斉授業であるが、近年、教授方法や学級教授組織が多様化しつつある。

TTは、HR内での複数（通常2人）の教員による教授である。下の図に示すように、教員の組み合わせには様々なものがある。

少人数学習指導は、HRを必ずしも前提とせず、場合によっては、HRを解体し、HRとは異なった習熟度別、テーマ別あるいは能力混成の学習集団を編成し、個に応じた指導方法を実施する。少人数学習集団の編成方法には、HRを解体する/しない、等質集団/習熟度別集団/テーマ・課題別集団などの方法があり、少人数学習指導を行う追加的教員にも常勤/非常勤などの選択肢がある。

はたして、このような新しい授業方法は、どのような教育上の効果があるのだろうか。また、伝統的一斉学習指導や、HR自体を小規模化するのに比べてどのようなメリットがあるのだろうか。

われわれは、このような問題意識のもとに、2004年末に全国の小中学校の校長と教員に対する「学級規模と少人数教育に関する調査」をおこない、さらに2005年末から2006年3月までに「少人数学習・TTと家庭での学習についての児童生徒調査」（以後「児童生徒調査」と略称）を実施した。

本稿では、この児童生徒調査のデータを用いて少人数学習とTTに対する児童生徒の受け止め方を分析し、最終的には少人数学習とTTの優れた教授方法を考察したい。

チーム・ティーチング	少人数学習		ホームルームの規模縮小	
教師2人 児童生徒40人 ○(主) ○(主又は補助又は個別指導)	教師1人 児童生徒20人 ○(担任)	教師1人 児童生徒20人 ○(専任・専科 又は非常勤)	教師1人 児童生徒20人 ○(担任)	教師1人 児童生徒20人 ○(担任)

少人数学習集団編成の方法

- (1) HRを解体か分割か
- (2) 等質集団/習熟度別集団/テーマ別 等

II. 児童生徒調査の概要

2005年11月末に4つの道県の教育委員会と学校の協力を得て公立の小学校58校と中学校29校で質問紙を配布し、2006年3月下旬までに回収した。対象者の属性は表1の通りである。

表1 調査対象校と回答者の属性

			小学校(5年)		中学校(2年)	
			実数(人)	比率(%)	実数(人)	比率(%)
学校数			58	100.0	29	100.0
児童生徒	県別	北海道	268	16.1	379	22.0
		島根	154	9.3	65	3.8
		広島	884	53.1	800	46.5
		沖縄	358	21.5	476	27.7
	性別	男	828	51.0	855	50.6
		女	795	49.0	834	49.4
	学級規模	7人以下	39	2.3	0	0.0
		8-12人	50	3.0	0	0.0
		13-20人	208	12.5	66	3.8
		21-25人	263	15.8	138	8.0
		26-30人	431	25.9	79	4.6
		31-35人	352	21.2	849	49.4
		36-40人	321	19.3	588	34.2
	小計			1,664	100.0	1,720

III. TTと少人数学習の実施状況

表2からTTの授業を受けたことのある児童生徒は、小学校で4分の3程度、中学校では90%近い。一方、少人数学習指導は、小学校児童の半数以上、中学校では80%以上にもなっている。

教科別にみると、TTは小学校、中学校とも算数・数学でよく採用され、小学校では英語、体育、中学校では英語、国語、理科が多い。これに対して、少人数学習指導は、小学校では算数が圧倒的に多く、国語、理科の順、中学校でも数学が最も多く、英語、国語の順となっている。なお、中学校では、第7次計画で実施教科となっている理科での採用は少ない。

表2 TTと少人数学習の経験：教科別

		人数				%			
		TT		少人数学習		TT		少人数学習	
		小	中	小	中	小	中	小	中
今年、受けた		1,209	1,478	766	1,314	74.3	88.6	54.5	82.7
教科 (受けた者について。複数回答)	国語	80	177	111	235	6.6	12.0	14.5	17.9
	社会	12	133	-	-	1.0	9.0	-	-
	算数/数学	855	847	721	1,070	70.7	57.3	94.1	81.4
	理科	43	199	65	69	3.6	13.5	8.5	5.3
	英語	479	1,147	9	724	39.6	77.6	1.2	55.1
	保健体育	369	166	-	-	30.5	11.2	-	-
	その他	-	-	45	363	-	-	5.5	27.6

表3は、都道府県別及び学級規模別にTTと少人数学習の実施状況を見たものである。これによると、小学校、中学校とも、TTも少人数学習も、小規模学級ではあまり行われていない。詳細を見ると、TTは13人以上の学級で、少人数学習指導は21人以上の学級でよく実施されていることが判る。

表3 TTと少人数学習の経験：都道府県別、学級規模別

		TT		少人数学習	
		小学校	中学校	小学校	中学校
都道府県	北海道	89.1	94.7	11.2	59.0
	島根県	94.2	67.7	98.0	42.9
	広島県	77.1	89.3	42.5	90.4
	沖縄県	46.3	85.1	97.1	93.0
学級規模	12人以下	37.9	---	0.0	---
	13-20人	51.2	87.7	9.0	34.4
	21-25人	96.9	96.4	70.4	93.1
	26-30人	83.8	96.1	72.8	98.7
	31-35人	71.7	92.2	46.8	78.5
	36人以上	70.4	80.1	69.8	90.3

1. TTの実施状況

以降の分析では、TT及び少人数学習の授業を受けたことのある児童生徒の集計結果を示す。表4から、小学校では、TTは、「主+個別指導」、すなわち1人の教師が主に授業をリードし、一人が机間を回りながら児童生徒に個別指導をするタイプが最も多く、全体の半数以上を占めている。中学校では「主+補助」すなわち、1人の教師が主に授業をリードし、一人がその補助を行うタイプが最も多い。なお小学校・中学校ともに「主+主」のケースは少なかった

表4 TTの指導の類型：学校種別

		人数		%	
		小学校	中学校	小学校	中学校
主+主	1.二人の先生が交代で授業を進めている	73	167	6.7	12.7
主+補助	2.一人が授業をすすめ、もう一人はその手伝いをしている	427	604	39.4	46.1
主+個別指導	3.一人が授業をすすめ、もう一人は子どもに教えている	584	540	53.9	41.2
計		1,084	1,311	100.0	100.0

表5A TTの指導の類型：小学校教科別（%）

		国語	算数	理科	英語	体育
主+主	二人の先生が交代で授業を進めている	2.8	5.9	21.2	7.8	6.2
主+補助	一人が授業をすすめ、もう一人はその手伝い	46.5	27.4	18.2	49.6	44.8
主+個別	一人が授業をすすめ、もう一人は子どもに教えている	50.7	66.7	60.6	42.6	49.0
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表5Aは小学校のみに注目し、TT指導の類型を教科別にみたものである。これによると、英語を除く4教科（国語、算数、理科、体育）では「一人が授業を進め、もう一人は子ど

もに教えている」ケースが半数以上を占め、なかでも算数と理科では6割を越えている。教科別には、国語、算数・数学、理科では、「主+個別指導」が多く、英語と体育では「主+補助」が多い。

表5B TTの指導の類型：中学校教科別（％）

		国語	数学	理科	英語	体育
主+主	二人の先生が交代で授業を進めている	8.7	8.9	5.5	14.5	12.7
主+補助	一人が授業をすすめ、もう一人はその手伝い	38.5	37.1	42.5	51.7	64.0
主+個別	一人が授業をすすめ、もう一人は子どもに教えている	52.8	54.0	51.9	33.8	23.3
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表5Bは中学校に注目し、先と同様にTT指導の類型を教科別にみたものである。これによると、国語、数学、理科では、「一人が授業を進め、もう一人は子どもに教えている」ケースが全体の半数以上を占めるのに対して、英語、体育では「一人が授業を進め、もう一人はその手伝いをしている」ケースが半数を占めている。

2. 少人数学習指導の実施状況

表6 小人数学習指導の類型

		実数（人）		比率（％）	
		小学校	中学校	小学校	中学校
1. 学級からグループへの分かれ方					
	いつものクラスが2つのグループに分かれた	675	1,054	88.1	77.9
	他のクラスの人と混じったグループに分かれた	99	299	12.9	22.1
2. グループに分かれた期間					
	1年間ずっと	177	546	23.1	39.5
	学期の間だけ	89	443	11.6	32.0
	一つの単元だけ	513	395	67.0	28.5
3. グループへの分かれ方の原理					
	めいぼ順に分かれた（またはくじ引き）	135	259	20.9	24.3
	勉強の難しさによって、分かれた（基礎・発展など）	432	632	67.0	59.3
	勉強する内容によって、分かれた（興味あるテーマ）	78	175	12.1	16.4
4. グループの決め方					
	自分の考えで決めた	258	496	37.1	40.0
	先生と相談をして決めた	78	60	11.2	4.8
	先生から言われた	359	683	51.7	55.1

表6は少人数学習指導の実際を詳細にみるため、1. 学級からグループへの分かれ方、2. グループに分かれた期間、3. グループへの分かれ方の原理、4. グループの決め方について検討したものである。まず、「1. 学級からグループへの分かれ方」についてみてみよう。「いつものクラスが2つのグループに分かれた」とは、所属する学級を分割して行う「学級分割型」であり、また「他のクラスの人と混じったグループに分かれた」は、所属学級を解体する「学級解体型」である。小学校、中学校とも、全体としては「学級分割型」が多いが、中学校の方がやや「学級解体型」が多いようである。

次に「グループに分かれた期間」をみてみよう。小学校では単元ごとにグループ分けがなされる傾向が強く、比較的短期間の編成を繰り返していることが分かる。これに対して、中学校では、年間を通して、あるいは学期中といった、比較的長期間の編成であった。

さらに「3. グループの分かれ方の原理」を検討したところ、小学校・中学校ともに「勉強の難しさによって分かれた」と答える者が6割前後であった。すなわち、習熟度による編成である。なお、「4. グループの決め方」については、小学校、中学校ともに「先生から言われた」と答えるケースが半数以上を占めている。

それでは、以下、表7から表10にかけて、これまでに述べた少人数学習の指導類型が教科（国語、算数・数学、理科、英語）によってどのように異なるかを検討しよう。

表7 学級から少人数学習集団への分かれ方：教科別（％）

		国語	算数・ 数学	理科	英語	
小学校	1	いつものクラスが2つのグループに分かれた	91.0	89.0	92.3	88.9
	2	他のクラスの人と混じったグループに分かれた	8.1	11.4	9.2	11.1
中学校	1	いつものクラスが2つのグループに分かれた	94.4	98.6	93.9	97.9
	2	他のクラスの人と混じったグループに分かれた	25.6	38.9	77.8	23.0

（注：計が100%にならないのは、無回答や重複回答のため。以下同様）

まず表7から、小学校では、いずれの教科についても「いつものクラスが2つのグループに分かれた」という「学級分割型」の編成が圧倒的に多く、ほぼ9割前後の者が回答している。これに対して中学校では、小学校と同様に学級分割型の編成が圧倒的多数を占めている。しかしその一方で、「他のクラスの人と混じったグループ」、すなわち学級解体型の編成も、小学校に比べ、比較的多くみられる。なかでも理科では77.8%の者が、「学級解体型」の編成で授業を受けている。

表8 少人数学習集団の継続期間：教科別（％）

		国語	算数・ 数学	理科	英語	
小学校	1	1年間ずっと	67.6	24.1	36.9	22.2
	2	学期の間だけ	7.2	11.7	9.2	33.3
	3	一つの单元だけ	23.4	66.4	49.2	44.4
中学校	1	1年間ずっと	50.3	69.3	92.7	62.2
	2	学期の間だけ	56.3	64.4	73.9	57.7
	3	一つの单元だけ	37.5	59.1	75.0	36.9

表8は少人数学習集団の継続期間を示している。ここには教科によるばらつきが見られる。小学校の場合、国語は年間を通した編成、算数は单元ごとの編成が主流であった。その一方で、理科と英語は「1年間ずっと」と「一つの单元だけ」に回答がばらつく傾向がみられた。

これに対して、中学校は大きく傾向が異なっている。まず国語では「1年間ずっと」「学期の間だけ」というケースが全体の半数以上を占めている。数学では、年間、学期、单元ごとのいずれの編成方法も比率が高く、全体の6割前後となっている。理科では、他の教科に比べ、特異な傾向がみられた。年間を通した編成が9割を越えているのと同時に、学期中、单元ごとといった編成も7割以上に及ぶ。英語は、年間もしくは学期中という、比較的長期に及ぶ編成が多いようである。

表9 少人数学習集団への分かれ方の原理：教科別（％）

		国語	算数・ 数学	理科	英語	
小学校	1	めいぼ順に分かれた（またはくじ引き）	71.8	20.9	42.4	33.3
	2	勉強の難しさによって、分かれた（基礎・発展など）	5.8	70.4	3.4	16.7
	3	勉強する内容によって、分かれた（興味あるテーマ）	22.3	8.7	54.2	50.0
中学校	1	めいぼ順に分かれた（またはくじ引き）	14.0	25.9	46.7	19.6
	2	勉強の難しさによって、分かれた（基礎・発展など）	65.5	63.2	8.3	72.7
	3	勉強する内容によって、分かれた（興味あるテーマ）	20.5	10.9	45.0	7.7

少人数学習集団の分かれ方の原理は、小学校の場合、教科による差がみられた。まず国語では、約7割が「名簿順、またはくじ引き」、算数では「勉強の難しさ」によって分かれており、理科と英語では約半数が「勉強する内容（興味あるテーマ）」で分かれていた。

いっぽう、中学校では、国語、数学、理科において「勉強の難しさ」で分かれるケースが多く、全体の約6割から7割を占めている。これに対して理科では「名簿順」「勉強の内容」に基づく編成にばらつく傾向がみられ、それぞれ4割強であった。

表10 少人数学習集団の決め方：教科別（％）

		国語	算数・ 数学	理科	英語	
小学校	1	自分の考えで決めた	14.0	36.2	37.1	11.1
	2	先生と相談をして決めた	6.5	10.9	12.9	44.4
	3	先生から言われた	79.4	52.9	50.0	44.4
中学校	1	自分の考えで決めた	64.4	34.6	44.4	43.7
	2	先生と相談をして決めた	6.7	5.0	7.9	4.5
	3	先生から言われた	28.8	60.4	47.6	51.7

それでは、少人数学習のグループはどのようにして決まるのだろうか。小学校の場合、教科によるばらつきが見られるが、概ね「先生から言われ」てグループが決まる傾向が多い。たとえば国語では約8割、算数と理科では約半数の者が「先生から言われた」と回答している。

いっぽう、中学校では、特に数学、理科、英語において「先生から言われ」る場合と「自分の考えで決め」る場合とに二極化する傾向がみられる。

IV. TT と少人数学習に対する児童生徒の受け止めの比較

1. TT と少人数学習の比較

児童生徒は、TT と少人数学習に対して、それぞれどのような印象を抱き、また評価しているのだろうか。表11～表13はこのことを検討したものである。

まずTTと少人数学習に対する児童生徒の評価を校種ごとに検討してみよう。表11の共通項目の「その授業は好きである」から「授業に集中しやすい」までに注目し、それぞれの数値を小学校、中学校ごとに比較した。全体として、児童・生徒とも、半数以上の者がTT、少人数学習のいずれについても、肯定的に評価していることが分かる。

しかし、TT と少人数学習を比較してみると、TT よりも少人数学習を肯定的に評価していること

が分かる。小学校と中学校を比較すると、中学校の方が少人数学習を肯定的に評価している。「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計%を比較すると、中学校では、「その授業が好きである」について数字を見ると、TTは64.5%であるのに対して、少人数学習では80.1%となっており、TTよりも少人数学習が15ポイント以上も高い。同様に、「その授業は楽しい」については、中学校のTTは55.1%に対して、少人数学習は71.9%と高くなっている。

同様に、TTよりも少人数学習が10ポイント以上高くなっている項目は、「授業の内容がよくわかる」「質問がしやすい」「自分の興味関心にそった勉強ができる」「いつもより難しい内容の勉強ができる」「授業に集中しやすい」となっている。

小学校の場合、TTよりも少人数学習の方を10ポイント以上肯定的に評価している項目は、「質問がしやすい」と「授業に集中しやすい」の2つがある。逆に「いつもの担任の先生でない」と話が通じにくい」「授業中のんびりできない」といった否定的な評価に係る項目については、TTの方が高くなっている。

表 11 TT と少人数学習の受け止め：「よく」+「すこし」の合計%

		TT		少人数学習	
		小学校	中学校	小学校	中学校
共通	その授業は好きである	73.0	64.5	79.0	80.1
	その授業は楽しい	68.8	55.1	71.4	71.9
	授業の内容がいつもよりよくわかる	74.9	59.9	79.2	77.0
	質問がしやすい	56.5	61.6	69.7	71.6
	わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	71.5	68.9	72.3	70.3
	自分の興味や関心にそった勉強ができる	56.0	41.3	65.7	55.8
	いつもより難しい内容の勉強ができる	54.9	35.0	61.3	48.1
	クラスのふんいきがよくなる	62.8	46.7	58.0	49.9
	授業に集中しやすい	61.2	51.0	74.4	72.3
	担任（いつも）の先生でない」と話が通じにくい	40.4	24.0	27.2	16.2
授業中、のんびりできない	46.4	43.1	38.6	32.7	
TT	先生が多いので、落ち着かない	28.0	29.6	---	---
少人数	いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	---	---	41.0	32.8
	授業の人数が少なすぎて、活気がない	---	---	26.0	23.6

表 12 は、小学校の国語と算数について、TT と少人数学習を比較した結果である。先の表 11 と同様、国語、算数とも、TT よりも少人数学習の方に肯定的な評価が多くみられた。なかでも、「質問がしやすい」「自分の興味や関心に沿った勉強ができる」「授業に集中しやすい」といった項目では、ほぼ 10 ポイントの差で少人数学習の方が高く評価されている。

逆に否定的な設問（「いつもの担任の先生でない」と話が通じにくい」「授業中のんびりできない」）については、TTの方が「よくあてはまる」「とてもあてはまる」と答える者の比率が高かった。

表 13 では中学生のみを取り上げ、国語、数学、理科、英語の4教科についてTTと少人数学習の受け止めを比較した。いずれの教科においても、少人数学習の方が肯定的に評価されている。「その授業は好きである」「その授業は楽しい」「授業の内容がいつもよりよくわかる」および「いつもより難しい内容の勉強ができる」「授業に集中しやすい」の5つの項目で、少人数学習の方が10ポイント以上も高く肯定的に評価されている。

表 12 TT と少人数学習の受け止め（小学校教科別）：「よく」+「すこし」の合計%

	国語		算数	
	TT	少人数	TT	少人数
その授業は好きである	68.8	69.4	73.7	79.7
その授業は楽しい	63.8	66.7	69.4	72.1
授業の内容がいつもよりよくわかる	66.3	70.4	76.3	80.4
質問がしやすい	43.8	61.8	57.8	70.0
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	58.8	70.9	72.4	71.9
自分の興味や関心にそった勉強ができる	47.5	64.5	55.7	65.6
いつもより難しい内容の勉強ができる	51.3	60.9	56.9	62.0
クラスのふんいきがよくなる	65.0	59.5	61.4	58.5
授業に集中しやすい	51.3	67.0	62.1	75.0
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	48.1	41.3	38.0	27.1
授業中、のんびりできない	54.4	37.6	48.4	39.3
先生が多いので、落ち着かない	29.1	---	27.9	---
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	---	39.4	---	42.5
授業の人数が少なすぎて、活気がない	---	30.9	---	26.0

表 13 TT と少人数学習の受け止め（中学校教科別）：「よく」+「すこし」あてはまるの合計%

	国語		数学		理科		英語	
	TT	少人数	TT	少人数	TT	少人数	TT	少人数
その授業は好きである	68.4	81.3	65.1	80.4	60.3	76.8	66.1	80.7
その授業は楽しい	56.5	73.2	53.0	72.6	48.7	75.4	57.6	70.7
授業の内容がいつもよりよくわかる	61.6	74.7	62.6	79.1	55.1	86.8	59.9	77.4
質問がしやすい	70.1	71.5	66.2	73.5	61.1	72.5	62.0	71.7
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	70.6	65.4	71.3	71.7	68.3	84.1	68.2	69.8
自分の興味や関心にそった勉強ができる	41.5	52.3	40.6	55.8	42.7	69.6	42.4	51.8
いつもより難しい内容の勉強ができる	32.8	42.6	34.2	48.6	37.9	58.0	34.9	45.8
クラスのふんいきがよくなる	42.9	45.3	41.5	50.5	37.7	52.9	48.9	49.6
授業に集中しやすい	51.7	72.2	50.8	74.4	47.0	72.1	51.8	73.8
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	18.1	15.7	21.1	16.1	31.0	19.1	24.2	15.0
授業中、のんびりできない	49.2	38.7	43.8	33.5	47.4	30.9	41.9	32.6
先生が多いので、落ち着かない	38.4	---	28.3	---	40.1	---	29.3	---
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	---	36.3	---	34.5	---	44.1	---	33.8
授業の人数が少なすぎて、活気がない	---	22.6	---	23.5	---	30.9	---	24.2

表 12 と 13 を比較すると、改めて、中学校における少人数学習の教育的効果が高いことが明らかである。なお、TT に対する評価が少人数学習のそれを上回っているのは、「授業中のんびりできない」の 1 項目くらいであった。

2. 少人数学習における集団編成の影響

少人数学習指導では、HR の集団から、どのようなタイプの少人数学習集団を編成するかという重要な問題が少なくとも 4 つある。第 1 に学級を解体する原理（「学級分割型」「学級解体型」）の違いである。1 学級 40 人までの学級集団を単純に 2 つの少人数学習集団に分割する、または 2 学級を 3 つの学習集団に分割し、HR を解体するという選択肢がある。前者では分割後も HR の集団構造が半ば維持され、少人数学習から一斉学習に戻る際にも HR の集団構造がすぐ回復する。後者の場合、各学級の児童生徒は、最大 3 つの少人数学習集団に所属し、一斉学習に戻る際には、3 つの少人数学習集団の出身者から HR が構成されることになる。後者の場合、HR と少人数学習集団の関係は複雑である。一斉学習と小

集団学習を学期中に併用して指導する場合、両者のスムーズな移行が難しいと思われる。

第2は編成された少人数学習集団の継続期間（「1年間」「1学期」「1単元」）の問題である。非常勤講師の手当の費用や教員配置の問題で、1学期間しか少人数による学習指導を行えない学校もある。あるいは試行中のため、1単元分しか実施できない学校もある。

第3の問題は、どのような原理で少人数学習集団を編成するか、等質の少人数学級集団とするか（等質集団）、発展・基礎コースなど習熟度別に編成するか（習熟度別編成）、あるいはテーマ別・課題別に編成するか（テーマ別編成）という選択肢がある。

第4の問題は、児童生徒を少人数学習集団へ配属するにあたって、生徒の希望により配属集団を決定するのか、教員が配属集団を指示するのか、あるいは児童生徒と教員が相談してきめるのか、という問題がある。

以下、この順に分析結果を示すが、表中の数値は、いずれも各設問に対して「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」と回答した者の比率を足しあわせたものである。

表14 少人数学習の受け止め（集団への分かれ方）別：「よく」+「すこし」の合計%

	小学校		中学校	
	学級分割	学級解体	学級分割	学級解体
その授業は好きである	78.9	79.8	80.2	81.2
その授業は楽しい	71.3	69.7	70.6	75.2
授業の内容がいつもよりよくわかる	78.6	80.8	76.8	77.4
質問がしやすい	68.6	73.7	72.9	67.7
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	71.7	78.8	70.3	71.5
自分の興味や関心にそった勉強ができる	65.6	70.7	53.8	63.8
いつもより難しい内容の勉強ができる	60.4	66.7	46.7	52.3
クラスのふんいきがよくなる	57.6	62.6	48.9	53.4
授業に集中しやすい	73.9	76.3	72.6	70.2
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	26.9	25.8	15.8	18.2
授業中、のんびりできない	38.5	37.1	32.8	30.4
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	42.0	27.8	33.6	26.8
授業の人数が少なすぎて、活気がない	25.5	25.5	24.5	19.2

表14では、1学級を2つのグループに分けた「学級分割型」と2学級3集団や3学級4集団などの「学級解体型」を比較したものである。数値を比較すると、小学生、中学生ともに大差のある項目は少ない。小学校の場合、10%以上の差がある項目は「いつものクラスの友達と勉強ができず残念だ」だけである。学級分割型で42.0%、学級解体型で27.8%となっている。中学生の場合、「自分の興味や関心にそった勉強ができる」という項目だけが、「学級解体型」の数字が高く、評価が高いことが判る。

なお表15は、算数・数学の授業だけに注目し、校種別に集団編成の違いによる効果を比較したものである。およそ表14と同様の結果である。このことから、全体として、「学級分割型」と「学級解体型」との間に顕著な違いは見られないと判断してよいと思われる。

それでは、少人数学習指導の継続期間は、児童生徒の受け止めとどのような関係にあるだろうか。表16はこのことを示している。小学生の場合、「1年間」もしくは「1学期間」と、比較的長期間のグループを経験した者ほど、少人数学習に対して肯定的な反応が見られた。10%以上の差がある項目は「その授業は好きである」であった。これに対して中学校では、10%以上の差がある項目はみられなかった。

表 15 少人数学習の受け止め（算数・数学のみ）（集団への分かれ方別）：「よく」+「すこし」の合計%

	小学校		中学校	
	学級分割	学級解体	学級分割	学級解体
その授業は好きである	79.7	82.9	79.9	83.4
その授業は楽しい	72.3	72.0	71.4	75.6
授業の内容がいつもよりよくわかる	79.8	85.4	78.3	80.4
質問がしやすい	69.2	74.4	73.7	71.6
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	71.6	76.8	71.2	75.2
自分の興味や関心にそった勉強ができる	65.6	68.3	54.5	62.0
いつもより難しい内容の勉強ができる	61.1	70.7	47.5	51.7
クラスのふんいきがよくなる	57.9	63.4	49.6	53.9
授業に集中しやすい	74.7	80.0	74.1	73.4
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	27.0	23.7	15.2	21.6
授業中、のんびりできない	39.1	37.5	33.0	33.2
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	43.4	30.9	34.8	29.4
授業の人数が少なすぎて、活気がない	25.5	28.0	24.2	19.0

先と同様に表 17 は算数・数学の授業のみに注目した結果である。これによると、小学校で「クラスの雰囲気よくなる」という項目だけが 10%の差で「1 年間」の評価が高い。これに対して、中学校では大差がないことが判る。このように、少人数学習指導の継続期間を校種別に検討したところ、小学校では比較的長期間にわたって実施することが効果的であるが、全体として大差はないと言えよう。

次に、「等質集団」「習熟度」「テーマ別」と言った、少人数学習集団編成原理の違いによる効果を検討しよう。表 18 は全体の、表 19 は算数・数学のみについて示したものである。いずれも、小学生の場合、「テーマ別」の集団を経験した者ほど、比較的肯定的な反応が多く見られた。しかしまた「いつもの先生でないと話が通じにくい」など否定的な反応もある。これに対して中学生では「習熟度別」編成と「テーマ別」編成にやや肯定的な反応が多く見られる。さらに、「等質」集団編成を経験している者は、他の集団編成よりも、「授業中のんびりできない」「いつものクラスの友達と勉強できず残念だ」など否定的な反応が見られる。

表 16 少人数学習の受け止め（集団の継続時間別）：「よく」+「すこし」の合計%

	小学校			中学校		
	1 年間	1 学期	1 単元	1 年間	1 学期	1 単元
その授業は好きである	75.7	86.2	79.7	80.6	77.9	81.5
その授業は楽しい	75.1	77.3	70.1	69.0	71.8	75.4
授業の内容がいつもよりよくわかる	81.6	81.6	78.8	76.4	76.6	78.9
質問がしやすい	68.2	67.8	70.3	69.8	72.9	70.9
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	76.6	69.8	71.1	70.3	68.9	71.2
自分の興味や関心にそった勉強ができる	65.1	68.2	64.7	53.1	52.1	60.3
いつもより難しい内容の勉強ができる	60.6	71.8	59.5	46.2	47.0	51.4
クラスのふんいきがよくなる	64.9	56.3	56.1	48.3	50.0	49.1
授業に集中しやすい	78.0	72.4	73.8	72.0	70.6	75.3
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	30.8	29.1	24.0	16.7	17.0	13.5
授業中、のんびりできない	35.5	40.0	39.1	33.6	31.6	29.9
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	48.0	41.4	39.3	33.8	32.0	32.1
授業の人数が少なすぎて、活気がない	24.6	32.2	24.8	24.9	23.1	21.9

表 17 少人数学習の受け止め（算数・数学）（集団の継続時間別）：「よく」+「すこし」合計%

	小学校			中学校		
	1年間	1学期	1単元	1年間	1学期	1単元
その授業は好きである	75.9	85.4	80.8	80.5	78.8	81.8
その授業は楽しい	75.3	77.1	71.1	70.5	72.7	75.4
授業の内容がいつもよりよくわかる	81.4	82.9	80.3	77.9	80.2	80.6
質問がしやすい	68.4	68.3	70.7	71.3	76.2	71.8
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	76.3	67.9	70.7	71.5	71.0	72.2
自分の興味や関心にそった勉強ができる	65.3	68.7	64.3	54.2	51.2	59.5
いつもより難しい内容の勉強ができる	60.7	73.8	60.1	47.7	45.6	52.8
クラスのふんいきがよくなる	64.9	54.9	56.8	49.3	50.1	49.7
授業に集中しやすい	78.0	73.2	74.8	73.7	74.1	76.4
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	30.4	29.6	24.0	16.8	16.6	13.2
授業中、のんびりできない	35.7	42.5	40.0	34.1	32.0	31.0
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	48.3	43.9	41.3	34.7	34.8	33.4
授業の人数が少なすぎて、活気がない	24.7	31.7	25.1	23.7	24.2	22.2

表 18 少人数学習の受け止め（少人数学習集団の編成原理別）：「よく」+「すこし」の合計%

	小学校			中学校		
	等質	習熟度別	テーマ別	等質	習熟度別	テーマ別
その授業は好きである	75.6	78.9	75.6	76.4	82.0	76.6
その授業は楽しい	74.8	70.4	63.6	68.7	72.0	76.0
授業の内容がいつもよりよくわかる	78.0	80.2	67.9	75.3	80.0	73.6
質問がしやすい	67.4	69.8	71.8	73.3	72.9	66.3
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	74.1	69.9	75.6	69.8	69.8	72.3
自分の興味や関心にそった勉強ができる	68.7	63.3	69.2	52.5	53.7	73.7
いつもより難しい内容の勉強ができる	58.5	58.6	66.7	42.6	51.0	49.7
クラスのふんいきがよくなる	63.2	56.4	63.6	46.3	51.0	52.9
授業に集中しやすい	76.2	71.8	73.1	71.0	73.5	68.0
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	34.8	24.2	40.3	17.0	16.7	12.6
授業中、のんびりできない	36.1	37.4	46.2	38.8	31.8	27.0
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	44.4	40.9	39.0	39.4	31.9	22.7
授業の人数が少なすぎて、活気がない	26.3	25.5	35.9	26.3	23.4	20.1

表 19 少人数学習の受け止め（算数・数学）（少人数学習集団の編成原理別）：「よく」+「すこし」の合計%

	小学校			中学校		
	等質	習熟度別	テーマ別	等質	習熟度別	テーマ別
その授業は好きである	75.6	78.9	83.0	76.8	81.9	73.1
その授業は楽しい	74.8	70.3	71.2	69.5	73.0	75.3
授業の内容がいつもよりよくわかる	78.2	80.0	77.4	79.1	80.3	76.3
質問がしやすい	67.7	69.7	75.5	75.8	73.1	69.9
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	74.0	69.6	77.4	70.8	70.2	79.1
自分の興味や関心にそった勉強ができる	70.6	63.1	66.0	53.2	54.7	74.2
いつもより難しい内容の勉強ができる	58.3	59.0	73.6	42.9	51.3	50.5
クラスのふんいきがよくなる	63.2	56.4	69.2	47.7	51.9	51.6
授業に集中しやすい	76.6	72.0	77.4	75.5	73.1	70.3
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	33.6	24.4	46.2	18.2	15.4	15.1
授業中、のんびりできない	37.3	37.5	50.9	39.3	31.6	30.1
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	45.7	41.1	50.0	41.4	32.3	25.0
授業の人数が少なすぎて、活気がない	25.2	25.8	39.6	25.5	22.8	21.5

最後に、小集団への配属が児童生徒の希望によるものか、教師の指示によるものか、あ

るいは両者の相談を経て決まるものかという違いに注目しよう。表 20 をみると、小学生は、「生徒の希望で配属」した集団を経験している者の方が、概ね肯定的な反応を示している。これに対して中学生は、「教師との相談による配属」による集団を経験している者の方が、概ね肯定的な反応を示している。これは、算数・数学のみに注目した表 21 でも同様の結果であった。

表 20 少人数学習の受け止め（集団への配属方法別）：「よく」+「すこし」の合計%

	小学校			中学校		
	生徒希望	相談	教師指示	生徒希望	相談	教師指示
その授業は好きである	80.5	74.4	77.4	81.7	81.7	77.6
その授業は楽しい	66.5	69.2	74.1	71.4	76.7	71.2
授業の内容がいつもよりよくわかる	81.3	71.4	78.9	77.7	80.0	76.1
質問がしやすい	73.0	66.7	67.7	71.3	63.3	72.4
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	75.1	69.2	70.0	70.2	64.4	70.5
自分の興味や関心にそった勉強ができる	66.8	62.8	65.8	57.7	51.7	55.1
いつもより難しい内容の勉強ができる	68.0	55.8	56.7	48.0	58.3	47.9
クラスのふんいきがよくなる	56.4	52.6	60.1	48.9	62.7	49.4
授業に集中しやすい	83.7	61.8	69.3	69.0	79.7	73.7
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	23.9	35.5	28.2	14.5	26.7	17.0
授業中、のんびりできない	36.0	45.3	39.6	32.1	36.7	33.1
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	40.0	44.9	42.0	26.3	35.0	37.0
授業の人数が少なすぎて、活気がない	26.7	32.1	24.8	20.2	28.3	26.0

表 21 少人数学習の受け止め（算数・数学）（集団への配属方法別）：「よく」+「すこし」の合計%

	小学校			中学校		
	生徒希望	相談	教師指示	生徒希望	相談	教師指示
その授業は好きである	81.6	77.8	77.5	82.1	86.0	77.2
その授業は楽しい	67.4	73.6	74.1	72.6	78.0	71.3
授業の内容がいつもよりよくわかる	82.4	74.6	79.5	80.6	82.0	77.6
質問がしやすい	73.1	69.4	67.8	74.0	70.0	73.3
わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	74.5	68.1	70.5	72.3	71.4	70.9
自分の興味や関心にそった勉強ができる	66.0	63.9	66.2	58.3	56.0	54.6
いつもより難しい内容の勉強ができる	69.3	57.7	56.9	49.4	62.0	47.8
クラスのふんいきがよくなる	56.5	55.6	60.6	50.4	69.4	49.1
授業に集中しやすい	84.7	64.3	69.7	71.9	83.7	74.6
担任（いつも）の先生でないと話が通じにくい	23.5	35.7	28.3	13.5	30.0	17.1
授業中、のんびりできない	35.6	47.8	40.2	34.5	36.0	33.2
いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	41.8	47.2	42.4	27.9	34.0	38.4
授業の人数が少なすぎて、活気がない	26.8	31.9	24.8	20.5	28.0	25.7

V. おわりに

以上の分析結果をまとめ、若干の考察を加えてみよう。まず TT と少人数学習の実施状況を見ると、TT は小学校、中学校ともに実施率が高く、日常の学習指導の方法として定着していることが伺える。いっぽう、少人数学習の実施率は校種の違いが大きく、小学校では半数以上、中学校では 80% 以上であった。このことは学級規模によっても著しい違いがあり、TT は 13 人以上の学級で、少人数学習は 21 人以上の学級で実施されており、小規模学

級ではあまり行われていない。さらに教科による違いも大きい。TT、少人数学習は、小学校、中学校とも、算数・数学及び英語で多く採用されている。

今回の分析結果のみから推測することは困難であるが、TTにせよ、少人数学習指導にせよ、その担い手を既存の教員数を変えずに実現しようとする場合と、一定の加配や補充によって実現する場合とでは、その運用と効果に大きな差が現れるものと思われる。TTと少人数指導という方法論が持つ理念以上に、こうした運用に係る問題を、その効果に対する不確定要素として適切に把握することが今後の課題となろう。なお、こうした問題に係る分析の一部は、全国の校長及び教員を対象とした調査による「全国の小中学校における少人数学習の実施状況」（日本教育社会学会第57回大会2005年9月17日）として報告している。

次にTTと少人数学習に対する児童生徒の受け止め方の違いについて検討しよう。全体として児童生徒はTTも少人数学習も肯定的に評価しており、どちらかと言えば少人数学習の評価の方が高い。しかし校種別に検討したところ、小学生よりも中学生の方が少人数学習を肯定的に評価していた。さらに教科別に検討したところ、中学生は4教科のすべてにおいてTTよりも少人数学習を評価していた。

なぜ、中学生は小学生よりも少人数学習を評価しているのだろうか。ひとつには、教師側の学習指導に及ぼす効果の問題があるだろう。すなわちクラスサイズの規模縮小は、教師にとって効率の良い指導を可能にしていると考えられる。TTの場合はHRをそのまま用い、学習集団の規模に変化が無い場合、メインティチャー＋サブティチャーという2人体制であっても、往々にして一斉授業の形態を免れず、ひとりひとりの子どもの学習に目を注ぐことや、個別の学習の進度や理解度を見極めながら進めることが困難なのかもしれない。

いまひとつの理由は、児童生徒の学習モラルに関わることである。同じくクラスサイズの規模縮小によって教師の目が行き届きやすくなるために、児童生徒は学習に向き合う構えや意欲を育む機会が増えることになる。これまでは大勢の前で手を挙げることのできなかった子ども達に発言の機会が増えたり、誤りを恐れずに発言できる機会が増えたりすることは、少人数であるが故の効果であろう。

このように考えると、少人数学習における集団編成の方法、すなわち「学級分割型」と「学級解体型」との間に、あるいは集団編成の原理、すなわち「等質集団による編成」「習熟度別編成」「テーマ・課題別編成」との間に顕著な差が見られなかった理由も、ある程度、納得が行く。むしろ、こうした少人数学習集団の編成上の問題は、指導する教師の側にとって、少人数学習の理念やその効果を実りのあるものとするために、一定の試行錯誤を要する課題である。しかし、受け止める児童生徒の側から見れば、こうした編成方法や原理の問題以上に、少人数であることが学習への意欲を高める結果をもたらしているものと解釈の方が妥当であろう。

もちろん、こうした編成方法や原理の問題を過小評価すべきだと言うのではない。より根本的な問題として、本調査の質問文自体が、児童生徒にとって区別を付けにくいものであった可能性や、現実の少人数学習集団の編成に際して、児童生徒がこうした編成方法・

原理の違いをどこまでの確に把握していたかといったことについては、研究デザインの修正も含めて、今後検討を要する課題となろう。

なお、少人数学習集団の編成について、「テーマ・課題別」の編成方法が「等質集団編成」や「習熟度別編成」よりも児童生徒に評価される傾向にあったこと、さらには配属集団の決定に関して、特に中学生が「教師との相談による配属」を肯定的に評価していることについては、その実態も踏まえた検証が今後必要と思われる。

第 3 部

学校・学級規模と授業・学校生活

第1章

学校規模に隠れた学級規模の効果

— 公立小・中学校の全国校長調査を中心に —

水野 考・藤井宣彰・田中春彦・山崎博敏

Educational Effect of Class Size behind School Size:
An Analysis of National Principal Survey Data

Kou Mizuno, Nobuaki Fujii, Haruhiko Tanaka, and Hirotohi Yamasaki

Teaching and learning, school and classroom climate and quality of education in primary and junior high school were assessed by 1,222 principals. The smaller the school size is, the better their quality of the school. However, the effect of school size disappeared when average class size of the school were entered to the regression models. It shows more essential effect of class size than that of school size. It means that classroom is the basic unit of teaching and learning and school life in Japan.

Key words: School Size, Class Size, Educational Effect
キーワード：学校規模，学級規模，教育効果

1. 研究の目的と背景

この論文の目的は、校長に対する全国質問紙調査のデータに基づき、学校規模と授業や学校生活、教育の充実度との関係を分析し、学校規模によって授業や、児童生徒の学校生活の状況がどのように異なっているかを考察することにある。

学校規模は、学校統合などの際に社会問題になる教育行財政上、極めて重要な事項であるが、学校規模に関する調査研究や実証研究は意外に少ない。学級規模に関する研究は比較的数多く行われているのと対照的である。日本の学者による学校規模に関する論文は、法制的枠組みの説明か、外国の研究成果の紹介が多い。

そのような中で近年の数少ない実証研究として、桑原敏明編「学級編制に関する総合的研究」(2002年)がある。この研究は国際比較研究の他に、教育委員会、校長・教員・児童生徒・保護者への質問紙調査の分析を行っており、学級規模の他に、学校規模に関する分析も行われている。しかし、「どうあるべきか」に関する意見を整理するというかたちで政策提言がされている傾向がある。学校規模の大小により、教育の実態がどのように異なるかについての客観的・実証的な研

究は少ないという現状は、この本においても変わらない。

そこで、われわれは、昨年から3年間の計画で実施している「学級規模と少人数学習の教育的効果に関する社会学的研究」(研究代表者山崎博敏)の一環として行った「全国校長調査」のデータをもとに、学校規模と教育活動の関係を実証的に分析した。

そこでの論点の一つは、現行の法制上12から18学級までの適正規模の学校の教育効果が高いのかどうかである。また、学級規模の影響も同時に分析することで、学校規模の正味の影響を吟味した。

2. 全国校長調査の概要

2004年11月末に全国の小中学校のリスト(『全国学校総覧』2004年度版)に掲載されている35,321校の表1に示すような抽出率に基づき3,804校を抽出し、校長宛に2つの質問紙を郵送し、「学級規模と少人数学習に関する全国校長調査」(以後、「校長調査」と略称する)の回答と「学級規模と少人数学習に関する全国教員調査」(各校6部)の配布を依頼した。なお、校長にも教員にも、記入済みの調査票はすべて、同封の返信用封筒にて回答者自身が送付するよう依頼した。

表1. 校長調査票の回収状況

	学校数	抽比率	応募数	回数	回収率	
						小学校
小学校	国立	73	1/1	73	37	50.7
	公立	23,865	1/10	2,386	748	31.3
	私立	172	1/2	86	21	24.4
計	24,110		2,545	806	31.7	
中学校	国立	78	1/1	78	38	48.7
	公立	10,454	1/10	1,045	327	31.3
	私立	680	1/5	136	6	4.4
計	11,212		1,259	371	29.5	
中高併置	国立	—	—	—	3	—
私立	—	—	—	—	29	—
小中併置	公立	—	—	—	9	—
私立	—	—	—	—	1	—
特殊教育学校	公立	—	—	—	3	—
総計	35,321		3,804	1,222	32.1	

校長調査票は、2005年2月までに校長等から郵送により回収した。有効票は1,222校で、回収率は小学校で31.7%、中学校で29.5%、全体で32.1%であった。表1は、配布と回収の状況を示している。本論文では、このうち、公立の小学校と中学校に限定して分析した結果を報告する。

回答者の属性は表2に示している。まず学校別には小学校約7割、中学校3割となっており、回答者の約95%は校長で、副校長・教頭、教諭が若干いる。小学校では82%、中学校では97%が男性である。校長経験年数は3-5年が最も多く、5年以下で半数を越える。異職種経験者は半数程度と意外に高い。

以下の分析では、主として各学校の学級数を学校規模の指標として用いる。学校規模の指標としてはその

他に児童生徒数、教職員数などがあるが、学級数は、教職員配置や学校施設等整備の際の基本単位であり、教育行政上、学校運営上の重要な要素となっているからである。ただし、本論文の最後の節では、児童生徒数も使用することにする。

調査対象校の学級数分布は表3に示している。以後の分析では、学級数をそのまま使用することもあるが、クロス集計表等を作成する際には1-3学級、4-6学級、7-11学級、12-18学級、19学級以上の5カテゴリで集計することにする。このうち12-18学級が学校教育法施行規則上の学校の適正規模である。

以下、学校規模と授業、学校規模と学校生活、学校規模教育の充実度の3つについて、①学校規模別の傾向、②法令上適正規模とされる12-18学級の学校の現状はどのようなものか、③小学校と中学校の違い、の3点に着目して分析を行う。

3. 学校規模と授業

校長質問紙には、児童生徒の学習状況に関する質問が9つ、教員の学習指導に関する質問が5つ設定されている。ここでは、まず、学習状況と学習指導について、各質問に対する回答状況を学校規模別に検討する。次に、学習状況に関する質問のうち8つを主成分分析

表2. 回答者の属性：公立小・中学校

		人数			%		
		全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
全体		1075	748	327	100.0	69.6	30.4
性別	男性	928	612	316	86.6	82.1	96.9
	女性	143	133	10	13.4	17.9	3.1
	合計	1071	745	326	100	100	100
年齢	20歳代	2	1	1	0.2	0.1	0.3
	30歳代	2	2	0	0.2	0.3	0.0
	40歳代	35	27	8	3.3	3.6	2.4
	50以上	1036	718	318	96.4	96.0	97.2
	合計	1075	748	327	100	100	100
職位	校長	1017	710	307	94.8	95.2	93.9
	教頭等	50	30	20	4.7	4.0	6.1
	教諭	6	6	0	0.6	0.8	0.0
	合計	1073	746	327	100	100	100
教職年数	1-4年	16	10	6	1.5	1.3	1.8
	5-9	8	4	4	0.7	0.5	1.2
	10-19	7	5	2	0.7	0.7	0.6
	20以上	1036	722	314	97.1	97.4	96.3
	合計	1067	741	326	100	100	100
校長年数	2年未満	293	214	79	28.7	30.3	25.2
	3-5	346	238	108	33.9	33.7	34.5
	6-7	202	137	65	19.8	19.4	20.8
	8-10	159	105	54	15.6	14.9	17.3
	11以上	20	13	7	2.0	1.8	2.2
合計	1020	707	313	100	100	100	
異職種経験	あり	504	326	178	47.5	44.5	54.4
	なし	556	407	149	52.5	55.5	45.6
	合計	1060	733	327	100	100	100
地域	市街地	456	308	148	42.9	41.7	45.7
	農村部	425	297	128	40.0	40.2	39.5
	へき地	182	134	48	17.1	18.1	14.8
	合計	1063	739	324	100	100	100
複式	あり	138	129	9	12.9	17.3	2.8
	なし	930	616	314	87.1	82.7	97.2
	合計	1068	745	323	100	100	100

表3. 対象校の学級数分布

学級数	小学校		中学校	
	学校数	%	学校数	%
1	0		1	
2	6	42	2	45
3	36	6.0	42	14.6
4	34		18	
5	24	180	13	53
6	122	25.7	22	17.2
7	88		22	
8	33		6	
9	13	165	12	81
10	18	23.5	21	26.3
11	13		20	
12	30		18	
13	52		14	
14	41		15	
15	23	192	13	94
16	16	27.4	16	30.5
17	17		7	
18	13		11	
19	17		9	
20	22		7	
21	24		4	
22	10		3	
23	8		1	
24	10		5	
25	6		4	
26	5	122	1	35
27	2	17.4	0	11.4
28	3		1	
29	5		0	
30	3		0	
31	3		0	
32	2		0	
34	1		0	
35	1		0	
合計	701	100.0	308	100.0

し、その第1主成分（総合的特性）得点を算出し、これが学校規模（学級数）による影響をうけるかどうかを回帰分析によって分析する。学習指導に関する5つの質問についても主成分分析を行い、同様の分析を行う。なお、学習状況に関する質問のうち最後の質問「あなたの学校の学力水準は、都道府県内の学校平均からみて、おおよその程度ですか」については、別途分析することにする。

児童生徒の学習状況

表4は、授業に関する質問に対して「そう思う」「どちらでもない」「そう思わない」の3件法で回答を求めた結果、「そう思う」と回答した校長の割合（%）を、1-3学級、4-6学級など5つの学校規模のカテゴリー別に示した。表中の「差」は、学校規模のカテゴリー間の平均値の差の検定結果を示している。さらに、表の右の「第1主成分負荷量」は、学習状況に関する8つの質問に対する回答を主成分分析し、その第1主成分の負荷量の値を示している。

まず、各質問に対する「そう思う」と回答した校長の割合を調べてみよう。小学校・中学校とも、小規模な学校ほど「チャイムが鳴ったら着席して教員の到着を待っている」者が多い。中学校では小規模な学校ほど「授業中、児童生徒は教員の話聞いてる」。

小学校では、小規模校ほど「分からないことがある」と子どもはよく質問することが多く、大規模校ほど「宿題をやっこない子どもがいる」し、「授業に集中しない子どもがいる」。

「平時の授業内容を子ども達はおおよそ理解している」と回答する校長の割合は小学校全体では69.8%だが、中学校では56.3%と低くなる。これを学校規模別に見ると、中学校では1-3学級までの小規模学校で「理解している」の割合が高く、12-18学級の中規模学校ではその割合は低くなる。小中ともに、「授業内

容がやさしすぎて退屈している子どもがいる」は、大規模な学校に多い。小学校の場合、中規模・大規模な学校では「児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う」と回答する校長が多い。

教員の学習指導

教員の学習指導に関する質問は、児童生徒の学習の状況よりも学校規模による差が大きくなっていることが注目される。小学校では、大規模校では「理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある」と回答する校長が多くなっている。

しかし、「教員は子どもが授業をどの程度理解しているか把握できている」「一人一人の子どもの学習状況によく目が行き届く」「理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある」「一人一人の子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある」についてはすべて、小中とも、小規模な学校の方が有意に高い。

教員の学習指導に関しては、小規模校の方が圧倒的に有利である。これらの結果から、授業の状況は、児童生徒の学習の側面からも、教師の学習指導の側面からも、学校規模が小さい方が良好であるといえよう。

単回帰分析

このことを、さらに総合的に分析してみよう。

学習状況に関する最初の8つの質問を主成分分析すると、その第1主成分は、8つの質問の総合的な合成変数となる。その第1主成分を「学習順調度」と呼ぶことにする。同様に、教員の学習指導に関する5つの質問を主成分分析し、その第1主成分を「学習指導順調度」と呼ぼう。

表5は、学習順調度と学習指導順調度の学校規模別にみた平均値を示している。これを棒グラフにし、単回帰分析して推定値に直線を引いたのが図1と図2である。表6は単回帰分析の結果を示している。

表4. 学校規模と授業（「そう思う」の%と第1主成分負荷量）

	小学校								中学校								第1主成分負荷量
	(公立、学級数)	1-3	4-6	7-11	12-18	19-	全体	差	1-3	4-6	7-11	12-18	19-	全体	差		
チャイムが鳴ったら着席して教員の到着を待っている	75.6	74.3	67.3	52.9	56.8	63.8	***	88.9	82.0	72.5	60.2	60.0	71.3	**	0.511		
授業中、児童生徒は教員の話聞いてる	76.2	79.8	70.6	66.7	67.2	71.6		88.9	76.0	73.8	65.6	62.9	72.6	*	0.644		
分からないことがあると子どもはよく質問する	54.8	32.8	34.6	38.8	31.4	36.0	*	28.9	36.0	34.2	29.0	31.4	31.8		0.432		
宿題をやっこない子どもがいる	33.3	49.2	62.0	66.8	66.9	59.1	***	57.8	74.0	71.8	78.7	60.0	70.9	**	-0.617		
授業に集中しない子どもがいる	26.2	35.2	58.3	58.5	65.5	51.7	***	33.3	48.0	53.8	75.5	57.1	57.0	***	-0.736		
平時の授業内容を子ども達はほぼおおよそ理解している	73.8	72.0	65.6	71.4	68.1	69.8		80.0	56.0	55.7	44.6	58.8	56.3	**	0.528		
逆に授業内容がやさしすぎて退屈している子どもがいる	14.3	7.4	8.7	13.4	16.8	11.4	***	4.5	8.3	16.5	21.5	20.6	15.4	*	-0.246		
学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う	43.9	59.3	65.2	65.8	64.7	62.5	**	75.6	70.0	83.5	80.6	68.6	77.5		-0.388		
都道府県内の学校平均からみた学校の学力水準（高い方である）	14.3	6.4	10.4	13.3	15.4	11.3		13.6	11.1	16.7	12.2	23.5	14.8				
(第1主成分の固有値と寄与率%)																	
理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	35.7	45.1	54.9	55.6	64.7	53.1	***	60.0	68.0	70.5	79.8	65.7	70.9		-0.520		
教員は子どもが授業をどの程度理解しているか把握できている	81.0	80.3	71.0	74.1	58.8	72.8	**	84.4	64.0	64.6	58.1	48.6	63.6	*	0.515		
一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	88.1	80.3	62.3	46.0	29.4	58.4	***	88.9	58.0	43.0	25.5	28.6	45.2	***	0.735		
理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	52.4	31.5	14.2	10.6	5.9	18.6	***	53.3	22.0	11.4	8.5	8.6	18.2	***	0.813		
一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある	40.5	15.7	2.5	2.1	2.5	8.2	***	31.1	12.0	1.3	1.1	2.9	7.6	***	0.773		
(第1主成分の固有値と寄与率%)																	
																2.33(46.7%)	

※ ***: P<0.001, **: P<0.01, *: P<0.05. 以下の表も同様

表5. 学習順調度と学習指導順調度の平均値

学級数	児童生徒の 学習順調度		教員の 学習指導順調度	
	小	中	小	中
1-3学級	0.681	0.393	0.923	0.862
4-6学級	0.339	-0.133	0.483	-0.018
7-11学級	-0.074	-0.223	-0.045	-0.301
12-18学級	-0.180	-0.573	-0.171	-0.669
19学級以上	-0.250	-0.341	-0.429	-0.572
全体	0.018	-0.239	0.049	-0.226
	***	***	***	***

表6. 学習順調度と学習指導順調度の単回帰分析

		学習順調度	学習指導順調度
		小学校	傾き 切片 R ²
中学校	傾き 切片 R ²	-0.218 0.434 0.078***	-0.377 0.933 0.212***

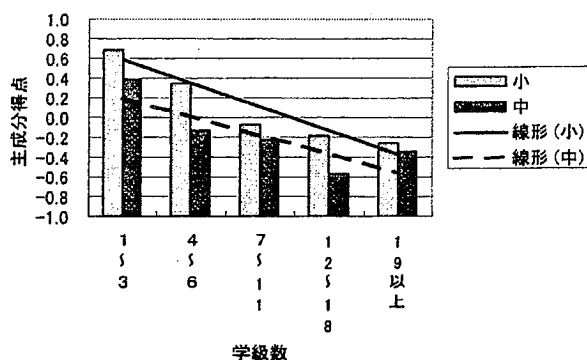


図1. 児童生徒の学習順調度

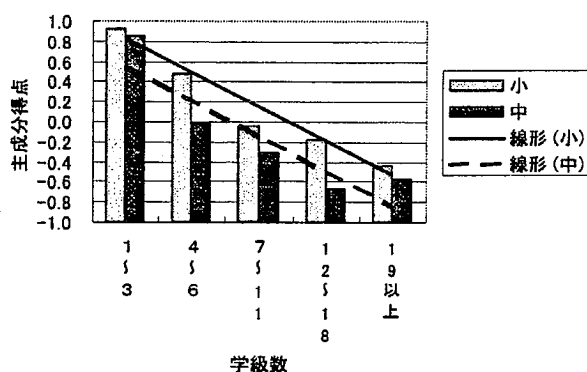


図2. 教員の学習指導順調度

これより、学習順調度と学習指導順調度は、いずれも、小学校でも中学校でも、学校規模（学級数）によって説明され、「直線の傾きはゼロである」という帰無仮説は0.1%水準で棄却される。すなわち、学校規模（学級数）が小さいほど学習順調度と学習指導順調度は高くなり、学校規模が大きいくほど学習順調度と学習指導順調度は低くなるということが結論されるのである。

4. 学校規模と学校生活

学校生活に関する質問は表7に示す通り、児童生徒の学校生活に関する質問8つと、教員の生徒指導に関する質問7つからなる。表7から明らかなように、学校生活に関する質問の大部分と生徒指導に関する質問の全てが学校規模の違いによって有意な差がある。

例えば、「子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている」では、5%水準ではあるが、4-6学級など比較的小規模な学校では、12学級以上の比較的大規模な学校よりも「そう思う」と回答している割合が大きい。小規模校ほど学校生活が好ましいようである。

このような傾向は、その他多数の質問においても同様である。小規模校ほど、「子どもたちの服装・身だしなみ」がよく（中学校）、「学級集団としてまとまり」があり（小学校）、「子どもたちは、個性を伸ばしている」（小学校）。小規模校ほど、「遅刻をしたり学校を休む子ども」は少なく、「教職員に対して暴言や暴力をふるう子どもがいて困ったことがある」経験は少なく、「教員の指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある」ことも少ない。

これは、教員の生徒指導についても同様である。小規模校ほど、教員は児童生徒の顔と名前をよく知っており、児童生徒の学校生活や子どもたちの人間関係に教員の目は行き届き、担任は子どもの心配事や悩みをよく把握しており、子どもの話を聞くゆとりがある。これらは端的に、児童生徒の数が少ないからであろう。

前節と同様に、児童生徒の学校生活に関する質問と、教員の生徒指導に関する質問を主成分分析し、その第1主成分をそれぞれ「学校生活順調度」、「生徒指導順調度」と呼ぶことにする。

表8は、学校生活順調度と生徒指導順調度の学校規模別平均値を示している。小規模校ほど順調度が高いことが明らかである。表9の単回帰分析の結果から明らかなように、学校生活順調度も生徒指導順調度も、小規模校ほど高く、大規模校ほど低い。

5. 学校規模と教育の充実度

学校におけるさまざまな教育の側面について自校の充実度を校長に自己評価してもらった。表10に示しているように、充実度に関する質問は24あるが、大きく学習、体育、特別活動、人格形成、管理運営の5つの領域に分かれている。各質問に対する選択肢は「充実している」と「ふつう」の2つで、表10の数字は「充実している」と回答した校長の割合(%)を示している。

表7. 学校規模と学校生活（「そう思う」の％）

	小学校							中学校							第1主成分 負荷量
	1-3	4-6	7-11	12-18	19-	全体差	1-3	4-6	7-11	12-18	19-	全体差			
(公立, 学級数)															
子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている	31.0	41.8	43.8	28.0	32.2	36.2*	66.7	63.5	56.3	40.2	47.1	53.1*	0.687		
子どもたちの服装・身だしなみはよい	54.8	64.6	61.7	49.2	57.9	57.9	84.4	76.9	62.5	40.2	38.2	58.7***	0.687		
学級集団としてのまとまりがある	69.0	76.3	64.2	57.6	66.2	64.4***	73.3	78.8	65.0	58.7	58.8	66.0	0.712		
子どもたちは、全体的に伸びのびとしている	78.6	89.3	85.2	81.7	81.8	84.3	82.2	82.7	80.0	79.6	70.6	79.6	0.511		
子どもたちは、個性を伸ばしている	57.1	52.8	37.7	36.1	32.2	41.4***	55.6	46.2	36.7	29.3	35.3	33.8	0.523		
遅刻したり学校を休む子どもが多い	4.8	4.0	5.6	13.1	9.1	7.8***	4.4	9.8	15.0	31.5	41.2	20.5***	-0.604		
教員の指示に従わない子どもがクラス内で困ることがある	11.9	16.5	35.8	35.1	39.7	29.9***	6.7	13.5	24.4	34.4	47.1	25.5***	-0.573		
教職員に対して暴言や暴力をふるう子どもがいて困ったことがある	4.8	4.5	8.6	14.7	12.4	9.7***	2.2	7.8	13.8	31.5	44.1	19.9***	-0.621		
第1主成分の固有値と寄与率(%)													3.07 (38.3%)		
子どもたちの学校での日常生活で教員の目が行き届いている	81.0	83.7	66.0	51.8	40.5	63.1***	88.9	71.2	62.5	41.9	47.1	59.9***	0.732		
子どもどうしの人間関係に教員目が行き届いている	81.0	70.2	55.6	46.6	29.2	53.8***	75.6	55.8	48.8	32.6	32.4	47.2***	0.774		
学級担任教員は子どもの話を聞いてやるゆとりがある	64.3	55.9	32.1	18.8	19.0	34.2***	73.3	42.3	19.0	8.7	20.6	28.1**	0.737		
学級担任教員は子どもの心事や悩みをよく把握している	57.1	57.9	45.1	38.7	29.8	44.7***	60.0	41.2	41.8	30.1	30.3	39.5*	0.737		
教員は子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している	71.4	51.4	43.7	31.4	28.9	39.8***	51.1	33.3	33.8	25.0	17.6	31.8*	0.645		
どの教員も全校の児童生徒の顔と名前がよくわかっている	97.6	87.6	67.1	16.8	7.4	49.9***	100.0	86.3	56.3	18.7	5.9	50.8***	0.547		
保護者は自分の子どもに対して目が行き届いている	38.1	26.0	11.7	12.0	6.6	16.2***	40.0	23.5	10.0	6.6	14.7	16.3***	0.589		
第1主成分の固有値と寄与率(%)													3.28 (46.9%)		

表8. 学校生活順調度と生徒指導順調度の平均値

学級数	学校生活順調度		生徒指導順調度	
	小	中	小	中
1-3学級	0.166	0.578	0.751	0.841
4-6学級	0.338	0.394	0.602	0.233
7-11学級	0.050	-0.049	0.098	-0.073
12-18学級	-0.236	-0.546	-0.267	-0.631
19学級以上	-0.273	-0.730	-0.566	-0.522
全体	-0.006	-0.106	0.050	-0.101
	***	***	***	***

表9. 学校生活順調度と生徒指導順調度の単回帰分析

学校		学校生活順調度	生徒指導順調度
		傾き	-0.188
小学校	切片	0.605	1.266
	R ²	0.056***	0.211***
	傾き	-0.371	-0.392
中学校	切片	1.027	1.096
	R ²	0.168***	0.223***

ここでは紙幅の関係で24の項目ごとに検討せず、各領域ごとに質問を主成分分析し、5つの第1主成分得点の値と学校規模（学級数）の関係を平均値の差の検定と単回帰分析で分析する。表11は、5つの領域における教育の充実度の平均値を、小中別、学校規模別に示している。それでは、領域別に検討していこう。

「学習充実度」は、小中とも、小規模校ほど充実度が高く、大規模になるほど低くなっており、学校規模による有意な差がある。ただし、表10に戻って質問ごとに検討してみると、高度な学力の形成と体験的な学習は小学校だけで有意であり、基礎学力の形成と総合的な学習は、中学校だけで有意である。

「体育充実度」は、小学校だけであるが、小規模校ほど高く、大規模校ほど低くなっている。

「特別活動充実度」は、小中とも、学校規模による有意差は認められない。なお、小学校の平均値が低い

のは、部活動が実施されていないからである。部活動を除く4つについて、質問ごとに検討してみると（表10）、小学校では学校行事、学級活動、奉仕活動の3つで、小規模校ほど「充実している」の割合が高くなっている。小規模校の方が、人数が少ないだけに学校や学級の行事に参加する機会が多く、また地域に密着した教育活動を行っていることが伺える。

「人格形成充実度」は、小・中とも学校規模による違いが大きく、中学校では規模による差が大きい。質問ごとに検討してみると、6つの質問の中でも特に、「不登校の減少」「いじめの減少」といった問題行動については、中学校の充実度は小学校よりも20%程度も低く、中学校ではより深刻な状況がうかがわれる。学校規模別にみると、小学校、中学校とも学校規模が大きいほど、充実度は有意に低くなっている。また、「個性の伸張」の項目では小学校において、「自己表現力」「社会性の育成」の項目で中学校において、小規模の学校ほど充実しているようである。

最後に、「管理運営充実度」も小・中とも学校規模による有意な差があり、小規模校が充実度が高く、大規模校が低い。

ただし、質問ごとに検討してみると、興味深い。家庭との連携、教職員間の連携は、小中とも、小規模校の方が充実しており、小学校では地域との連携、中学校では教職員間の学校改善意欲において、小規模校の方が充実していると回答されていた。小規模校ほど、校務分掌の中で一人一人の教員にまかされる仕事の範囲や責任は大きく、学校運営に貢献しやすいからであると考えられる。

しかし、障害児教育は、大規模校ほど充実していると回答している校長が多かった。それは、大規模校の方が特殊教育学級を編制しやすいからでもあろう。障害児教育は、多数の質問の中で、唯一、大規模なほど

表10. 学校規模と教育の充実度（「充実している」の％）

	小学校							中学校							第1主成分 分負荷量
	学級数（公立）	1-3	4-6	7-11	12-18	19-	全体	差	1-3	4-6	7-11	12-18	19-	全体	
学習	基礎学力の育成	38.1	32.8	36.6	34.6	44.1	36.4		46.7	33.3	39.7	20.4	24.2	32.0*	0.564
	高度な学力の育成	7.1	0.6	1.3	0.0	0.8	1.0***		0.0	2.0	1.3	3.2	3.0	2.0	0.393
	体験的な学習	81.0	77.5	60.1	53.9	51.7	62.7***		66.7	54.9	60.3	47.9	38.2	54.0	0.748
	総合的な学習	54.8	49.2	43.2	41.8	43.3	45.1		64.4	56.9	35.9	29.8	23.5	40.4***	0.774
	(第1主成分の固有値と寄与率%)														1.63 (40.8%)
体育	体力の向上	31.0	26.4	17.8	13.2	13.3	18.8**		31.1	41.2	26.3	25.5	29.4	29.6	0.874
	健康の維持	42.9	39.9	33.3	28.0	24.2	32.6*		48.9	33.3	27.5	24.5	18.2	29.7*	0.874
	(第1主成分の固有値と寄与率%)														1.53 (76.5%)
特別活動	学校行事	59.5	76.5	65.0	60.5	55.8	64.8**		82.2	62.7	70.0	67.0	64.7	69.1	0.534
	学級活動	26.2	33.5	20.9	21.2	16.7	23.8**		26.7	35.3	25.6	23.4	23.5	26.5	0.620
	生徒会活動	23.1	20.4	23.0	21.5	22.9	21.9		46.7	41.2	47.5	44.7	47.1	45.4	0.669
	奉仕活動	47.6	27.3	24.2	17.0	16.5	23.2***		40.0	46.0	37.5	36.2	26.5	37.6	0.495
	部活動の成績								37.8	41.2	47.5	43.6	67.6	46.1	0.546
	部活動による人格形成								44.4	43.1	43.8	28.7	44.1	39.1	0.672
	(第1主成分の固有値と寄与率%)														2.11 (35.2%)
	個性の伸張	47.6	34.3	24.5	15.5	14.4	24.2***		31.1	22.0	20.0	10.8	14.7	18.5	0.563
人格育成	いじめの減少	75.0	79.9	67.3	57.2	53.8	65.8***		79.5	64.7	51.3	29.8	20.6	47.5***	0.738
	不登校の減少	77.5	79.1	75.2	58.7	49.2	67.2***		68.2	45.1	41.0	21.3	11.8	36.2***	0.692
	不法行為の予防	80.0	79.3	66.7	59.9	45.8	65.2***		86.4	66.7	72.2	38.3	38.2	58.9***	0.711
	社会性の育成	23.8	22.2	19.0	19.3	11.7	18.9		37.8	15.7	25.0	18.1	14.7	22.0*	0.606
	自己表現力育成	28.6	26.7	23.5	23.1	22.5	24.3		33.3	15.7	11.4	16.0	11.8	16.8*	0.559
	(第1主成分の固有値と寄与率%)														2.53 (42.1%)
	障害児教育の充実	19.4	28.5	50.9	51.3	58.8	45.4***		12.8	30.6	39.7	45.2	47.1	37.2**	0.491
管理運営	人権教育の充実	40.5	32.8	37.4	38.2	30.0	35.3		26.7	29.4	33.8	23.4	14.7	26.6	0.571
	家庭との連携	78.6	77.1	54.6	46.5	37.5	56.6***		60.0	40.0	46.3	38.3	23.5	42.2*	0.756
	地域との連携	88.1	75.3	55.8	52.7	44.2	59.8***		62.2	50.0	48.1	37.2	41.2	46.4	0.642
	教職員間の連携	76.2	77.6	65.0	61.2	55.5	66.2***		84.4	62.0	60.0	51.1	29.4	57.8***	0.732
	教職員の学校改善意欲	45.2	39.4	38.0	33.0	31.9	36.4		51.1	42.0	31.3	26.1	17.6	32.9**	0.605
	(第1主成分の固有値と寄与率%)														2.45 (40.9%)

表11. 5種類の教育の充実度の平均値

学級数	学習充実度		体育充実度		特別活動充実度		人格育成充実度		管理運営充実度	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
1-3学級	0.290	0.235	0.265	0.341	-0.301	0.348	0.377	0.427	0.342	0.231
4-6学級	0.082	-0.022	0.163	0.290	-0.032	0.264	0.376	-0.151	0.320	-0.143
7-11学級	-0.077	-0.130	-0.033	0.011	-0.322	0.314	0.118	-0.175	0.113	-0.108
12-18学級	-0.174	-0.436	-0.163	-0.036	-0.366	0.129	-0.106	-0.679	0.004	-0.348
19学級以上	-0.113	-0.588	-0.209	-0.047	-0.299	0.327	-0.331	-0.815	-0.138	-0.611
全体	-0.046	-0.202	-0.031	0.086	-0.256	0.254	0.060	-0.312	0.099	-0.203
	*	***	**				***	***	**	**

表12. 5種類の教育の充実度の単回帰分析

	学習充実度		体育充実度		特別活動充実度		人格育成充実度		管理運営充実度	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
傾き	-0.094	-0.210	-0.130	-0.118	-0.065	-0.034	-0.214	-0.312	-0.139	-0.182
切片	0.258	0.442	0.392	0.446	-0.044	0.360	0.755	0.648	0.557	0.363
R ²	0.014	0.078	0.026	0.019	0.007	0.002	0.069	0.162	0.025	0.048
検定	**	***	***	*			***	***	***	***

有意に充実していることが発見された項目であった。

なお、「人権教育の充実」は、学校規模による有意な差は認められなかった。このことは、規模に関わらず、どの学校でも同程度の人権教育を行っていることを物語っていると言えよう。

単回帰分析

表12は5つの充実度を被説明変数(Y)、学校規模(学級数)をXとして単回帰分析した結果である。表11の結果から想像されるとおり、特別活動を除く4つの充実度の単回帰直線の傾きは、有意にマイナスである。すなわち、学習、体育、人格形成、管理運営における教育の充実度は、小規模校で高く、大規模校ほど低くなる。

6. 学校規模の影響に関する重回帰分析：真の要因は学級規模であった

これまで、校長が回答し評価した自校の授業と学校生活、教育の充実度に関する多数の質問を個別に、そしてまた主成分分析によって合成された4つの順調度と5つの充実度について、学級規模との関連を分析してきた。その結果、多くの質問や順調度・充実度が学校規模と深い関連があること、小規模校ほど順調度・充実度が高く、学校規模が大きくなればそれらは低下することを示してきた。

だが、それは真実なのだろうか。本当にそのような結論を下してよいのだろうか。統計学を学び、多変量解析の入門を勉強した者であれば、そのような結論を直ちに下すことはしないだろう。

なぜならば、Aという変数がBという変数に影響を与えているとしても、A、B以外のCという変数が、AとBに影響を与えていたり、AとBの間にCという変数が媒介していることもありうる。この場合に、Cを無視してAとBだけを分析すると真実の姿を見失ってしまう。

そこで、是非とも、変数Cをモデルに組み込み、3変数の分析をしなければならない。なお変数Cは複数あるかも知れない。

本研究の場合、まず最有力の変数Cとして学級規模に注目する必要がある。さらに、学校規模を構成する指標としては、学校の学級数の他に、児童生徒数もある。そこで、これらを取り込んだ重回帰分析モデルを構築して学校規模が教育の順調度や充実度に与える影響を捉えることにしよう。

その結果は2つの表に示している。表13は、授業と学校生活に関する4つの順調度に対する重回帰分析(OLS)の結果を示している。表14は、教育の充実度のうち、学習充実度、人格育成充実度、管理運営充実度に対する結果である。

この2つの結果から重要な結論が導かれる。すなわち、学校規模は、学級数が中学校における教員の学習指導順調度に有意な影響を与えているだけで、それ以

表13. 学習順調度と学校生活順調度の重回帰分析

被説明変数	児童生徒の学習順調度				教員の学習指導順調度				児童生徒の学校生活順調度				教員の生徒指導順調度			
	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	検定	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	検定	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	検定	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	検定
切片	1.012	0.322		**	1.347	0.290		***	0.735	0.297		*	0.964	0.281		***
学校規模：学級数	-0.049	0.042	-0.331		-0.069	0.037	-0.481		-0.047	0.038	-0.340		-0.023	0.036	-0.159	
学校規模：児童生徒数	0.002	0.001	0.403		0.002	0.001	0.442		0.001	0.001	0.308		0.000	0.001	-0.046	
学級規模	-0.044	0.012	-0.402	***	-0.049	0.011	-0.461	***	-0.023	0.011	-0.223	*	-0.026	0.011	-0.239	*
複式ダミー	-0.020	0.167	-0.007		-0.081	0.152	-0.031		-0.046	0.154	-0.018		0.081	0.146	0.030	
市街地ダミー	0.031	0.105	0.015		0.045	0.094	0.023		-0.111	0.095	-0.060		-0.194	0.090	-0.099	*
R ²	0.097	***			0.191	***			0.072	***			0.254	***		
adjR ²	0.090				0.185				0.064				0.248			
切片	1.063	0.342		**	1.881	0.314		***	0.746	0.367		*	1.596	0.331		***
学校規模：学級数	-0.072	0.071	-0.446		-0.144	0.066	-0.851	*	0.051	0.077	0.279		-0.068	0.069	-0.395	
学校規模：児童生徒数	0.002	0.002	0.498		0.004	0.002	0.813		-0.003	0.002	-0.507		0.001	0.002	0.281	
学級規模	-0.045	0.012	-0.391	***	-0.068	0.011	-0.563	***	-0.020	0.013	-0.151		-0.052	0.012	-0.422	***
複式ダミー	0.160	0.396	0.024		0.250	0.345	0.038		0.579	0.402	0.081		0.089	0.388	0.012	
市街地ダミー	-0.042	0.140	-0.021		0.082	0.132	0.040		-0.160	0.155	-0.072		-0.047	0.138	-0.023	
R ²	0.121	***			0.291	***			0.188	***			0.262	***		
adjR ²	0.105				0.279				0.173				0.248			

表14. 教育の充実度に及ぼす影響に関する重回帰分析

被説明変数	学習充実度				人格育成充実度				管理運営充実度			
	公立小学校		公立中学校		公立小学校		公立中学校		公立小学校		公立中学校	
説明変数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	検定	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	検定	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	検定
切片	0.134	0.306			0.641	0.326		*	0.403	0.316		
学校規模：学級数	-0.013	0.040	-0.094		-0.031	0.069	-0.197		0.004	0.065	0.027	
学校規模：児童生徒数	0.003	0.001	0.113		0.000	0.002	0.007		-0.001	0.002	-0.563	
学級規模	-0.010	0.012	-0.097		-0.024	0.012	-0.219*		-0.002	0.012	-0.021	
複式ダミー	0.233	0.160	0.092		-0.027	0.357	-0.005		0.188	0.164	0.071	
市街地ダミー	0.005	0.093	0.003		0.241	0.138	0.125		0.028	0.101	0.014	
R ²	0.024**				0.097***				0.073***			
adjR ²	0.016				0.081				0.066			

外は学級数からみても、児童生徒数からみても、順調度や充実度に対して独立した有意な影響を与えていない。むしろ、今まで分析していなかった学級規模が順調度と充実度に負の有意な影響を与えているのである。

重回帰分析の結果、これまでに下そうとしていた命題は誤りであったことが明らかになった。われわれは新たに、学級規模こそ順調度や充実度に影響を与えているという新しい結論を下さなければならない。

5節まで、集計表や棒グラフ、単回帰分析を見ながら学校規模が順調度や充実度に影響を与えていると述べてきたのは、実は、厳密に言えば誤りであった。それは、真の影響要因である学級規模を考慮していなかったためであった。多変量解析を導入し、学級規模という変数を追加して重回帰分析を行うと、順調度や充実度に対する学校規模の影響力は弱まり、代わって学級規模が有意な影響を与えていることが明らかになった。言い換えれば、学校規模と順調度や充実度の関係は、疑似相関だったのである。学校規模の影響は見かけだけであり、学校規模の影響の裏には、学級規模という真の影響要因が存在していた。学校規模だけの1変量の分析をするだけでは、真の影響要因を発見できなかったのである。多変量解析のもつ威力がここに見事に示されていると言えよう。

7. 結 論

まず、学校規模と授業、学校規模と学校生活、学校規模と教育の充実度、という2変数の関係について整理しよう。第1に、特別活動の一部を除くほとんどの変数は、学級数からみた学校規模と大きな関係があった。学級数が少ない小規模な学校ほど、教育は望ましい状態にあった。小規模校では、学習順調度、学習指導順調度、学校生活順調度、生徒指導順調度、各種の充実度は高く、大規模では低かった。例外的に、障害児教育だけ、大規模校の方が充実していた。

第2に、それらの関係は1本の直線でよく表現され、リニアな関係にあった。2次関数など曲線で表現されるようには思われない。

第3に、その結果として、法令上、適正な学校規模とされる12学級から18学級までの学校において教育の状態が最良であるという結果は認められなかった。

第4に、小学校と中学校の間では、人格育成、問題

行動などの点について、中学校のほうが、小学校よりも学校規模の影響を大きな影響を受けていた。

しかし、以上の結果は、影響要因として学校規模だけから分析したにすぎない部分的な知見であった。多変量解析の結果、児童生徒の学習順調度と学校生活順調度、3つの教育の充実度は、学校規模よりも、むしろ学級規模の影響を受けていた。

ただし、山崎ら(2001)による別の校長データに関する重回帰分析結果では、生徒の学校生活順調度と教員の生徒指導順調度については、中学校だけであるが、学級規模と同時に、学校規模(児童生徒数)が有意な影響を与えていた。この結果の異同は、今後再検討する必要がある。

とはいえ、本分析で、学級規模が大きな影響を与えていたことをどう解釈すべきなのだろうか。ここでは暫定的に、児童生徒の授業や学校生活、教員の学習指導や生徒指導などが、学校生活の基本単位としての学級で展開されているからであると考えたい。組織の単位としては学校よりも学級の方が、授業と学校生活にとって本質的である、と考えたい。

とすれば、学級規模は、大きい方がよいのだろうか、小さい方がよいのだろうか。また、大規模と小規模の中間に、最適な規模があるのだろうか。この問いに対しては、別の機会に詳細な分析を行うことによってアプローチしたい。

【参考文献】

- Barker, R. G. & P. V. Gump (eds.), 1964, *Big School, Small School: High School Size and Student Behavior*, Stanford University Press (バーガー・ガンプ、安藤延男監訳『大きな学校、小さな学校』新曜社、1982年)。
- 桑原敏明編、2002、『学級編制に関する総合的研究』多賀出版。
- 高浦勝義編、2000、『適正な学校・学級規模に関する校長及び教員の意識と指導及び勤務の実態に関する調査結果』(平成11年度～平成12年度科学研究費補助金研究成果報告書)、国立教育研究所。
- 山崎博敏・世羅博昭・伴恒信・金子之史・田中春彦、2001、「学級規模の教育上の効果—教員調査を中心に」『教科教育学研究』第19集、255-273。

第2章 学級規模が授業に与える影響に関する実証的研究

—小学校を中心に—

西本 裕輝

Educational Effect of Class Size on Teaching and Learning

全国的に少人数学級化の動きが加速している。それは学級規模が小さければ小さいほど教育効果は高まるとする仮説に基づいていると言える。しかしながら、こうした仮説を支持する研究データはほとんどない。そうしたことから本研究では校長・教員を対象とした全国調査の結果から、学級規模と教育効果の関係について検証を行った。

分析から、学級規模が小さくなるほど教育効果は高まるという結果が得られた。これは校長調査の結果も教員調査の結果も同様である。このことから、少なくとも校長や教員の意識の上では、少人数教育の効果はあると結論づけることができる。

ただし、この結果からただちに「少人数学級化によって教育効果は高まる」「学級規模が小さいほど教育効果は高まる」と結論づけるわけにはいかない。今後行う児童生徒調査の結果も踏まえて、慎重に結論を出す必要がある。

キーワード：学力、学級規模、学校規模、教育効果

Key words: Academic Achievement, Class Size, School Size, Educational Effect

1. はじめに

近年、全国的に「少人数学級化」の動きが広がりつつある。これは、学習集団としての学級集団は、教育効率の面から考えて、できるだけ小規模の方がよいとする考えに基づいている。したがって、現在40人が標準とされている学級規模は、40人以下はもちろんのこと、今後は予算さえ許せば35人以下、30人以下、25人以下にしようという議論もあり、実際に推進している自治体も多数ある。またそれに関連する文部科学省の最近の動きとしては、2005年5月、「教職員配置等の在り方に関する調査研究協力者会議」を立ち上げたこと、また、2005年7月、学校の裁量で学級の人数を変えることができるよう法改正を行う方針を固めたことなどが挙げられる。

このように見ると、近年全国各地で「少人数学級化」の流れが強くなっていると言ってよいだろう。そしてそこには、学習効果は少人数であればあるほど上がる、したがって政策として少人数学級化を進めるべきであるという前提があるだろう。

しかしながら、そうしたいわば常識を支える基礎データは充分とは言えない。すなわち、議論の根拠となるデータの検証が充分に行われているとは残念ながら言えないように思われる。

これまでの我が国における代表的な研究としては、国立教育政策研究所（2004）によるものがある。この研究では学級規模と学力の関係を分析しようとしているが、統計的に詳細な分析を行っているとは言い難い。しかも、ここでは学級規模が小さければ学習効果が高まるという結論には至っていない。一方、山崎ら（2002）の研究では、学級規模が小さ

くなるほど教授、学習面及び学校生活、生徒指導の側面での順調度が高いという結果を導いてはいるが、サンプル数が比較的少ない等の問題があった。

以上の先行研究における不足部分を補いながら、本研究では、学級規模の教育効果について改めて問い直すため、全国教員調査による大量のサンプルを使っての分析を試みる。また、分析方法も多変量解析等を用い、できるだけ学級規模の純粋な効果を明確に導き出すことを試み、今後の政策を進める上での重要なデータを提供することを目的とする。

なお、ここで言う教育効果とは、主に学習効果を指すものとする。より具体的には、児童生徒の学習順調度や教員の学習指導順調度に対して、学級規模がどのような影響を与えているか等について検討を行う。

2. 調査の概要

(1) 調査の概要

表 2-1 校長票の内訳

	回収数 (校長の人数)			
	国立	公立	私立	合計
小学校	37	748	21	806
中学校	38	327	6	371
中高併置	3	0	29	32
小中併置	0	9	1	10
特殊教育	0	3	0	3
合計	78	1,087	57	1,222

表 2-2 教員票の内訳

	回収数 (教員の人数)			
	国立	公立	私立	合計
小学校	202	3,901	94	4,197
中学校	189	1,796	46	2,031
中高併置	18	0	150	168
小中併置	0	36	6	42
合計	409	5,733	296	6,438

調査は校長調査と教員調査からなる。2004年12月、全国の小中学校 34,967校のうち、国立 1/1、公立 1/10、私立 (小 1/2・中 1/5) の割合で抽出した計 3,804校に「学級規模と少人数学習に関する全国校長調査」および「学級規模と少人数学習に関する全国教員調査」を郵送した。1校につき校長質問紙1枚、教員質問紙6枚を配布した。教員質問紙の配布数は 22,824枚である。

(2) 回答者の属性

2005年3月までに校長 1,222人 (回収率 32.1%) の有効回答を得た (表 2-1 参照)。また、教員については 1,260校 (回収率 33.1%) の 6,438人 (回収率 28.2%) から有効回答を得た (表 2-2 参照)。

質問項目としては、学級規模、学校規模、学校の設置形態、学校の所在地域、教職経験年数、TT実施状況、少人数教育実施状況、児童生徒の学習順調度、教員の学習指導順調度、等に関するものである。

次に調査対象者の属性を確認しておきたい。表 2-3 は校長調査の有効回答から判明した校長の属性をまとめたものである。男性が圧倒的に多いことがわかる。

また表 2-4 は教員調査によって得られたデータから教員の属性をまとめたものである。

表 2-3 校長の属性

		人数	%
性別	男	1,056	86.8
	女	160	13.2
所在地	市街地	583	48.3
	農村部	434	35.9
	へき地	191	15.8
複式学級	あり	153	12.6
	なし	1,057	87.4

表 2-4 教員の属性

		人数	%
性別	男	3,140	49.1
	女	3,258	50.9
年齢	20歳代	558	8.7
	30歳代	1,786	27.9
	40歳代	3,013	47.0
	50歳以上	1,049	16.4
教職経験年数	2年未満	226	3.5
	2年以上	330	5.2
	5年以上	648	10.1
	10年以上	2,297	35.9
	20年以上	2,892	45.2
職位	常勤講師	228	3.6
	教諭	5,986	93.4
	教頭	151	2.4
	その他	45	0.7
担当学年	小1	706	11.2
	小2	629	10.0
	小3	741	11.8
	小4	645	10.2
	小5	736	11.7
	小6	667	10.6
	中1	924	14.7
	中2	664	10.5
	中3	588	9.3
担任	学級担任	4,956	78.2
	学級副担任	710	11.2
	いずれもしていない	672	10.6
単複	単式学級	5,876	93.8
	複式学級	318	5.1
	特殊教育学級(75条の学級)	71	1.1
少人数学習	現在実施している	2,092	33.3
	かつて実施したことがある	1,370	21.8
	実施したことがない	2,822	44.9
ティーム・ティーチング	現在、実施している	2,260	35.9
	かつて実施したことがある	2,509	39.9
	実施したことがない	1,522	24.2

3. 学習順調度・学習指導順調度に関する項目の要約

まず、詳細な分析に入る前に、教育効果の変数を縮約しておきたい。具体的には、教育効果を見学生徒の学習が順調かどうか、教員の学習指導が順調かどうかでとらえ、それらをとらえる項目を主成分分析によってまとめ、後の分散分析や重回帰分析に用いたいのである。

まず、校長調査の結果である。見学生徒の学習順調度をとらえるための8項目を主成分分析にかけた結果が表3-1である。具体的項目については表を参照していただきたいが、3つの成分を抽出したが、後の分析では固有値、寄与率等を勘案して、成分1（の主成分得点）を用いることにする。成分1を「見学生徒の学習順調度」と命名しておく。

表3-1 見学生徒の学習順調度の主成分分析結果（校長調査）

	成分		
	1	2	3
授業中、見学生徒は教員の話をよく聞いている	.831	-.063	-.070
チャイムが鳴ったら着席して教員の到着を待っている	.747	-.014	-.154
平常の授業内容を子どもたちはおおそ理解している	.566	-.181	.283
宿題をやってこない子どもがいる	-.053	.833	.101
授業に集中しない子どもがいる	-.252	.795	.197
学級内の見学生徒の到達度に幅がありすぎると思う	.008	.578	-.342
逆に授業内容がやさしすぎて退屈している子どもがいる	-.134	.194	.760
分からないことがあると子どもはよく質問する	.412	-.208	.453

次に、教員の学習指導がどの程度順調に行えているかについての主成分分析結果である。表3-2に結果を示すが、分析では2つの成分が抽出されたが、先ほどと同様に、成分1に「教員の学習指導順調度」と命名し、後の分析では成分1の主成分得点を用いることにする。

同様に、表3-3、表3-4には教員調査の結果を示しておく。同様に、表3-3の成分1を「見学生徒の学習順調度」、表3-4の成分1を「教員の学習指導順調度」と命名し、後の分析ではそれらの主成分得点を用いることにする。

表3-2 教員の学習指導順調度の主成分分析結果（校長調査）

	成分	
	1	2
一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある	.904	.050
理解できない子どもに繰り返し指導する時間がある	.883	.151
理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	-.440	-.277
教員は子どもが授業をどの程度理解しているか把握できている	.001	.907
一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	.378	.748

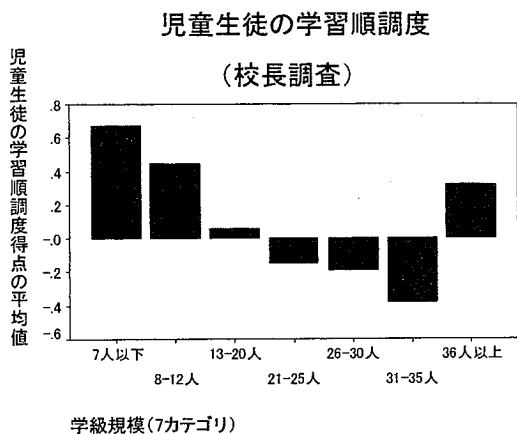


図 4 - 1

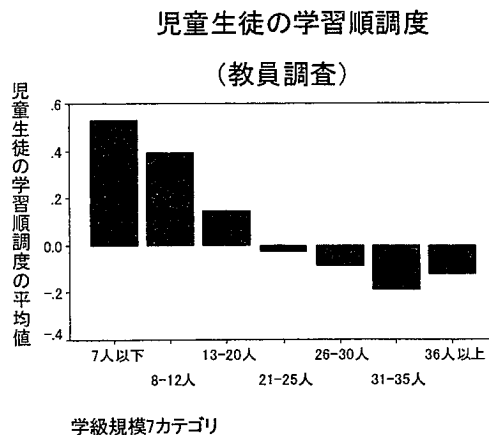


図 4 - 2

(2) 教員の学習指導順調度

次に教員の学習指導順調度について見てみよう。

図 4-3 は校長調査で得られた教員の学習指導順調度の結果であるが、同様の傾向を示している。ここでも概して規模が小さいほど学習指導がやりやすいという傾向は見て取れるが、31～35人を底として、再び上昇に転じている。

図 4-4 は学習順調度の教員調査の場合であるが、ほぼ同様の結果が得られた。31～35人が底であるということは変わらない。ただし、大きく上昇に転じるというわけではなく、むしろプラトーとなっている。

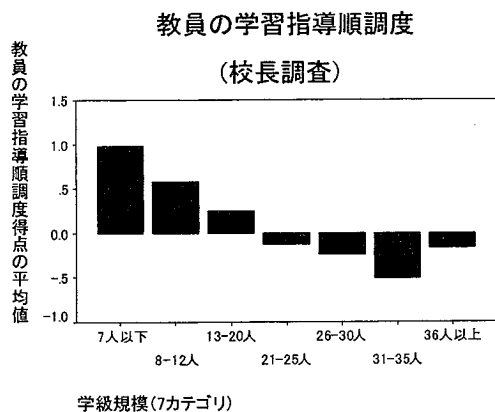


図 4 - 3

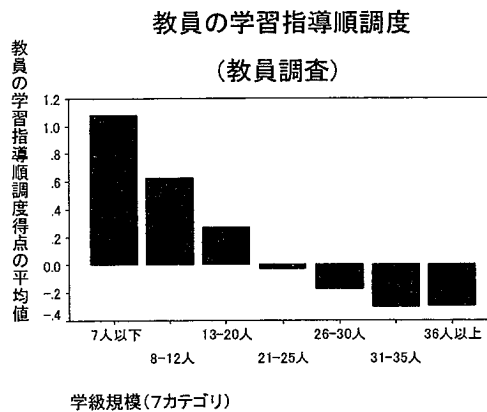


図 4 - 4

いずれにしても以上の結果から、直線的な関係、すなわち、学級規模が小さくなるほど学習効果が高まるという結果にはなっていない。これは条件によっては、学級規模が大きくても学習指導が順調に行えることを示唆する結果とも言える。

表 3-3 児童生徒の学習順調度の主成分分析結果（教員調査）

	成分		
	1	2	3
宿題をやってこない子どもがいる	.783	-.088	-.046
授業に集中しない子どもがいる	.769	-.252	-.086
学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う	.557	.197	-.219
逆に授業内容が易すぎて退屈している子どもがいる	.387	-.192	.093
チャイムが鳴ったら着席して教師の到着を待っている	-.093	.819	-.030
授業中、児童生徒は教師の話をよく聞いている	-.155	.747	.290
分からないことがあると子どもはよく質問する	-.030	-.054	.825
平常の授業内容を子どもたちはおおよそ理解している	-.089	.310	.631

表 3-4 教員の学習指導順調度の主成分分析結果（教員調査）

	成分	
	1	2
理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	.755	-.214
一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある	.728	-.252
一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	.722	-.145
子どもが授業をどの程度理解しているか、把握できている	.583	.016
宿題をやってこない子どもがいる	-.053	.840
授業に集中しない子どもがいる	-.109	.822
理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	-.270	.540

なお、表 3-3 の成分 1 は学習が順調にっていない様子を示す項目からなっている。後の分析では、解釈しやすいように主成分得点を逆数に変換した数値を用いる。

4. 分散分析による学級規模と学習順調度との関係の検討

では、先ほど抽出した主成分をもとにして、学級規模と学習状況の関連について検討してみたい。ここで言う「学習状況」とは、先ほどの「児童生徒の学習順調度」と「教員の学習指導順調度」のことである。これらの主成分得点はいわば「学習の順調度得点」である。その得点を一元配置分散分析にかけ、学級規模と学習順調度の関係を検討する。

(1) 児童生徒の学習順調度

まず、図 4-1 は、児童生徒の学習順調度について校長調査で尋ねた結果である。結果は分散分析の結果 1%水準で有意であった（以下同様）。これを見ると、少人数であれば学習は順調であると言えるが、31～35 人の規模を底として、それ以上では再び上昇するという傾向がうかがえる。つまり、規模が小さければ学習効果も高まるという直線的な関係ではないことが示唆されている。

また、図 4-2 は同じく教員調査で得られた児童生徒の学習順調度の結果であるが、やはり同様の傾向がある。すなわち、31～35 人が底となっている傾向は変わらない。

(3) 公立校の結果

ただし、注意しなければならないのは、36人以上のカテゴリーの中に、国立・私立校の占める割合が高い点である。我が国の国立小中学校、私立小中学校の人数は多い傾向にあるからである。よって参考までに、公立校のみで同様の分析を行った結果が次の四つの図である。

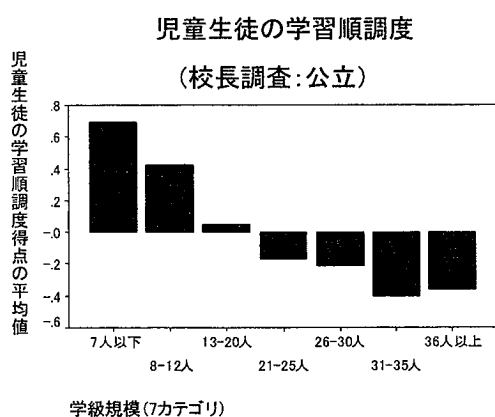


図4-5

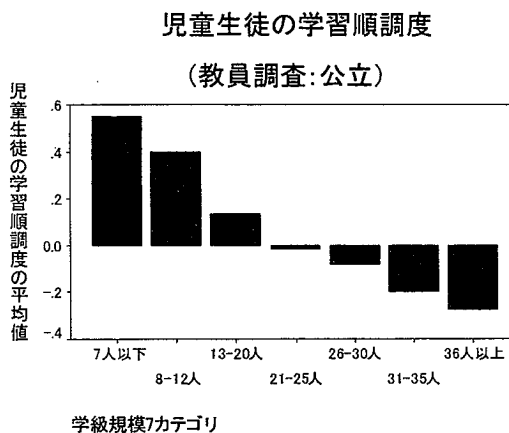


図4-6

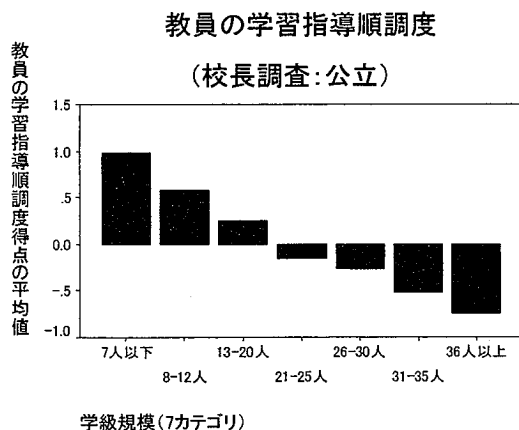


図4-7

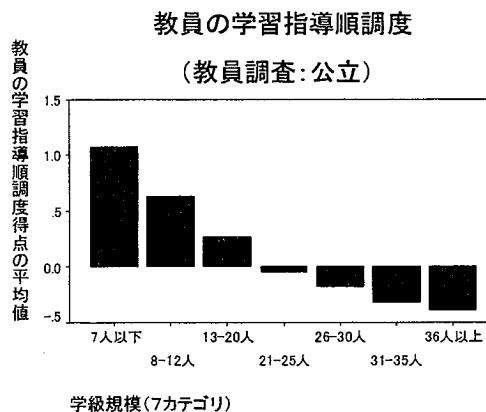


図4-8

これらの結果を見ると、おおむね直線的な結果となっていると言っていじらう。つまり、国立・私立校では、ある程度学級規模が大きくても学習効果を上げることができているということであるが、公立校では、学級規模が大きくなるほど学習効果は低下していくという直線的な関係となっていると推察できる。いずれにしても、なぜ国立・私立校は学級規模が大きいにも関わらず学習効果をあげているかという問題が残るが、分散分析だけでは、国立・私立校の持つ教育効果を統制したうえでの学級規模の純粋な効果を検討することはできない。そうしたことを導く分析には重回帰分析が適している。よって次には、重回帰分析により、その他の変数の効果も合わせて学級規模の効果を検討してみたい。

なお、以降の分析では議論の拡散を避けるため、小学校のデータのみに着目して分析を進めたい。

5. 重回帰分析による学級規模と学習順調度との関係の検討

最後に重回帰分析により、学級規模等と教育効果との関係について検討したい。

表 5-1、表 5-2 は、重回帰分析で用いる独立変数の一覧である。校長調査と教員調査で若干質問項目が違うため、独立変数もそれぞれ異なるが、整理しているので随時参照いただきたい。

表 5-1 重回帰分析に用いた説明変数とその内容（校長調査）

説明変数	その内容
学級規模	1 学級あたりの平均児童生徒数
学校規模	当該学校の児童生徒数
市街地	市街地=1、市街地以外=0のダミー変数
公立	公立=1、公立以外=0のダミー変数

表 5-2 重回帰分析に用いた説明変数とその内容（教員調査）

説明変数	その内容
男性	男性=1、女性=0のダミー変数
教職経験年数	2年未満=1、2年以上=1、5年以上=3、10年以上=4、20年以上=5
公立	公立=1、公立以外=0のダミー変数
市街地	市街地=1、市街地以外=0のダミー変数
学校規模	勤務校の児童生徒数 50人未満=1、50-99人=2、100-199人=3、200-499人=4、500-999人=5、1000人以上=6
少人数指導	現在少人数指導を実施している=1、実施していない=0のダミー変数
TT	現在ティーム・ティーチングを実施している=1、実施していない=0のダミー変数
学級規模	7人以下=1、8-12人=2、13-20人=3、21-25人=4、26-30人=5、31-35人=6、36-40人=7、41人以上=8

(1) 児童生徒の学習順調度

次の表は、「児童生徒の学習順調度」を従属変数として、学級規模等を独立変数として重回帰分析を行った結果である。

例えば、表の左側を見てみよう。校長調査における児童生徒の学習順調度の規定要因を検討したものであるが、これによると、「公立」がマイナスの有意な影響を、「学級規模」がマイナスの有意な影響を与えていることが明らかになる。つまり、公立よりも国立・私立の方が、学級規模が小さい方が、学習が順調であると解釈できる。そして、 β 値から「学級規模」の影響が大きい。

次に表の右側で教員調査の場合で見てみよう。結果から、市街地の方が都市部よりも、公立の方が私立よりも、学校規模が大きいほど、学級規模が大きいほど、学習順調度は低く、教職経験年数が長いほど学習順調度が高いことを示している。また他の変数に比べ学級規模の影響がおおむね大きいことがわかる。

表 5-3 児童生徒の学習順調度の規程要因分析（小学校）

<独立変数>	校長調査		教員調査	
	小学校	確率	小学校	確率
市街地	-0.027		-0.043	
公立	-0.252	**	-0.140	**
学校規模	0.021		-0.095	**
学級規模	-0.278	**	-0.129	**
男性			-0.022	
教職経験年数			0.062	**
少人数教育実施			-0.012	
IT実施			-0.007	

※数値はβ値

(2) 教員の学習指導順調度

次に、同様の独立変数を用いて教員の学習順調度について分析した結果が、次の表 5-4 である。ここでも学級規模の影響が一貫して強いことが明らかになる。

表 5-4 教員の学習指導順調度の規程要因分析（小学校）

<独立変数>	校長調査		教員調査	
	小学校	確率	小学校	確率
市街地	0.012		0.038	
公立	-0.147	**	-0.134	**
学校規模	-0.167	**	-0.196	**
学級規模	-0.298	**	-0.314	**
男性			0.002	
教職経験年数			0.013	
少人数教育実施			0.047	**
IT実施			-0.009	

※数値はβ値

例えば、左の校長調査の結果であるが、学級規模（が大きいこと）がマイナスの影響を与えており、影響の強さも他の変数に比べて大きい。またそうした傾向は教員調査の場合もほぼ変わらない。

以上の重回帰分析の結果をまとめると、学級規模（の大きさ）が学習効果に対して常にマイナスの影響を与えているというところが見出せる。すなわち、学級規模は、他の変数の影響を除いたとしても、純粋に学習効果に対して常に影響を与える重要な変数であり、規模が大きくなるほど学習効果は下がるという傾向も一貫している。

6. おわりに

以上の結果を総括すると、学級規模が小さくなるほど学習効果が高まるということが言えそうである。それは重回帰分析の結果から、学級規模が常に一定以上の影響を与えていることから明らかである。またそうした傾向は、校長調査の場合でも教員調査の場合でも変わらず、学校規模や私立校などの影響を排除してうえでも変わらない。

ただし、学級規模が大きくても学習効果がある程度あげている場合（国立・私立校）もあり、工夫次第では学級規模が大きくても学習効果を上げられる可能性もあり、さらに検

討を要するところである。

また今回は児童・生徒に直接行った調査ではないので、今後、実際に児童・生徒の学力を測定した上で、さらなる客観的分析を試みる予定である。今回の結果は、あくまでもいわば「教員側から見た少人数学級の効果」にすぎない。したがって本研究で結論的に言えるとすれば、少なくとも校長や教員から見れば、少人数学級の効果はある、ということである。

実は、本研究の継続として小中学生を調査対象とした研究を現在進めているが、今回の校長・教員調査ほど明確な学級効果の影響が出ていない。つまり、少人数学級の効果は校長・教員が思うほどはない、という可能性もある。

さらに言えば、児童生徒の家庭環境の影響が学習に対して小さくないことは数々の教育社会学の先行研究で明らかになっている（例えば、荻谷・志水他 2004,ブルデュー他 1970）。今のところ進行中の分析からわかっているのは、どうやら少人数学級の効果はそうした家庭環境の格差を打ち消すほどではないということである。そうしたことも今後の検討課題としたい。

<参考文献>

Bourdieu, P. & Passeron, J.C. 1970, 宮島喬訳『再生産』藤原書店。

原純輔・盛山和夫 1999, 『社会階層 豊かさの中の不平等』東京大学出版会。

Ishida, H. 1993, *Social mobility in contemporary Japan*, Macmillan.

今田高俊編 2000, 『社会階層のポストモダン（日本の階層システム5）』東京大学出版会。

荻谷剛彦・志水宏吉編 2004, 『学力の社会学』岩波書房。

国立教育政策研究所 2004, 「少人数指導の教育効果に関する調査」『教育委員会月報』8月号,31-36頁。

桑原敏明編 2002, 『学級編制に関する総合的研究』多賀出版。

杉江修治編 2003, 『子どもの学びを育てる少人数授業—犬山市の提案—』明治図書。

山崎博敏・世羅博昭・伴恒信・金子之史・田中春彦, 2001 「学級規模の教育上の効果—教員調査を中心に」『教科教育学研究』第19集,255-273頁。

山崎博敏・世羅博昭・伴恒信・金子之史・田中春彦, 2002 「学級規模の教育的効果：児童生徒調査を中心に」『教科教育学研究』第20集,107-124頁。

第3章

学校・学級規模と授業方法が授業に与える影響

— 中学校教員の教科別分析 —

藤井宣彰・水野 考・山崎博敏

Educational Effect of Class Size and Teaching Methods on Teaching and Learning:
Differences among Subjects of Junior High School Teachers

Nobuaki Fujii, Kou Mizuno and Hirotohi Yamasaki

Teaching and learning in public junior high school were assessed by teachers. It was found that class size has negative effect on student's learning in math. And it has also negative effect on teacher's teaching in Japanese, Social Studies, Science and English. The smaller the class size is, the easier the teaching. It was also found that small group teaching method was useful especially in English.

Key words: School Size, Class Size, Educational Effect, Teaching and Learning

キーワード：学校規模，学級規模，教育効果，授業，中学校

1. 研究の目的と背景

本論文の目的は、中学校教員に対する全国質問紙調査のデータに基づき、学校・学級規模の大小や、チーム・ティーチング（TT）および少人数学習の実施によって中学校における授業の状況がどのように異なっているかを考察することにある。その際、特に教科による違いについても分析検討する。

1990年代はじめに40人学級が実現したあと、学級規模を40人以下に小規模化することは断念された。代わって、1993年度からの第6次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画ではチーム・ティーチング、2001年度から2005年度までの第7次計画では少人数による授業など、指導方法の工夫による個に応じた教育が展開されてきた。

さらに1998年の中教審答申「今後の地方教育行政の在り方」を受けて、文部科学省は2001年に都道府県教育委員会が国の標準を上回る基準を定めることができるようにした。さらに、2005年には、学校の裁量で学級の人数を変えることができるよう法改正を行った。その結果、40人以下の学級編制を行う地方自治体が増加するとともに、犬山市のように、少人数学習やティー

ム・ティーチングを地方自治体独自に実施するところも増えている。

我が国ではこれまで学級規模に関する研究は、1950年代から1980年代までに数多くの実証研究が行われてきたが、近年は下火の傾向にある。その中で、加藤幸次（1990, 1991）、民主教育研究所「教職員」研究委員会（1999）、高浦勝義（2000, 2001）、桑原編（2002）、香川大学教育学部附属坂出中学校（1993）、杉江編（2003）などの研究がある。

しかしながら、小規模な学級はそうでない学級に比べてどの程度優れているのか、TTや少人数学習を実施している場合と実施していない場合ではどのように異なっているかについては、我が国ではデータに基づく厳密な分析を踏まえた検証が充分に行われているとは言えないように思われる。高浦は学級規模と学力の関係进行分析しようとしているが、統計的に厳密な分析を行っているとは言い難い。杉江らの調査結果は貴重であるが、TTや少人数学習の指導を行っている教師だけの調査である。

本稿では、学級規模や指導方法の教育効果について改めて問い直すため、全国調査による大量のサンプルを多変量解析によって分析することにより、学級規模

や様々な指導方法の純粋な教育効果を明確に導き出すことを試みる。

美術70名、技術家庭135名、英語333名である。表1に各教科別の学級規模の分布を示す。

2. 全国教員調査の概要

本稿で用いたデータは、本稿と同じく平成18年度広島大学大学院教育学研究科紀要に掲載されている「学校・学級規模が児童生徒の学校生活に与える影響」で用いたものと同じである。調査の詳細はそちらの拙稿を参照していただきたい。

本稿で分析対象とする教員は、公立中学校の1,796名である。教員の担当教科は、国語291名、社会292名、数学374名、理科286名、保健体育118名、音楽57名、

表1 担当教科別学級規模 (%)

学級規模	国語	社会	数学	理科	英語	全教科
7人以下	4.1	6.2	3.6	6.3	5.2	5.4
8-12人	5.5	4.8	5.8	3.9	4.0	4.7
13-20人	5.5	5.2	8.8	5.3	12.8	7.9
21-25人	9.6	10.3	10.2	8.5	11.6	9.4
26-30人	14.4	14.8	15.7	14.8	14.6	13.7
31-35人	29.9	28.3	30.5	34.9	24.0	29.4
36人以上	30.9	30.3	25.5	26.4	28.0	29.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実数	291	290	364	284	329	1764

表2 公立中学校各教科担当教員による授業状況の所見（「そう思う」）の%

	教科	7人以下	8-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36人以上	全体	p	
		国語	33.3	75.0	31.3	33.3	40.5	34.1	20.2		32.8
生徒の学習状況	分からないことがあると子どもはよく質問する	社会	41.2	42.9	28.6	33.3	31.0	36.6	30.6	33.8	
		数学	33.3	35.0	40.6	25.0	45.6	39.6	38.7	38.5	
		理科	50.0	54.5	40.0	29.2	36.6	31.9	33.8	35.4	
		英語	47.1	54.5	55.0	39.5	33.3	42.1	41.8	42.7	
	宿題をやっこない子どもがいる	国語	41.7	50.0	75.0	66.7	83.3	75.3	80.9	74.6	*
		社会	47.1	71.4	85.7	70.0	59.5	74.1	76.5	71.0	
		数学	25.0	55.0	87.5	63.9	75.4	82.9	84.9	77.3	***
		理科	50.0	63.6	73.3	79.2	73.2	70.5	74.3	71.2	
	授業に集中しない子どもがいる	英語	41.2	63.6	85.0	89.5	85.4	88.2	86.8	83.8	***
		国語	8.3	37.5	68.8	55.6	81.0	68.2	85.4	70.0	***
		社会	35.3	57.1	64.3	66.7	61.9	73.2	72.9	67.3	
		数学	33.3	45.0	65.6	55.6	57.9	72.1	76.1	65.8	**
学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎと思う	理科	44.4	63.6	46.7	75.0	78.0	77.9	77.0	73.0	**	
	英語	47.1	54.5	80.0	81.6	68.8	82.7	81.1	76.8	*	
	国語	58.3	78.6	43.8	59.3	69.0	67.9	78.4	69.3		
	社会	56.3	61.5	71.4	62.1	58.5	70.1	73.2	67.3		
あなたの授業内容を十分に理解できない子どもはどの程度いますか（5段階中10-20%の回答の%）	数学	75.0	78.9	80.6	83.3	81.8	84.0	81.5	82.1		
	理科	66.7	72.7	71.4	62.5	63.4	72.0	75.3	70.4		
	英語	76.5	72.7	89.5	75.0	77.1	82.4	83.0	81.1		
	国語	45.5	58.3	62.5	64.0	45.0	46.9	41.4	47.8		
理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	社会	58.8	35.7	28.6	29.6	39.0	39.7	50.6	42.3	**	
	数学	36.4	30.0	50.0	45.7	33.3	38.3	38.9	39.0		
	理科	31.3	50.0	66.7	30.4	40.0	32.6	42.3	38.6		
	英語	62.5	44.4	38.5	33.3	34.8	37.5	37.5	38.2		
一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	国語	33.3	68.8	68.8	66.7	81.0	65.9	81.6	71.9	**	
	社会	82.4	92.9	92.9	80.0	90.2	74.4	83.5	82.3	**	
	数学	66.7	90.0	90.6	69.4	71.9	86.5	86.0	82.3		
	理科	61.1	54.5	86.7	75.0	73.2	75.8	82.4	75.9		
理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	英語	58.8	63.6	77.5	73.7	77.1	84.2	78.0	77.3		
	国語	83.3	87.5	50.0	29.6	16.7	23.5	6.7	25.4	***	
	社会	70.6	64.3	35.7	36.7	9.8	11.1	15.7	22.5	***	
	数学	75.0	65.0	53.1	52.8	39.3	31.5	35.5	41.1	*	
一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある	理科	50.0	54.5	80.0	16.7	15.0	10.5	11.0	19.9	***	
	英語	88.2	72.7	55.0	31.6	38.3	29.3	27.5	38.2	***	
	国語	25.0	20.0	12.5	3.7	4.8	8.2	5.6	8.0	**	
	社会	23.5	14.3	7.1	6.7	11.9	4.9	4.7	7.8	*	
	数学	16.7	25.0	3.1	13.9	15.8	6.3	8.6	10.2	*	
	理科	22.2	36.4	20.0	4.2	7.3	4.2	2.7	7.6	***	
	英語	47.1	18.2	10.0	10.5	8.3	9.2	11.0	12.1	***	
	国語	33.3	13.3	25.0	3.7	0.0	2.4	3.4	5.6	***	
	社会	0.0	7.1	7.1	3.3	4.8	4.9	0.0	3.2	*	
	数学	16.7	10.0	0.0	5.6	7.0	1.8	2.2	3.9	*	
	理科	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	1.4	2.2	***	
	英語	23.5	18.2	2.5	2.6	2.1	0.0	2.2	3.4	***	

3. 学級規模別・教科別にみた授業の状況

表2は、各教科の担当教員に生徒の学習と教員の学習指導について、「そう思う」「どちらでもない」「そう思わない」の3件法で評価を求めた結果である。表中には、「そう思う」と回答した教員の割合を学級規模別に示している。右端の列にはカイ2乗検定の結果を示している。紙幅の都合により、主要な項目のみ示している。なお、「あなたの授業内容を十分に理解できない子どもはどの程度いますか」という質問に対しては、1. 50%以上, 2. 40-50%位, 3. 30-40%位, 4. 20-30%位, 5. 10-20%位という5段階の選択肢の内、「10-20%位」と回答した教員の割合を示している。

生徒の学習状況に関する項目をみると、「分からないことがあると子どもはよく質問する」の項目では、国語で有意な差がみられ、8-12人の規模で高くなっている。この75%は極端な数字であるが、他の教科をみても20-30人で低くなる傾向がある。「宿題をやってこない子どもがいる」、「授業に集中しない子どもがいる」では、多少の増減はあるが、おおむね大規模になるほど状況が悪くなる傾向にある。「学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う」では有意差はみられなかったが、数学以外の教科で8-12人または13-20人で一旦数値が高くなったあと、大規模学級で再び上昇するという動きになっている。「あなたの授業内容を十分に理解できない子どもはどの程度いますか」は数値が高いほど状況がよいという関係である。国語、数学、理科では20人前後で状況がよくなっており、社会は逆に20人前後で状況が悪くなるという動きを示している。英語は小規模ほどよいという結果である。

教員の学習指導に関する項目では、「理解不十分でも次の単元に進まざるを得ない」において国語と英語は大きいほど「そう思う」という回答が増える。数学と理科では30人前後で状況が好転している。社会では中規模において数値が高くなるようである。「一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く」では、理科において13-20人が最も高くなっているが、それ以外では規模が小さいほど目が行き届く様子が分かる。「理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある」では国語、社会、英語では規模が小さいほど丁寧に指導がなされているようだが、数学と理科では小さすぎる学級で数値が低くなっている。「一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある」は社会の数値が極端に低いが、その他の教科は規模が小さいほどゆきとどいた指導がなされているようである。

「理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある」、「一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある」は全体として「そう思う」教員が少なく、教員が生徒の学習指導に十分時間をかけられないと感じている様子が伺える。

4. 学習順調度と学習指導順調度：主成分分析による変数の要約

児童生徒の学習状況に関する質問項目と教員の学習指導に関する質問項目に対してそれぞれ主成分分析を行い、変数の要約を行った。その結果が表3である。

主成分分析の結果抽出された2つの第1主成分は、それぞれの質問項目群の総合的な順調度を表しており、数値が高いほど順調度が高いというものになった。そこで、これらの第1主成分を「児童生徒の学習順調度」、「教員の学習指導順調度」と命名する。以下では、これらの第1主成分得点を用いて分析を行う。

表3 教員による授業状況の主成分分析結果

第1主成分:児童生徒の学習順調度		負荷量
児童生徒の学習状況	平常の授業内容を子どもたちはおおよそ理解している	0.533
	逆に授業内容が易しすぎて退屈している子どもがいる	-0.333
	チャイムが鳴ったら着席して教師の到着を待っている	0.499
	授業中、児童生徒は教師の話をよく聞いている	0.649
	分からないことがあると子どもはよく質問する	0.337
	宿題をやってこない子どもがいる	-0.603
	授業に集中しない子どもがいる	-0.696
	学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う	-0.353
	あなたの授業内容を十分に理解できない子どもはどの程度いますか	0.426
		固有値 2.331 寄与率 25.9%
第1主成分:教員の学習指導順調度		負荷量
教員の学習指導	理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	-0.514
	子どもが授業をどの程度理解しているか把握できている	0.493
	一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	0.698
	理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	0.794
	一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある	0.788
		固有値 2.25 寄与率 44.9%

5. 生徒の学習順調度

(1) 学級規模別にみた順調度

前節の主成分分析によって抽出された主成分のうち、生徒の学習順調度について分析を行う。表4は、

各教科別担当教育による生徒の学習順調度の学級規模別平均値を示している。図1は表4をグラフ化したものである。いずれの教科でも、学級規模による有意な差が見られる。国語と英語では、学級規模が大きくなるほど順調度が低くなるという直線的な関係になっている。社会は13-20人より大きい学級は順調度が横ばいになっている。数学では、おおむね小さい方が順調という関係になっているが、21-25人、26-30人で順調度が少し上昇している。理科では、小さい学級の順調度はむしろ低く、13-20人において最も順調度が高くなっており、学級の適正規模の存在が示唆される。

表4 生徒の学習順調度の学級規模別平均値

	7人以下	8-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36人以上	全体	P
国語	0.584	0.211	0.183	0.162	-0.219	-0.206	-0.463	-0.183	***
社会	0.597	0.133	-0.349	-0.147	-0.287	-0.187	-0.296	-0.176	*
数学	0.520	-0.029	-0.293	-0.204	-0.188	-0.398	-0.572	-0.333	**
理科	0.071	0.073	0.447	-0.274	-0.146	-0.496	-0.309	-0.265	**
英語	0.498	0.102	-0.312	-0.312	-0.380	-0.504	-0.347	-0.323	**

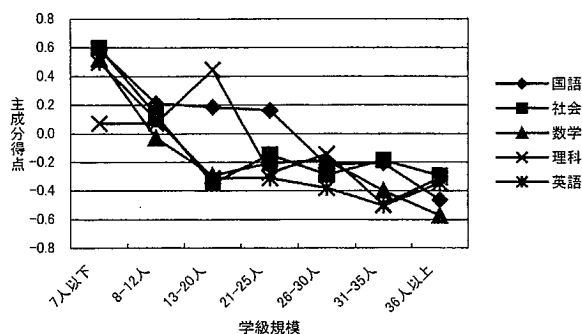


図1 生徒の学習順調度の学級規模別平均値

(2) 重回帰分析による検討

ここまで、学級規模別の順調度を検討したが、この順調度の差は学級規模だけの影響なのかどうかは分か

らない。重回帰分析を行い、他の変数を統制した場合の学級規模の効果を検証する。重回帰分析に用いた変数は以下のようなものである。

- ・男性：男性 = 1, 女性 = 0 のダミー変数
- ・教職経験年数：2年未満 = 1, 2年以上 = 2, 5年以上 = 3, 10年以上 = 4, 20年以上 = 5
- ・市街地：市街地 = 1, 市街地以外 = 0 のダミー変数
- ・学校規模：勤務校の児童生徒数 50人未満 = 1, 50-99人 = 2, 100-199人 = 3, 200-499人 = 4, 500-999人 = 5, 1,000人以上 = 6
- ・学級規模：7人以下 = 1, 8-12人 = 2, 13-20人 = 3, 21-25人 = 4, 26-30人 = 5, 31-35人 = 6, 36人以上 = 7
- ・少人数：現在少人数指導を実施している = 1, 実施していない = 0 のダミー変数
- ・TT：現在ティーム・ティーチングを実施している = 1, 実施していない = 0 のダミー変数

表5は、「児童生徒の学習順調度」を従属変数として、学級規模等を独立変数として重回帰分析を行った結果である。決定係数はあまり高くないが、社会を除き、モデルは有意である。学級規模は数学でマイナスの有意な影響を与えており、学級規模が小さいほど学習が順調であることが分かる。ただし、数学以外の教科では有意な影響を与えていなかった。また、学校規模はいずれの教科でも有意ではなかった。学級・学校規模以外では、数学で教職経験年数が長いほど生徒の学習順調度が高くなっており、英語で少人数教育の実施がプラスの影響を与えていた。

表5 生徒の学習順調度

	国語			数学				社会			理科			英語					
	B	標準誤差	ベータ ^p	B	標準誤差	ベータ ^p	p	B	標準誤差	ベータ ^p	p	B	標準誤差	ベータ ^p	p	B	標準誤差	ベータ ^p	p
(定数)	0.450	0.295		-0.212	0.293			0.738	0.350		*	0.006	0.308			0.276	0.263		
男性	0.049	0.121	0.025	-0.124	0.128	-0.053		-0.187	0.191	-0.062		0.021	0.148	0.009		-0.055	0.112	-0.029	
教職経験年数	0.087	0.058	0.095	0.127	0.047	0.147	**	-0.072	0.068	-0.070		0.090	0.055	0.105		-0.016	0.047	-0.020	
学校規模	-0.125	0.087	-0.153	-0.012	0.071	-0.015		0.015	0.096	0.018		-0.092	0.079	-0.126		-0.084	0.071	-0.111	
学級規模	-0.108	0.057	-0.185	-0.101	0.042	-0.171	*	-0.094	0.060	-0.165		-0.075	0.051	-0.140		-0.052	0.044	-0.098	
市街地	0.087	0.150	0.045	-0.150	0.134	-0.077		-0.019	0.160	-0.010		0.156	0.143	0.086		0.032	0.136	0.017	
少人数	-0.070	0.186	-0.024	0.091	0.115	0.045		0.100	0.225	0.030		-0.237	0.155	-0.099		0.305	0.111	0.166	**
TT	-0.046	0.194	-0.015	0.165	0.111	0.083		-0.142	0.195	-0.048		0.162	0.131	0.078		-0.181	0.110	-0.098	
R ²	0.084**			0.080***				0.043			0.065*			0.074**					
adjR ²	0.058			0.060				0.016			0.038			0.050					

6. 教員の学習指導順調度

(1) 学級規模別にみた順調度

次に、主成分分析によって算出された教員の学習指導順調度について分析を行う。表6は、教員の学習指導順調度の学級規模別平均値を示している。図2は表6をグラフ化したものである。いずれの教科でも、学級規模による有意な差が見られ、おおむね表4に示した生徒の学習順調度と同様の動きを示している。国語と英語では、学級規模が大きくなるほど順調度が低くなるという直線的な関係になっている。社会は多少の増減はあるものの、学級規模が大きくなるにつれて順調度が低くなっている。数学では、おおむね小さい方が順調という関係になっているが、21-25人、26-30人で順調度が少し上昇しており、学級の適正規模の存在が示唆される。理科では、20人を境にして小さい学級では順調度が高く、21人より大きい学級の順調度は低いという2分化した結果になっている。

(2) 重回帰分析による検討

生徒の学習順調度と同じ独立変数を用いて教員の学習指導順調度について分析した結果が、次の表7である。モデルは、すべての教科で有意になっており、生徒の学習順調度よりも決定係数は増加している。学級規模は国語、社会、理科、英語においてマイナスの有意な影響を与えている。また、学校規模は数学と理科でマイナスの有意な影響を与えている。学校・学級の規模が小さいほど教員の学習指導が順調に行われている様子が伺える。

また、少人数学習指導が国語、数学、英語において、TTが数学において、学習指導順調度にプラスの有意な影響を与えている。学習指導上の工夫が教員の学習

表6 教員の学習指導順調度の学級規模別平均値

	7人 以下	8- 12人	13- 20人	21- 25人	26- 30人	31- 35人	36人 以上	全体	P
国語	0.966	0.477	0.204	-0.155	-0.393	-0.302	-0.630	-0.278	***
社会	0.261	0.319	-0.227	-0.167	-0.386	-0.617	-0.580	-0.404	***
数学	0.489	0.372	-0.204	0.086	0.098	-0.300	-0.324	-0.133	***
理科	0.379	0.459	0.405	-0.344	-0.373	-0.599	-0.515	-0.361	***
英語	0.937	0.612	0.120	-0.336	-0.177	-0.396	-0.368	-0.178	***

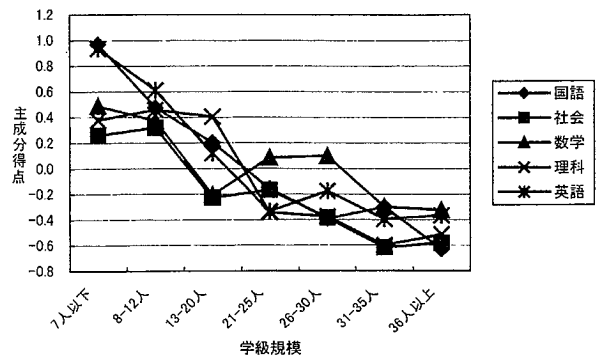


図2 教員の学習指導順調度の学級規模別平均値

指導を円滑にしている様子が伺える。

7. まとめ

以上の分析より、学級規模が生徒の学習および教員の学習指導に対してマイナスの影響を与えていることが明らかとなった。すなわち、他の変数の影響を除いたとしても、学級規模が小さいことは、学習や指導を順調にさせる効果がある。ただし、学級規模が生徒の学習に与える効果は限定的で、むしろ、教員の学習指導により大きな効果を与えている。

また、学校規模は生徒の学習の順調度には影響を

表7 教員の学習指導順調度

	国語				数学				社会				理科				英語			
	B	標準 誤差	ベータ	p	B	標準 誤差	ベータ	p	B	標準 誤差	ベータ	p	B	標準 誤差	ベータ	p	B	標準 誤差	ベータ	p
(定数)	0.643	0.267		*	0.187	0.252			-0.155	0.285			0.635	0.259		*	0.808	0.254		**
男性	0.081	0.109	0.042		0.032	0.113	0.015		0.289	0.156	0.107		-0.003	0.123	-0.001		-0.044	0.109	-0.022	
教職経験年数	0.080	0.052	0.088		0.040	0.041	0.051		0.113	0.054	0.124*		0.018	0.047	0.023		-0.049	0.046	-0.060	
学校規模	-0.148	0.079	-0.187		-0.140	0.063	-0.188*		-0.130	0.076	-0.182		-0.196	0.065	-0.295***		-0.076	0.069	-0.095	
学級規模	-0.169	0.052	-0.298***		-0.067	0.037	-0.124		-0.095	0.048	-0.190*		-0.099	0.042	-0.205*		-0.141	0.042	-0.255***	
市街地	0.191	0.134	0.100		0.080	0.119	0.045		-0.003	0.129	-0.002		0.239	0.120	0.144*		0.122	0.132	0.063	
少人数	0.395	0.161	0.139*		0.353	0.102	0.191***		-0.027	0.182	-0.009		0.117	0.129	0.054		0.357	0.108	0.184*	
TT	0.025	0.175	0.008		0.219	0.099	0.120*		-0.025	0.155	-0.010		0.090	0.110	0.047		-0.020	0.107	-0.010	
R ²	0.190***				0.095***				0.134***				0.167***				0.138***			
adjR ²	0.169				0.076				0.111				0.144				0.117			

たえていなかったが、数学と理科では、教員の学習指導を順調にする効果が認められた。

また、少人数学習指導は、国語、数学、英語の3教科については有効であると言う結果が得られた。しかし、TTについては、さほど大きな有効性を見いだせなかった。唯一、TTは数学における教員の学習指導にわずかにプラスの影響を与えていただけであった。

教員の属性では、性別はまったく影響していない。教職経験年数は生徒の学習では数学、教員の学習指導では社会でプラスの影響を与えており、これらの教科では経験のある教師ほど順調に授業を進められているようである。

今回のデータは、あくまで教員からみた児童生徒の学習状況に関するデータであった。今後は実際に児童・生徒の学力や学習の状況を測定した上で、さらなる客観的分析を試みる予定である。

【参考文献】

香川大学教育学部附属坂出中学校, 1993, 『学習集団の規律とその教育効果に関する研究』教育方法等改善課題報告書, 同中学校。

加藤幸次, 1991, 『学習集団の規模とその教育効果についての研究』(平成1年～2年度科学研究費補助金研究成果報告書), 国立教育研究所。

桑原敏明編, 2002, 『学級編制に関する総合的研究』多賀出版。

杉江修治編, 2003, 『子どもの学びを育てる少人数授業－犬山市の提案－』明治図書。

高浦勝義編, 2000, 『適正な学校・学級規模に関する校長及び教員の意識と指導及び勤務の実態に関する調査結果』(平成11年度～平成12年度科学研究費補助金研究成果報告書), 国立教育研究所。

山崎博敏・世羅博昭・伴恒信・金子之史・田中春彦, 2001, 「学級規模の教育上の効果－教員調査を中心に」『教科教育学研究』第19集, 255-273頁。

山崎博敏・世羅博昭・伴恒信・金子之史・田中春彦, 2002, 「学級規模の教育的効果－児童生徒調査を中心に」『教科教育学研究』第20集, 107-124頁。

第4章

学校・学級規模が児童生徒の学校生活に与える影響

藤井 宣彰

Educational Effect of School Size and Class Size on Students School Life

Nobuaki Fujii

Many aspects of school life in public elementary and junior high school was assessed by teachers. The smaller the class size is, the better quality of students' school life, and teachers' guidance. School size is also important for them, especially at junior high school. Class size and school size have more effect on teacher's life guidance than student's discipline.

Key words: School Size, Class Size, Educational Effect, Climate

キーワード：学校規模，学級規模，教育効果，学校生活

1. 研究の背景と目的

本論文の目的は、教員に対する全国質問紙調査のデータをもとに、学級規模によって児童生徒の学校生活がどのように異なっているかを検討することにある。

1990年代はじめに40人学級が実現したあと、学級規模を40人以下に小規模化することは断念された。

ところが、規制緩和の流れの中で策定された1998年の中教審答申「今後の地方教育行政の在り方」を受けて、文部科学省は2001年に都道府県教育委員会が国の標準を下回る基準を定めることができるようにした。さらに、2005年には、学校の裁量で学級の人数を変えられることができるよう法改正を行った。その結果、40人以下の学級編制を行う地方自治体が増加している。今後も全国各地で「少人数学級化」がより一層進行していくであろう。

我が国ではこれまで学級規模に関して、1950年代から1980年代までに数多くの実証研究が行われてきたが、近年、実証的な研究はそれほど多く行われていない。

学級規模と学校・学級での児童生徒の状況の間の関係を厳密な方法を使用して分析する研究としては、加藤幸次（1990, 1991）、民主教育研究所「教職員」研究委員会（1999）、高浦勝義（2000, 2001）、桑原編（2002）などがある。山崎ら（2001）は、重回帰分析を用いて

学級規模が小さくなるほど教授・学習面及び学校生活、生徒指導の側面での順調度が高いという結果を導いてはいるが、サンプル数が比較的少ない等の問題があった。

本稿では、学級規模の教育効果について改めて問い直すため、全国の約5,700人の教員から得られた質問紙調査のデータを使用して分析を試みる。また、分析方法も多変量解析等を用い、できるだけ学級規模の純粋な効果を明確に導き出すことを試みる。

2. 調査の概要

2004年12月、全国の小中学校34,967校のうち、国立1/1、公立1/10、私立（小1/2・中1/5）の割合で抽出した計3,804校に「学級規模と少人数学習に関する全国校長調査」および「学級規模と少人数学習に関する全国教員調査」を郵送した。1校につき校長質問紙1枚、教員質問紙6枚を配布した。教員質問紙の配布数は22,824枚である。

2005年3月までに教員1,260校（回収率33.1%）の6,438人（回収率28.2%）から有効回答を得た。本稿では、このうち、公立学校の教員（小学校3,901人、中学校1,796人）を分析対象とする。

調査対象校の学級規模は、表1に示している。41人以上の学級規模のサンプルが少ないため、36人以上を含めて分析を行う。調査対象教員の属性は表2に示す。

表1 教員が担当している学級規模の分布

	N		%	
	小学校	中学校	小学校	中学校
7人以下	349	96	9.1	5.4
8-12人	428	83	11.2	4.7
13-20人	539	139	14.0	7.9
21-25人	555	165	14.5	9.4
26-30人	722	242	18.8	13.7
31-35人	771	518	20.1	29.4
36-40人	458	520	11.9	29.5
41人以上	15	1	0.4	0.1
合計	3837	1764	100.0	100.0

表2 教員の属性

		小学校	中学校
性別	男	37.2	66.1
	女	62.8	33.9
年齢	20歳代	8.2	10.3
	30歳代	25.0	31.3
	40歳代	48.6	45.3
	50歳以上	18.2	13.1
教職経験年数	2年未満	3.3	4.2
	2年以上	4.9	6.3
	5年以上	8.7	12.5
	10年以上	32.3	38.1
所在地	市街地以外	56.4	51.6
	市街地	43.6	48.4
担任	学級担任	91.7	51.8
	学級副担任	0.6	33.3
	していない	7.7	14.9
担当教科 (「担当している」の%)	全教科	62.8	0.0
	国語	21.3	16.2
	社会	16.8	16.3
	算数・数学	25.4	20.8
	理科	13.4	15.9
	保健体育	17.1	6.6
	音楽	7.9	3.2
	美術・図工	14.8	3.9
	技術・家庭	6.9	7.5
	英語	1.0	18.5

3. 学級規模別にみた学校生活と生徒指導

表3は、教員に自校の児童生徒の学校生活と教員の生徒指導について、「そう思う」「どちらでもない」「そう思わない」の3件法で評価を求めた結果である。表中には、「そう思う」と回答した教員の割合を学級規模別に示している。右端の列にはカイ2乗検定の結果を示している。

小学校における児童の学校生活をみると、「子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている」では、学級規模が小さいほど良好であるという関係に

なっている。「教師の指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある」、「遅刻したり学校を休む子どもが多い」でも、学級規模が小さいほど状況がよくなる傾向がみられる。しかし、「子どもたちは個性を伸ばしている」では12人以下の小規模学級で肯定的な回答が多いが、36人以上の大規模学級でも肯定的な回答が少し多くなっており、一概に小さい方がよいとはいえない。

小学校における教員の生徒指導をみると、学級規模が小さいほど状況がよいという関係が一貫しており、学級規模が小さいほど指導が行き届いている様子が伺える。

中学校における生徒の学校生活では、「子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている」、「子どもたちは個性を伸ばしている」では学級規模が小さいほど良好であるという関係になっている。それ以外の項目では、小さい方がよいという傾向はあるものの、ばらつきが見られ、学級規模以外の要因も学校生活に影響していることが伺える。

中学校における教員の生徒指導でも、小学校と同様に多くの項目で、学級規模が小さいほど状況がよいという関係がみられる。しかし、「一人ひとりの子どもの心配事や悩み把握している」、「子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している」、「保護者とのコミュニケーションをとることは難しい」では、小規模ほどよいという傾向はあるものの、フラットな関係になっている。学校外で起こる事態に対しては、学級規模よりも、生徒や家庭、地域の特性が影響するのであろう。

4. 学校生活と生徒指導の順調度：主成分分析による変数の要約

表3に示した項目を、児童生徒の学校生活に関する項目と教員の生徒指導に関する項目に分類して主成分分析を行い、変数の要約を行った。その結果が表4である。

主成分分析の結果抽出された第1主成分は、いずれの場合もそれぞれの質問項目群の総合的な順調度を表しており、数値が高いほど順調度が高いというものになった。そこで、これらの第1主成分を「児童生徒の学校生活順調度」、「教員の生徒指導順調度」と命名する。以下では、これらの第1主成分得点を用いて分析を行う。

表3 教員による学校生活状況の所見（「そう思う」の%）

		7人 以下	8-12 人	13-20 人	21-25 人	26-30 人	31-35 人	36人 以上	全体	p	
小学校	児童生徒の 学校生活	子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている	31.8	33.6	28.9	26.5	24.6	20.0	19.7	25.6	***
		学級集団としてのまとまりがある	59.3	58.7	55.7	57.8	53.8	52.6	52.4	55.3	
		子どもたちは全体に伸びのびとしている	82.6	82.1	84.4	82.1	78.5	79.1	82.7	81.3	
		子どもたちは個性を伸ばしている	64.8	52.9	47.3	47.2	43.8	44.2	48.0	48.3	***
		教師の指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある	14.7	14.9	19.1	22.5	25.5	27.9	28.5	22.9	***
		遅刻したり学校を休む子どもが多い	3.8	5.2	4.1	5.0	6.9	9.2	8.2	6.4	***
	教員の生徒 指導	子どもたちの学校での日常生活に目が行き届いている	58.4	40.9	32.3	22.2	20.8	21.2	18.6	28.1	***
		子どもどうしの人間関係に目が行き届いている	59.3	40.2	35.6	24.6	19.6	21.5	20.5	29.0	***
		一人ひとりの子どもの話を聞いてやるゆとりがある	48.1	30.0	23.1	14.9	8.1	8.6	7.6	17.3	***
		一人ひとりの子どもの心配事や悩みを把握している	29.9	16.2	12.2	11.7	7.1	10.3	8.6	12.4	***
		子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している	32.2	19.3	14.9	11.6	9.2	10.2	7.8	13.6	***
		保護者とのコミュニケーションをとることは難しい	11.8	13.9	16.7	17.7	19.1	20.2	21.4	17.8	***
		子どもの気持ちや考え方についていけないと思ったことがある	19.2	15.6	17.7	17.1	21.3	21.0	19.7	19.1	
中学校	児童生徒の 学校生活	子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている	57.9	56.3	42.2	40.1	35.1	27.9	26.9	33.8	***
		学級集団としてのまとまりがある	54.3	59.3	50.0	42.3	50.4	42.5	41.1	45.2	
		子どもたちは全体に伸びのびとしている	74.7	75.3	69.9	81.0	69.6	67.3	66.9	69.8	**
		子どもたちは個性を伸ばしている	48.9	47.5	44.1	39.9	37.9	32.1	32.4	36.3	***
		教師の指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある	13.7	8.6	23.5	18.4	25.0	30.1	37.5	28.1	***
		遅刻したり学校を休む子どもが多い	8.4	4.9	16.2	11.7	22.9	24.3	27.8	21.5	***
	教員の生徒 指導	子どもたちの学校での日常生活に目が行き届いている	55.8	51.9	35.3	34.6	25.0	18.1	21.7	26.7	***
		子どもどうしの人間関係に目が行き届いている	50.5	45.7	33.3	27.0	17.5	16.8	19.1	23.0	***
		一人ひとりの子どもの話を聞いてやるゆとりがある	32.6	32.1	20.7	12.9	7.9	7.1	8.4	11.8	***
		一人ひとりの子どもの心配事や悩みを把握している	14.7	16.0	8.8	6.1	6.3	6.9	7.6	7.9	***
		子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している	20.2	8.8	8.1	6.7	8.8	7.5	7.8	8.5	***
		保護者とのコミュニケーションをとることは難しい	17.0	9.9	21.3	14.8	17.2	23.0	24.0	20.7	**
		子どもの気持ちや考え方についていけないと思ったことがある	22.3	17.3	24.4	27.0	29.8	33.8	36.1	31.2	*

(***:P<0.001, **:P<0.01, *:P<0.05 以下の表も同様)

表4 教員による学校生活状況の主成分分析結果

児童生徒の学校生活	児童生徒の学校生活順調度	第1 主成分
	子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている	0.642
学級集団としてのまとまりがある	0.759	
子どもたちは全体に伸びのびとしている	0.653	
子どもたちは個性を伸ばしている	0.655	
教師の指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある	-0.524	
遅刻したり学校を休む子どもが多い	-0.438	
	固有値 2.31	
	寄与率 38.5%	
教員の生徒指導	教員の生徒指導順調度	第1 主成分
	子どもたちの学校での日常生活に目が行き届いている	0.743
	子どもどうしの人間関係に目が行き届いている	0.786
	一人ひとりの子どもの話を聞いてやるゆとりがある	0.684
	一人ひとりの子どもの心配事や悩みを把握している	0.740
	子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している	0.671
	保護者とのコミュニケーションをとることは難しい	-0.480
	子どもの気持ちや考え方についていけないと思ったことがある	-0.403
	固有値 3.03	
	寄与率 43.3%	

5. 児童生徒の学校生活順調度の要因分析

(1) 学級規模別にみた順調度

前節の主成分分析によって抽出された主成分のうち、児童生徒の学校生活順調度について分析を行う。表5は、児童生徒の学校生活順調度の学級規模別平均値を示している。表6は単回帰分析の結果である。主成分得点を棒グラフにし、単回帰分析により推定値に直線を引いたのが図1である。順調度には、学級規模による有意な差が見られ、学級規模が小さいほど順調度が高いという直線的な関係になっている。

(2) 重回帰分析による検討

ここまでは1変数だけで学級規模と順調度の間に関係があることを示したが、それでは学級規模だけが順調度に直接影響しているのかどうかは分からない。そこで、重回帰分析を行い、他の変数を統制した場合の学級規模の効果を検証する。重回帰分析に用いた変数は以下のようなものである。

表5 児童生徒の学校生活順調度の学級規模別平均値

	7人以下	8-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36人以上	全体	p
小	0.351	0.266	0.175	0.135	0.017	-0.052	-0.015	0.097	***
中	0.340	0.288	-0.039	0.004	-0.209	-0.403	-0.519	-0.271	***

表6 児童生徒の学校生活順調度

	小学校	中学校
傾き	0.394***	0.510***
切片	-0.069***	-0.148***
R ²	0.019***	0.054***

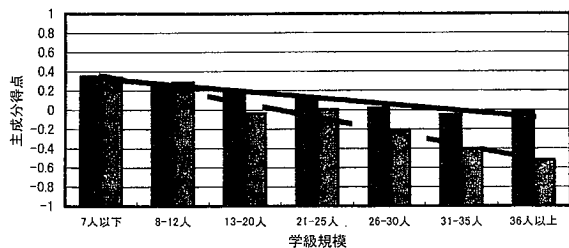


図1 児童生徒の学校生活順調度

- ・ 男性：男性 = 1，女性 = 0 のダミー変数
- ・ 教職経験年数：2年未満 = 1，2年以上 = 2，5年以上 = 3，10年以上 = 4，20年以上 = 5
- ・ 市街地：市街地 = 1，市街地以外 = 0 のダミー変数
- ・ 学校規模：勤務校の児童生徒数 50人未満 = 1，50-99人 = 2，100-199人 = 3，200-499人 = 4，500-999人 = 5，1000人以上 = 6
- ・ 学級規模：7人以下 = 1，8-12人 = 2，13-20人 = 3，21-25人 = 4，26-30人 = 5，31-35人 = 6，36人以上 = 7
- ・ 少人数：現在少人数指導を実施している = 1，実施していない = 0 のダミー変数

・ TT：現在ティーム・ティーチングを実施している = 1，実施していない = 0 のダミー変数

表7は、児童生徒の学校生活順調度の主成分得点を従属変数とし、小中学校別に重回帰分析を行った結果である。モデルの決定係数はあまり高くないが、有意である。

学級規模、学校規模、市街地はいずれも負の有意な影響を学校生活順調度に与えていた。中学校では、学級規模よりも学校規模の方が大きな影響を与えていた。

市街地が小中とも負の影響を与えており、市街地よりも農村部の方が順調であることが分かる。小学校では、男性、教職経験年数も負の影響を与えていた。

6. 教員の生徒指導順調度の要因分析

(1) 学級規模別にみた順調度

次に、主成分分析によって算出された教員の生徒指導順調度について分析を行う。表8は、教員の生徒指導順調度の学級規模別平均値を示している。表9は単回帰分析の結果で、図2は前節と同様の主成分得点と回帰直線のグラフである。順調度には、学級規模による有意な差が見られ、学級規模が小さいほど順調度が高くなっている。

(2) 重回帰分析による検討

児童生徒の学校生活順調度と同様に、教員の生徒指導順調度の主成分得点を従属変数とし、小中学校別に重回帰分析を行った。用いた独立変数は、児童生徒の学校生活順調度と同じものである。表10はその結果である。モデルの決定係数は学校生活順調度を従属変数にしたモデルよりも高くなっている。

小中学校とも、学級規模と学校規模は、教員の生徒

表7 児童生徒の学校生活順調度の重回帰分析

	小学校				中学校			
	B	標準誤差	ベータ	p	B	標準誤差	ベータ	p
(定数)	0.647	0.078		***	0.854	0.135		***
男性	-0.089	0.032	-0.047	**	-0.068	0.056	-0.029	
教職経験年数	-0.040	0.015	-0.044	**	-0.049	0.025	-0.046	
市街地	-0.091	0.041	-0.049	*	-0.134	0.066	-0.060	*
学校規模	-0.054	0.023	-0.075	*	-0.164	0.036	-0.180	***
学級規模	-0.028	0.014	-0.056	*	-0.045	0.023	-0.070	*
少人数	0.044	0.034	0.023		-0.004	0.059	-0.002	
TT	-0.048	0.032	-0.026		0.013	0.059	0.005	
R ²	0.030***				0.082***			
adjR ²	0.028				0.078			

表8 教員の生徒指導順調度の学級規模別平均値

	7人以下	8-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36人以上	全体	p
小	0.892	0.465	0.289	0.048	-0.129	-0.120	-0.199	0.108	***
中	0.517	0.436	0.086	-0.033	-0.244	-0.384	-0.342	-0.195	***

表9 教員の生徒指導順調度

	小学校	中学校
傾き	0.830***	0.562***
切片	-0.167***	-0.144***
R ²	0.099***	0.066***

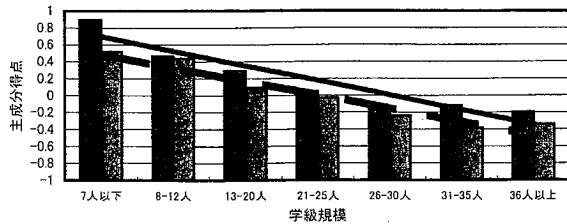


図2 教員の生徒指導順調度

指導順調度に対して、負の有意な影響を及ぼしている。すなわち、学級・学校の規模が小さいほど、教員の生徒指導が順調であるという関係が見られた。中学校では、ベータの値から、学級規模よりも学校規模の方が大きく影響することが分かる。

学級規模、学校規模以外にも、小学校では少人数教育の実施が正の影響を与えていた。教員生徒比率を下げる指導上の工夫も効果を持っていることが分かる。

中学校では、教職経験年数が負の影響を与えていた。先の児童生徒の学校生活順調度でも、小学校で符号が負になっており、意外であるが、経験のある教師ほど生徒指導に困難を感じているようである。

また、教員の生徒指導順調度では、市街地の影響が見られなかった。市街地か農村部かによって教員の生

徒指導が変わることはないであろう。

7. まとめ

小学校でも中学校でも、学級規模が小さくなるほど、児童生徒の学校生活および教員の生徒指導の順調度は高くなっていった。重回帰分析で他の変数の影響を統制した後でも、学級規模は2つの順調度にマイナスの影響を与えていた。

また、学校規模も、学級規模と同様、小さくなるほど順調度が高くなるという傾向が多く見られる。

重回帰分析のベータの値を見ると、特に中学校では、学級規模よりも学校規模の方が大きな影響を与えている。中学校は小学校よりも規模が大きく、同一学年の生徒数も学級規模も大きい。きめ細かな指導が必要であろう。

本稿では述べていないが、教員調査と同時に実施した校長調査のデータを用いて同様の分析を行った場合も、学級規模は、小学校、中学校ともに教員の生徒指導順調度に負の影響を与えている。学校規模は、中学校における生徒の学校生活順調度に負の影響を与え、小学校における教員の生徒指導順調度に負の影響を与えていた。

さらに、山崎ら(2001)の教員調査では、小学校では、学級規模は生徒の学校生活順調度と教員の生徒指導順調度に負の影響を与えており、学校規模は何の影響も与えていなかった。中学校では、学級規模は生徒指導順調度のみ負の影響を与えていたのに対して、学校規模が2つの順調度に負の影響を与えていた。

本稿で用いたモデルの説明力は、児童生徒の学校生活順調度よりも教員の生徒指導順調度を従属変数にしたときの方が大きかった。児童生徒の学校生活は、学校だけでなく、児童生徒自身のパーソナリティや家庭の状況によっても影響を受ける。学校や学級に在籍

表10 教員の生徒指導順調度の重回帰分析

	小学校				中学校			
	B	標準誤差	ベータ	p	B	標準誤差	ベータ	p
(定数)	1.092	0.080		***	1.030	0.117		***
男性	-0.048	0.033	-0.024		-0.023	0.049	-0.011	
教職経験年数	-0.028	0.016	-0.028		-0.095	0.022	-0.103	***
市街地	0.013	0.042	0.007		-0.088	0.057	-0.045	
学校規模	-0.132	0.023	-0.170	***	-0.142	0.031	-0.179	***
学級規模	-0.102	0.014	-0.190	***	-0.054	0.020	-0.096	**
少人数	0.113	0.035	0.056	***	0.009	0.051	0.004	
TT実施	-0.033	0.033	-0.017		0.005	0.051	0.002	
R ²	0.109***				0.099***			
adjR ²	0.107				0.095			

する児童生徒のもともとの特性によって、学校や学級での生活状況が異なるため、学校や教師の影響力が限定的なものになっていると考えられる。

しかし、教員の生徒指導では、学校や学級の規模を縮小すること、経験豊富な教員を配置すること、少人数教育を実施するなどの指導上の工夫により、教員が効果的に生徒指導を行うことが可能になることも考えられる。学校・学級規模の縮小は、教員の生徒指導を充実させる効果があるといえよう。

【参考文献】

Barker, R. G. & P. V. Gump(eds.), 1964, *Big School, Small School: High School Size and Student Behavior*, Stanford University Press (バーガー・ガンプ, 安藤延男監訳『大きな学校, 小さな学校』新曜社, 1982年).

加藤幸次, 1991, 『学習集団の規模とその教育効果に

ついでの研究』(平成1年～2年度科学研究費補助金研究成果報告書), 国立教育研究所。

桑原敏明編, 2002, 『学級編制に関する総合的研究』多賀出版。

高浦勝義編, 2000, 『適正な学校・学級規模に関する校長及び教員の意識と指導及び勤務の実態に関する調査結果』(平成11年度～平成12年度科学研究費補助金研究成果報告書), 国立教育研究所。

日本教育大学協会第二常置委員会, 2001, 『学級規模の教育的効果に関する調査研究』日本教育大学協会。

山崎博敏・世羅博昭・伴恒信・金子之史・田中春彦, 2001, 「学級規模の教育上の効果－教員調査を中心に」『教科教育学研究』第19集, 255-273頁。

第5章 校長評価からみた教育目標充実度

須田康之

A Study of the Degree of the Attainment of Educational Aim Evaluated by Elementary and Junior High School Principals from the Points of Class Size and School Size

SUDA Yasuyuki

Department of Education, Hokkaido University of Education, Asahikawa Campus

概要

「学級規模と少人数学習に関する全国校長調査」を実施し、各学校の教育目標充実度に対する校長評価から、学級規模と学校規模によって、教育目標充実の程度に差異があるか否かを検討した。24の教育目標を、学習、体育、特別活動、人格育成、管理運営の5領域に分け、主成分分析を行い合成変数を作成した。この合成変数を、それぞれ、学習充実度、体育充実度、特別活動充実度、人間形成充実度、管理運営充実度とし、総称して教育目標充実度とした。各合成変数を用いて、小学校、中学校ごとに、学級規模ならびに学校規模との関連を検討した結果、教育目標充実度には、学級規模よりもむしろ学校規模や設置形態が影響していることが明らかになった。

1. 研究の目的

本研究は、小中学校の校長の自校の教育活動に対する評価から、学級規模、学校規模の教育効果を明らかにしようとするものである。ここでいう教育効果とは、学級規模や学校規模を縮小したり拡大することにより、学習面、人間形成面、管理

運営面にわたって、児童生徒の学力の向上、教員と児童生徒の人間関係の確立、意欲の向上、教職員間の連携と信頼など、相対的に良好な状態がみられることを指す。

1998年の中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方」を受けて制度が改正され、公立

小中学校の学級編成は、国の標準に従い各都道府県において基準を定めるという制度の基本は変えないが、都道府県および市町村教育委員会はその判断により、国の標準を下回る基準を定めることが可能となった。さらに、2005年8月には、学級編成を学校の裁量で決められるよう義務教育標準法が改正された。このような制度的な弾力化の中で、独自に小規模学級編成を実施する自治体が増えている。ここには、少人数であればあるほど教育効果はあがるという前提がある。しかしながら、こうした常識を支える基礎的なデータは十分に存在しない。これまでの代表的研究として、国立教育政策研究所(2002)や桑原(2002)がある。この研究では、学級規模と学力との関係进行分析しようとしているが、統計的に詳細な分析を行っているとは言い難い。一方、山崎ら(2002)の研究では、学級規模が小さいほど、教授、学習面ならびに学校生活、生徒指導の側面での順調度が高いという結果を導いてはいる。しかし、特定の地域に限られたサンプルであるという限界があった。

そこで、山崎博敏(広島大学)をチーフとする研究チームを立ち上げ、新たに学級規模と教育効

果について問い直すための全国調査を実施した。本稿では、全国校長調査と全国教員調査の二つの調査のうち、前者から得られた知見を報告することにする。

2. 調査の概要

2004年12月、全国の小中学校34,967校のうち、国立1/1、公立1/10、私立(小1/2、中1/5)の割合で抽出した計3804校に「学級規模と少人数学習に関する全国校長調査」を郵送した。1校につき1枚の校長に対する調査票を配布した。2005年3月までに、校長1,222人(回収率32.1%)の有効回答を得た。その内訳は、表1の通りである。表2には、校長の属性としての性別、学校の所在地、複式学級の有無を示した。表3及び表4は、回答した校長が在職する学校の学級規模と学級規模である。

後の分析では、公立学校に限定し、小学校、中学校ごとに分析することになる。また、学級規模が41人以上の学級は少数であるので、36人以上に含めることとする。

表1 校長票の内訳

	校長の人数			
	国立	公立	私立	合計
小学校	37	748	21	806
中学校	38	327	6	371
中高併置	3	0	29	32
小中併置	0	9	1	10
特殊教育	0	3	0	3
合計	78	1087	57	1222

表2 校長の属性

		人数	%
性別	男性	1056	86.8
	女性	160	13.2
所在地	市街地	583	48.3
	農村部	434	35.9
	へき地	191	15.8
複式学級	あり	153	12.6
	なし	1057	87.4

表3 校長が在職する学校の平均学級規模

学級規模	小学校				中学校			
	国立	公立	私立	合計	国立	公立	私立	合計
7人以下	0(0.0)	65(10.0)	2(10.5)	67(9.5)	0(0.0)	15(5.1)	0(0.0)	15(4.5)
8-12人	1(3.2)	97(14.9)	0(0.0)	98(13.9)	1(2.9)	17(5.8)	0(0.0)	18(5.4)
13-20人	0(0.0)	101(15.5)	1(5.3)	102(14.5)	0(0.0)	22(7.5)	0(0.0)	22(6.6)
21-25人	1(3.2)	121(18.5)	1(5.3)	123(17.5)	0(0.0)	39(13.2)	1(20.0)	40(11.9)
26-30人	4(12.9)	174(26.6)	3(15.8)	181(25.7)	0(0.0)	77(26.1)	2(40.0)	79(23.6)
31-35人	3(9.7)	94(14.4)	1(5.3)	98(13.9)	6(17.1)	104(35.3)	1(20.0)	111(33.1)
36-40人	21(67.7)	1(0.2)	7(36.8)	29(4.1)	24(68.6)	21(7.1)	1(20.0)	46(13.7)
41人以上	1(3.2)	0(0.0)	4(21.1)	5(0.7)	4(11.4)	0(0.0)	0(20.0)	4(1.2)
合計	31(100.0)	653(100.0)	19(100.0)	703(100.0)	35(100.0)	295(100.0)	5(100.0)	335(100.0)

表4 校長が在職する学校の児童生徒数

学校規模	小学校				中学校			
	国立	公立	私立	合計	国立	公立	私立	合計
50人未満	1(2.9)	120(17.0)	2(9.5)	123(16.1)	0(0.0)	42(13.7)	0(0.0)	42(12.1)
50-100人	0(0.0)	99(14.0)	2(9.5)	101(13.3)	0(0.0)	22(7.2)	1(16.7)	23(6.6)
100-200人	1(2.9)	123(17.4)	2(9.5)	126(16.5)	1(2.8)	50(16.3)	3(50.0)	54(15.5)
200-400人	2(5.7)	165(23.4)	4(19.0)	171(22.4)	10(27.8)	86(28.1)	2(33.3)	98(28.2)
400-600人	10(28.6)	107(15.2)	4(19.0)	121(15.9)	22(61.1)	71(23.2)	0(0.0)	93(26.7)
600人以上	21(60.0)	92(13.0)	7(33.3)	120(15.7)	3(8.3)	35(11.4)	0(0.0)	38(10.9)
合計	35(100.0)	706(100.0)	21(100.0)	762(100.0)	36(100.0)	306(100.0)	6(100.0)	348(100.0)

3. 教育目標充実度の概観

(1) 校種別集計

まず、クロス表によって教育目標の充実の程度を概観することにしたい。表5は、小学校における教育目標の充実の程度を、学級規模別に示したものである。ここで言う教育目標とは、「1.基礎的な学力の育成」「2.高度な学力の育成」など全24項目あり、それらは、学習、体育、特別活動、人格育成、管理運営の5領域に分類される。

すべての項目について、校長に、自分の学校が、「充実している」か「ふつう」であるかを、二件法で回答してもらった。表の数値は、国立、公立、私立を含めた小学校全体での、「充実している」と回答した校長の割合である。網かけをしてある数値は、充実している割合が高い、学級規模のカテゴリーである。

表5 小学校の学級規模別集計（「充実している」の%）

領域	教育目標	学級規模							合計	有意確率 χ^2 検定
		7人以下	8-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36人以上		
学習	1.基礎学力の育成	36.9	37.8	30.7	38.8	42.0	31.3	79.4	39.0	***
	2.高度な学力の育成	1.5	2.0	1.0	0.8	1.1	0.0	35.6	2.7	***
	3.体験的な学習	74.6	82.7	62.0	60.7	55.6	48.0	79.4	63.1	***
	4.総合的な学習	55.2	48.0	38.6	42.1	49.2	38.1	70.6	46.3	*
体育	5.体力の向上	26.9	25.5	15.0	18.9	17.4	14.4	23.5	19.3	
	6.健康の維持	46.3	40.8	32.3	30.3	30.3	24.7	38.2	33.2	
特別活動	7.学校行事	68.7	75.5	67.3	68.0	61.2	55.1	85.3	66.3	**
	8.学級活動	35.8	32.7	20.8	21.3	19.1	22.7	55.9	25.5	***
	9.生徒会活動	27.0	15.1	20.2	27.0	23.1	18.4	42.4	22.9	*
	10.奉仕活動	40.3	22.7	25.3	22.4	20.0	17.0	18.2	23.1	*
	11.部活の成績	14.3	19.6	16.1	17.7	31.0	32.7	18.5	22.6	
	12.部活による人間形成	25.0	17.6	12.7	14.5	21.6	18.8	7.4	17.4	
人格育成	13.個性の伸張	53.0	34.0	23.2	17.5	19.2	14.6	70.6	26.7	***
	14.いじめの減少	71.9	80.4	72.4	65.8	62.7	53.1	64.7	66.8	**
	15.不登校の減少	76.6	84.4	70.8	68.6	60.5	54.1	76.5	68.1	***
	16.不法行為の予防	80.0	78.1	62.5	68.3	60.7	53.1	72.7	66.1	**
	17.社会性の育成	25.4	21.6	13.1	21.7	20.8	11.3	51.5	20.5	***
	18.自己表現力の充実	32.8	27.8	19.2	25.2	26.0	20.6	76.5	27.5	***
管理運営	19.障害児教育の充実	27.6	34.8	40.6	55.1	53.7	40.6	6.5	43.2	***
	20.人権教育の充実	33.3	32.0	33.3	37.5	37.3	30.9	18.8	33.9	
	21.家庭との連携	74.6	77.3	54.5	60.8	48.0	37.1	70.6	57.5	***
	22.地域との連携	79.1	75.0	57.6	60.0	49.4	45.0	0.0	55.9	***
	23.教職員間の連携	79.1	80.2	64.6	66.9	63.8	54.2	85.3	68.0	***
	24.教職員の学校改善意欲	49.3	37.1	30.3	42.1	36.4	26.8	79.4	38.6	***

注) 「2.充実している」「1.ふつう」の2件法で回答を求め、「充実している」と回答した校長の%を示した。有意差のある項目について、合計の%と比較し5%以上大きい数値に網かけをした。表6についても同じ。

表6 中学校の学級規模別集計（「充実している」の％）

領域	学級規模 教育目標	学級規模						合計	有意確率 χ^2 検定	
		7人 以下	8-12 人	13-20 人	21-25 人	26-30 人	31-35 人			36人 以上
学習	1.基礎学力の育成	53.3	44.4	50.0	25.6	40.3	23.6	57.1	37.1	**
	2.高度な学力の育成	0.0	5.6	0.0	0.0	2.5	3.7	38.8	7.9	
	3.体験的な学習	80.0	72.2	54.5	59.0	51.9	47.2	55.1	54.3	**
	4.総合的な学習	73.3	66.7	63.6	41.0	36.4	35.2	51.0	43.9	**
体育	5.体力の向上	46.7	27.8	36.4	35.9	29.1	23.1	18.4	27.6	
	6.健康の維持	46.7	44.4	54.5	41.0	25.3	22.4	18.4	29.2	**
特別活動	7.学校行事	73.3	77.8	86.4	66.7	68.4	67.6	77.6	71.2	
	8.学級活動	60.0	22.2	22.7	22.7	34.2	23.1	24.1	38.8	*
	9.生徒会活動	53.3	50.5	40.9	53.8	46.8	43.5	51.0	47.3	
	10.奉仕活動	53.3	33.3	38.1	43.6	40.5	32.4	26.5	36.2	
	11.部活の成績	40.0	33.3	40.9	43.6	43.0	52.8	36.7	44.5	
	12.部活による人間形成	60.0	38.9	45.5	41.0	41.8	37.0	22.4	38.2	
人格育成	13.個性の伸張	46.7	33.3	22.7	18.4	16.5	18.7	53.1	25.6	***
	14.いじめの減少	100.0	77.8	68.2	51.3	55.7	32.4	34.7	48.3	***
	15.不登校の減少	85.7	66.7	42.9	46.2	38.5	22.2	28.6	36.4	***
	16.不法行為の予防	100.0	83.3	71.4	69.2	74.7	36.1	49.0	58.8	***
	17.社会性の育成	53.3	33.3	22.7	17.9	24.1	22.2	24.5	24.5	
	18.自己表現力の充実	46.7	38.9	22.7	15.4	11.4	16.8	53.1	23.7	***
管理運営	19.障害児教育の充実	26.7	13.3	45.0	33.3	42.1	43.9	6.8	34.8	***
	20.人権教育の充実	40.0	27.8	22.7	35.9	30.4	25.0	16.3	27.0	
	21.家庭との連携	80.0	61.1	27.3	43.6	51.3	35.2	36.7	43.2	**
	22.地域との連携	80.0	55.6	40.9	48.7	50.6	37.0	18.4	42.1	***
	23.教職員間の連携	80.0	83.3	68.2	56.4	62.8	49.1	65.3	60.2	*
	24.教職員の学校改善意欲	66.7	61.1	31.8	30.8	35.1	27.1	61.2	38.5	***

全体的な傾向として、充実しているという割合が高いのは、7人以下と8-12人以下の学級と、36人以上の学級であり、両極に分かれていることがわかる。学級規模36名以上で充実しているとする割合が高いのは、国立の小学校がその多くを占めているためである（表3参照）。

同様に、表6には、中学校における教育目標の充実の程度を学級規模別に示した。特別活動については、学級規模による充実度に違いがほとんど生じていない。人格育成については、学級規模が小さい方が充実度が高くなっている。管理運営では、学級規模21-25人、26-30人で充実しているとした回答項目が、他の領域に比して多い。

（2）教育目標の要約

以上、クロス表によって、教育目標充実の程度を学級規模別に概観したが、より傾向をわかりやすく捉えるために、各領域ごとに教育目標を要約し、合成変数をつくることにする。

「学習」「体育」「特別活動」「人格育成」「管理運営」の5つの領域に含まれる教育目標を、各領域ごとに主成分分析にかけた。例えば、表7-1についてである。学習に関する教育目標には、基礎学力の育成、高度な学力の育成、体験的な学習、総合的な学習の4つがある。主成分分析の結果、2成分を抽出することができた。ここでは、第1主成分が、「1の基礎学力の育成」から「4の総合的な学習」までの学習の充実に関する総合変数であると考え、「学習充実度」とした。他の領域、すなわち表7-2「体育」、表7-3「特別活動」、表7-4「人格育成」、表7-5「管理運営」についても同じように主成分分析を行い、第1主成分を、それぞれ、「体育充実度」「特別活動充実度」「人格育成充実度」「管理運営充実度」とした。以下では、これら5つの充実度と、学級規模との関係を検討することにする。なお、ここでの主成分分析は、小中学校の校長評価を対象にし、一括して行っている。

表 7-1 学習に関する項目の主成分分析

学習に関する項目	第1主成分	第2主成分
	学習充実度	
1.基礎学力の育成	0.564	0.527
2.高度な学力の育	0.393	0.733
3.体験的な学習	0.748	-0.412
4.総合的な学習	0.774	-0.358
固有値	1.63	1.11
寄与率(%)	40.78	27.81

表 7-2 体育に関する項目の主成分分析

体育に関する項目	第1主成分
	体育充実度
5.体力の向上	0.874
6.健康の維持	0.874
固有値	1.53
寄与率(%)	76.45

表 7-3 特別活動に関する項目の主成分分析

特別活動に関する項目	第1主成分	第2主成分
	特別活動充実度	
7.学校行事	0.534	0.424
8.学級活動	0.620	0.416
9.生徒会活動	0.669	0.255
10.奉仕活動	0.495	0.169
11.部活の成績	0.546	-0.693
12.部活による人間形成	0.672	-0.536
固有値	2.11	1.21
寄与率(%)	35.19	20.23

表 7-4 人格育成に関する項目の主成分分析

人格育成に関する項目	第1主成分	第2主成分
	人格育成充実度	
13.個性の伸張	0.563	0.469
14.いじめの減少	0.738	-0.415
15.不登校の減少	0.692	-0.449
16.不法行為の予防	0.711	-0.397
17.社会性の育成	0.606	0.492
18.自己表現力の充実	0.559	0.603
固有値	2.53	1.36
寄与率(%)	42.09	22.62

表 7-5 管理運営に関する項目の主成分分析

管理運営に関する項目	第1主成分	第2主成分
	管理運営充実度	
19.障害児教育の充実	0.491	0.700
20.人権教育の充実	0.571	0.594
21.家庭との連携	0.756	-0.240
22.地域との連携	0.642	-0.192
23.教職員間の連携	0.732	-0.331
24.教職員の学校改善意欲	0.605	-0.224
固有値	2.45	1.10
寄与率(%)	40.88	18.29

4. 教育目標充実度と学級規模の関連

(1) 公立小学校

小学校と中学校に分けて、教育目標充実度と学級規模の関連を見ていく。まず、公立小学校についてである。学級規模と「学習」「体育」「特別活動」「人格育成」「管理運営」にかかわる5つの充実度との関係を一元配置分散分析によって分析し、F検定を行い、有意差のある充実度について図示した。

図 1-1 には、学習充実度と学級規模の関連を示した。グラフの縦軸は、学習充実度、すなわち主成分得点である。横軸は、学級規模である。棒の値は、学級規模カテゴリー別の主成分得点の平均値を示している。学習充実度については、0.1%水準で有意であった。ただ、公立小学校においては、通常生徒数を学級数で除した値が36人以上になる学級は1学級しかないのので、36人以上学級については除いて考えることにする。7人以下

学級から 31-35 人学級までを比較した時、学級規模が大きくなるにつれて、学習充実度が低くなる傾向が見られる。7 人以下学級と 8-12 学級で学習充実度が高く、31-35 人学級で最も低い。

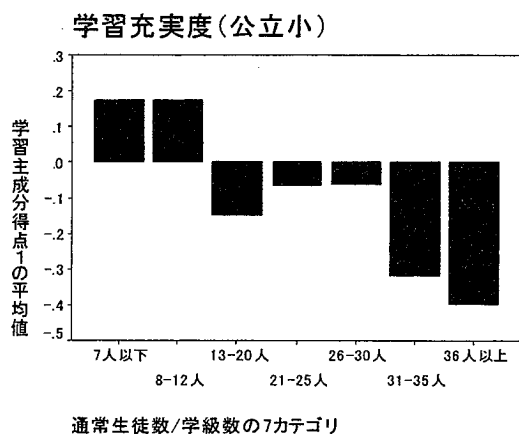
体育充実度については、学級規模との間に有意差はなかった。

特別活動充実度についても、学級規模との間に有意差はなかった。

図 1-2 は、人格育成充実度と学級規模との関連を示す。F 検定の結果、0.1 %水準で有意であった。2 群間で違いがあったのは、表 8-2 に示すと

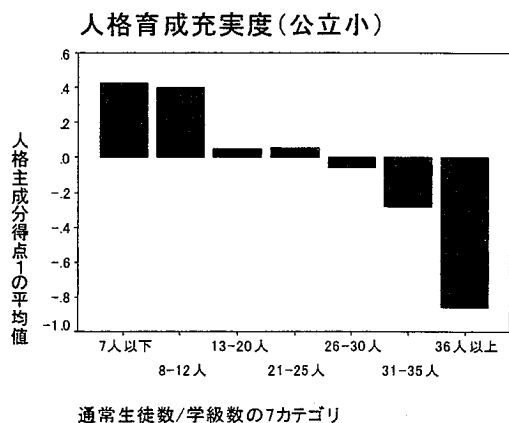
おり 4 組である。学級規模 36 人以上を除くと、人格育成充実度が最も高いのは 7 人以下の学級で、逆に充実度が低いのは 31-35 人学級である。

図 1-3 は、管理運営充実度と学級規模との関連を示す。公立小学校における、学級規模別にみた管理運営充実度は 1%水準で有意であった。表 8-3 に示すように、2 群間の比較では、1 組に有意な違いがあった。最も管理運営が充実しているのは、学級の平均児童数が 8-12 人の学級で、逆に管理運営充実度が低いのは、31-35 人学級であった。



($P < 0.001$)

図 1-1 学習充実度と学級規模の関連



($P < 0.001$)

図 1-2 人格育成充実度と学級規模の関連

表 8-1 公立小学校における
学級規模別に見た学習充実度の比較

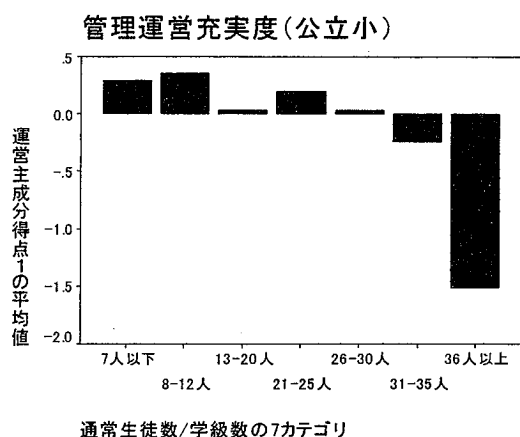
学級規模	人数	平均値	2 群間の比較
全体	632	-0.055	(5%水準)
7人以下	63	0.173]
8-12人	96	0.173	
13-20人	98	-0.147	
21-25人	116	-0.067	
26-30人	166	-0.062	
31-35人	92	-0.316	
36人以上		-0.397	
F 検定			***

表 8-2 公立小学校における
学級規模別に見た人格育成充実度

学級規模	人数	平均値	2 群間の比較
全体	621	0.062	(5%水準)
7人以下	61	0.430]
8-12人	94	0.399	
13-20人	93	0.051	
21-25人	117	0.054	
26-30人	164	-0.060	
31-35人	91	-0.283	
36人以上	1	-0.859	
F 検定			***

表 8-3 公立小学校における
学級規模別に見た管理運営充実度

学級規模	人数	平均値	2 群間の比較 (5%水準)
全体	613	0.091	
7人以下	56	0.288]
8-12人	86	0.353	
13-20人	95	0.035	
21-25人	116	0.198	
26-30人	168	0.033	
31-35人	92	-0.232	
36人以上	1	-1.512	
F 検定		**	



(P<0.01)

図 1-3 管理運営充実度と学級規模の関連

ここまでの分析で、公立小学校に限定した場合、学習充実度、人格育成充実度、管理運営充実度において、学級規模が小さい方が、充実しているという結果を得た。しかし、学級規模は、教育目標を達成するうえでどの程度の規定力を持っているのか不明である。そこで、従属変数に、学習充実度、体育充実度、特別活動充実度、人格育成充実度、管理運営充実度を用い、説明変数には、表 9 に示した学級規模、学校規模、市街地、公立、TT、少人数指導の 6 変数を用いた重回帰モデルをつくり、重回帰分析を行った。結果は、表 10 に示す通りである。

学習充実度と人格育成充実度において、投入した変数が有意な結果を示した。学習充実度に有意

な影響を与えている変数には、公立と学級規模がある。公立の小学校では学習充実度が低くなること、学級規模が大きいほど学習充実度が低くなる事が分かる。人格育成充実度の規定要因として、有意な影響を与えている変数には、公立と学校規模がある。公立の小学校であることが人格育成充実度に負の影響を与えている。これは、国立の教育学部附属小学校が相対的にうまくいっているためであろう。加えて、学校規模が大きくなるほど人格育成充実度が低くなる事が分かる。

体育充実度、特別活動充実度、管理運営充実度に関しては、6つの説明変数の中に有意な影響力を持つ変数は存在しなかった。

表 9 重回帰分析に用いた説明変数とその内容

説明変数	その内容
学級規模	1 学級あたりの平均児童生徒数
学校規模	当該学校の児童生徒数
市街地	市街地 = 1、市街地以外 = 0 のダミー変数
公立	公立 = 1、公立以外 = 0 のダミー変数
TT	現在ティーム・ティーチングを実施している = 1、それ以外 = 0 のダミー変数
少人数指導	現在少人数指導を実施している = 1、それ以外 = 0 のダミー変数

表 10 小学校の目標達成に及ぼす諸変数の規定力

説明変数	学習充実度		体育充実度		特別活動充実度		人格育成充実度		管理運営充実度	
	標準偏回帰係数	検定	標準偏回帰係数	検定	標準偏回帰係数	検定	標準偏回帰係数	検定	標準偏回帰係数	検定
学級規模	-0.165	*	0.008		-0.050		-0.078		0.015	
学校規模	0.063		-0.110		-0.093		-0.165	*	-0.103	
市街地	-0.009		-0.051		0.102		-0.003		-0.062	
公立	-0.304	***	-0.072		-0.117		-0.264	***	-0.008	
TT	0.065		0.034		0.020		0.059		-0.002	
少人数指導	-0.002		-0.032		-0.103		-0.057		-0.039	
R ² (adj.R ²)	0.079 (0.070) ***		0.023 (0.013) *		0.031 (0.013)		0.098 (0.089) ***		0.024 (0.014) *	
N	611		622		322		603		591	

(2) 公立中学校

次に、公立中学校における教育目標充実度と学級規模の関連を検討する。公立中学校の場合も、F検定の結果、公立小学校と同様、学習充実度、人格形成充実度、管理運営充実度において有意差が認められた。図 2-1 の学習充実度と学級規模の関連に示すように、学習充実度は、0.1%水準で有意であった。公立中学校では、7人以下学級で学習充実度が最も高く、31-35人学級で学習充実度が最も低い。

体育充実度、特別活動充実度に関しては、学級規模別にみたとき、有意差はなかった。

図 2-2 は、人格育成充実度と学級規模との関連を示す。人格育成充実度と学級規模との間には、0.1%水準で有意差が認められた。学級規模が大きくなるに従って、人格育成充実度が下がるという結果である。7人以下及び 8-12人の学級では人格育成充実度が高く、逆に、31-35人学級と 36人以上学級での人格育成充実度は低い。

図 2-3 は、管理運営充実度と学級規模との関連を示す。やはりここでも、学級規模が増加するに従って、管理運営充実度が低下するという結果になっている。7人以下学級で管理運営充実度が最も高く、逆に 31-35人学級と 36以上の学級で低い。

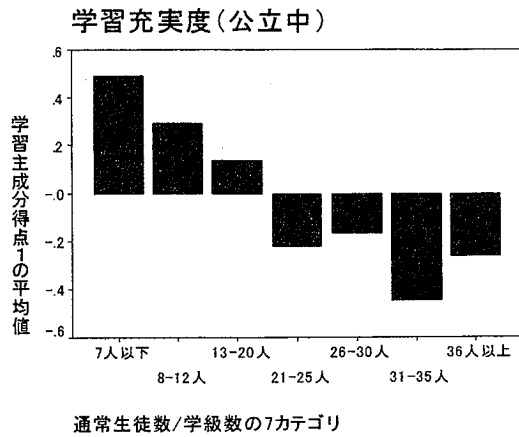
さて、学級規模と他の変数との教育目標充実度に及ぼす影響関係を相対的に捉えるため、「学習」「体育」「特別活動」「人格育成」「管理運営」の各充実度を従属変数にとり、重回帰分析により検討した。結果は、表 12 に示す通りである。

公立中学校の場合には、学習充実度、体育充実度、人格育成充実度、管理運営充実度において、投入した変数が有意な結果を示した。すなわち、学習充実度に有意な影響を与えている変数は、公立学校である。標準偏回帰係数がマイナスであるため、公立学校の方が学習充実度に負の影響を与えていることになる。国立学校の方が学習充実度が高いということである。

体育充実度には、市街地が負の影響を与えている。市街地の学校よりもむしろ農山村部の学校の方が充実しているということになる。

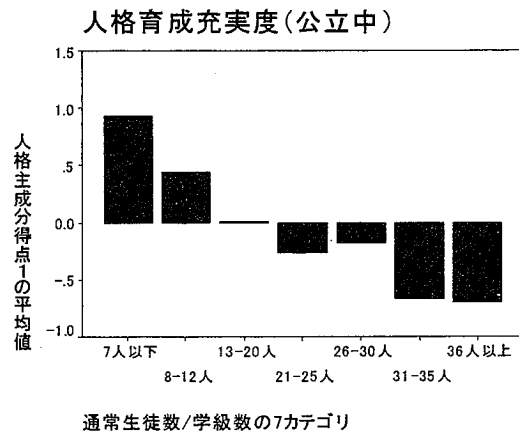
人格育成充実度には、公立と学校規模が負の影響を与えている。公立学校で、人格育成充実度が低く、学校規模が大きいほど人格育成充実度は疎外されるという結果である。

管理運営充実度については、学校規模が負の影響を与えている。校長評価からするならば、中学校の場合、学校規模が大きくなるに従って、学校の管理運営が難しくなることを示している。



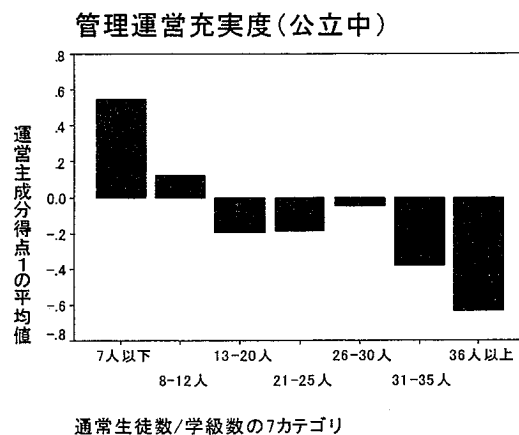
($P < 0.001$)

図 2-1 学習充実度と学級規模の関連



($P < 0.001$)

図 2-2 人格育成充実度と学級規模の関連



($P < 0.01$)

図 2-3 管理運営充実度と学級規模の関連

表 11-1 公立中学校における
学級規模別に見た学習充実度

学級規模	人数	平均値	2群間の比較 (5%水準)
全体	286	-0.194	
7人以下	15	0.491]
8-12人	17	0.291	
13-20人	22	0.137	
21-25人	38	-0.223	
26-30人	74	-0.168	
31-35人	99	-0.447	
36人以上	21	-0.263	
F検定			***

表 11-2 公立中学校における
学校規模別に見た人格育成充実度

学級規模	人数	平均値	2群間の比較 (5%水準)
全体	285	-0.294	
7人以下	14	0.925]
8-12人	17	0.443	
13-20人	21	0.011	
21-25人	37	-0.263	
26-30人	76	-0.181	
31-35人	99	-0.670	
36人以上	21	-0.700	
F検定			***

表 11-3 公立中学校における
学級規模別に見た管理運営充実度

学級規模	人数	平均値	2群間の比較 (5%水準)
全体	276	-0.195	
7人以下	15	0.548]
8-12人	14	0.122	
13-20人	20	-0.193	
21-25人	38	-0.187	
26-30人	72	-0.047	
31-35人	99	-0.382	
36人以上	18	-0.637	
F検定			**

表 12 中学校の目標達成に及ぼす諸変数の規定力

従属変数	学習充実度		体育充実度		特別活動充実度		人格育成充実度		管理運営充実度	
	標準偏回	検定	標準偏回	検定	標準偏回	検定	標準偏回	検定	標準偏回	検定
説明変数	帰係数		帰係数		帰係数		帰係数		帰係数	
少人数指導	-0.067		0.091		-0.047		0.015		-0.027	
公立	-0.380	***	-0.022		-0.055		-0.326	***	-0.081	
TT	0.034		-0.004		0.049		-0.101		-0.011	
市街地	0.120		-0.198	**	-0.112		-0.124		0.042	
学校規模	-0.142		-0.003		0.109		-0.168	*	-0.182	*
学級規模	-0.120		-0.114		-0.158		-0.170		-0.114	
R ² (adj.R ²)	0.178 (0.162) ***		0.067 (0.048) *		0.032 (0.013)		0.212 (0.195) ***		0.070 (0.050) **	
N	299		303		301		298		293	

表 13 は、重回帰分析の結果を要約したものである。これを見ると、教育目標充実度に与える最も大きな要因は、公立か否かであり、学習充実度と人格育成充実度にたいして、公立学校はマイナスに作用している。この点については、小学校も中学校も同じである。学級規模についていえば、学級規模は、小学校の学習充実度にマイナスに作用しているが、他には、有意な影響は与えていない。学校規模は、小学校と、中学校の人格育成充実度に、マイナスに作用している。また、中学校の管理運営充実度にもマイナスに作用している。このことからするならば、教育目標の達成にあたっては、学級規模よりも学校規模の方が大きな規定力をもっていると言えそうである。

表 13 重回帰分析の結果の要約

教育目標充実度	重回帰分析結果	
	小学校	中学校
学習充実度	公立(-)*** 学級規模(-)*	公立(-)***
体育充実度		市街地(-)**
特別活動充実度		
人格育成充実度	公立(-)*** 学校規模(-)*	公立(-)*** 学校規模(-)*
管理運営充実度		学校規模(-)*

5. 教育目標充実における学級規模と学校規模の関連

しかし、重回帰分析からだけでは、どの学級規模やどの学校規模で、教育目標充実度にどの程度の影響があるのかが読み取れない。そこで、数量化I類によって、公立学校における、学習充実度と人格育成充実度について、学級規模と学校規模の規定力をみることにしたい。まず、公立小学校についてである。

表 14 には、公立小学校における学習充実度の規定力を示した。学級規模は7カテゴリーあり、数量が各学級規模の学習充実度を示している。学

校規模は6カテゴリーである。レンジで、学級規模と学校規模の規定力をみてみると、学級規模のレンジが 0.4475、学校規模のレンジが 0.8110 であるので、公立小学校の学習充実度には、学校規模の規定力が大きく、学級規模がこれに続く。図 4-1 は、学級規模別にみた学習充実度である。縦軸がカテゴリー数量、横軸が学級規模を示す。図 4-1 からすると、7人以下学級と 36人以上学級で学習充実度が低い。ただし、平均児童数 36人以上の学級については、校長 1名からしかの回答がないため、ここでは、除いて考えることが適切で

ある。1-25 人学級と 26-30 人学級で、学習充実度が高いことが分かる。

図 4-2 は、学校規模別にみた学習充実度である。全校児童数 1-49 人の学校が、最も学習充実度が高い。

表 15 には、公立小学校における人格育成充実度の規定力を示した。レンジを見ると、やはり、学校規模の規定力が最も大きく、学級規模がこれに続く。図 5-1 は、学級規模別にみた人格育成充実度である。人格育成充実度が高いのは、21-25 人学級と 26-30 人学級である。逆に、人格育成充実度が低いのは、13-20 人学級と 7 人以下学級である。

図 5-2 は、学校規模別にみた人格育成充実度を示している。学校規模が多くなるほど、人格育成充実度が低下することがわかる。

次に、公立中学校についてである。表 16 には、公立中学校における学習充実度の規定力を示した。学校規模と学級規模を比較した時、中学校の学習充実度を規定力としては、学校規模の方が大きい。確かに学級の人数が増えるに従って、学習充実度が低下する傾向はあるものの、ひずみが生じているのは、学級の特性による差異が大きいものと解することができる。これに対して、学校規模と学習充実度との間には直線な関係があり、学校規模が大きくなるに従って、学習充実度が確実に低下している。

表 17 には、公立中学校における人格育成充実度の規定力を示した。人格育成充実度の規定力が大きいのは、学校規模で、次に学級規模が続く。学校規模と人格育成充実度の関係をみた時、学校規模が大きいほど人格育成充実度が低い。学校規模と人格育成充実度の間には直線的な逆相関の関係が認められる。学級規模についてみると、人格育成充実度が正の値を示しているのは、7 人以下、8-12 人、26-30 人の学級である。

ここまでの結果をいま一度整理すると次のようになる。

1) 公立学校に限定すれば、小学校中学校ともに、学級規模が小さい方が、「学習」「人格育成」

「管理運営」の 3 領域における目標の達成において充実した成果をあげている。

2) 重回帰分析により、学級規模の教育目標達成に与える規定力を検討した結果、小学校において、学級規模が「学習充実度」に負の影響を与えていた。中学校においては、学級規模よりもむしろ学校規模の影響が大きく、学校規模が「人格育成充実」「管理運営充実」に負の影響を与えているという結果を得た。

3) 数量化 I 類により、学級規模と教育目標充実の程度を検討した結果、公立小学校では、21-25 人、26-30 人の学級が、公立中学校では、26-30 人の学級が「学習」「人格育成」において比較的成果を上げているという結果を得た。

以上の点を勘案して結論を述べるならば、学級規模が教育目標に及ぼす影響は、学級ごとの差異が大きいため明確ではない。しかし、小学校の場合には 21-25 人から 26-30 人程度で、中学校の場合には 26-30 人程度の学級において教育目標達成度が高いのも事実である。学級差があるということは、一学級 40 人程度の児童生徒数であれば、教師の力で何とかなる数であるということである。小学校においても中学校においても、学級においては、学級規模よりもむしろ教師の力量や児童生徒の授業態度や学級風土が教育目標達成に影響を与えていると言えるであろう。

これに対して、学校規模と教育目標達成度との間には、学級規模よりもより明確な関係を見いだすことができる。数量化 I 類の結果からするならば、小学校の場合では、学校規模が 199 人までであると、学習充実度、人間形成充実度ともに充実度がプラスであるが、それ以上になるとマイナスになる。中学校の場合は、学習充実度と人格育成充実度はともに、学校規模が 400 人以上になると急激に低下する。従って、小学校の場合には 200 人程度、中学校の場合には 400 人程度までが、良好な教育環境を提供できる学校規模とみることができる。

以上が、校長による教育目標充実度評価から得た結論である。

表 14 公立小学校における学習充実度の規定力

項目-カテゴリ	数量	単相関	偏相関	レンジ
1.学級規模		0.0044	0.1288	0.4475
1) 1-7 人	-0.2949			
2) 8-12 人	0.0187			
3) 13-20 人	-0.0579			
4) 21-25 人	0.1443			
5) 26-30 人	0.1220			
6) 31-35 人	-0.1616			
7) 36 人以上	-0.3032			
2.学校規模(児童生徒数)		0.1615	0.1992	0.8110
1) 1-49 人	0.5872			
2) 50-99 人	0.0774			
3) 100-199 人	-0.0540			
4) 200-399 人	-0.2238			
5) 400-599 人	-0.1436			
6) 600 人以上	-0.1141			
3.市街地		-0.0741	0.0118	0.0246
1) 市街地	0.0144			
2) それ以外	-0.0102			
4.T T		0.0075	0.0805	0.1627
1) 現在実施	0.0588			
2) それ以外	-0.1039			
5.少人数		0.0594	0.0004	0.0009
1) 現在実施	-0.0004			
2) それ以外	0.0005			

定数 -0.05279
 重相関係数 (2 乗) 0.21785 (0.04746)
 平均予測誤差 0.89225

学習充実度(数量化 I 類)

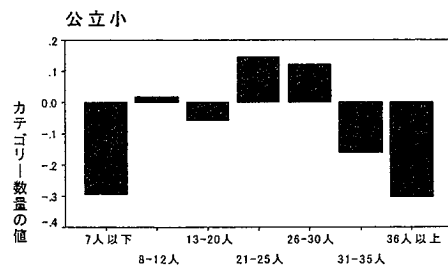


図 4-1 学級規模別にみた学習充実度

学習充実度(数量化 I 類)

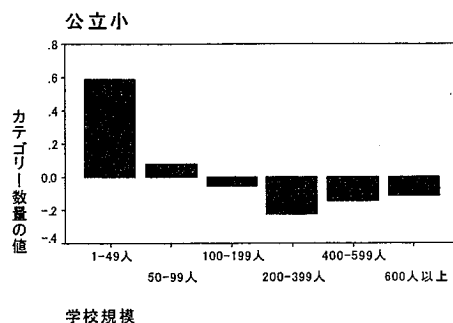


図 4-2 学校規模別にみた学習充実度

表 15 公立小学校における人格育成充実度の規定力

項目-カテゴリ	数量	単相関	偏相関	レンジ
1.学級規模		-0.0637	0.1051	0.5776
1) 1-7 人	-0.1157			
2) 8-12 人	-0.0139			
3) 13-20 人	-0.2098			
4) 21-25 人	0.1122			
5) 26-30 人	0.0947			
6) 31-35 人	0.0050			
7) 36 人以上	-0.4654			
2.学校規模(児童生徒数)		0.2679	0.2229	0.9788
1) 1-49 人	0.4948			
2) 50-99 人	0.2964			
3) 100-199 人	0.1766			
4) 200-399 人	-0.2239			
5) 400-599 人	-0.1912			
6) 600 人以上	-0.4840			
3.市街地		-0.1559	0.0163	0.0384
1) 市街地	0.0224			
2) それ以外	-0.0160			
4.T T		-0.0200	0.0769	0.1532
1) 現在実施	0.0554			
2) それ以外	-0.0978			
5.少人数		0.1638	0.0428	0.0956
1) 現在実施	-0.0458			
2) それ以外	0.0498			

定数 0.05873
 重相関係数 (2 乗) 0.29594 (0.08758)
 平均予測誤差 0.90102

人格育成充実度(数量化 I 類)

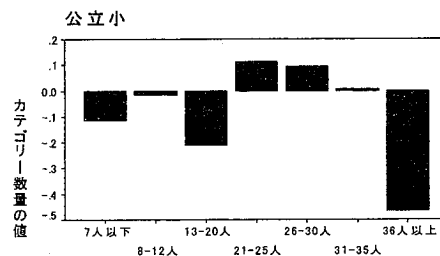


図 5-1 学級規模別にみた人格育成充実度

人格育成充実度(数量化 I 類)

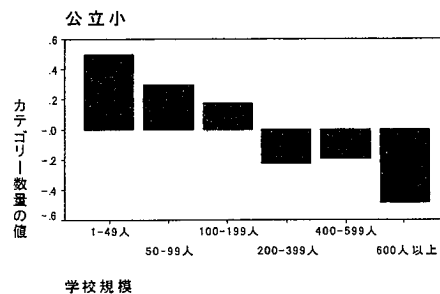


図 5-2 学校規模別にみた人格育成充実度

表 16 公立中学校における学習充実度の規定力

項目-カテゴリ	数量	単相関	偏相関	レンジ
1.学級規模		0.2501	0.0941	0.3937
1) 1-7人	0.2904			
2) 8-12人	0.0719			
3) 13-20人	0.1873			
4) 21-25人	-0.0796			
5) 26-30人	0.0481			
6) 31-35人	-0.1033			
7) 36人以上	0.0213			
2.学校規模(児童生徒数)		0.2954	0.2133	1.0107
1) 1-49人	0.5999			
2) 50-99人	0.1843			
3) 100-199人	0.1113			
4) 200-399人	0.0436			
5) 400-599人	-0.3096			
6) 600人以上	-0.4108			
3.市街地		-0.0938	0.1181	0.2627
1) 市街地	0.1425			
2) それ以外	-0.1202			
4.TT		-0.0068	0.0685	0.1328
1) 現在実施	0.0423			
2) それ以外	-0.0905			
5.少人数		-0.1688	0.0274	0.0652
1) 現在実施	0.0201			
2) それ以外	-0.0451			
定数	-0.18760			
重相関係数(2乗)	0.33132(0.10978)			
平均予測誤差	0.87013			

学習充実度(数量化I類)

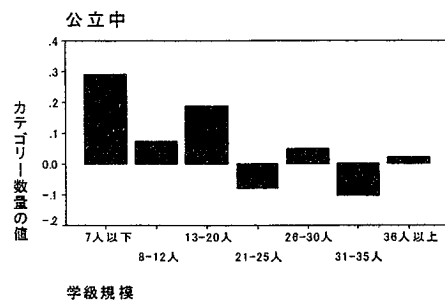


図 6-1 学級規模別にみた学習充実度

学習充実度(数量化I類)

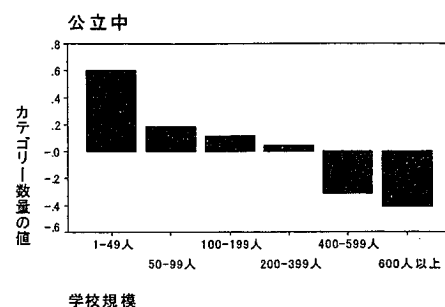


図 6-2 学校規模別にみた学習充実度

表 17 公立中学校における人格育成充実度の規定力

項目-カテゴリ	数量	単相関	偏相関	レンジ
1.学級規模		0.3234	0.2070	0.8140
1) 1-7人	0.6112			
2) 8-12人	0.2073			
3) 13-20人	-0.1469			
4) 21-25人	-0.2028			
5) 26-30人	0.1362			
6) 31-35人	-0.0898			
7) 36人以上	-0.1284			
2.学校規模(児童生徒数)		0.4288	0.2491	0.9395
1) 1-49人	0.5567			
2) 50-99人	0.4259			
3) 100-199人	0.2297			
4) 200-399人	-0.0534			
5) 400-599人	-0.3346			
6) 600人以上	-0.3828			
3.市街地		0.3213	0.0700	0.1523
1) 市街地	-0.0826			
2) それ以外	0.0697			
4.TT		0.1572	0.0629	0.1156
1) 現在実施	-0.0368			
2) それ以外	0.0788			
5.少人数		-0.2122	0.0833	0.1889
1) 現在実施	0.0583			
2) それ以外	-0.1306			
定数	-0.28391			
重相関係数(2乗)	0.47974(0.23015)			
平均予測誤差	0.82674			

人格育成充実度(数量化I類)

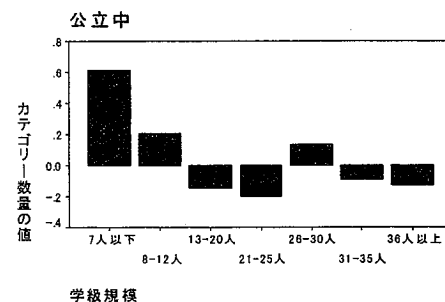


図 7-1 学級規模別にみた人格育成充実度

人格育成充実度(数量化I類)

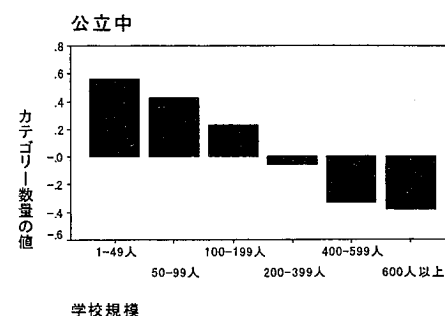


図 7-2 学校規模別にみた人格育成充実度

【参考文献】

- (1) 杉江修治 1996, 「学級規模と教育効果」中京大学学術研究会『中京大学教養論叢』37(1), pp.149-190.
- (2) 岡田典子・櫻田裕美子・山崎博敏 2001, 「教員から見た学級規模の教育的効果」世羅博昭(研究代表者)『学級規模の教育的効果に関する調査研究』平成 11-12 年度科研費(基盤研究(C)(1))研究成果報告書, pp.27-41.
- (3) 国立教育政策研究所 2002, 「特集学級規模に関する調査研究」『国立教育政策研究所紀要』第 131 集, pp.1-96.
- (4) 桑原敏明編 2002, 『学級編成に関する総合的研究』多賀出版.
- (5) 国立教育政策研究所 2004, 「少人数指導の教育効果に関する調査」『教育委員会月報』, pp.31-36.
- (6) 山崎博敏・世羅博昭・伴恒信・金子之史・田中春彦 2002, 「学級規模の教育的効果：児童生徒調査を中心に」『教科教育学研究』第 20 集, pp.107-123.
- (7) 須田康之 2005, 「学校規模別にみた日常的教育活動の実際－児童の学校生活意識に着目して－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第 56 巻第 1 号, pp.31-45.

第6章 学級規模が授業と学力に与える影響

須田 康之

本章では、学級規模の違いによって、授業方法や学級の様子に対する児童生徒の見方、ならびに彼らの学力に違いがあるかを明らかにすることを課題とする。

第1節 学級規模と各教科の授業人数についての児童生徒による認識

図表 3-1a (小学校)、ならびに図表 3-1b (中学校) は、クラスの数や各教科の授業人数についての児童生徒の認識を示している。表中の数値は、「いまがちょうどよい」と回答した人数と%である。図表 3-1a と図表 3-1b の表から明らかになることは、次の三点である。

一つは、クラスの数については、小学校、中学校ともに、「21-25 人」学級で、「いまがちょうどよい」という回答が多い。二つとして、授業については、小学校では、「12 人以下」の学級で、「いまがちょうどよい」という回答が多いが、中学校では「21-25 人」の学級から「31-35 人」学級の範囲に「いまがちょうどよい」という回答が多い。中学生の方が、「ちょうどよいとする」授業人数が、いくらか多い傾向にある。三つとして、「いまがちょうどよい」という回答には、教科によってバラツキがある。小中学校ともに、国語の授業はちょうどよいとする回答が多いが、体育はその割合が低い。

図表 6-1a (小学校の場合) クラスの数や各教科の授業の人数に対する認識

小学校	全体	-12 人	13-20	21-25	26-30 人	31-35 人	36-40 人	P
1. クラスの人数	1172 (70.6)	58 (65.2)	141 (67.8)	209 (79.5)	311 (72.5)	252 (71.8)	201 (62.6)	***
2. 国語の授業	1271 (76.6)	71 (79.8)	165 (79.3)	218 (82.9)	317 (73.9)	266 (76.2)	234 (72.9)	***
3. 算数や数学	1151 (69.4)	71 (79.8)	154 (74.0)	181 (68.8)	301 (70.3)	236 (67.4)	208 (65.0)	***
4. 社会	1277 (77.0)	76 (85.4)	166 (79.8)	205 (77.9)	322 (74.9)	272 (77.9)	236 (73.8)	***
5. 理科	1143 (69.1)	63 (71.6)	147 (70.7)	179 (68.1)	304 (71.0)	222 (64.0)	228 (71.3)	***
6. 音楽	1074 (65.2)	57 (64.8)	128 (61.8)	163 (62.0)	274 (65.1)	238 (68.2)	214 (66.9)	***
7. 図工や美術	1067 (64.9)	60 (68.2)	132 (63.8)	175 (66.8)	280 (66.7)	217 (62.5)	203 (63.2)	***
8. 体育	887 (53.9)	37 (42.0)	97 (46.9)	154 (59.0)	231 (55.0)	183 (52.4)	185 (57.6)	***
9. 家庭・技術	1151 (70.1)	65 (73.9)	151 (72.9)	190 (72.8)	286 (68.4)	234 (67.2)	225 (70.3)	***

数値は、「いまがちょうどよい」の人数 (%)。 χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

図表 6-1b (中学校の場合) クラスの数や各教科の授業の人数に対する認識

中学校	全体	13-12 人	21-25 人	26-30 人	31-35 人	36-40 人	P
1. クラスの人数	1305 (76.4)	43 (65.2)	112 (81.2)	60 (75.9)	667 (79.0)	423 (72.7)	***
2. 国語の授業	1416 (82.8)	54 (83.1)	120 (87.0)	65 (83.3)	714 (84.7)	463 (79.0)	**
3. 算数や数学	1240 (72.6)	42 (64.6)	108 (78.3)	67 (84.8)	624 (74.2)	399 (68.1)	**
4. 社会	1375 (80.4)	47 (71.2)	123 (89.1)	64 (81.0)	691 (82.2)	450 (76.8)	***
5. 理科	1353 (79.1)	53 (80.3)	117 (84.8)	66 (83.5)	678 (80.5)	439 (74.9)	***
6. 音楽	1340 (78.6)	43 (67.2)	114 (82.6)	64 (82.1)	656 (78.1)	463 (79.1)	***
7. 図工や美術	1368 (80.3)	45 (70.3)	109 (79.0)	68 (87.2)	683 (81.2)	463 (79.4)	***
8. 体育	1189 (69.7)	37 (57.8)	83 (60.1)	52 (67.5)	609 (72.4)	408 (69.7)	***
9. 家庭・技術	1434 (84.2)	54 (84.4)	121 (87.7)	69 (88.5)	712 (84.9)	478 (81.8)	*
10. 英語	1293 (75.8)	50 (78.1)	117 (84.8)	63 (80.8)	649 (77.2)	414 (70.8)	***

数値は、「いまがちょうどよい」の人数 (%)。 χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

第2節 指導方法

1) TTと少人数学習の実施

図表6-2は、TT（ティーム・ティーチング）と少人数学習の経験があると答えた児童生徒の割合を示している。TTについては、小中学校ともに、7割以上が経験ありとしている。「21-25人」学級での実施率が高い。少人数学習については、中学校の方に経験ありという回答が多く、「26-30人」学級での実施率が高い。

図表6-2 TTと少人数学習の実施率：「受けたことがある」の合計%

	学校種	全体	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
TT	小学校	1209(72.7)	37.1	50.5	92.2	81.9	71.3	66.7	***
	中学校	1478(85.9)	-	86.4	95.7	93.7	91.0	75.2	***
少人数学習	小学校	766(46.0)	0.0	8.2	60.5	65.9	37.8	53.9	***
	中学校	1314(76.4)	-	33.3	87.7	93.7	74.2	79.5	***

2) 授業中の指導方法

①概観

次に、授業中の指導方法についてである。図表6-3aと、図表6-3bには、小学校と、中学校に分けて、授業中に用いられる指導方法の頻度を学級規模別に示した。数値は、「ある」と回答した児童生徒の割合である。図表6-3aの小学校においては、学級規模による有意差はあるが傾向性が見いだしにくい。図表6-3bの中学校では、学級規模が「13-20人」学級において、「項目8の先生が、算数や数学のプリントやドリルをみてる」、「14の先生は宿題をよくみてる」、「7の書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる」で、あると回答した生徒の割合が高い。従って、中学校においては、「13-20人」学級で、ていねいな授業がなされているようである。

図表6-3a 小学校における学級規模と指導方法 「よくある」と「ときどきある」の合計%

小学校	全体	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
指導方法		人	人	人	人	人	人	
15.朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	1568(94.8)	94.4	91.3	95.8	96.3	92.9	96.5	*
11.理科の授業で、実験器具を使って生徒が実験する	1553(94.3)	95.5	95.7	95.0	91.3	98.0	92.5	**
14.先生は、宿題をよくみてる	1414(85.4)	89.9	88.4	90.8	79.7	90.0	80.6	***
10.わかっていない子どもに先生はていねいに教えてくれる	1394(84.2)	85.4	89.9	85.9	86.0	84.9	75.7	***
3.グループで話し合い授業	1350(81.7)	65.2	79.5	87.0	79.5	83.1	84.7	***
5.ドリルやプリントの問題をとく授業	1331(80.8)	69.7	84.5	79.3	81.5	87.3	74.6	***
8.先生が、算数や数学のプリントやドリルをみてる	1273(77.2)	92.1	88.8	82.1	76.3	76.9	62.7	***
7.書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる	1119(67.9)	80.2	78.6	74.8	67.5	63.9	56.9	***
2.先生が生徒によく質問し、生徒がよく発表する授業	1099(66.4)	64.0	77.8	73.4	69.4	66.0	50.3	***
9.算数や数学の問題を解いて、みんなの前で説明する	1044(63.5)	72.7	79.7	70.8	54.7	70.1	48.9	***
4.学級全員で話し合う授業	1012(61.4)	68.5	66.8	67.6	63.6	58.0	51.6	***
13.先生は、宿題をたくさん出す	972(58.8)	59.6	70.4	58.8	54.9	40.7	76.2	***
6.国語で、1時間に1人が1回以上発表する	825(50.0)	76.4	66.0	47.3	49.2	46.6	39.5	***
12.理科の授業で、道具や器具が足りないことがある	806(48.9)	52.8	45.1	42.7	46.5	47.1	60.7	***
16.放課後に、先生がわからないところを教えてくれる	560(33.8)	39.3	47.8	36.5	41.5	25.3	20.0	***
1.先生が1時間中説明し、生徒が聞いている授業	484(29.2)	14.6	21.7	27.4	29.6	29.1	38.9	***

χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

図表 6-3 b 中学校における学級規模と指導方法 「よくある」と「ときどきある」の合計%

中学校	全体	13-20	21-25	26-30	31-35	36-40	P
指導方法	人	人	人	人	人	人	
11.理科の授業で、実験器具を使って生徒が実験する	1618 (94.5)	96.9	92.0	96.2	95.0	93.8	
15.朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	1556 (91.5)	98.5	97.1	94.8	88.8	92.9	***
1.先生が1時間中説明し、生徒が聞いている授業	735 (43.0)	38.5	29.7	42.3	43.8	45.5	*
10.わかっていない子どもに先生はていねいに教えてくれる	1279 (74.9)	78.5	84.8	82.1	75.4	70.5	**
2.先生が生徒によく質問し、生徒がよく発表する授業	1270 (74.3)	83.1	83.3	73.1	76.1	68.8	***
5.ドリルやプリントの問題をとく授業	1228 (72.2)	67.7	70.3	71.4	74.3	70.0	
8.先生が、算数や数学のプリントやドリルを見てくれる	1118 (65.5)	86.2	79.7	59.0	67.2	58.3	***
3.グループで話し合い授業	1111 (65.2)	84.6	76.1	65.4	63.4	62.9	***
9.算数や数学の問題を解いて、みんなの前で説明する	1078 (63.4)	66.2	70.1	71.8	64.1	59.3	
14.先生は、宿題をよくみてくれる	1034 (60.9)	84.1	73.0	67.5	62.3	52.7	***
6.国語で、1時間に1人が1回以上発表する	925 (54.3)	50.8	43.8	48.7	56.2	55.0	
13.先生は、宿題をたくさん出す	835 (48.9)	55.4	61.6	66.7	48.3	43.6	***
7.書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる	816 (47.9)	68.8	58.0	56.4	46.0	44.7	***
12.理科の授業で、道具や器具が足りないことがある	798 (46.7)	43.1	47.1	37.2	46.7	48.3	
16.放課後に、先生がわからないところを教えてくれる	565 (33.1)	56.1	37.7	48.1	32.1	28.9	***
4.学級全員で話し合う授業	544 (32.0)	41.5	33.6	35.1	30.5	32.3	

χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

②指導方法に関する成分との関係

図表 6-4 は、先ほどの 16 項目を主成分分析によって要約したものである。5つの成分が抽出されたが、成分 1 のみを採用することにした。成分 1 は、「わかっていない子どもに先生はていねいに教えてくれる」、「先生が算数や数学のプリントやドリルを見てくれる」などの主成分負荷量が多い。従って、成分 1 は「教師によるていねいな指導」であると考えることができる。

図表 6-4 指導方法に関する主成分分析

授業内容	成分 1	成分 2	成分 3	成分 4	成分 5
	教師によるていねいな指導				
10.わかっていない子どもに先生はていねいに教えてくれる	0.6559	-0.2866	0.0432	0.0822	0.0604
8.先生が、算数や数学のプリントやドリルを見てくれる	0.6360	-0.1232	0.1641	0.0402	0.2225
7.書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる	0.6193	-0.0872	0.3341	-0.1000	0.0407
14.先生は、宿題をよくみてくれる	0.6020	-0.0813	0.0780	-0.2340	0.2461
3.グループで話し合い授業	0.5255	0.1802	-0.2875	-0.3161	-0.3636
4.学級全員で話し合う授業	0.4753	0.2139	-0.0405	-0.5044	-0.3168
9.算数や数学の問題を解いて、みんなの前で説明する	0.4710	-0.0951	-0.0464	0.2593	-0.0803
2.先生が生徒によく質問し、生徒がよく発表する授業	0.4452	0.1115	-0.0761	0.3873	-0.3435
5.ドリルやプリントの問題をとく授業	0.4277	0.1369	-0.1483	-0.0691	-0.1758
16.放課後に、先生がわからないところを教えてくれる	0.4187	0.0083	0.3175	0.0574	0.0184
11.理科の授業で、実験器具を使って生徒が実験する	0.3735	0.0201	-0.4998	0.3602	0.1531
15.朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	0.3175	-0.0098	-0.5718	0.1462	0.2983
6.国語で、1時間に1人が1回以上発表する	0.3073	0.1349	0.4651	0.3359	0.0519
13.先生は、宿題をたくさん出す	0.1030	0.6441	0.0044	-0.2545	0.3707
1.先生が1時間中説明し、生徒が聞いている授業	-0.0594	0.5172	0.1196	0.3859	-0.3962
12.理科の授業で、道具や器具が足りないことがある	0.0424	0.5771	0.0473	0.1199	0.3728
固有値	3.2116	1.2641	1.1712	1.1448	1.0521
寄与率 (%)	20.073	7.901	7.320	7.155	6.576
累積寄与率 (%)	20.073	27.974	35.294	42.449	49.024

注) 数値は主成分負荷量。

図表6-5では、学級規模と成分1の関係を見た。小学校、中学校ともに、規模が小さい「13-20人」学級において、「教師によるていねいな指導」がなされている。逆に、「36-40人」学級で、小中学校ともに、教師によるていねいな指導がなされていないという結果がでている。

図表6-5 学級規模と指導方法に関する関係

小学校				中学校			
学級規模	標本数	成分1 教師によるていねいな指導		学級規模	標本数	成分1 教師によるていねいな指導	
		平均値	2群間の比較 (5%水準)			平均値	2群間の比較(5%水準)
	1535	0.291			1620	-0.276	
① 12人以下	85	0.534		① 13-20人	62	0.318	
② 13-20人	199	0.592		② 21-25人	133	-0.001	
③ 21-25人	246	0.474		③ 26-30人	74	-0.119	
④ 26-30人	395	0.255		④ 31-35人	802	-0.265	
⑤ 31-35人	317	0.315		⑤ 36-40人	549	-0.447	
⑥ 36-40人	293	-0.114					
F検定の結果		***		F検定の結果		***	

注) 数値は主成分得点の平均値

第3節 学習と学校生活

1) 児童生徒の授業態度

①学級規模別概観

図表6-6aと図表6-6bには、小学校と中学校に分けて、児童生徒自身がどのように授業にかかわっているかを学級規模別に示した。図表6-6aの小学校からみていく。数値は、あてまると回答した児童の割合である。小学校では、12人以下の学級で、「項目1の、授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている」「6の学校の授業は楽しい」「4の考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる」の%が高いことから、規模が小さい学級において、授業に積極的にかかわっていると見えそうである。一方、図表6-6bの中学校では、小学校よりも散らばりが見られるものの「13-20人」と「21-25人」学級で、授業への積極的な関わりがあることがわかる。

図表6-6a 児童生徒の授業態度：小学校 「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計%

小学校	全体	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
授業態度		人	人	人	人	人	人	
1.授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている	1435(86.4)	92.1	91.8	89.7	85.3	87.7	78.8	***
7.がんばれば、もっと良い成績がとれると思う	1418(86.0)	89.9	86.5	85.4	85.2	89.4	82.3	
13.解けるはずの問題を間違えるとくやしいと思う	1329(80.1)	78.7	83.1	82.4	80.4	78.6	77.9	
3.授業中、大切だと思ったことはノートに書きとる	1168(70.7)	77.3	74.8	79.5	67.1	70.9	63.6	***
6.学校の授業は楽しい	1166(70.7)	79.5	74.3	75.1	66.3	77.0	61.4	***
9.授業中、ぼんやりとすることがある	994(60.5)	61.8	55.6	58.2	63.0	57.9	64.7	
4.考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる	869(52.4)	71.9	62.8	58.4	51.7	50.4	38.4	***
12.授業中、授業と関係ないことをすることがある	829(50.4)	57.5	40.8	43.8	54.9	47.3	57.5	***
2.授業中、進んで発表したり、質問したりする	831(50.2)	77.5	60.4	55.0	48.8	50.6	33.4	***
11.わたしは、勉強が好きの方だと思う	692(42.2)	47.2	43.9	48.5	41.3	46.4	30.9	***
8.学校での成績は、学年の中でよい方だと思う	670(40.7)	47.2	43.5	40.2	42.2	40.3	36.0	
5.みんなの前で、自分の考えを説明する	644(39.0)	68.2	49.0	41.8	38.4	37.0	25.1	***
10.授業を休んだり、遅刻したりすることがある	351(21.3)	24.1	13.1	16.9	23.5	20.5	27.5	**

χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

図表6-6b 児童生徒の授業態度：中学校

「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計%

中学校	全体	13-20	21-25	26-30	31-35	36-40	P
授業態度		人	人	人	人	人	
7.がんばれば、もっと良い成績がとれると思う	1476(86.2)	89.4	92.8	88.6	87.1	82.6	*
13.解けるはずの問題を間違えるとくやしいと思う	1441(84.0)	80.3	89.1	75.9	85.7	81.9	*
1.授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている	1432(83.6)	87.9	87.0	83.5	85.3	79.9	*
3.授業中、大切だと思ったことはノートに書きとる	1300(76.0)	86.4	76.8	69.6	79.3	70.8	***
9.授業中、ぼんやりとすることがある	1208(70.8)	68.8	80.4	63.3	69.3	71.8	*
6.学校の授業は楽しい	969(56.6)	59.1	65.9	51.9	58.6	51.8	*
12.授業中、授業と関係ないことをすることがある	956(56.5)	35.9	60.7	51.9	53.0	63.4	***
2.授業中、進んで発表したり、質問したりする	713(41.6)	48.5	50.0	40.5	40.0	41.4	
4.考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる	623(36.3)	39.4	30.4	30.4	39.9	33.0	*
8.学校での成績は、学年の中でよい方だと思う	451(26.3)	28.8	27.5	19.0	28.2	24.1	
5.みんなの前で、自分の考えを説明する	417(24.4)	42.4	29.7	19.0	25.3	20.5	***
10.授業を休んだり、遅刻したりすることがある	359(21.0)	16.7	16.7	15.2	19.3	25.9	**
11.わたしは、勉強が好きの方だと思う	353(20.7)	15.2	20.4	16.5	21.3	21.2	

χ^2 検定。*P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

②授業態度に関する因子との関係

図表6-7は、授業態度に関する因子分析の結果である。先の13項目を因子分析にかけたところ、因子1から順に「授業への集中」、「肯定的自己評価」「向上心」「発表積極性」の4因子を抽出できた。この4因子と学級規模との関係をみたのが、図表6-8aと図表6-8bになる。図表6-8aの小学校では、因子1の「授業への集中」は「13-20人」学級で優れている。因子2の「肯定的自己評価」、因子3の「向上心」、因子4の「発表積極性」は、「12人以下」の学級で優れている。逆に、4因子とも低いのは、「36-40人」学級である。図表6-8bの中学校については、学級規模と授業態度には、小学校ほどの一貫性はない。太字で示したように、「授業への集中」「向上心」「発表積極性」は、「13-20人」と「21-25人」の学級で優れている。逆に、低いのは、「授業への集中」が「36-40人」学級で、「向上心」と「発表積極性」が低いのが、「26-30人」学級である。

図表6-7 授業態度に関する因子分析

変数名	因子1 授業への 集中	因子2 肯定的自 己評価	因子3 向上心	因子4 発表積 極性
12.授業中、授業と関係ないことをすることがある	-0.5093	-0.0226	0.0359	0.2063
9.授業中、ぼんやりとすることがある	-0.4583	-0.1273	0.1462	0.1337
1.授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている	0.4378	0.2034	0.3443	0.0132
6.学校の授業は楽しい	0.2602	0.5458	0.2670	0.0694
8.学校での成績は、学年の中でよい方だと思う	0.2681	0.3676	0.2347	0.2254
13.解けるはずの問題を間違えるとくやしいと思う	0.0658	0.1147	0.4631	0.0923
7.がんばれば、もっと良い成績がとれると思う	0.1407	0.3093	0.4394	0.1098
3.授業中、大切だと思ったことはノートに書きとる	0.2425	0.1162	0.4244	0.0716
5.みんなの前で、自分の考えを説明する	0.3225	0.2381	0.1600	0.6494
2.授業中、進んで発表したり、質問したりする	0.3215	0.2073	0.2113	0.6154
4.考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる	0.2870	0.2451	0.2980	0.2340
10.授業を休んだり、遅刻したりすることがある	-0.2952	0.0315	-0.1054	0.0728
11.わたしは、勉強が好きの方だと思う	0.2958	0.6017	0.2351	0.1301
因子負荷量の2乗和	1.3480	1.1362	1.0806	1.0193
因子の寄与率(%)	10.3691	8.7402	8.3122	7.8410
累積寄与率(%)	10.3691	19.1092	27.4214	35.2624

注) 数値は、回転後の因子負荷量。バリマックス法。規準化。

図表 6-8a 学級規模と授業態度に関する因子の関係：小学校

小学校		因子 1 授業への集中		因子 2 肯定的自己評価		因子 3 向上心		因子 4 発表積極性	
学級規模	標本数	平均値	2 群間の比較 (5%水準)	平均値	2 群間の比較 (5%水準)	平均値	2 群間の比較	平均値	2 群間の比較 (5%水準)
	1547	0.121		0.198		-0.016		0.076	
① 12 人以下	85	0.256		0.306		0.080		0.552	
② 13-20 人	198	0.364		0.246		0.038		0.179	
③ 21-25 人	242	0.246		0.239		0.046		0.104	
④ 26-30 人	399	0.044		0.156		-0.018		0.087	
⑤ 31-35 人	324	0.173		0.294		0.001		0.037	
⑥ 36-40 人	299	-0.135		0.055		-0.143		-0.123	
F 検定の結果		***		***		**		***	

注) 数値は因子得点の平均値

図表 6-8b 学級規模と授業態度に関する因子の関係：中学校

中学校		因子 1 授業への集中		因子 2 肯定的自己評価		因子 3 向上心		因子 4 発表積極性	
学級規模	標本数	平均値	2 群間の比較 (5%水準)	平均値	2 群間の比較	平均値	2 群間の比較	平均値	2 群間の比較
	1638	-0.114		-0.187		0.015		-0.072	
① 13-20 人	63	0.162		-0.259		0.079		0.127	
② 21-25 人	135	-0.141		-0.099		0.163		0.063	
③ 26-30 人	77	-0.018		-0.219		-0.144		-0.144	
④ 31-35 人	805	-0.058		-0.180		0.060		-0.107	
⑤ 36-40 人	558	-0.233		-0.207		-0.071		-0.065	
F 検定の結果		***		ns		***		*	

注) 数値は因子得点の平均値

2) 学級風土と教師の指導

①学級規模別概観

図表 6-9 a と図 6-9 b に、小学校と中学校に分けて、学級の様子と教師の指導の様子を学級規模別に示した。項目 1 から 14 までは学級風土に関する項目で、15 から 21 までは教師に関する項目である。図表 6-9 a の小学校の場合は、12 人以下の学級で学級への評価が高い。教師に対する評価は、「13-20 人」学級が高い。一方、図表 6-9 b の中学校の場合は、「13-20 人」学級で学級に対する評価が高く、同様に教師に対する評価も、この学級規模で高い。

②学級風土に関する因子との関係

図表 6-10 は、先の 14 項目から、三次市の児童生徒が回答していない項目 6 と 8 を除いた 12 項目を用いて、因子分析を行った結果である。2 因子を抽出することができた。因子 1 はクラスの秩序であり、因子 2 はクラスの凝集性を示している。この 2 因子と学級規模との関係をみたのが、図表 6-11a と図表 6-11b である。図表 6-11a の小学校について言えば、「クラスの秩序」があり「クラスの凝集性」が高いのは、「12 人以下」および「13-20 人」学級で、低いのは「36-40 人」学級であることがわかる。図表 6-11b の中学校では、「クラスの秩序」と「クラスの凝集性」が高いのは、「13-20 人」学級である。逆に低いのは、「クラスの秩序」については「36-40 人」学級、「クラスの凝集性」については「26-30 人」学級である。

図表 6-9a 学級風土と教師の指導：小学校—「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計%

学級風土と教師の指導	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P
1.私のクラスは、集団としてのまとまりがある	79.8	75.8	76.8	68.5	73.1	51.1	***
2.どの子ども、授業をおおよそ理解している	89.8	81.6	80.8	76.8	75.7	67.2	***
3.チャイムが鳴ったらどの子ども席に座って先生を待っている	64.0	59.4	47.3	44.0	25.1	22.7	***
4.授業中、どの子ども先生の話をよく聞いている	83.0	70.4	62.5	59.9	63.5	36.5	***
5.授業では、いろいろな人から意見がでる	86.5	77.8	70.9	70.3	76.4	59.8	***
6.先生の言うことをきかない子どもがクラスにいる	22.2	53.6	45.6	64.6	65.3	80.8	***
7.私のクラスでは何でも言い合える雰囲気がある	69.7	53.9	62.7	57.3	66.8	45.1	***
8.クラスに遅刻したり学校を休む子どもがいる	77.8	44.0	48.0	71.1	79.9	72.2	***
9.どの子ども運動会などの行事に熱心に参加している	88.8	90.7	88.2	88.7	87.9	85.1	
10.どの子ども児童会や生徒会の活動に進んで参加している	86.5	70.9	75.4	58.5	76.9	55.2	***
11.どの子ども学級の委員や係活動を進んでやっている	85.4	78.3	77.2	63.8	80.1	54.3	***
12.どの子どもクラブ活動に参加している	94.2	94.2	91.6	91.8	87.9	85.9	**
13.どの子ども掃除を一生懸命している	80.9	72.1	73.2	61.5	64.0	47.5	***
14.どの子ども学校のきまりを守っている	76.4	73.3	66.5	49.2	51.9	42.5	***
15.先生は私の学習状況をよく分かってきている	78.7	82.4	75.6	72.4	75.1	57.9	***
16.先生は私の心配事や悩みを理解してくれている	59.6	64.6	55.9	56.2	56.4	36.2	***
17.先生は私の家庭や家庭外での生活をよく分かってきている	52.8	53.9	52.7	50.6	51.4	34.1	***
18.先生は私たちの話をよく聞いてくれている	85.4	87.2	79.0	79.4	81.1	63.6	***
19.先生は子どもたちの人間関係をよく知っている	75.3	75.8	67.9	66.4	76.0	53.0	***
20.先生は私の親とよく知り合っている	68.5	61.2	47.5	49.2	39.5	36.2	***
21.どの子ども先生の言うことをよくきいている	81.7	73.1	58.1	63.9	66.0	—	*

注) 項目 6 と 8 は三次市の児童の回答が欠如。項目 21 は三次市の児童のみ回答。 χ^2 検定。

図表 6-9b 学級風土と教師の指導：中学校の場合—「よくあてはまる」と「すこしあてはまる」の合計%

学級風土と教師の指導	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人	P	%
1.私のクラスは、集団としてのまとまりがある	78.5	68.8	63.6	70.6	66.1		
2.どの子ども、授業をおおよそ理解している	64.6	52.9	57.1	55.0	45.8	**	
3.チャイムが鳴ったらどの子ども席に座って先生を待っている	63.1	42.8	90.9	49.5	32.2	***	
4.授業中、どの子ども先生の話をよく聞いている	69.2	55.8	55.8	49.3	35.3	***	
5.授業では、いろいろな人から意見がでる	70.8	53.6	39.0	49.7	52.5	**	
6.先生の言うことをきかない子どもがクラスにいる	—	57.6	—	63.0	72.9	***	
7.私のクラスでは何でも言い合える雰囲気がある	65.6	43.5	39.0	46.1	46.3	*	
8.クラスに遅刻したり学校を休む子どもがいる	—	67.5	—	83.2	83.8	***	
9.どの子ども運動会などの行事に熱心に参加している	87.7	91.2	61.0	79.0	70.6	***	
10.どの子ども児童会や生徒会の活動に進んで参加している	72.3	70.1	55.8	57.4	50.0	***	
11.どの子ども学級の委員や係活動を進んでやっている	64.6	66.7	63.2	61.3	57.3		
12.どの子どもクラブ活動に参加している	84.6	92.0	83.1	76.8	75.0	***	
13.どの子ども掃除を一生懸命している	49.2	44.2	47.4	50.8	39.0	***	
14.どの子ども学校のきまりを守っている	61.5	62.3	49.4	53.8	37.4	***	
15.先生は私の学習状況をよく分かってきている	75.4	57.2	52.6	59.0	50.2	***	
16.先生は私の心配事や悩みを理解してくれている	50.0	45.7	21.8	38.8	36.4	**	
17.先生は私の家庭や家庭外での生活をよく分かってきている	41.5	23.9	19.5	29.7	25.6	*	
18.先生は私たちの話をよく聞いてくれている	78.5	60.9	49.4	63.5	57.4	**	
19.先生は子どもたちの人間関係をよく知っている	63.1	59.6	28.6	55.9	46.4	***	
20.先生は私の親とよく知り合っている	46.2	33.3	35.1	28.5	26.3	**	
21.どの子ども先生の言うことをよくきいている	70.8	36.8	55.8	64.2	45.4	***	

注) 項目 6 と 8 は三次市の生徒の回答が欠如。項目 21 は三次市の生徒のみ回答。 χ^2 検定。

図表 6-10 学級風土に関する因子分析

変数名	因子 1	因子 2
	クラスの 秩序	クラスの 凝集性
4.授業中、どの子ども先生の話をよく聞いている	0.6231	0.2389
14.どの子ども学校のきまりを守っている	0.6128	0.0874
13 どの子ども掃除を一生懸命している	0.5752	0.1891
3.チャイムが鳴ったらどの子ども席に座って先生を待っている	0.5473	0.0885
2.どの子ども、授業をおおよそ理解している	0.4925	0.3329
7 私のクラスでは何でも言い合える雰囲気がある	0.2743	0.5310
9 どの子ども運動会などの行事に熱心に参加している	0.2220	0.4599
1.私のクラスは、集団としてのまとまりがある	0.3398	0.4380
5.授業では、いろいろな人から意見がでる	0.3192	0.4249
10 どの子ども児童会や生徒会の活動に進んで参加している	0.2438	0.4580
11 どの子ども学級の委員や係活動を進んでやっている	0.3159	0.4212
12 どの子どもクラブ活動に参加している	0.2420	0.2223
因子負荷量の 2 乗和	2.1963	1.5216
因子の寄与率 (%)	18.3025	12.6802
累積寄与率 (%)	18.3025	30.9827

注) 数値は回転後の因子負荷量。バリマック法による。規準化。

図表 6-11a 学級規模と学級風土に関する因子の関係：小学校

学級規模	標本数	因子 1 クラスの秩序		因子 2 クラスの凝集性	
		2 群間の比較	2 群間の比較	2 群間の比較	2 群間の比較
		2 群間の比較 (5%水準)	2 群間の比較 (5%水準)	2 群間の比較 (5%水準)	2 群間の比較 (5%水準)
	1519	0.107		0.169	
① 12 人以下	85	0.689		0.427	
② 13-20 人	195	0.483		0.169	
③ 21-25 人	232	0.277		0.168	
④ 26-30 人	390	0.102		0.143	
⑤ 31-35 人	326	0.034		0.360	
⑥ 36-40 人	291	-0.363		-0.083	
F 検定の結果		***		***	

注) 数値は因子得点の平均値。

図表 6-11b 学級規模と学級風土に関する因子の関係：中学校

学級規模	標本数	因子 1 クラスの秩序		因子 2 クラスの凝集性	
		2 群間の比較	2 群間の比較	2 群間の比較	2 群間の比較
		2 群間の比較 (5%水準)	2 群間の比較 (5%水準)	2 群間の比較 (5%水準)	2 群間の比較 (5%水準)
	1646	-0.099		-0.156	
① 13-20 人	64	0.277		0.193	
② 21-25 人	135	-0.037		-0.034	
③ 26-30 人	76	0.218		-0.467	
④ 31-35 人	818	-0.024		-0.169	
⑤ 36-40 人	553	-0.312		-0.165	
F 検定の結果		***		***	

注) 数値は因子得点の平均値。

③教師の児童生徒理解

図表6-12に示すように、教師の児童生徒理解に関する項目を主成分分析によって要約し、一つの成分を抽出した。成分名は、「教師の児童生徒理解度」である。図表6-13には、学級規模別にみた教師の児童生徒理解度を示した。小学校では、教師の児童生徒理解度は、「13-20人」学級で高く、逆に「36-40人」学級で低い。一方中学校では、教師の児童生徒理解度が高いのは、小学校と同様「13-20人」学級だが、低いのは、「26-30人」学級である。

児童生徒調査から、小学校では、学級規模が大きくなるに従って授業や学級運営が難しくなる傾向が見られるが、中学校においては、標本数の影響もあるのかもしれないが、必ずしも規模が大きい学級ほど、授業や学級の運営がうまくいかないとは言えないようである。以上が、学級規模と授業に関して明らかになった点である。

図表6-12 教師の児童生徒理解に関する主成分分析

変数名	成分1 教師の児童生徒理解度
15.先生は私の学習状況をよく分かってくれている	0.7673
16.先生は私の心配事や悩みを理解してくれている	0.8171
17.先生は私の家庭や家庭外での生活をよく分かってくれている	0.8066
18.先生は私たちの話をよく聞いてくれている	0.8013
19.先生は子どもたちの人間関係をよく知っている	0.7654
20.先生は私の親とよく知り合っている	0.6355
固有値	3.5386
寄与率 (%)	58.977
累積寄与率 (%)	58.977

図表6-13 学級規模別にみた教師の児童生徒理解度

小学校				中学校			
学級規模	標本数	成分1 教師の児童生徒理解度		学級規模	標本数	成分1 教師の児童生徒理解度	
		平均値	2群間の比較 (5%水準)			平均値	2群間の比較 (5%水準)
	1597	0.272			1662	-0.261	
① 12人以下	89	0.514		① 13-20人	64	0.190	
② 13-20人	198	0.570		② 21-25人	136	-0.181	
③ 21-25人	250	0.360		③ 26-30人	76	-0.516	
④ 26-30人	414	0.307		④ 31-35人	821	-0.207	
⑤ 31-35人	338	0.349		⑤ 36-40人	565	-0.376	
⑥ 36-40人	308	-0.193					
F検定の結果		***		F検定の結果		***	

注) 数値は主成分得点の平均値

第4節 学級規模と学力

1) 学級規模と学力

図表6-14aと図表6-14bには、小学校と中学校に分けて学級規模別の学力偏差値を示した。図6-14a、すなわち小学校においては、算数と国語を合わせた学力偏差値は、学級規模が小さいほど得点が高い。算数と国語に分けてみた時も、やはり、ほぼこの傾向が認められる。図表6-14bの中学校では、数学と国語を合わせた学力偏差値は「21-25人」学級で最も高く、逆に最も低いのは、「36-40人」学級であった。小中学校ともに、学級規模が小さい方が学力が高いようである。

図表6-14a 学級規模別にみた学力：小学校

小学校		学力偏差値(算数+国語)		算数		国語	
学級規模	標本数	平均値	2群間の比較	平均値	2群間の比較	平均値	2群間の比較
全体	1664	100.0	(5%水準)	50.0	(5%水準)	50.0	(5%水準)
① 12人以下	89	106.9		53.4		53.5	
② 13-20人	208	105.7		53.4		52.2	
③ 21-25人	263	102.3		50.6		51.7	
④ 26-30人	431	98.2		49.4		48.8	
⑤ 31-35人	352	97.6		47.9		49.7	
⑥ 36-40人	321	97.6		49.5		48.1	
F検定の結果		***		***		***	

※学級規模が小さいほど学力が高い。

図表6-14b 学級規模別にみた学力：中学校

中学校		学力偏差値(数学+国語)		数学		国語	
学級規模	標本数	平均値	2群間の比較	平均値	2群間の比較	平均値	2群間の比較
全体	1720	100.0	(5%水準)	50.0	(5%水準)	50.0	(5%水準)
① 13-20人	66	103.7		51.4		52.3	
② 21-25人	138	106.3		53.3		53.0	
③ 26-30人	79	103.8		50.8		53.0	
④ 31-35人	848	99.7		50.2		49.5	
⑤ 36-40人	589	98.0		48.7		49.3	
F検定の結果		***		***		***	

※「21-25人」学級で学力が高い。

2) 指導方法と学力

①TTおよび少人数指導

さて、授業方法と学力との関係、これに学級規模を加味した時どのようなことが見えてくるだろうか。図表6-15aと図表6-15bでは、小学校と中学校に分けて、TTおよび少人数学習と学力との関係を示した。図表6-15aの小学校においては、全体としてはTTの経験者の方が学力が高い。しかしながら、学級規模が小さい「13-20人」学級では、むしろ未経験者の方が学力が高くなっている。「31-35人」

学級と「36-40人」学級でTT経験者の学力が有意に高いことから、TTは、学級規模が大きい場合に、効果がでている。小学校の少人数学習については、未経験者の方が学力が高いという結果が出ている。これは、少人数学習が効果がないというよりも、むしろ少人数学習を導入している地域の子どもの学力が低いと実態があるからであろう。

図表6-15bの中学校においては、全体としては、TTと少人数学習経験者の学力が高い。やはり、中学校においても小学校と同様、TTは、規模の大きい「31-35人」学級と「36-40人」学級において有効である。

図表6-15a 小学校におけるTTならびに少人数学習と学力

小学校	グループ	人数	学力偏差値の 平均値	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
TT	経験	1205	100.7**	109.0	102.9	103.0***	98.2	99.1*	101.7***
	未経験	455	98.1	105.6	108.5**	82.8	98.1	93.9	89.4
少人数学習	経験	766	98.3	—	106.8	103.6	97.0	96.0	96.7
	未経験	898	101.4***	106.9	105.5	100.2	100.6	98.5	98.7

注) 未経験には、無回答も含めた。図表3-15bも同様。

図表6-15b 中学校におけるTTならびに少人数学習と学力

中学校	グループ	人数	学力偏差値の 平均値	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
TT	経験	1478	101.0***	105.0	106.8	103.9	100.2*	99.7***
	未経験	242	93.8	95.8	94.4	102.0	94.6	93.0
少人数学習	経験	1314	101.2***	100.5	107.3*	104.6	100.0	100.6***
	未経験	406	96.2	105.3	98.8	92.5	98.8	88.1

②教師によるていねいな指導と学力

図表6-16aと図表6-16bでは、小学校と中学校に分けて、教師によるていねいな指導と学力の関係を示した。グループの上位群と下位群は、主成分得点のプラス、マイナスで分けた。小学校においても、中学校においても、授業において教師によるていねいな指導がなされているグループの方が学力が高い。特に中学校では、「31-35人」学級と「36-40人」学級で、学力の違いが顕著であることから、教師によるていねいな指導は、規模の大きい学級において有効が現れやすいと考えられる。

図表6-16a 小学校における指導方法と学力

小学校	グループ	人数	学力偏差値の 平均値	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
成分1		1534							
教師によるていねいな指導	上位群(+)	995	102.8***	108.7*	107.5**	103.5	102.7***	98.1	101.6***
	下位群(-)	539	97.3	102.8	101.1	100.3	95.5	98.6	94.9

注) グループは、成分得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

図表6-16b 中学校における指導方法と学力

中学校	グループ	人数	学力偏差値の 平均値	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
成分1		1618						
教師によるていねいな指導	上位群(+)	662	103.3***	105.3	108.0	106.3	103.2***	100.5*
	下位群(-)	956	98.1	104.7	103.9	101.4	97.4	97.5

注) グループは、成分得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

3) 授業態度と学力

図表6-17aと図表6-17bには、小学校と中学校に分けて、授業態度と学力の関係を示した。小学校、中学校ともに、全体として、「授業への集中」「肯定的自己評価」「向上心」「発表積極性」の上位群の方が学力が高い。因子1の「授業への集中」は、小学校、中学校ともに、規模が大きい学級で、学力に有意に作用している。因子3の「向上心」は、小学校、中学校ともにいずれの学級規模においても、向上心があるグループの方が学力が高いという結果になっている。

図表6-17a 小学校における授業態度と学力

小学校		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
因子名										
因子1	授業への集中	上位群(+)	824	103.9***	107.8	106.9	105.4**	102.4***	101.7***	102.9***
		下位群(-)	723	96.9	104.8	104.0	99.8	95.8	93.4	95.6
因子2	肯定的自己評価	上位群(+)	935	102.1***	107.6	105.8	104.5	101.0*	99.0	100.2
		下位群(-)	612	98.5	104.5	106.2	101.0	96.0	96.1	96.8
因子3	向上心	上位群(+)	834	104.2***	109.0*	107.5*	104.9*	104.6***	101.6***	102.1**
		下位群(-)	713	96.5	103.6	104.0	100.8	92.2	93.2	95.7
因子4	発表積極性	上位群(+)	758	102.1***	107.8	107.7*	105.7**	99.2	98.6	99.2
		下位群(-)	789	99.2	102.1	103.7	100.8	98.6	97.4	98.2

注) グループは、因子得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

図表6-17b 中学校における授業態度と学力

中学校		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
因子名									
因子1	授業への集中	上位群(+)	722	103.5***	105.4	110.0*	103.7	103.1***	101.9***
		下位群(-)	916	98.1	105.0	103.1	104.5	97.4	96.8
因子2	肯定的自己評価	上位群(+)	591	104.6***	111.3*	108.7	112.1**	103.2***	103.9***
		下位群(-)	1047	98.2	102.2	104.2	101.4	98.4	95.6
因子3	向上心	上位群(+)	895	105.1***	110.3**	108.6*	109.9**	104.0***	104.5***
		下位群(-)	743	95.0	96.4	102.1	98.6	95.1	92.9
因子4	発表積極性	上位群(+)	694	102.7***	107.1	108.5	105.5	103.0***	99.7
		下位群(-)	944	98.9	102.7	103.6	103.2	98.3	97.9

注) グループは、因子得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

4) 学級風土と学力

図表6-18aと図表6-18bは、それぞれ小学校と中学校における、学級風土と学力の関係を示している。図表6-18aから明らかな様に、小学校においては、クラスに秩序があり、クラスの凝集性が高い方が学力が高い。しかし、中学校においては、有意差は認められなかった。

図表6-18a 小学校における学級風土と学力

小学校		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	-12人	13-20人	21-25人	26-30人	31-35人	36-40人
因子名										
因子1	クラスの秩序	上位群(+)	866	102.3***	107.3	107.3*	104.0	100.0	99.0	99.9
		下位群(-)	653	98.4	102.2	102.1	100.8	97.6	98.2	96.8
因子2	クラスの凝集性	上位群(+)	906	102.1***	104.1	106.2	97.5	98.7*	96.0	99.5**
		下位群(-)	613	98.4	103.3	104.2	94.8	93.4	95.1	90.8

注) グループは、因子得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

図表 6-18b 中学校における学級風土と学力

中学校		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	13-20 人	21-25 人	26-30 人	31-35 人	36-40 人
因子名									
因子 1	クラスの 秩序	上位群 (+)	745	100.3	103.4	103.4	107.1*	100.4	96.6
		下位群 (-)	900	100.3	104.4	108.7	97.5	99.8	99.3
因子 2	クラスの 凝集性	上位群 (+)	654	99.9	103.7	106.1	102.6	99.9	97.3
		下位群 (-)	992	100.7	104.6	106.2	104.0	100.2	99.2

注) グループは、因子得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

5) 教師の児童生徒理解度と学力

図表 6-19a と図表 6-19b は、それぞれ小学校と中学校における、教師の児童生徒理解度と学力の関係について示している。小学校においては、教師の児童生徒理解度が高いと評価したグループの方が、学力が高いという結果が出ている。しかし、中学校においては、有意差は認められなかった。

図表 6-19a 小学校における教師の児童理解度と学力

小学校		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	-12 人	13-20 人	21-25 人	26-30 人	31-35 人	36-40 人
成分名										
成分 1	教師の児童生 徒理解度	上位群(+)	971	101.6***	107.3	106.8	102.7	100.4*	97.6	100.6
		下位群(-)	626	98.1	105.8	103.7	101.1	95.7	97.3	96.7

注) グループは、主成分得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

図表 6-19b 中学校における教師の生徒理解度と学力

中学校		グループ	人数	学力偏差値 の平均値	-12 人	13-20 人	21-25 人	31-35 人	36-40 人
成分名									
成分 1	教師の児童生 徒理解度	上位群(+)	623	100.8	103.6	105.1	102.2	100.9	98.8
		下位群(-)	1039	99.8	104.8	106.8	104.5	99.1	98.0

注) グループは、主成分得点が+か-で分けた。数値は学力偏差値の平均値。

第5節 まとめ

最後に、本章の学級規模が授業と学力に与える影響についての分析から明らかになった点をまとめた。まず、学級規模と授業の関係である。

第一に、学級規模と指導方法についてである。小中学校ともに、規模が小さい学級（ここでは「12以下」学級と「13-20人」学級をさす）において、「教師によるていねいな指導」がなされていた。

第二に、学級規模と児童生徒の授業態度についてである。授業態度に関する因子として、「授業への集中」「肯定的自己評価」「向上心」「発表積極性」の4因子が抽出された。小学校では、規模が小さい学級において、児童が授業に積極的に関わっていた。逆に、規模が最も大きい「36-40人」学級で、授業への関与の程度が低くなっていた。

中学校では、「13-20人」学級と「21-25人」学級で授業への関与が高くなっていた。一方、授業への関与が低いのは、「26-30人」学級と「36-40人」学級であった。

第三に、学級規模と学級風土や教師の指導の関係についてである。小学校では、規模が小さい学級において、「クラスの秩序」、「クラスの凝集性」、「教師の児童生徒理解度」が高いという結果がでた。一方、中学校では「13-20人」学級で良好であり、「26-30人」学級と「36-40人」学級で「クラスの凝集性」と「教師の児童生徒理解度」が低くなっていた。

以上のことから、概して小学校は、学級規模が小さい方が充実した授業と学級経営がなされていると言える。中学校は、学級規模と授業の関係は小学校ほど直線的な関係ではなく、「13-20人」学級と「21-25人」学級において優れており、「26-30人」学級と「36-40人」学級において劣っているという結果がでている。

次に、学級規模と学力の関係についてである。

小学校においては、小規模学級の方が学力が高いという結果がでている。中学校においても同様の傾向はあるが、学力面で最も優れているのは「21-25人」学級であった。

授業方法と学力と学級規模の関係をみた時、次の点を指摘できる。第一に、TTは、小中学校ともに、学級規模の大きい「31-35人」学級と「36-40人」学級で有効である。第二に、授業において、教師によるていねいな指導がなされているグループの方が学力が高い。特に、中学校では、教師によるていねいな指導が規模が大きい学級において有効である。第三に、授業態度の因子として抽出された4つの因子、すなわち、「授業への集中」「肯定的自己評価」「向上心」「発表積極性」の上位群の方が学力が高い。小中学校ともに、いずれの学級規模においても「向上心」の高い児童生徒の学力が高く、「授業への集中」は、学級規模が大きいほど学力に有効に作用するという結果が出ている。

ただ、以上の結果は、2変数の分析結果であるため、厳密には多変量解析が必要になることを述べて、本章を閉じることにしたい。

第7章 学校規模と部活動

長谷川 祐介

1. 問題設定

本章は学校規模別による中学部活動の設置状況や参加状況の違いについて検討することを目的とする。

日本の学校は国語や数学など教科に関する授業だけではなく、教科以外の活動も積極的に取り組んでいる。教科外活動の中で、中学生や高校生の学校生活において重要な役割を担っているのが部活動である。例えば西島・中澤（2005）の調査によれば中学生の87.5%が何かしらの部活動に参加していた。またその多くは部活動に参加することにより、友人を得ることができると考えていた（西島ら2001）。学校側は生徒に充実した学校生活を過ごさせるために、適切な部活動運営が求められる。

しかし現行の学習指導要領では部活動は課外活動のため、設置・運営のあり方は学校の任意とされている。そのため各学校によって部活動設置・運営のあり方は大きく異なってくる。たとえば部活動と勉強の両立を学校の教育方針に掲げ、全国大会に出場する部活動を熱心にサポートする学校もある一方、学校からのサポートが少なく十分な指導が出来ない部活動も存在する。

部活動の設置・運営のあり方に大きな影響を及ぼす要因として考えられるのが、学校の生徒数、つまり学校規模である。なぜならば部活動は活動種目による違いはあるものの、その活動を実施・運営するとき、一定の部員が必要であるからである。学校規模が少ないと部員を多く集めることが出来ないために、部活動の設置数は制限され、充実した部活動運営が困難となる。一方、学校規模が大きいときは数多くの部活動を設置することができ、多くの部員の中で充実した部活動運営を実施することが可能となるだろう。このように学校規模の違いによって部活動のあり方は異なっていることが予想される。

そこで本章では、中学校を対象に学校規模と部活動の関連について検討を行う。具体的には次の3点である。

第1に、校長調査のデータを用いて、学校規模と中学部活動の設置状況の関連を検討する。学校規模の違いによって中学校部活動の数や種類がどのように異なるのか明らかにしていきたい。

第2に、生徒調査のデータを用いて、学校規模と中学生の部活動参加状況の関連を検討する。実際の中学生の部活動参加状況を確認した上で、学校規模によって部活動への参加状況が異なるのか明らかにしていきたい。

しかし放課後に実施される活動は部活動に限定されない。塾やスポーツクラブ、さらには友人との学校外での遊びなど放課後の中学生を取り巻く環境は多様である。学校規模が部活動の設置・運営に関連があったとするならば、間接的に部活動以外の放課後のあり方にも何かしらの関連があるかもしれない。そこで第3に、学校規模・部活動・放課後の生活という3つの変数の関連について検討する。

2. 学校規模別にみた部活動の設置状況

校長調査のうち中学校（405校）⁽¹⁾のデータを用いて、部活動の設置状況の全体的傾向を捉えていきたい。

(1) 中学校で設置されている部活動の種類と数

中学校ではどのような部活動が設置されているのか、また一校あたりどれだけ部活動があるのか確認していく。校長調査のうち部活動に関する項目は質問Xである。質問Xでは中学校の校長に対し、表1で示す部活動のうち学校にある部活動について、すべて○をつけてもらった。なお本章では表1で示しているように部活動の種類を分類した。

表1 校長調査の部活動の種類

	活動内容							
運動系部活動(団体競技)	バレーボール	野球	バスケットボール	サッカー				
運動系部活動(個人競技)	テニス	バドミントン	卓球	陸上	剣道	柔道	体操	
音楽系部活動	吹奏楽	合唱						
文化系部活動	美術	書道	新聞・文芸部	茶道	パソコン	家庭科	理科	

① 部活動の種類

中学校全体でそれぞれの部活動はどれだけ設置されているのか検討していきたい。表は、各部活動の設置の割合(設置率)を示したものである。設置率の数値が大きいのは、バレーやテニスなど運動部であった。今回、項目で設定した部活動のうち、設置率50%を超えていた10個の部活動のうち、運動部は8個を占めていた。一方、音楽系や文化系の部活動は吹奏楽や美術を除いてほとんど設置率50%未満であった。

表2 部活動の設置率

部活動の種類	種類	部活動設置率(%)	設置している中学校の数
バレーボール	運動(団体)	82.7	335
テニス	運動(個人)	80.2	325
野球	運動(団体)	78.8	319
バスケットボール	運動(団体)	75.1	304
卓球	運動(個人)	71.1	288
吹奏楽	音楽	68.9	279
美術	文化	61.0	247
陸上	運動(個人)	59.8	242
サッカー	運動(団体)	59.3	240
剣道	運動(個人)	55.3	224
バドミントン	運動(個人)	35.8	145
柔道	運動(個人)	27.9	113
パソコン	文化	25.4	103
家庭科	文化	23.2	94
理科	文化	22.2	90
合唱	音楽	19.5	79
茶道	文化	12.1	49
新聞・文芸部	文化	9.4	38
体操	運動(個人)	9.1	37
書道	文化	8.1	33

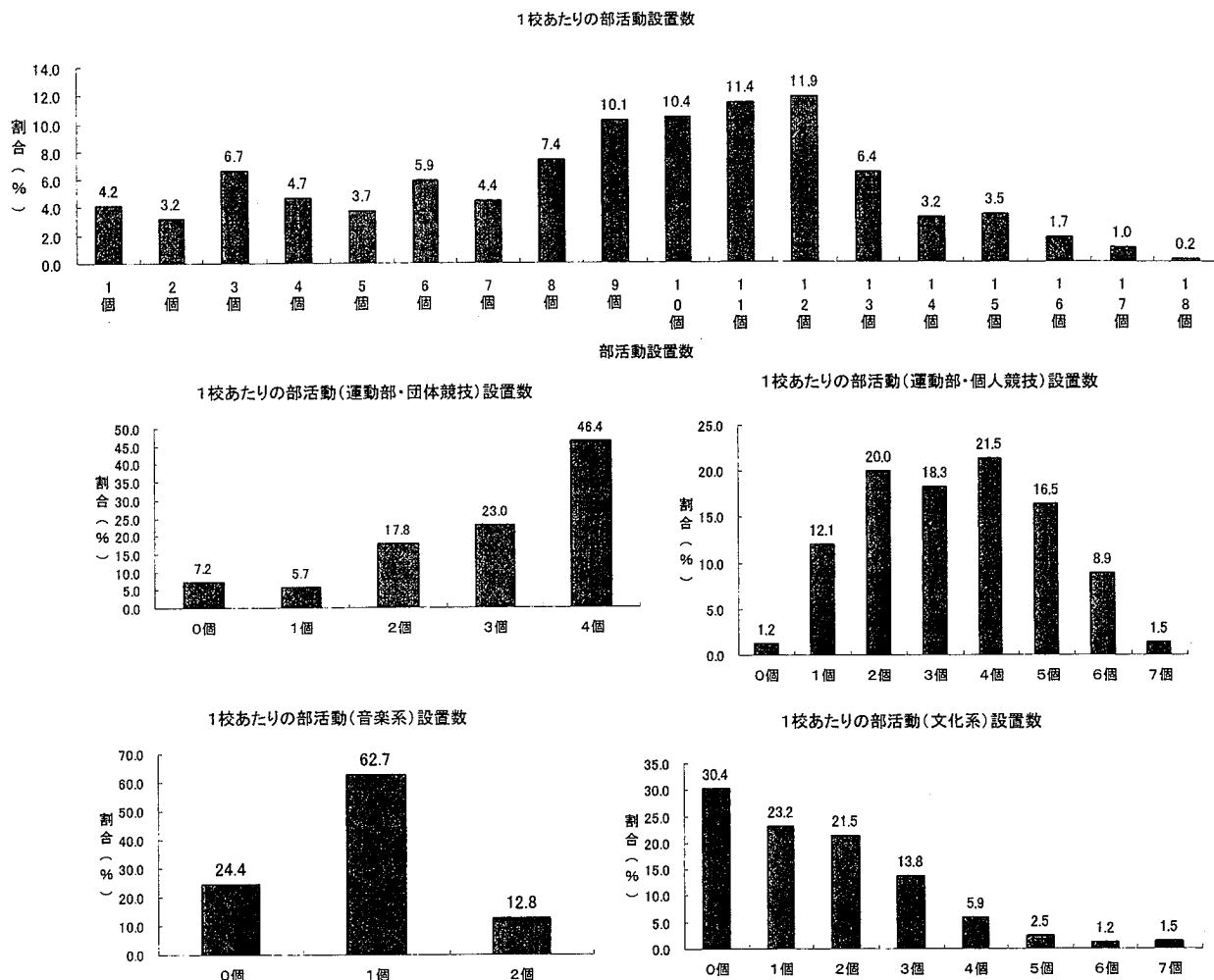
※ 部活動設置率=回答数/中学校数(405)×100

② 部活動の設置数

中学校全体で一校あたりどれだけの数の部活動が設置されているのか検討する。図は、1校あたりの部活動の設置数の割合を示したものである。1校あたりの部活動設置数は12個の11.9%が最も多かった。

活動種目別にみていくと、運動部の団体競技は4個が最も多く、46.4%であった。個人競技は4個が最も多く21.5%であった。音楽系部活動は1個が最も多く、62.7%であった。文化系部活動は0個が最も多く30.4%であった。

図 1 1校あたりの部活動設置数の割合



(2) 学校規模別にみた部活動の種類と数

次に学校規模別で設置されている部活動の種類や数はどのように違うのか検討する。

① 学校規模別にみた部活動の種類

学校規模の違いによって、部活動が設置状況に違いがあるのか検討する。図2から図4は、学校規模別に各部活動の設置率を示したものである。なおすべての活動種目において学校規模とのクロス集計の結果、統計上有意な差が確認された(すべて $P < 0.001$)。すべての活動種目において学校規模が大きくなると、設置率の値が大きくなっていった。

図2、図3をみると、運動部は学校規模が小さくても中学校で設置されている割合が高いことがわかる。特にバレーボールやバスケットボールは生徒数が50~100人もしくは100~150人と比較的、小さな学校でも半数以上の学校が設置していた。団体競技の中でもバレーは6名、バスケは5名と比較的少ない人数でもチームを結成することが出来ることや、男子生徒だけではなく、女子生徒だけでもチームを作り試合に参加できることなどから、小さな学校でも設置されている割合が高いと推察される。また野球は1チーム9名以上と比較的多くのメンバーが必要なことや、主に男子だけでチームを結成するにも関わらず、バレーやバスケ同様、小さな学校でも設置率が高い。その理由は野球が伝統的に人気のある運動競技であることから、小さな学校でも優先的に設置される傾向にあるのかもしれない。一方、サッカーはワールドカップへの国民的熱狂からわかるように、野球と並ぶ人気競

技となっている。しかし野球に比べて、小規模校での設置率は低くなっていた。

図 2 学校規模別にみた部活動種目の割合（運動部・団体競技）

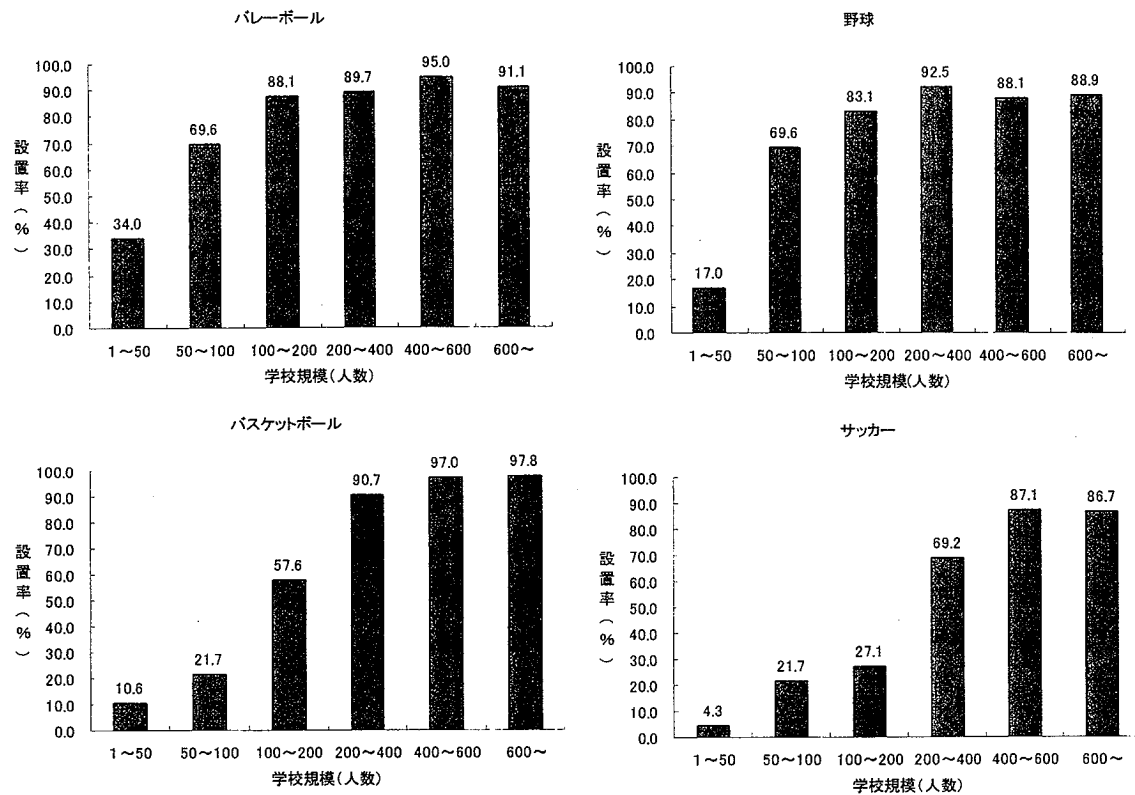
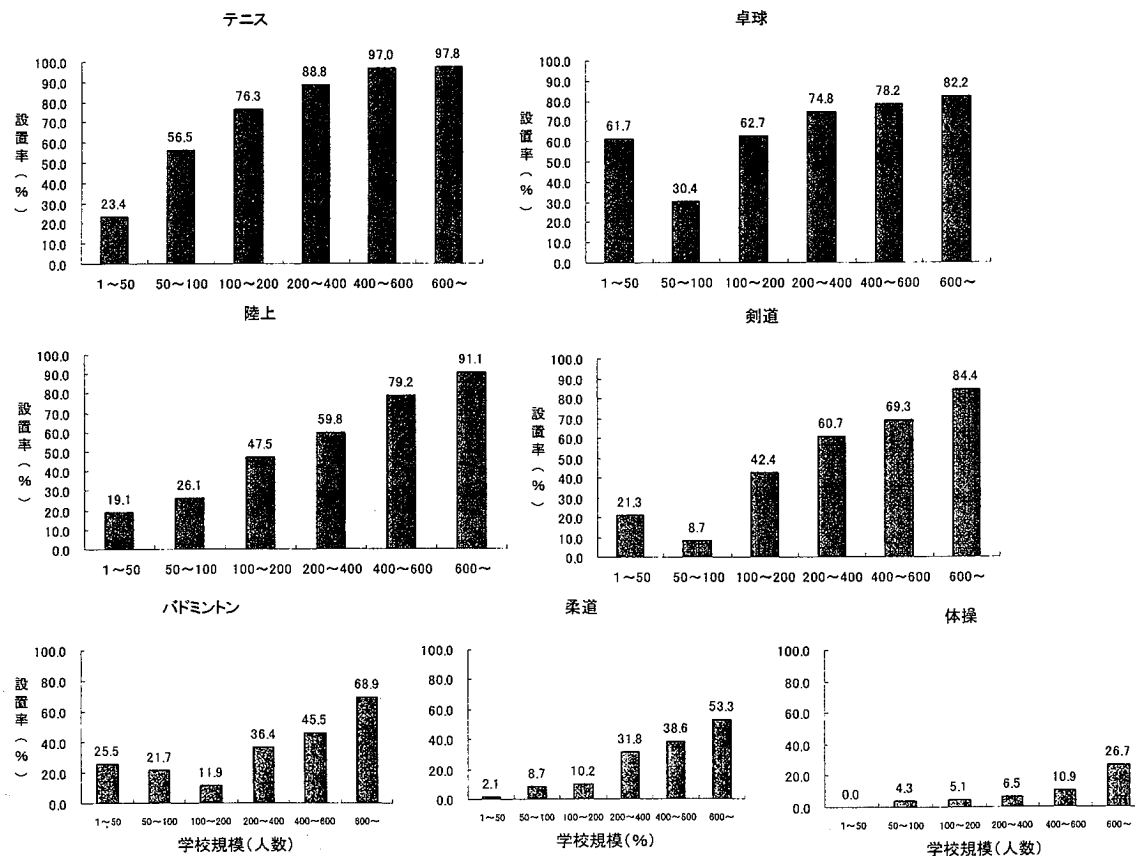


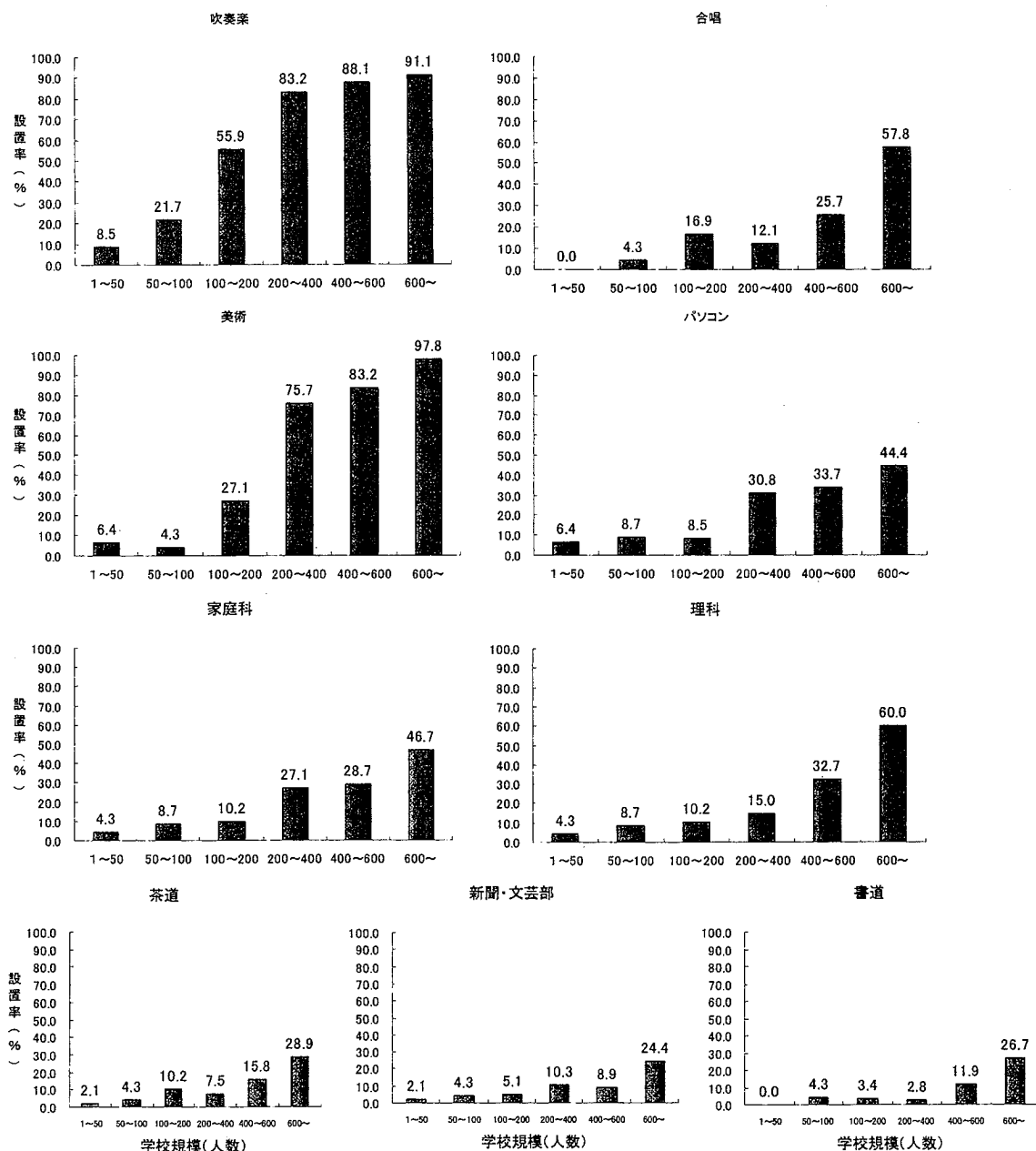
図 3 学校規模別にみた部活動種目の割合（運動部・個人競技）



運動部のうち個人競技は、団体競技に比べて小規模校での設置率が低い傾向にあった（図3）。全般的に人気スポーツは団体競技が多いことを考えると、小規模校で部活動を設置する基準として優先されるのは、競技可能人数ではなく競技の人気であると推察される。ただし卓球部は例外的に小規模校でも設置率が高かった。1～50人の小規模校ではいずれの部活動も多くて30%程度であったにもかかわらず、卓球部のみ61.7%と高い設置率を示していた。

一方、音楽系や文化系は、吹奏楽や美術を除いて運動系に比べて全体的に小規模校での設置率が低かった（図4）。

図4 学校規模別にみた部活動種目の割合（音楽系・文化系）



② 学校規模別にみた部活動の数

次に学校規模別で一校あたりどれだけの数の部活動が設置されているのか検討する。表3は学校規模別に部活動設置数の平均値の差の検定を行った結果である。いずれも統計上有意な差があり、学校規模が大きくなると部活動の設置数が多くなっていることがわかる。またいずれも全体の平均値より大きくなっている学校規模は「200人以上400人以下」となっていた。

表3 学校規模別にみた部活動設置数の平均値

	部活動設置数	運動部設置数	運動部(団体)設置数	運動部(個人)設置数	音楽系部活動設置数	文化系部活動設置数
1人以上50人まで	2.5 ***	2.2 ***	0.7 ***	1.5 ***	0.1 ***	0.3 ***
50人以上100人まで	4.1	3.4	1.8	1.6	0.3	0.4
100人以上200人まで	6.6	5.1	2.6	2.6	0.7	0.7
200人以上400人まで	9.7	7.0	3.4	3.6	1.0	1.7
400人以上600人まで	11.1	7.9	3.7	4.2	1.1	2.1
600人以上	13.5	8.7	3.6	5.0	1.5	3.3
合計	8.8	6.3	2.9	3.4	0.9	1.6

※ 数値は割合(%)

※ ***はP<0.001、**はP<0.01、*はP<0.05 以下同様。

3. 学校規模別にみた部活動への活動状況

以上の結果を踏まえて、実際の中学生がどのような部活動に参加して活動しているのか、学校規模別に検討していく。分析に用いるのは児童生徒調査のデータである。そのうち中学生1720名のデータを用いて分析を進めていく。

(1) 部活動の参加状況

生徒調査の質問11を使用して、中学生の部活動の参加状況を把握する。また部活動参加者のみに1週間あたりの活動日数と1日あたりの時間数についても質問を行っており、それらについても確認しておきたい。

表4は中学生全体の部活動参加状況について算出した表である。なお表4には性別と部活動参加状況とのクロス集計の結果も示している。

表4をみると、中学生のうち運動部に参加している生徒が最も多く74.7%であった。また音楽系が10.6%、文化系が5.5%となっており、運動部と合計して90.8%の生徒が何かしらの部活動に参加していた。2002年度施行の学習指導要領よりクラブ活動が廃止したことより、部活動参加によるクラブ活動代替がなくなったため、部活動への参加が基本的に自由となった。しかし多くの生徒が部活動に参加していることがわかる。また男女で比較したとき、女子は男子に比べて音楽系や文化系部活動に参加していた。

部活動の活動日数については、6日～7日未満が最も多く45.6%であった。休日も費やして部活動に取り組んでいることがわかる。また毎日と回答した者も17.2%と約2割程度いた。

1日の活動時間については、1時間～2時間未満が38.9%、2時間～3時間未満が38.0%であった。多くの生徒は1時間から3時間ぐらいの時間を費やして部活動に取り組んでいることがうかがえる。

表 4 中学生の部活動参加状況

		全体		男子のみ	女子のみ	
		人数	%	%	%	
参加している 部活動の種 類	運動系	1195	74.7	87.7	61.3	***
	音楽系	169	10.6	1.8	19.7	
	文化系	88	5.5	3.0	8.1	
	不参加	147	9.2	7.5	11.0	
	合計	1599	100.0	100.0	100.0	
1週間に何日 行っているか (参加者の み)	1日未満	8	0.6	0.7	0.4	**
	1日～2日未満	12	0.8	1.1	0.6	
	2日～3日未満	13	0.9	1.0	0.9	
	3日～4日未満	33	2.3	2.2	2.5	
	4日～5日未満	67	4.7	4.1	5.5	
	5日～6日未満	400	28.0	23.5	31.8	
	6日～7日未満	652	45.6	50.6	40.6	
	毎日	246	17.2	16.8	17.7	
	合計	1431	100.0	100.0	100.0	
1日の活動時 間は、およ そ何時間か (参加者の み)	1時間未満	31	2.2	2.2	2.2	
	1時間～2時間未満	555	38.9	36.3	40.4	
	2時間～3時間未満	542	38.0	40.9	35.3	
	3時間～4時間未満	255	17.9	17.9	18.4	
	4時間以上	45	3.2	2.8	3.7	
	合計	1428	100.0	100.0	100.0	

※ 有意差検定の結果は、性別と各項目のクロス集計の結果に基づく。

なお部活動の活動日数や活動時間は部活動の種類によって異なると考えられる。そこで活動種目と活動日数や時間の関連についても確認しておきたい。表5は、活動種目と活動状況のクロス集計の結果である。活動日数、時間ともに統計上、有意な差があった。活動日数については、運動系や音楽系が文化系と比べて実施日数が多いことがわかる。活動時間については、音楽系は運動系などと比べて多い傾向にあった。

表 5 活動種目別にみた活動状況

活動日数	1日未満	1日～2日未満	2日～3日未満	3日～4日未満	4日～5日未満	5日～6日未満	6日～7日未満	毎日	***
運動系	0.5	0.7	0.8	2.1	3.1	26.4	47.9	18.4	
音楽系	0.0	0.6	0.0	1.2	3.6	29.9	48.5	16.2	
文化系	2.4	3.6	3.6	7.1	28.6	45.2	7.1	2.4	
合計	0.6	0.8	0.9	2.3	4.7	28.0	45.6	17.2	

活動時間	1時間未満	1時間～2時間 未満	2時間～3時間 未満	3時間～4時間 未満	4時間以上	***
運動系	2.2	40.2	38.2	16.9	2.5	
音楽系	1.2	31.5	33.9	24.2	9.1	
文化系	3.7	34.1	42.7	19.5	0.0	
合計	2.2	38.9	38.0	17.9	3.2	

※ 数値は%

(2) 学校規模別の部活動参加状況

次に学校規模と部活動の参加状況との関連について検討していきたい。表6は学校規模と部活動参加状況とのクロス集計の結果である⁽²⁾。いずれの項目も統計上、有意な差があった。

参加状況については、規模が小さい中学校の生徒ほど部活動に参加している一方、規模が大きい中学校の生徒は部活動に参加していない傾向にあった。また参加者のうち、規模が小さい中学校の生徒はほとんど運動部に入部しているが、規模が大きくなるにつれて運動部だけではなく音楽系や文化系の部活動にも入部していた。

一方、活動日数、活動時間については学校規模が大きくなるにつれ日数、時間ともに増加していた。規模が大きい学校の部活動は時間を多く費やして活動に取り組んでいることがうかがえる。

表 6 学校規模別にみた部活動参加状況

部活動参加	部活動参加者			不参加者	合計	
	運動系	音楽系	文化系			
100人未満	96.7	0.8	0.8	1.6	100.0 (123)	***
100-199人	78.2	12.2	6.3	3.3	100.0 (395)	
200-499人	71.0	11.1	5.7	12.2	100.0 (1081)	
合計	74.7	10.6	5.5	9.2	100.0 (1599)	

活動日数	1日未満	1日～2日未満	2日～3日未満	3日～4日未満	4日～5日未満	5日～6日未満	6日～7日未満	毎日	合計
100人未満	0.0	2.5	0.0	3.3	5.8	49.6	34.7	4.1	100.0 (121)
100-199人	0.0	0.0	0.0	0.5	4.2	38.8	50.1	6.3	100.0 (379)
200-499人	0.9	1.0	1.4	2.9	4.7	20.7	45.1	23.3	100.0 (931)
合計	0.6	0.8	0.9	2.3	4.7	28.0	45.6	17.2	100.0 (1431)

活動時間	1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間以上	合計	
100人未満	5.9	79.0	11.8	0.8	2.5	100.0 (119)	***
100-199人	4.7	47.6	30.5	15.8	1.3	100.0 (380)	
200-499人	0.6	30.1	44.3	20.9	4.0	100.0 (929)	
合計	2.2	38.9	38.0	17.9	3.2	100.0 (1428)	

※ 数値は%、()内は人数

これまでの結果をみると、まず学校規模が大きくなるにつれて部活動の設置数が増加し種類も多様になる傾向にあることが明らかとなった。部活動を行う環境としては学校規模が大きいほど恵まれているといえるが、部活動に参加する生徒の割合は学校規模が大きくなるにつれて減少する傾向にあった。ただし規模が大きい中学校ほど部活動の活動時間は多かった。

一方、規模が小さい中学校の生徒は数少ない部活動、とりわけ運動部にほとんどの生徒が入部していた。しかし規模が小さい学校になるほど部活動の活動時間は少ない傾向にあった。

4. 学校規模・部活動・放課後の生活

これまで学校規模別に部活動がどのように設置されているのか、さらには実際の中学生がどのように部活動に関与しているのか検討してきた。ただし部活動は放課後に行われる1つの課外活動であり、実際の中学生は部活動以外にも塾やスポーツクラブもしくは家庭学習などさまざまな活動を行って放課後の生活をすごしている。学校規模によって部活動を取り巻く環境や参加状況は異なっていたが、部活動以外の生活については学校規模による違いが見られるのだろうか。また部活動の参加状況の違いによって放課後の生活は異なるのだろうか。そこで学校規模別に放課後の生活に違いが見られるのか検討していきたい。以下、児童生徒調査の質問 12 の家庭での勉強や生活に関する項目を用いて分析を行う。

(1) 学校規模別にみた放課後の生活

部活動との関連を検討する前に、学校規模によって部活動以外の放課後の生活に違いがあるのか検討していきたい。

① 塾や部活動以外のクラブとの関連

表7は学校規模と塾や部活動以外のクラブへの参加とのクロス集計結果を示したものである。塾は学校規模と有意な差があった。規模が大きい中学校の生徒は塾に通う割合が高くなっている。一方、スポーツクラブへの参加などには違いが見られなかった。

表 7 学校規模別にみた塾や部活動以外のクラブへの参加率

	学習塾	英会話	ピアノ・ダンス・舞踏など	書道や絵画など	そろばん、パソコンなど	野球、サッカー、水泳などのスポーツ	その他
100人未満	20.3 **	0.7	18.8	5.1	0.0	17.4	10.1 ***
100-199人	29.0	3.0	15.1	9.5	0.2	12.8	2.3
200-499人	34.0	2.5	12.8	7.1	1.3	13.3	3.6
合計	31.6	2.5	13.8	7.6	0.9	13.5	3.8

※ 数値は各項目に○をつけた生徒の割合(%)

② 家庭における学習状況との関連

表8は学校規模と家庭における学習状況とのクロス集計結果を示したものである。1週間あたりの勉強日数や1日あたりの勉強時間は学校規模が大きくなるにつれて減少していた。

また学習内容をみると、小規模校の生徒はそれ以外の中学生と比べて学校の宿題や授業の予習・復習に取り組み、規模が大きい中学校の生徒は小規模校の生徒と比べて塾の宿題を行っていることがわかる。

表 8 学校規模別にみた家庭における学習状況

あなたは、家で1週間に何日くらい勉強をしますか(塾での勉強は除く)

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日(毎日)	合計
100人未満	5.6	4.8	7.2	6.4	16.8	34.4	24.8	100.0 (125)
100-199人	13.7	11.5	14.7	9.6	17.9	16.4	16.2	100.0 (408)
200-499人	28.7	16.2	16.4	8.5	12.4	8.4	9.4	100.0 (1038)
合計	23.0	14.1	15.2	8.6	14.2	12.5	12.4	100.0 (1571)

ふだん(月曜-金曜)、家では1日何時間勉強しますか(塾や家庭教師を除きます)

	しない	30分以下	30分以上1時間以下	1時間以上2時間以下	2時間以上3時間以下	3時間以上	合計
100人未満	3.9	8.5	45.0	35.7	6.2	0.8	100.0 (129)
100-199人	9.4	9.9	45.2	23.9	9.9	1.7	100.0 (414)
200-499人	23.0	11.1	38.9	19.7	5.9	1.4	100.0 (1100)
合計	18.1	10.6	41.0	22.0	6.9	1.4	100.0 (1643)

家庭での学習の様子

	学校の宿題	学校の授業の予習・復習	塾の宿題	通信教育の教材での勉強	本屋で買った問題集・参考書での勉強	その他
100人未満	87.0 ***	40.6 **	15.9 *	13.8	24.6 *	2.9
100-199人	84.7	44.1	17.2	19.5	14.6	3.5
200-499人	73.8	34.8	22.9	14.9	18.7	4.6
合計	77.6	37.6	20.9	16.0	18.1	4.2

※ 数値は各項目に○をつけた生徒の割合(%)

③ その他の放課後の生活との関連

表9は学校規模とテレビ・ゲーム・遊び・睡眠とのクロス集計結果を示したものである。学校規模が小さい中学校の生徒は、1人でテレビを見る、勉強をするなど学校が終わった後の時間を1人で過ごす割合が高い。一方、学校規模が大きくなるにつれて、友人と一緒に遊ぶ生徒の割合が高くなっている。

表 9 学校規模別にみたテレビ・ゲーム・遊び・睡眠

ふだん(月曜-金曜)、1日何時間テレビを見ますか

	見ない	1時間以下	1時間以上2時間	2時間以上3時間	3時間以上4時間	4時間以上	合計
100人未満	2.4	4.0	24.8	29.6	21.6	17.6	100.0 (125)
100-199	0.5	4.1	21.8	24.3	22.1	27.2	100.0 (412)
200-499	1.6	5.2	21.5	24.6	22.1	25.0	100.0 (1095)
合計	1.4	4.8	21.8	24.9	22.1	25.0	100.0 (1632)

ふだん(月曜-金曜)、1日何時間ゲームをしますか

	しない	1時間以下	1時間以上2時間	2時間以上3時間	3時間以上4時間	4時間以上	合計
100人未満	51.2	19.4	19.4	2.3	1.6	6.2	100.0 (129) *
100-199	41.6	17.2	21.5	8.2	4.8	6.5	100.0 (413)
200-499	51.4	17.1	17.5	5.7	3.1	5.2	100.0 (1106)
合計	48.9	17.3	18.7	6.1	3.4	5.6	100.0 (1648)

ふだん(月曜-金曜)、1日の睡眠時間はどのくらいですか

	6時間未満	6時間~7時間未満	7時間~8時間未満	8時間~9時間未満	9時間~10時間未満	10時間以上	合計
100人未満	8.7	11.0	40.2	35.4	4.7	0.0	100.0 (127)
100-199人	7.4	18.5	38.8	25.7	7.9	1.7	100.0 (405)
200-499人	8.3	20.3	36.3	25.7	7.2	2.2	100.0 (1073)
合計	8.1	19.1	37.2	26.5	7.2	1.9	100.0 (1605)

※ 数値は%、()内は人数

放課後の過ごし方

	一人でテレビを見る	友だちと家で遊ぶ	公園などで遊ぶ	友だちと商店などへ行く	一人で勉強する	塾やクラブに行く
100人未満	71.0 ***	5.8 ***	2.2 ***	0.0 ***	46.4 ***	18.8 ***
100-199人	71.9	10.2	0.9	3.7	39.0	21.8
200-499人	62.6	20.4	5.6	15.7	24.2	37.3
合計	65.6	16.7	4.2	11.5	29.7	31.9

※ 数値は各項目に○をつけた生徒の割合(%)

(2) 部活動と放課後の生活の関連

以上の結果を踏まえて、部活動と放課後の生活の関連について検討していきたい。

① 塾や部活動以外のクラブとの関連

表 10 は部活動参加と塾や部活動以外のクラブへの参加とのクロス集計結果を示したものである。まず学習塾については学校規模が 200 から 499 人において、有意な差があった。通塾の割合を見ると、活動種目に関係なく部活動参加者は 30%以上が塾に通っているのに対し、不参加者は 23.5%と割合が低かった。

一方、部活動以外のピアノ・ダンスなどへの教室やスポーツクラブへ通うことについても、100 人以下の小規模校を除いて有意な差があった。ピアノなどへの教室は音楽系部活動に所属している者が通っている割合が高く、スポーツクラブへ通っているものは運動部所属者が多い。つまり学校外のクラブなどに参加するとき、参加する内容は部活動の参加種目と対応している。また部活動不参加者は、学校外へのクラブなどにはあまり通っていなかった。

表 10 部活動参加別にみた塾や部活動以外のクラブへの参加率

		学習塾	英会話	ピアノ・ダンス・舞踏など	書道や絵画など	そろばん、パソコンなど	野球、サッカー、水泳などのスポーツ	その他	
全体	運動系	33.6	2.3	11.9 ***	7.5	0.8	16.2 ***	3.8	
	音楽系	30.2	4.1	29.6	10.7	0.6	1.8	4.7	
	文化系	34.1	1.1	17.0	6.8	3.4	4.5	4.5	
	不参加	23.1	1.4	10.2	3.4	1.4	8.2	1.4	
	合計	32.3	2.4	13.9	7.4	0.9	13.3	3.8	
学校規模別	100人未満	運動系	22.7	0.8	14.3	3.4	0.0	19.3	9.2 *
		音楽系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		文化系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		不参加	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		合計	22.0	0.8	14.6	3.3	0.0	19.5	9.8
	100-199人	運動系	28.5	3.6	13.3 *	8.1 **	0.3	15.2 *	2.6
		音楽系	29.2	2.1	29.2	22.9	0.0	0.0	2.1
		文化系	40.0	0.0	20.0	12.0	0.0	8.0	0.0
		不参加	23.1	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		合計	29.1	3.0	15.4	9.9	0.3	12.4	2.3
	200-499人	運動系	37.3 *	2.1	11.0 ***	8.0	1.0	16.2 ***	3.5
		音楽系	30.8	5.0	30.0	5.8	0.8	2.5	5.0
		文化系	32.3	1.6	16.1	4.8	4.8	1.6	6.5
		不参加	23.5	1.5	9.8	3.8	1.5	9.1	1.5
		合計	34.6	2.3	13.2	7.0	1.3	13.0	3.6

※ 数値は各項目に○をつけた生徒の割合(%)

② 家庭における学習状況との関連

表 11 部活動参加別にみた家庭における学習時間

あなたは、家で1週間に何日くらい勉強をしますか(塾での勉強は除く)

		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日(毎日)	合計	
全体	運動系	22.6	13.7	15.1	9.1	14.3	13.3	11.9	100.0 (1102)	
	音楽系	21.5	15.8	13.3	8.9	12.0	12.0	16.5	100.0 (158)	
	文化系	22.0	15.9	18.3	11.0	13.4	6.1	13.4	100.0 (82)	
	不参加	28.9	14.8	16.4	3.9	14.8	10.2	10.9	100.0 (128)	
	合計	23.0	14.1	15.2	8.7	14.1	12.5	12.4	100.0 (1470)	
学校規模別	100人未満	運動系	5.5	5.5	8.2	7.3	17.3	34.5	21.8	100.0 (110)
		音楽系	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0 (1)
		文化系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0 (1)
		不参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0 (1)
		合計	6.2	5.3	8.0	7.1	16.8	34.5	22.1	100.0 (113)
	100-199人	運動系	11.9	11.2	13.9	9.9	18.0	18.4	16.7	100.0 (294)
		音楽系	22.9	12.5	8.3	8.3	14.6	10.4	22.9	100.0 (48)
		文化系	12.5	12.5	29.2	12.5	20.8	4.2	8.3	100.0 (24)
		不参加	18.2	9.1	45.5	9.1	9.1	0.0	9.1	100.0 (11)
		合計	13.5	11.4	15.1	9.8	17.5	15.9	16.7	100.0 (377)
	200-499人	運動系	29.8	16.0	16.6	9.0	12.3	7.9	8.3	100.0 (698)
		音楽系	20.2	17.4	15.6	9.2	11.0	12.8	13.8	100.0 (109)
		文化系	26.3	17.5	14.0	10.5	10.5	5.3	15.8	100.0 (57)
		不参加	30.2	15.5	13.8	3.4	15.5	11.2	10.3	100.0 (116)
		合計	28.6	16.2	16.0	8.5	12.4	8.7	9.6	100.0 (980)

ふだん(月曜-金曜)、家では1日何時間勉強をしますか(塾や家庭教師を除きます)

		しない	30分以下	30分以上1時間以下	1時間以上2時間以下	2時間以上3時間以下	3時間以上	合計	
全体	運動系	17.2	9.6	41.8	23.0	6.9	1.6	100.0 (1150)	
	音楽系	20.0	11.5	35.8	19.4	12.7	0.6	100.0 (165)	
	文化系	10.7	15.5	47.6	19.0	6.0	1.2	100.0 (84)	
	不参加	28.5	10.4	39.6	16.0	3.5	2.1	100.0 (144)	
	合計	18.2	10.2	41.3	21.7	7.1	1.5	100.0 (1543)	
学校規模別	100人未満	運動系	2.7	8.9	44.6	35.7	7.1	0.9	100.0 (112)
		音楽系	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0 (1)
		文化系	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0 (1)
		不参加	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0 (2)
		合計	4.3	8.6	43.1	36.2	6.9	0.9	100.0 (116)
	100-199人	運動系	7.7	8.3	49.3	23.3	9.3	2.0	100.0 (300)
		音楽系	17.0	6.4	31.9	23.4	19.1	2.1	100.0 (47)
		文化系	4.2	20.8	41.7	20.8	12.5	0.0	100.0 (24)
		不参加	30.8	7.7	30.8	23.1	7.7	0.0	100.0 (13)
		合計	9.4	8.9	46.1	23.2	10.7	1.8	100.0 (384)
	200-499人	運動系	23.3	10.2	38.3	20.9	5.8	1.5	100.0 (738)
		音楽系	20.5	13.7	37.6	17.9	10.3	0.0	100.0 (117)
		文化系	13.6	13.6	50.8	16.9	3.4	1.7	100.0 (59)
		不参加	27.9	10.9	41.1	14.7	3.1	2.3	100.0 (129)
		合計	23.0	10.8	39.3	19.6	5.8	1.4	100.0 (1043)

※ 数値は%、()内は人数

表 11 は部活動参加と家庭における学習状況とのクロス集計結果を示したものである。まず家庭における 1 週間あたりの学習日数と部活動参加とは関連がなかった。

一方、1 日あたりの学習時間と部活動のクロス集計を行った結果、学校規模に関わりなく中学生全体において有意な差があった。また部活動参加の有無に関わらず、おおむね 30 分以上 1 時間未満が最も多く、4 割前後であった。部活動参加の有無で比較したとき、一日のうち勉強を「しない」と回答した者の割合をみると、その中でももっとも割合が高いのは不参加者で 28.0%であった。一方、部活動参加者は種目に関係なく、不参加者と比べて「しない」の割合が低く、1 時間以上や 2 時間以上の生徒の割合が高かった。

また学習内容をみると、規模が 200 から 499 人の学校において、部活動参加と学習内容と有意な差があった（表 12）。規模が 200 から 499 人の学校において学校の宿題をすると回答した者の割合は、音楽系が最も高く 83.3%で次いで運動系、文化系となっており、不参加者は最も低く 67.4%であった。塾の宿題は活動種目に関係なく部活動参加が 2 割以上であるのに対し、不参加者は 11.4%であった。先ほどの学習時間との結果とあわせて考えると、部活動参加者はとりわけ音楽系を中心に勉強しているが、部活動不参加者は普段余り勉強しない傾向にあるといえるだろう。

表 12 部活動参加別にみた家庭における学習内容

		学校の宿題	学校の授業の 予習・復習	塾の宿題	通信教育の教 材での勉強	本屋で買った 問題集・参考 書での勉強	その他
全体	運動系	79.2 **	39.0	22.7 *	14.5	17.3	3.9
	音楽系	82.8	37.3	21.9	26.0	22.5	5.9
	文化系	77.3	28.4	20.5	22.7	18.2	3.4
	不参加	68.0	32.0	11.6	18.4	19.0	3.4
	合計	78.5	37.6	21.5	16.5	18.1	4.1
学校規模別 100人未満	運動系	88.2 *	38.7	18.5	14.3	26.1	2.5
	音楽系	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文化系	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不参加	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	合計	87.0	39.0	17.9	13.8	26.0	2.4
100-199人	運動系	86.7	45.6	17.2	19.1	15.2	4.2
	音楽系	81.3	45.8	22.9	31.3	10.4	4.2
	文化系	92.0	36.0	16.0	16.0	16.0	0.0
	不参加	76.9	30.8	15.4	23.1	7.7	0.0
	合計	86.1	44.6	17.7	20.5	14.4	3.8
200-499人	運動系	74.8 *	36.4	25.6 **	12.6 **	16.8 *	4.0
	音楽系	83.3	34.2	21.7	24.2	27.5	6.7
	文化系	72.6	24.2	22.6	25.8	19.4	4.8
	不参加	67.4	31.8	11.4	18.2	19.7	3.8
	合計	74.7	34.9	23.2	15.4	18.5	4.3

※ 数値は各項目に○をつけた生徒の割合(%)

③ その他の放課後の生活との関連

表 13 は部活動参加とテレビ・ゲーム・睡眠時間とのクロス集計結果を示したものである。テレビの視聴時間については、全体で部活動参加と有意な差があった。また学校規模別に見ると規模が 200 から 499 人の学校の生徒についても有意な差があった。長時間テレビを視聴している生徒は文化系部活動の参加者と不参加者で、いずれも 3 割以上が 4 時間以上テレビを視聴していた。

ゲーム（テレビゲーム）をする時間についてはいずれの学校規模も有意な差があった。文化系部活動の参加者がゲームをよくする傾向にあつて、100 人以下の学校規模を除いて 4 時間以上が 1 割を超えていた。

睡眠時間については、活動種目に関係なく部活動参加者は 6 時間から 10 時間の間に集中していた。一方、不参加者は参加者同様に 6 時間から 10 時間の間に集中していたが、6 時間未満と非常に少ない

睡眠時間の生徒も2割弱存在していた。

表 13 部活動参加別にみたテレビ・ゲーム・睡眠時間

ふだん(月曜-金曜)、1日何時間テレビを見ますか

		見ない	1時間以下	1時間以上2時間以下	2時間以上3時間以下	3時間以上4時間以下	4時間以上	合計		
全体	運動系	1.7	4.1	23.8	25.7	23.4	21.4	100.0 (1134)	***	
	音楽系	0.0	6.1	20.2	25.8	21.5	26.4	100.0 (163)		
	文化系	3.7	6.1	13.4	24.4	22.0	30.5	100.0 (82)		
	不参加	0.0	6.8	11.0	24.0	19.2	39.0	100.0 (146)		
	合計	1.4	4.7	21.6	25.4	22.7	24.1	100.0 (1525)		
学校規模別	100人未満	運動系	2.8	3.7	26.2	31.8	22.4	13.1	100.0 (107)	
		音楽系	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0 (1)	
		文化系	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0 (1)	
		不参加	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0 (2)	
		合計	2.7	3.6	25.2	31.5	23.4	13.5	100.0 (111)	
	100-199人	運動系	0.3	2.7	24.2	24.2	23.6	24.9	100.0 (297)	
		音楽系	0.0	6.4	21.3	25.5	12.8	34.0	100.0 (47)	
		文化系	4.3	13.0	17.4	17.4	30.4	17.4	100.0 (23)	
		不参加	0.0	0.0	7.7	38.5	15.4	38.5	100.0 (13)	
		合計	0.5	3.7	22.9	24.5	22.4	26.1	100.0 (380)	
200-499人	運動系	2.1	4.7	23.3	25.3	23.4	21.2	100.0 (730)	**	
	音楽系	0.0	6.1	20.0	26.1	24.3	23.5	100.0 (115)		
	文化系	3.4	3.4	12.1	27.6	17.2	36.2	100.0 (58)		
	不参加	0.0	7.6	11.5	22.1	19.8	38.9	100.0 (131)		
	合計	1.6	5.1	20.8	25.1	22.7	24.6	100.0 (1034)		

ふだん(月曜-金曜)、1日何時間ゲームをしますか

		しない	1時間以下	1時間以上2時間以下	2時間以上3時間以下	3時間以上4時間以下	4時間以上	合計		
全体	運動系	47.5	18.4	20.2	5.5	2.9	5.5	100.0 (1146)	**	
	音楽系	64.0	13.4	9.1	6.1	3.0	4.3	100.0 (164)		
	文化系	45.2	16.7	16.7	6.0	3.6	11.9	100.0 (84)		
	不参加	45.9	15.1	18.5	8.9	5.5	6.2	100.0 (146)		
	合計	49.0	17.5	18.7	5.9	3.2	5.8	100.0 (1540)		
学校規模別	100人未満	運動系	50.5	20.7	20.7	0.9	0.9	6.3	100.0 (111)	***
		音楽系	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0 (1)	
		文化系	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0 (1)	
		不参加	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	100.0 (2)	
		合計	50.4	20.0	20.0	1.7	0.9	7.0	100.0 (115)	
	100-199人	運動系	40.3	17.8	24.2	6.7	4.7	6.4	100.0 (298)	*
		音楽系	45.7	17.4	15.2	10.9	4.3	6.5	100.0 (46)	
		文化系	70.8	8.3	4.2	12.5	0.0	4.2	100.0 (24)	
		不参加	7.7	30.8	7.7	23.1	15.4	15.4	100.0 (13)	
		合計	41.7	17.6	21.3	8.1	4.7	6.6	100.0 (381)	
200-499人	運動系	49.9	18.3	18.6	5.7	2.4	5.0	100.0 (737)	***	
	音楽系	71.8	12.0	6.8	3.4	2.6	3.4	100.0 (117)		
	文化系	33.9	20.3	22.0	3.4	5.1	15.3	100.0 (59)		
	不参加	49.6	13.7	19.8	7.6	4.6	4.6	100.0 (131)		
	合計	51.4	17.1	17.6	5.6	2.9	5.4	100.0 (1044)		

ふだん(月曜-金曜)、1日の睡眠時間はどのくらいですか

		6時間未満	6時間~7時間未満	7時間~8時間未満	8時間~9時間未満	9時間~10時間未満	10時間以上	合計		
全体	運動系	6.6	18.0	39.1	27.0	7.5	1.7	100.0 (1128)	***	
	音楽系	8.1	21.3	33.1	29.4	6.3	1.9	100.0 (160)		
	文化系	9.0	17.9	24.4	37.2	10.3	1.3	100.0 (78)		
	不参加	18.0	26.6	28.1	19.4	2.2	5.8	100.0 (139)		
	合計	8.0	19.1	36.7	27.1	7.0	2.1	100.0 (1505)		
学校規模別	100人未満	運動系	9.1	9.1	40.0	36.4	5.5	0.0	100.0 (110)	**
		音楽系	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0 (1)	
		文化系	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0 (2)	
		不参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0 (0)	
		合計	8.8	11.5	38.9	35.4	5.3	0.0	100.0 (113)	
	100-199人	運動系	6.8	19.7	37.6	25.8	8.5	1.7	100.0 (295)	***
		音楽系	6.5	23.9	43.5	19.6	4.3	2.2	100.0 (46)	
		文化系	4.2	8.3	29.2	45.8	12.5	0.0	100.0 (24)	
		不参加	8.3	0.0	58.3	25.0	0.0	8.3	100.0 (12)	
		合計	6.6	18.8	38.5	26.3	8.0	1.9	100.0 (377)	
200-499人	運動系	6.2	18.7	39.6	26.1	7.5	1.9	100.0 (723)		
	音楽系	8.8	19.5	29.2	33.6	7.1	1.8	100.0 (113)		
	文化系	11.1	22.2	22.2	33.3	9.3	1.9	100.0 (54)		
	不参加	19.2	28.0	25.6	19.2	2.4	5.6	100.0 (125)		
	合計	8.4	20.1	35.8	26.5	6.9	2.4	100.0 (1015)		

※ 数値は%、()内は人数

表 14 は部活動参加と放課後の遊びのクロス集計結果を示したものである。全体をみると、部活動参加と有意な差があった項目は、「友だちと家で遊ぶ」「公園などで遊ぶ」「友だちと商店などへ行く」「一人で勉強する」であった。「一人で勉強する」を除いて、不参加者の割合が他の部活動参加者と比べて高かった。学校規模別にみると、200 から 499 人までの学校の生徒が「友だちと家で遊ぶ」「公園などで遊ぶ」「友だちと商店などへ行く」「塾やクラブに行く」において部活動参加と有意な差があった。「塾やクラブに行く」を除いて、不参加者の割合が他の部活動参加者と比べて高かった。

表 14 部活動参加別にみた放課後の遊び

		一人でテレビを見る	友だちと家で遊ぶ	公園などで遊ぶ	友だちと商店などへ行く	一人で勉強する	塾やクラブに行く
全体	運動系	65.5	14.8 ***	2.2 ***	9.3 ***	31.2 *	33.6
	音楽系	72.8	9.5	5.9	12.4	34.3	32.5
	文化系	67.0	15.9	2.3	11.4	27.3	27.3
	不参加	63.9	37.4	17.7	24.5	19.0	26.5
	合計	66.2	16.4	4.0	11.1	30.2	32.5
学校規模別 100人未満	運動系	70.6	6.7	2.5	0.0	49.6	20.2
	音楽系	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文化系	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不参加	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	合計	69.9	6.5	2.4	0.0	48.8	20.3
100-199人	運動系	73.1	9.7	1.0	3.2	41.7	21.4
	音楽系	75.0	8.3	2.1	4.2	39.6	29.2
	文化系	60.0	4.0	0.0	4.0	36.0	28.0
	不参加	84.6	30.8	0.0	15.4	7.7	7.7
	合計	72.9	9.9	1.0	3.8	40.0	22.3
200-499人	運動系	61.7	18.1 ***	2.6 ***	13.2 **	24.1	40.7 **
	音楽系	71.7	10.0	7.5	15.8	32.5	34.2
	文化系	69.4	21.0	3.2	14.5	24.2	27.4
	不参加	62.9	38.6	19.7	25.8	19.7	28.0
	合計	63.4	19.9	5.3	15.1	24.5	37.7

※ 数値は各項目に○をつけた生徒の割合(%)

5. まとめ

本章は中学校を対象に学校規模と部活動の関連について検討を行った。分析結果は次の3点にまとめることができる。

- (1) 部活動の活動種目に関係なく規模が大きい学校ほど、多くの部活動の設置していた。小規模校では設置数が少なく、特に吹奏楽や美術を除く音楽系や文化系部活動は非常に少なかった。
- (2) 規模が小さい中学校の生徒ほど部活動に参加率は高かった。規模が大きい中学校の生徒の部活動参加率は低かった。参加する活動種目は、学校規模が大きくなるにつれて運動部だけではなく音楽系や文化系の部活動にも入部している傾向にあった。また規模が大きい学校の部活動は時間を多く費やして活動に取り組んでいた。
- (3) 規模が比較的大きな中学校を中心に、部活動参加者は塾に通い、家庭でも勉強する一方で、不参加者は塾に通わず放課後、家や外で遊んでいた。

上記の分析結果より、大規模校ほど恵まれた部活動環境にあるといえるだろう。規模が大きい学校ほど多様な活動種目が設置され、多くの時間を費やして部活動が運営されている。

しかし学校規模が大きくなるほど生徒の部活動参加率は低下する傾向にあった。つまり恵まれた部活動環境にいる生徒ほど、部活動を積極的に活用していないのである。この理由は大きく2つあると

考えられる。1つは規模が大きい学校ほど都市部に所在しているため、学校外でさまざまな活動に取り組むことができるので、部活動不参加者が多くなると考えられる。すなわち都市部に所在し規模が大きい中学生にとって部活動の相対的な重要性はあまり高くないと予想される。もう1つは規模が大きい学校ほど部活動の指導が過熱するため、一部の生徒が参加しにくい状況があると思われる。このことは規模が大きい学校ほど部活動にかかる時間は多いことから推察される。つまり熱心に部活動指導するために、楽しむことを主たる目的とする生徒は部活動に参加しづらい状況があるのではないだろうか。

確かに部活動は課外活動のため、生徒が参加しなくても何ら問題はない。しかし本性の分析から明らかとなり、部活動不参加者が放課後の生活を有意義に過ごしているとは言いがたい。部活動に参加していない生徒ほど塾に通わず家で遊び、またゲームやテレビの時間も比較的長い。さらに不参加者は外で遊ぶことも多い。規模が大きい学校ほど都市部に所在し、繁華街などが隣接していることを考えると、放課後の時間に犯罪などに巻き込まれる危険性が高くなることも予想されよう。

生徒の放課後の生活を保障する取り組みの1つとして部活動を有効活用するならば、学校規模が大きい学校は特に運営のあり方にも配慮した上で、多くの生徒が楽しく取り組めるよう適切に設置・運営することが求められる。

また小規模校は、部活動の設置数が少ない。とりわけ音楽系や文化系の部活動はほとんど設置されていない状況にある。小規模校の多くは農村部に所在しており、校外で文化活動に取り組める機会は少ない。小規模校の生徒の文化活動を支援するためにも、音楽系や文化系の部活動が設置できるように資金や設備などの援助や指導者の確保を行う必要があるだろう。

参考文献

- 西島央・中澤篤史 2005「中学校部活動の制度的変化と「活動参加状況」に関する教育社会学的考察」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第45巻、49-66頁。
- 西島央・藤田武志・矢野博之・荒川英央 2001「移行期における中学校部活動の実態と課題に関する教育社会学的考察」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第41巻、155-187頁。

注

- (1) 校長調査の中で中学校の有効回答数は413校だったが、質問Xに回答していた学校数は405校であった。そこで以下の分析では、質問Xに回答していた405校を使用する。
- (2) 学校規模は回答数などを考慮して「100人未満」「100-199名」「200-499名」の3つでカテゴリー化している。

第 4 部

学級規模・授業方法・家庭環境と学力

第1章

児童生徒の家庭での学習と生活

— その実態と学力に及ぼす影響 —

水野 考

Student's Study and Life at Home: The Effect on Academic Achievement

Kou Mizuno

This study was conducted to explore the effect on academic achievement of three factors: study and life at home, family's ways of life. The questionnaires were responded by some 3400 students at elementary and junior high schools. It was found that achievement was strongly influenced (i) by their study at home, and (ii) their living habit, (iii) by parents ways of life.

Key words: student, achievement, home environment

キーワード：児童生徒、学力、家庭環境

1. 研究の目的

本論文の目的は、児童生徒に対する質問紙調査のデータに基づき、家庭での生活と学習と児童生徒の学力との関係を分析することである。

1966年の「コールマンレポート」により、子どもたちの学力を規定する大きな要因の一つに家庭背景があることが明らかにされている。その後に行われた多くの研究でも家庭背景が学力に与える影響について確認されている。例えば我が国では富永（1979）、宮島・藤田（1991）などがあげられる。これらの研究で指摘されていることは、親の学歴や職業、収入などが、学校における教育達成に影響を与えていることである。また、荻谷（2004）では、学力に及ぼす家庭的背景の影響が近年強まっていることが指摘されている。

さらに、広島県の教育委員会が行った調査では、朝食を毎日食べることに代表されるような生活習慣と学力の間に相関があることが示されている。

このような先行研究の知見に基づき、本論文では、まず児童生徒の家庭での学習、家庭の文化、家庭での生活の様子を把握する。次に、それらが学力にどのように影響を与えているのかを重回帰分析を用いて明らかにする。最後に学習と文化と生活が、学力にどのよ

うに影響を与えているのかを考察する。

2. 全国児童生徒調査の概要

2005年11月末に北海道、広島、島根、沖縄の4つの道県の公立小中学校に調査票を配布した。調査対象は、小学校5年と中学校2年の児童生徒である。

2006年3月までに郵送により回収した児童生徒調査票は、家庭での勉強や生活の状況、家庭の状況及び国語、算数・数学に関する簡単な学力テストからなっている。国語は、漢字の読み取り、つなぎことば、表現等に関する3問（小5）、2問（中2）からなり、算数は四則演算、数の表現、図形に関する3問、数学は四則演算、数式・方程式に関する2問からなる。制限時間は各教科10分である。なお、学力の測定には新学社の作成した学力検査を使用した。児童生徒の属性は表2-1の通りである。全体のサンプル数は、小学校1,664名、中学校1,720名である。

本論文でいう学力とは、国語と算数の各教科の学力テストの偏差値を合計し、2で割ったものである。表2-2は、学力テストの得点を偏差値で表している。小学校の総合のところをみると、男子の偏差値の平均が49.0、女子が51.1となっており、女子の学力が高く

表2-1 児童生徒の属性

	N				%				
	学校		児童生徒		学校		児童生徒		
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	
全体	58	29	1,664	1,720	66.7	33.3	49.2	50.8	
県	北海道	5	5	268	379	8.6	17.2	16.1	22.0
	広島県	45	18	884	800	77.6	62.1	53.1	46.5
	島根県	4	2	154	65	6.9	6.9	9.3	3.8
	沖縄県	4	4	358	476	6.9	13.8	21.5	27.7
性別	男子			828	855			51.0	50.6
	女子			795	834			49.0	49.4

表2-2 学力テストの偏差値

		男		女		平均
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
小	算数	50.2	9.8	50.0	10.1	50.0
	国語	49.5	10.3	50.4	9.7	50.0
	総合	49.0	9.1	51.1	7.9	50.0
中	算数	49.5	10.3	50.4	9.7	50.0
	国語	48.1	10.2	52.0	9.5	50.0
	総合	48.8	9.4	51.2	8.6	50.0

なっている。これは、国語の平均が男子で49.5、女子で50.4と女子の方が高くなっており、その差が影響しているためである。中学校でも同様のことがおきており、男子の平均が48.8、女子の平均が51.2と女子の学力が高くなっている。

3. 児童生徒の家庭での学習

ここでは、児童生徒の家庭での学習についてみていく。まず、学習の状況について分析し、続いて学習の内容、通っている塾やクラブ、最後に勉強時間について分析する。

表3-1は、児童の家庭での学習に関して「よくあてはまる」「すこしあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4件法で回答を求め、「よくあてはまる」「すこしあてはまる」と回答した児童生徒の割合(%)を小中別、男女別で表したものである。表中のアスタリスクは、男女別、小中別のカイ2乗検定の結果を示している。

項目ごとにみると、小学生では、「学校の宿題はきちんとやる」「学校の授業の予習や復習をする」「学校や塾の宿題以外に進んで勉強する」「わからない問題があれば、教科書や参考書で調べる」「わからない問題があれば、家の人に教えてもらう」「家の人に言われなくても、自ら進んで勉強する」といった項目で女子の方が高くなっており、

男子より女子の方がまじめに勉強していることがわかる。中学生も「学校の授業の予習や復習をする」「学校や塾の宿題以外に進んで勉強する」「新聞を読む」といった項目をのぞいて小学生とほぼ同様の傾向を示している。

また小中別でみると、多くの項目で小学校の方が0.1%水準で有意である。このことから、小中別でみると、小学生の方が家庭でまじめに学習を行っていることがわかる。

表3-2は、児童生徒の家庭での学習内容について「あてはまる」「あてはまらない」の2件法で回答を求めたうち、「あてはまる」と回答した者の割合を示している。小学校、中学校とも「学校の宿題」と回答した者の割合は、小学校で約89.8%、中学校で約77.8%と他の項目より高く、宿題をしっかりやっている児童生徒が多いことがわかる。次いで高い割合を示しているのは「学校の授業の予習・復習」である。小学生の25%、中学生の37.6%が「あてはまる」と回答をしている。学校の宿題は小学生の方が、授業の予習・復習は中学生の方が欠かさずこなしているといえよう。

また、「塾の宿題」や「本屋で買った問題集・参考書での勉強」、「通信教育の教材での勉強」の項目であてはまると回答した者は、多くても約2割であり、先の2つの項目と比べると「あてはまる」と回答した割合は低くなっている。

このことから、児童生徒の家庭での学習は、学校から出された宿題や、授業の予習・復習が中心に行われていることがわかる。

表3-1 家庭での学習状況

	小学校		中学校		学校別				
	男	女	男	女	小	中			
学校の宿題はきちんとやる	84.8	93.5	***	74.9	77.1	**	89.2	75.9	***
学校の授業の予習や復習をする	44.4	53.3	***	43.7	37.9	***	48.1	41.0	***
学校や塾の宿題以外に進んで勉強する	30.7	39.5	***	31.0	26.9	**	34.9	28.9	***
分からない問題があれば、教科書や参考書で調べる	65.6	72.9	**	54.6	56.3	**	69.4	55.1	***
分からない問題があれば、家の人に教えてもらう	75.6	83.0	**	39.3	53.7	***	79.3	46.2	***
家で落ち着いて勉強できる	68.7	80.7	***	58.9	60.7	*	74.1	59.7	***
テスト前には計画をたてて勉強する	35.8	39.1	*	50.1	51.6	**	37.4	50.5	***
家の人に言われなくても自分で進んで勉強する	58.0	71.4	***	48.5	51.2	*	64.4	49.7	***
時間をみつけて物語や小説を読む	41.8	50.3	***	36.7	54.7	***	45.8	45.5	
新聞を読む	50.4	44.4	**	49.6	36.9	***	47.7	43.5	***
テレビやラジオ、音楽をつけながら勉強する	43.6	52.4	**	59.3	66.5	***	47.7	62.7	***

※ ***: p<0.001, **: P<0.01, *: p<0.05。以下の表も同様

※ 「よくあてはまる」「すこしあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4件法で回答を求め、「よくあてはまる」「すこしあてはまる」と回答した児童生徒の割合(%)。以下の表も同様

表3-2 家庭での学習内容

	小学校		中学校		学校別	
	男	女	男	女	小	中
学校の宿題	88.3	91.3 *	74.2	81.3 ***	89.8	77.6 ***
学校の授業の予習・復習	21.1	29.7 ***	37.3	37.8	25.0	37.6 ***
塾の宿題	16.4	17.2	22.1	19.9	16.9	20.9 **
本屋で買った問題集・参考書での勉強	14.3	20.3 ***	16.1	20.3 *	17.0	18.1
通信教育の教材での勉強	10.1	14.5 **	11.2	20.9 ***	12.0	16.0 **

表3-3は、児童生徒が通っている塾やクラブについて「あてはまる」「あてはまらない」の2件法で回答を求めたうち、「あてはまる」と回答した者の割合を示している。この表から「学習塾」は小学生の17.8%、中学生の約31.6%が通っており、中学生の方が多く通っていることがわかる。

また、学習塾をのぞき、他の塾やクラブへ通っている割合は小学生の方が高い。特に「野球、サッカー、水泳などのスポーツ」の項目はその傾向が顕著である。このことから、中学校にはいると学習塾以外のクラブや塾をやめ、学習塾に通い出す生徒が多いことが伺

表3-3 児童生徒の通っている塾やクラブ

	小学校		中学校		学校別	
	男	女	男	女	小	中
学習塾	17.3	18.4	33.1	30.2	17.8	31.6 ***
英語会話	7.9	11.9 **	2.3	2.8	9.9	2.5 ***
ピアノ・ダンス・舞踊など	8.5	38.6 ***	3.7	24.3 ***	23.1	13.8 ***
書道や絵画など	9.1	23.3 ***	5.4	10.0 ***	15.7	7.6 ***
そろばん、パソコンなど	4.2	5.2	0.9	1.0	4.7	0.9 ***
野球、サッカー、水泳などのスポーツ	59.8	39.5 ***	21.2	5.4 ***	50.0	13.5 ***

表3-4 家庭での勉強日数・勉強時間

	小学校		中学校		学校別	
	男	女	男	女	小	中
1日	7.3	4.3	25.5	20.8	6.0	23.0
2日	5.8	4.5	14.2	14.4	5.2	14.1
3日	6.4	4.7	15.1	15.3	5.6	15.2
4日	5.3	3.6	7.5	9.1	4.4	8.6
5日	21.2	20.3	14.1	14.2	20.7	14.2
6日	22.8	28.0	10.3	14.4	25.6	12.5
7日(毎日)	31.1	34.6	13.3	11.7	32.6	12.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
しない	4.5	2.0	19.9	16.5	3.4	18.1
30分未満	21.6	12.2	9.6	11.7	17.1	10.6
30分以上1時間未満	46.3	46.8	41.1	41.0	46.6	41.0
1時間以上2時間未満	21.5	28.4 ***	21.9	21.6	24.7	22.0 ***
2時間以上3時間未満	4.7	7.1	5.7	8.1	5.8	6.9
3時間未満	1.5	3.4	1.8	1.0	2.4	1.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

れる。

表3-4は、児童生徒の家庭での勉強日数と勉強時間を表している。勉強日数をみると、小学生では、7日(毎日)するものが男子で31.1%、女子で34.6%ともっとも高くなっている。また、5日以上と回答した者の割合を合計すると、男子で約75.1%、女子で約82.9%となっており、大半の児童が週5日以上勉強していること、女子の方が比較的勉強日数が多いことがわかる。

中学生では、週に1日しか勉強しないものももっとも多く、男子で25.5%、女子で20.8%を占めている。また、勉強日数が週3日以内の生徒が全体の52.3%を占めているのに対し、週5日以上勉強している者も39.1%を占めており、勉強日数が少ない者と多いものとで分かれていることがわかる。小中別でみると、1~3日で中学生の方で高い割合を示し、4~6日で小学生の方で高い割合を示している。このことから小学生の勉強日数は中学生より多いといえよう。

これらのことから小学生がほぼ毎日勉強しているのに対し、中学生は1日しか勉強していない者が一番多く、また勉強する者としらない者とで2つのグループに分かれているといえよう。また、男女別でみると小学生では女子の方が比較的勉強日数が多かったが、中学生ではその差がなくなっていることが注目される。

続いて勉強時間をみると、小・中ともに、30分以上1時間未満勉強しているものが全体の4割を占めており、一番多い。次いで多いのが1時間以上2時間未満であり、全体の約2割を占めている。また、勉強しないと答えた割合は、小学生で3.4%なのに対し中学生では18.1%と高くなっている。中学生は小学生に比べ、勉強しない者が5倍多くなっていることが注目される。また男女の差は、小学校のみでみられた。30分以上勉強している項目で女子の割合が高くなっていることから、女子の方が長い時間勉強していることがわかる。

4. 児童生徒の家庭の文化と生活

ここでは、児童生徒の家庭の文化と生活をみていく。表4-1は、児童生徒の家の人がすることについて「よくする」「すこしする」「あまりしない」「ほとんどしない」の4件法で回答を求め、「よくする」「すこしする」と回答した児童生徒の割合を小中別、男女別で表したものである。「スポーツ中継を見る」では、小学生、中学生とも男子のいる家庭で見られる割合が高い。また小中別では、小学生の

表4-1 家庭の文化：家の人の過ごし方

	小学校		中学校		学校別			
	男	女	男	女	小	中		
テレビのニュース番組をみる	90.7	92.4	89.1	93.8	*	91.6	91.5	
スポーツ中継をみる	76.8	66.1	***	66.9	67.5	**	71.8	67.5
歌番組をみる	70.5	79.3	**	70.7	76.5	*	74.6	73.6
新聞を読む	74.5	80.0	*	76.0	78.7		77.0	77.3
クラシックの音楽を聴く	21.6	20.0		17.8	18.2		20.5	17.9
ピアノをひく	13.3	23.6	***	10.0	16.2	*	17.7	12.9
歴史小説や歴史の本を読む	22.2	18.3		18.6	16.4		20.6	17.5
文学作品や小説を読む	27.5	28.3		28.1	36.3	*	28.1	32.2
パソコンやワープロをする	55.9	58.1		52.8	56.7		57.0	54.9

方が高くなっていることがわかる。「歌番組を見る」「ピアノを弾く」といった音楽に関わる項目では、小学生、中学生とも女子のいる家庭ではまる割合が高くなっている。このことから、男子の家庭の文化と、女子の家庭の文化には違いがあると言えよう。

表4-2は、児童生徒の家庭での生活について「よくあてはまる」「すこしあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4件法で回答を求め、「よくあてはまる」「すこしあてはまる」と回答した児童生徒の割合を小中別、男女別で表したものである。食事についての項目をみると、「毎朝、朝食を食べる」では、小学生、中学生とも9割を超えてお

表4-2 児童生徒の家庭での生活

	小学校		中学校		学校別			
	男	女	男	女	小	中		
毎朝、朝食を食べる	93.5	93.7	90.8	91.6	93.6	91.2	*	
夕食を、一人で食べることがある	18.8	15.4	27.4	23.0	16.9	25.3	***	
学校に持って行く物は、前の日にそろえる	74.4	84.6	***	56.1	68.1	***	79.3	62.1
ふだん(月・金)朝起きり、夜寝たりする時間が決まっている	58.4	59.2	***	61.1	61.8		58.9	61.4
家の人とよく学校や友だちの話をする	65.5	79.9	***	53.1	67.6	***	72.2	60.2
家の人は、自分のことをよく分かってきている	78.9	86.5	***	65.5	70.8	*	82.7	68.0
私は、親を尊敬している	68.0	77.6	***	58.0	65.1	**	72.4	61.3
家の人に「勉強しなさい」とよく言われる	56.8	43.6	***	53.2	47.2	*	50.3	50.3
家の人は私の成績を知っている	89.1	93.5	***	91.7	95.7	***	91.0	93.5
家には本がたくさんある	72.5	71.7		59.6	62.0		72.0	61.0
学校から帰った時には、家にはいつも大人がいる	63.0	66.6		64.8	68.3	*	64.4	66.6
寝坊しそうになったら、家の誰かが私を起こしてくれる	75.1	84.5	***	77.9	82.7	**	79.8	80.1

り、多くの者は毎朝ご飯を食べていることがわかる。「夕食を一人で食べることがある」と回答している者は、小学生で16.9%、中学生で25.3%であることから、7割以上の子供は家の人の誰かと晩ご飯を食べていることがわかる。

「学校に持って行く物は、前の日にそろえる」では、小学校で約8割、中学生の約6割があてはまると回答しており、小学生の方が徹底されているようである。また、男女別でみると小・中とも女子の割合が高くなっており、女子の方がよりしっかり準備しているといえよう。「朝起きたり夜寝たりする時間が決まっている」の項目では、小学生の58.9%、中学生の61.4%の者があてはまると回答しており、どちらも6割ほどであるが、若干中学生の方が高くなっている。

「家の人とよく学校や友達の話をする」「家の人は、自分のことをよく分かってきている」「私は親を尊敬している」の項目では、男女別でみると、小・中ともあてはまると回答している割合は女子が高くなっている。また小・中別でみると、小学生の方があてはまると回答している割合が高くなっている。このことから、家の人や親との関係は、中学生より小学生の方が、男子より女子の方が良好であるといえる。

「家の人は私の成績を知っている」といった児童生徒の成績に対する項目では、小中別にみると、中学生の方が有意に高くなっている。このことから、小学生より中学生の方が親からの成績への関心が高いことが伺える。

表4-3は、児童生徒の家での様子について「あてはまる」「あてはまらない」の2件法で回答を求めたうち「あてはまる」と回答した者の割合を示している。「一人で勉強する」の項目では、小中別でみると、小学生の方があてはまると回答した割合が高くなっていることが注目される。また、性別でみると「一人でテレビを見る」といった一人遊びは小中ともに女子の方が高く、「友だちと家で遊ぶ」「公園などで遊ぶ」といった友達と遊ぶ項目では男子の方が高くなっていた。このことから、性別により家でよくする遊びに違いがあることが伺える。

表4-4は、児童生徒の睡眠時間について回答を求めた項目である。学校別でみると小学生では、8時間～9時間未満の者が34.0%、9時間～10時間未満の者が31.5%となっている。対して中学校の方では、同じ時間寝ている者は、26.5%と7.2%である。このことから学校別でみると、中学生の方が睡眠

表4-3 児童生徒が放課後家でよくすること

	小学校		中学校		学校別				
	男	女	男	女	小	中			
一人で勉強する	46.5	63.6	***	25.6	33.6	***	54.4	29.7	***
塾やクラブに行く	33.3	36.4		32.5	31.7		34.7	31.9	
一人でテレビを見る	46.0	47.8		61.1	70.4	***	47.1	65.6	***
友だちと家で遊ぶ	45.7	39.0	**	20.5	13.1	***	42.0	16.7	***
公園などで遊ぶ	21.3	15.1	***	4.2	4.1		18.0	4.2	***
友だちと商店などへ行く	9.9	11.7		11.5	11.4		10.7	11.5	

表4-4 児童生徒の睡眠時間

	小学校		中学校		学校別				
	男	女	男	女	小	中			
6時間未満	4.6	2.0		6.0	10.2		3.2	8.1	
6時間～7時間未満	6.0	5.4		16.8	21.1		5.7	19.1	
7時間～8時間未満	13.1	15.4		37.9	36.3		14.1	37.2	
8時間～9時間未満	32.9	35.1	*	28.1	25.2	**	34.0	26.5	***
9時間～10時間未満	30.8	31.7		8.8	5.8		31.5	7.2	
10時間以上	12.5	10.4		2.4	1.4		11.4	1.9	
合計	100.0	100.0		100.0	100.0		100.0	100.0	

時間が短いことがわかる。

5. 児童生徒の家庭での学習と生活と学力の関わり

ここでは、これまで述べてきた児童生徒の家庭での学習、文化、生活によって児童生徒の学力がどのように違うのか平均値の差の検定を用いて分析する。ここでの学力とは、国語のテストと算数のテストの偏差値を合計し、2で割って平均したものである。

① 家庭・意欲・性別

ここでは、これまで述べてきた家庭での勉強、家庭の文化、家庭での生活に加えて、「両親と暮らしているか」「進学意欲」「性別」の3つの項目を加えて学力との関わりを分析する。表5-1で使用した項目は、「よくあてはまる」「すこしあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4件法で回答を求めた項目については、「よくあてはまる」「まったくあてはまらない」のみ表に載せている。また、「あてはまる」「あてはまらない」などの二件法で回答を求めた項目については、そのまま採用している。

「両親と暮らしているか」は家族構成を聞いた項目である。小学校では男女ともに、中学校では女子でのみに有意な差がみられた。両親と暮らしている児童生徒の方が学力が高いことが確認された。

「進学意欲」は、中学校まで進学して就職する、高校まで進学して就職する、大学や専門学校まで進学し

て就職する、の3件法で回答を求めている。この項目では、小中、男女の区別なくより高い学校に進学しようとする者の学力が高く、標準偏差が小さくなっていた。また、「性別」の項目では、小中とも女子の学力が高く、また学力の分散も小さくなっていることが確認された。本研究で用いた学力テストでは、女子は全体的に国語のテストの平均値が高く、このことが影響を与えていると考えられる。

② 家庭での学習

「学校の宿題はきちんとやる」「わからない問題があれば教科書や参考書で調べる」の項目では、小中、男女の区別なくよくあてはまると回答した児童生徒の方が学力が高くなっている。特に学校の宿題については、「よくあてはまる」と「まったくあてはまらない」の間で偏差値に約10の大きな開きがみられる。「学校の授業の予復習」については、

小学生では男女とも有意な差がみられず、中学生の男子のみ「あてはまる」と回答した者のほうが学力が高かった。

続いて、通っている塾やクラブによる学力の違いについて述べる。「学習塾」の項目では、塾に通っている中学生の学力が高くなっていた。小学生では、違いが見られなかった。「ピアノ・ダンス・舞踊」の項目では、中学校の男子を除いて通っている者の学力が高くなっていた。「野球、サッカー、水泳などのスポーツ」の項目では、小学生の女子においてのみ学力が高くなっていることがわかった。

勉強日数と学力については、小学校、中学校とも男女別で差がみられた。学力がもっとも低いのは、週に1日しか勉強しない児童生徒であることがわかる。この者たちと週に5日から6日勉強する児童の間には、偏差値で6～8の大きな差がみられる。このことから、日々勉強する習慣が学力に大きな影響力を持っていることを指摘できるだろう。

③ 家庭の文化

「パソコンやワープロをする」「新聞を読む」「テレビのニュース番組を見る」の項目では、よくすると回答した者の学力が小中、男女の区別なく高くなっていた。「文学作品」を読むでは、中学校のみよくすると回答した者の学力が高くなっていた。「歌番組をみる」の項目では、小学校の男子のみ学力が高くなっていた。

表5-1 児童生徒の家庭での学習と生活と学力の関わり

		小学校						中学校						
		男子			女子			男子			女子			
		度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	
家庭	両親と暮らしているか	非単親	469	48.5	8.8	423	50.4	8.3	481	48.6	8.9	478	51.6	8.0
		単親	119	45.0	10.3	96	48.3	8.9	120	46.8	9.5	110	49.6	8.5
		合計	588	47.8	9.2	519	50.0	8.5	601	48.2	9.1	588	51.2	8.1
意欲	進学意欲	中学校	53	43.6	10.7	40	44.4	11.1	18	38.2	8.1	12	42.3	11.2
		高校	433	48.4	9.0	300	49.7	8.0	358	45.7	9.0	230	48.7	8.7
		大学や専門学校	314	51.4	8.0	444	52.9	6.7	433	52.1	8.6	550	52.6	8.1
		合計	800	49.2	9.0	784	51.2	7.8	809	48.9	9.4	792	51.3	8.6
性別	性別	男	828	49.0	9.1				855	48.8	9.4			
	女				795	51.1	7.9				834	51.2	8.6	
家庭での勉強	学校の宿題はきちんとやる	よくあてはまる	435	51.3	7.8	548	52.8	6.9	306	51.7	9.0	287	52.6	8.8
		まったくあてはまらない	25	37.3	13.6	8	41.5	8.0	69	42.9	9.7	33	44.2	7.0
	分からない問題があれば、教科書や参考書で調べる	よくあてはまる	263	50.8	8.4	272	51.7	7.9	158	51.6	8.5	137	53.2	7.2
		まったくあてはまらない	102	46.9	9.2	60	47.7	9.8	144	45.3	10.0	91	47.8	8.6
	家の人に「勉強しなさいとよく言われる」	まったくあてはまらない	159	49.8	8.8	201	52.3	7.6	190	50.1	9.9	178	50.7	9.3
		よくあてはまる	248	47.4	10.0	157	48.2	8.5	242	48.4	8.8	199	50.3	8.7
	テレビやラジオ、音楽をつけながら勉強する	まったくあてはまらない	289	49.3	8.9	223	51.3	7.5	185	48.9	10.0	111	50.4	9.5
		よくあてはまる	190	48.4	9.6	235	50.6	8.1	258	49.4	9.0	281	50.8	8.7
	学習塾	通っていない	685	48.8	9.2	649	51.2	7.8	572	48.1	9.3	582	50.7	8.6
		通っている	143	50.2	8.5	146	50.9	8.4	283	50.3	9.4	252	52.3	8.4
		合計	828	49.0	9.1	795	51.1	7.9	855	48.8	9.4	834	51.2	8.6
	学校の授業の予習復習	通っていない	653	48.9	9.2	559	51.4	7.6	536	47.7	9.7	519	50.9	8.8
		通っている	175	49.7	8.9	236	50.6	8.6	319	50.8	8.5	315	51.8	8.2
		合計	828	49.0	9.1	795	51.1	7.9	855	48.8	9.4	834	51.2	8.6
	ピアノ・ダンス・舞踊	通っていない	758	48.6	9.2	488	49.7	8.5	823	48.8	9.4	631	50.5	8.6
		通っている	70	53.2	6.8	307	53.4	6.4	32	50.8	9.2	203	53.5	8.2
		合計	828	49.0	9.1	795	51.1	7.9	855	48.8	9.4	834	51.2	8.6
	野球、サッカー、水泳などのスポーツ	通っていない	333	48.4	9.6	481	50.6	8.6	674	49.1	9.4	789	51.2	8.5
		通っている	495	49.4	8.8	314	52.0	6.8	181	48.0	9.2	45	50.8	9.5
		合計	828	49.0	9.1	795	51.1	7.9	855	48.8	9.4	834	51.2	8.6
	勉強日数	1日	59	42.4	11.2	34	45.4	9.2	198	46.1	9.6	160	49.5	8.8
		2日	47	45.8	9.0	35	47.1	10.4	110	48.9	8.2	111	50.9	8.5
		3日	52	45.3	10.2	37	48.0	10.0	117	48.7	9.5	118	50.5	8.7
		4日	43	47.4	8.9	28	47.4	9.7	58	50.0	8.8	70	50.6	10.6
		5日	171	50.8	7.5	159	51.1	7.6	109	50.8	9.3	109	53.1	7.6
		6日	184	50.7	7.2	219	52.9	6.2	80	52.6	8.0	111	52.8	7.0
		7日(毎日)	251	50.5	8.9	271	51.9	7.7	103	51.3	9.0	90	53.4	7.5
合計		807	49.2	8.9	783	51.2	7.9	775	49.2	9.3	769	51.4	8.5	
家庭の文化	パソコンやワープロをする	ほとんどしない	177	47.0	8.7	145	47.2	9.2	184	46.5	9.4	177	48.8	8.7
		よくする	217	49.3	9.1	203	52.0	7.7	192	49.4	8.8	184	52.4	7.8
	新聞を読む	ほとんどしない	94	45.8	9.9	54	46.1	9.7	70	44.3	9.2	60	46.1	8.6
		よくする	339	49.3	8.7	315	50.8	7.9	311	49.7	8.4	346	52.2	7.9
	テレビのニュース番組を見る	ほとんどしない	20	45.7	9.1	15	46.4	9.4	18	41.7	10.0	7	44.3	10.5
		よくする	401	48.5	8.9	354	50.5	8.4	369	48.9	8.6	397	52.0	7.8
	文学作品を読む	ほとんどしない	289	47.7	9.1	242	49.4	8.6	300	47.0	9.1	256	49.2	8.4
		よくする	84	48.1	9.8	72	50.3	7.6	69	51.3	7.0	102	53.2	7.0
	歌番組をみる	ほとんどしない	59	45.1	10.0	35	50.2	9.5	61	49.6	9.9	30	49.4	8.9
		よくする	221	47.5	9.9	234	49.4	8.7	227	47.7	9.0	242	50.6	8.7
	スポーツ中継をみる	ほとんどしない	48	49.3	8.1	52	49.8	8.4	67	47.2	10.0	56	49.4	7.3
		よくする	280	47.5	9.2	164	49.5	8.2	228	48.6	8.8	172	51.9	8.4
家庭での生活	毎朝、朝食を食べる	よくあてはまる	663	50.2	8.0	658	51.7	7.3	657	49.8	9.0	623	52.0	8.2
		まったくあてはまらない	18	40.7	12.3	14	48.8	8.2	24	46.7	10.6	21	43.0	9.2
	夕食を一人で食べることがある	まったくあてはまらない	505	50.7	7.9	522	51.8	7.4	374	49.7	9.5	389	51.2	8.2
		よくあてはまる	62	42.4	10.1	38	48.9	8.0	93	45.6	9.1	68	49.7	8.8
	ふだん(月・金)朝起きり、夜寝たりする時間が決まっている	よくあてはまる	254	50.3	8.4	202	51.6	7.7	236	49.9	8.9	203	51.2	8.0
		まったくあてはまらない	169	47.3	9.3	130	48.6	8.7	128	46.3	10.3	113	48.6	9.2
	家の人は私の成績を知っている	よくあてはまる	523	49.8	8.6	587	52.1	7.1	546	49.9	8.8	602	51.7	8.3
		まったくあてはまらない	27	40.8	12.6	14	42.1	10.3	13	41.6	12.1	7	41.9	7.4
	家の人とよく学校や友達の話をする	よくあてはまる	295	49.8	8.7	395	51.9	7.0	195	48.2	9.1	278	51.2	7.8
		まったくあてはまらない	97	46.4	10.5	42	46.1	10.5	158	47.8	10.0	67	50.0	9.7
公園などで遊ぶ	あてはまらない	652	49.6	8.8	675	51.6	7.6	819	49.0	9.3	800	51.4	8.5	
	あてはまる	176	47.0	9.9	120	48.6	9.5	36	44.9	9.7	34	47.2	9.0	
	合計	828	49.0	9.1	795	51.1	7.9	855	48.8	9.4	834	51.2	8.6	
睡眠時間	6時間未満	35	37.9	11.5	15	45.5	12.4	47	45.7	11.1	81	48.9	10.1	
	6時間～7時間未満	46	47.4	8.3	41	49.2	8.2	132	50.0	9.2	167	51.2	8.7	
	7時間～8時間未満	100	48.1	9.5	116	51.0	8.2	297	50.1	9.2	288	52.4	8.0	
	8時間～9時間未満	251	50.8	7.9	264	52.5	7.1	220	48.8	8.7	200	51.7	8.3	
	9時間～10時間未満	235	51.3	7.3	239	51.8	7.2	69	48.0	9.9	46	48.2	8.0	
	10時間以上	95	48.6	9.7	78	48.5	8.1	19	44.7	10.3	11	41.8	8.2	
	合計	762	49.5	8.9	753	51.3	7.7	784	49.1	9.3	793	51.2	8.6	

④ 家庭での生活

「毎朝、朝食を食べる」「ふだん朝起きたり、夜寝たりする時間が決まっている」といった生活習慣に関する項目では、よくあてはまると回答した者の学力が高くなっている。このことから、生活習慣がしっかりしている者ほど学力が高いことがわかる。

「家の人は私の成績を知っている」「家の人とよく学校や友達の話をする」といった家の人との関わりに関する項目では、よくあてはまると回答した者の学力が高くなっている。このことから、家の人との関わりが良好な者ほど学力が高いことがわかる。後者の項目では中学生の男子のみ優位な差がでていないが、偏差値は0.3ほどあてはまると回答した者の方が高くなっている。

「公園などで遊ぶ」では、あてはまらないと回答した者の成績が高かった。学力のみに注目すれば、公園などで遊ばない児童生徒の方が学力が高くなるのかもしれない。「睡眠時間」については、学校別に適正睡眠時間があるようである。小学校では8時間～10時間で、中学校では6時間～8時間のところで学力が高くなっている。

6. 学力の規定要因

これまで、家庭環境が学力に与える影響について個々に見てきたが、次には重回帰分析により、より詳しくその影響関係について検討したい。ここではこれまで検討してきた家庭での勉強に関する項目、家庭の

文化に関する項目、家庭での生活に関する項目に、家族構成、意欲、性別に関する変数を加え、重回帰分析を行った。なお、ステップワイズ法にて変数を選別して分析を行い、その際多重共線性は確認されなかった。結果は、表6-1に示す。

① 性別・進学意欲

中学生のみ女子であることが学力に正の影響を与えていた。この点については、本調査で用いた学力が国語と算数の総合偏差値であり、中学校の国語において女子の得点率が男子より高かったことが影響を与えていると考えられる。しかし、小学校では性は何の影響も与えていなかった。小学校では確認されなかった性による影響が中学校で確認されることは興味深い。

進学意欲は、小学生、中学生とも学力に強い影響を与えていた。特に中学校では影響力が大きいことが確認された。

② 家庭での学習

小学校では、「学校の宿題はきちんとやる」が学力に正の影響を与えていた。また、「家の人に『勉強しなさい』とよく言われる」は負の影響を与えていた。この点については、勉強を促されるほど学力が下がるのではなく、学力が低い者が勉強を促されているのだと考えられる。

中学校では、小学校と同様、宿題をする者の学力が高くなっていた。加えて「分からない問題があれば、教科書や参考書で調べる」者も、学力が高くなってい

表6-1 重回帰分析の結果

	被説明変数 説明変数	小学校学力				中学校学力			
		偏回帰 係数	標準誤差	標準偏回 帰係数	検定	偏回帰 係数	標準誤差	標準偏回 帰係数	検定
	切片	30.480	2.248		***	20.108	2.127		***
性別	女子であること					1.753	0.464	0.101	***
進学意欲	進学意欲	1.690	0.428	0.123	***	4.164	0.462	0.251	***
家庭での学習	学校の宿題はきちんとやる	2.321	0.334	0.220	***	1.713	0.275	0.176	***
	家の人に「勉強しなさい」とよく言われる	-0.507	0.222	-0.070	*				
	分からない問題があれば、教科書や参考書で調べる					0.689	0.257	0.075	**
	テレビやラジオ、音楽をつけながら勉強する					0.469	0.215	0.059	*
家庭の文化	パソコンやワープロをする	0.807	0.200	0.124	***	0.481	0.201	0.068	*
	スポーツ中継をみる	-1.214	0.261	-0.146	***				
	テレビのニュース番組をみる	0.769	0.356	0.068	*				
	新聞を読む					0.863	0.231	0.102	***
	文学作品や小説を読む					0.588	0.219	0.076	**
	歌番組をみる					-0.715	0.249	-0.077	**
家庭での生活	毎朝、朝食を食べる	1.257	0.381	0.102	***	1.293	0.342	0.103	***
	夕食を、一人で食べることがある	-0.948	0.251	-0.112	***	-0.513	0.228	-0.060	*
	家の人は私の成績を知っている	1.159	0.333	0.106	***	0.905	0.373	0.067	*
	R ²	0.214	***			0.282	***		
	adj.R ²	0.206				0.274			

た。また、「テレビやラジオ、音楽をつけながら勉強する」の項目も学力に正の影響を与えていたが、有意水準5%のわずかな影響である。

③ 家庭の文化：家の人の過ごし方

小学生、中学生とも家の人が「パソコンやワープロをする」は学力に正の影響を与えていた。また、小学生では「テレビのニュース番組をみる」の項目が学力に正の影響を与えており、「スポーツ中継をみる」は、学力に負の影響を与えていた。

中学校では、「新聞を読む」「文学作品や小説を読む」が学力に正の影響を与えていた。また、「歌番組をみる」は負の影響を与えていた。「歌番組をみる」は、先の平均値の差の検定の時には有意な差はでなかったが、「ほとんどしない」より「よくする」の方が平均値は低くなっていた。小学生にはテレビが、中学生には活字文化が影響を与えているといえよう。すなわち、パソコンやワープロが家にあり、ニュースや新聞といった世論に関心があるといったような家庭の文化は学力に正の影響を与え、スポーツ中継や歌番組といった娯楽的な家庭の文化は学力に負の影響を与えているのである。

④ 家庭での生活

家庭での生活は小学校、中学校とも「毎朝、朝食を食べる」「家の人は私の成績を知っている」が学力について正の影響を与えていた。また、学力に負の影響を与えていたのは、「夕食を一人で食べる」の項目であった。このことから、きちんと朝食を食べ、また子供に孤食をさせないといった家庭環境が整えられ、家の人が子供の学力に関心を持っていることが学力に正の影響を与えていると考えられる。

7. 結 論

本論文では、小学生、中学生の家庭での学習の様子、家庭の文化、家庭での生活の実態を分析し、それぞれがどのように学力に影響をしているのか分析した。また、重回帰分析を行うことにより家庭の学習、家庭の文化、家庭の生活のそれぞれの影響関係を具体的に分析した。本論文の知見は以下の通りである。

第1に、家庭での学習習慣が学力に強い影響を与えていることである。小学生、中学生とも学習時間が短い者に比べて長い者の方が学力が高くなっていた。また、週に5日以上学習するものと週に1日しか学習しない者との間にも大きな学力の差がみられた。小学生、中学生とも学校から出される宿題や授業の予習・復習をする者の学力が高かった。

注目される点は、小学生と中学生の勉強日数の違いである。中学生では、勉強をする者とならない者が極端化していた。そして、勉強するグループと勉強しないグループでは、学力差が著しかった。

第2に、家の人の高級文化志向は児童生徒の学力に正の影響を与え、娯楽的な家庭の文化は児童生徒の学力に負の影響を与えていることである。特に、小学生では家の人がテレビのニュースをみるのが、中学生では新聞や文学作品など文字文化に家の人が接することが影響を与えているといえる。

第3に、規則正しい生活習慣を身につけることは学力に強い影響を与えていることである。寝る時間や朝起きる時間が決まっている児童生徒、朝食をしっかりと食べている児童生徒、夕食で孤食をしない児童生徒は、学力が高くなっていた。きちんと朝食をとるような規則正しい生活習慣を身につけられる家庭環境が整えられることが大切であるということであろう。

また本調査では、家庭での学習や文化など様々な変数を投入した重回帰分析を行ったが、それでもなお朝食や夕食など食事に関する変数が有意な影響力を保ったことは注目される。家庭環境が整えられているかどうか調べる指標として「朝食」「夕食」の意義が再確認できたといえよう。

【参考文献】

- Blau, Peter M. and Otis Dudley Duncan. 1967. *The American Occupational Structure*. Wiley.
- Coleman, James. et al. 1966. *Educational Opportunity*. U. S. Governmental Printing Office.
- 天野清・黒須俊夫 1992『小学生の国語・算数』秋山書店。
- 荻谷剛彦・志水宏吉編 2004『学力の社会学－調査が示す学力の変化と学習の課題』岩波書房。
- 富永健一編 1979『日本の階層構造』東京大学出版会。
- 富永健一 2001『社会変動の中の福祉国家』中公新書。
- 直井優他編 1990『現代日本の階層構造』東京大学出版会。
- 宮島喬・藤田英典編 1991『文化と社会－差異化・構造化・再生産』有信堂高文社。
- 盛山和夫他編 2000『日本の階層システム』東京大学出版会。
- 広島県教育委員会 平成16年度「基礎・基本」定着状況調査報告書 http://www.pref.hiroshima.jp/kyouiku/hotline/05junior/1st/h16_kiso_houkoku/16kisoifinal.html 平成16年9月29日引用

第2章 学力に及ぼす学校・学級規模、指導方法、家庭環境の影響

山崎博敏・須田康之・高旗浩志
西本裕輝・藤井宣彰・水野 考

本章の目的は、小中学生を対象とする質問紙調査をもとに、学力に対する学校・学級規模、指導方法、家庭の教育環境の影響を総合的に分析することにある。

コールマンレポートで家庭環境は学力に大きな影響を与えているが、学校の施設・設備や教員の特性など学校に関する変数は影響を与えていないことが示され、大きな反響を呼んだ。その後、同じデータの再分析で、学校の資源はなんらかの影響を与えていることが研究成果も現れた。また、ハインズなど学校教育の影響の重要性を明らかにする研究も現れた。コールマン自身、1980年代になって高校の公立私立の設置者の違いなどによる教育効果を分析した。ハヌシェックは過去の多数の学力研究の結果をレビューした結果、学級規模など学校の特性が学力に対する影響はプラスであると報告する研究もあれば、そうでない研究もあることを指摘した。家庭の影響力の大きさについては異論はないものの、学校の影響力については、結論がついていないと言えよう。この問題を真に明らかにするには、大規模で精密な調査データが必要であることは疑いない。我々の調査データはそのような大問題に答えるほど大規模でも精密でもないが、あえて、この問題に挑戦したい。

我が国では、義務教育の水準向上のために、1959年度に50人以上もの「すし詰め学級」の解消をねらって学級規模が縮小されて以来、公立義務教育学校では1990年代初頭までに40人学級がほぼ実現した。1993年度以降は、最大40人の学級規模を維持しつつ、チーム・ティーチングや特定教科での少人数学習、習熟度別指導のために教職員が増員されてきた。近年は、学力低下の危惧の声を反映して、学級編制の裁量が与えられた地方自治体の中には、30人や35人学級を実施するところ増加している。また、始業前の朝の読書の時間、「早寝・早起き・朝ごはん」運動など、様々な取り組みが行われている。

これらの指導方法や政策の実施は児童生徒の学力にどのような影響を与えているのだろうか。これまで、優れた教育論や授業方法の提唱がなされ、実施されても、それが確かに効果があることは十分に論証されていない。

我々は、国語と算数・数学の学力偏差値の合計（平均 100）を学力と呼び、これが学校の指導方法や家庭環境の変数によってどの程度規定されているかを統計分析した。

まず、学力との関係を2変数で分析したところ、第3部第6章や第4部第1章の論文で報告されているように、学力が高いのは、学級規模が小さい、TTや少人数学習を実施している学校学級であった。「朝食を毎日食べる」「夕食を1人で食べない」などの食事、「自分の成績を家族が知っている」「学校や友だちのことについておやとよく話をする」など親子のコミュニケーションも学力と関係があった。

しかし、2変数による分析では、それ以外の変数が学力に与える影響が考慮されていない。学力には多くの要因が複合的に影響を与えているので、他の要因の影響力を統制して各要因が純粋に学力に与える影響を分析しなければならない。アメリカのコールマンレポート以来、家庭環境は学力に大きな影響を与えていることが知られているから、できる限り家庭環境の影響力を加味した上で、学校での授業や学校生活の影響を分析しようとした。生徒の出身階層に関する質問を調査票に盛り込めなかったが、家庭環境や親のライフスタイルに関する質問をその代理指標とした。不十分ではあるが、多変量解析の一種である重回帰分析によって学力に与える各要因の影響を分析した。

分析結果の概要は、表1に示している。そして表1の元になった重回帰分析の結果は、本論最後の表2以降に示している。

表1 学力（国語と算数/数学の合計）に及ぼす影響に関する分析結果の要約

要因群	モデル1-1	モデル1-2	モデル2-1	モデル2-2
学校規模 学級規模	小規模校 (小中)	小規模校 (小)	小規模校 (中)	小規模校 (中)
TT 小人数	TT (小中) 小人数マイナス (小) プラス (中)	TT (小) 小人数マイナス (小) プラス (中)	TT(中) 小人数 (中)	小人数 (中)
授業方法	質問応答 (小中) 一方向授業マイナス (小) グループで話し合う授業プラス (小) マイナス (中) 学級で話し合うマイナス (中)	質問応答 (小中) 一方向授業マイナス (小) 学級で話し合う授業マイナス (中)	質問応答 (小中) 一方向授業マイナス (小) グループで話し合う授業プラス (小) マイナス (中) プリントドリル (小中) 朝読書 (小) 放課後指導マイナス (小)	質問応答 (中) 一方向授業マイナス (小) 学級で話し合う授業マイナス (中) プリントドリル (中) 朝読書 (小) 放課後指導マイナス (小)
授業態度	---	授業集中 (小中) 肯定的自己評価 (中) 向上心 (小中) 発表積極性 (中)	---	ノート筆記 (小中) 成績自己評価 (小中) 間違えるときやすい (小中) 欠席・遅刻マイナス (小)
学級風土	---	秩序マイナス (中) 凝集性マイナス (中)	---	学級活動マイナス (中)
性	女子 (中)	女子 (中)	女子 (小中)	女子 (中)
家庭での 学習 帰宅後の 活動	宿題 (小中) 通信教育 (小中) ピアノ (小中) 書道 (小中) 勉強時間 (小) 勉強日数 (小中) 塾 (中) スポーツマイナス (中)	宿題 (小中) 通信教育 (小中) ピアノ (小) 書道 (中) 勉強時間 (小) 塾 (中) スポーツマイナス (中)	宿題 (小中) 予復習マイナス (中) わからないことは自分で調べる(中) 進んで勉強プラス (中)	宿題 (小中) テスト直前勉強マイナス (小中)
家庭環境	---	---	一人での夕食マイナス (小) 毎朝朝食 (小中) 前日に持参物をそろえる (小)	一人での夕食マイナス (小中) 毎朝朝食 (中) 友達の話マイナス (中)

表1から、分析結果は、3つほどに整理される。

まず第1に、子どもの授業態度は、子ども自身の学習活動そのものだけに、学力に対する影響力は極めて大きい。ノートに重要事項をちゃんと筆記する子や、解けるはずの問題を間違えるときやすいと思う子は、学力が高い。性別には、中学校で女子の学力が有意に高かった。これは女子がまじめだからであろう。

第2に、授業方法についてである。小学校、中学校とも、「先生が子どもによく質問し、よく発表する授業」をよく受けている子どもの学力は高い。小学校では、「グループで話し合う授業」はプラスだが、「教師が1時間しゃべり児童がそれを聞く」という一方向的な授業を受けている子どもの学力は低い。また、授業が始まる前の時間帯に文学作品などを熟読させる「朝の読書」を受けている児童ほど、学力が高くなっている。なお、放課後に先生から学習指導を受ける児童の学力は低くなっているが、これは、低学力の児童が指導を受けているためだろうと考えられる。中学校では、「学級で話し合う授業」はマイナスだが、「プリントやドリルを使った授業」を受けている生徒の学力が高いという結果になった。

さらに、小中とも、学校規模は意外に学力に影響を与えており、小規模校の方が学力は相対的に高い。また、2人の教師と一緒に授業を行うティーム・ティーティング (TT) をしている学級では学力が高くなる傾向にある。中学校では、特定教科について一つの学級を分割して学習指導を行う少人数学習指導の効果は、有効であるようだ。これは中学校では学級規模が大きいことが関係していると考えられ、個に応じたきめ細かな指導方法の一つとして少人数学習指導の意義が認められる。

第3に、家庭での学習や帰宅後の活動内容も比較的大きな影響を与えていた。学校の宿題をきちんとやる、毎日・長い時間勉強するなど、自宅での程度学習に取り組むのが大きな影響を与えていた。また、塾に通っている、通信教育を受けているなど、も有意な影響を与えていた。

家庭環境については、毎朝、朝食をとり（中学校）、一人で夕食をとることが少ない（小学校）など、規則的な生活をしている子どもは、学力が高い。ピアノや書道など芸術の習い事が学力にプラスの影響をもっていた。表には示していないが、中学校では小学校よりも家庭の影響力は強いようで、保護者が子どもに関与すること、おやの読書や文芸への嗜好など「家庭の正統文化志向」の強さも影響を与えていた。

結論とインプリケーション：学校と親の責任の重要性

このように、全体として、家庭でも学校でも、児童生徒自身が、学習にどの程度熱心に取り組むかが、学力に最も大きな影響を与えている。これはある意味で当然の結果であろう。

しかし、学校の授業方法の違いもある程度大きな影響を与えている。教師と児童生徒との対話のある授業、プリントやドリルによる基礎基本を重視した授業、朝の始業前の読書などの有効性も明らかになった。TTの教育効果も認められ、中学校では少人数学習指導の効果も認められた。学校側の指導の在り方は、たしかに児童生徒に大きな影響を与えており、今後、学校側の児童生徒に対する有効な指導や働きかけに期待したい。

さらにまた、家庭での規則的な生活や親の家庭での過ごし方が重要であることも明らかになった。おやは、子どもに大きな影響を与えているのであり、責任は大きいと言えよう。

表2 モデル1-1

説明変数		被説明変数				小・総合偏差値				中・総合偏差値			
		偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰	検定	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰	検定				
	(定数)	60.178	4.505		***	73.851	5.347		***				
性	性別ダミー	1.795	0.762	0.054	*	4.267	0.853	0.118	***				
所在地	広島ダミー	5.996	0.859	0.181	***	0.068	0.985	0.002					
	市街地ダミー	-0.430	1.180	-0.013		-0.808	1.109	-0.022					
学校・学級規模	全校人数	-0.195	0.656	-0.013		-3.032	1.192	-0.109	*				
	学級人数	-0.382	0.351	-0.035		-0.002	0.651	0.000					
TT	TTダミー（補正）	0.383	0.876	0.010		3.264	1.323	0.063	*				
少人数	少人数ダミー（補正）	-0.882	0.812	-0.027		3.134	1.138	0.074	**				
授業方法	先生が1時間中説明し、子どもが聞いている授業	-1.741	0.450	-0.090	***	0.077	0.507	0.004					
	先生が子どもによく質問し、よく発表する授業	1.315	0.453	0.070	**	2.378	0.563	0.103	***				
	グループで話し合う授業	1.580	0.571	0.065	**	-2.763	0.603	-0.112	***				
	先生が、算数や数学のプリントやドリルを見してくれる	1.436	0.454	0.076	**	1.496	0.499	0.074	**				
	朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	3.118	0.638	0.113	***	0.465	0.683	0.017					
	放課後に、先生が分からないところを教えてくれる	-2.375	0.396	-0.145	***	-0.093	0.479	-0.005					
家庭での学習	学校の宿題はきちんとやる	4.812	0.603	0.215	***	4.093	0.574	0.201	***				
	学校の授業の予習や復習をする	-0.810	0.474	-0.046		-1.875	0.582	-0.091	***				
	分からない問題があれば、教科書や参考書で調べる	0.614	0.440	0.036		2.485	0.514	0.129	***				
	テスト前には計画をたてて勉強する	-0.168	0.437	-0.010		-0.069	0.472	-0.004					
	家の人に言われなくても自分で進んで勉強する	-0.528	0.435	-0.031		1.143	0.523	0.062	*				
家庭での生活	毎朝、朝食を食べる	2.155	0.613	0.083	***	3.151	0.613	0.122	***				
	夕食を、一人で食べることがある	-1.678	0.418	-0.092	***	-0.642	0.428	-0.036					
	学校に持って行く物は、前の日にそろえる	1.082	0.456	0.060	*	-0.493	0.410	-0.030					
	家の人とよく学校や友だちの話をする	-0.092	0.410	-0.005		-0.504	0.433	-0.028					
	R2 乗 (adjR2乗)	0.270	0.259		***	0.192	0.180		***				
	N	1503				1554							

表3 モデル1-2

説明変数		被説明変数				小・総合偏差値				中・総合偏差値			
		偏回帰 係数	標準 誤差	標準偏 回帰係数	検 定	偏回帰 係数	標準 誤差	標準偏 回帰係数	検 定				
	切片	83.899	5.834		***	106.802	5.990		***				
性	女子ダミー	-1.323	1.124	-0.039		2.983	1.060	0.088	**				
所在地	広島ダミー	6.858	1.501	0.192	***	2.891	1.562	0.074					
	市街地ダミー	2.770	1.480	0.081		0.959	1.661	0.028					
学校学級 規模	学校規模 (全校児童生徒数)	-0.737	1.209	-0.038		-3.318	1.713	-0.103					
	学級規模 (学級人数)	-0.265	0.488	-0.021		-0.826	0.866	-0.042					
TT	TTを受けている (ダミー)	3.274	1.225	0.086	**	1.063	1.674	0.020					
少人数	少人数授業を受けている (ダミー)	-3.892	1.119	-0.116	***	1.918	1.184	0.051					
授業方法	先生が1時間中説明し、子どもが聞いている授業	-2.075	0.606	-0.106	***	0.375	0.603	0.018					
	先生が子どもによく質問し、よく発表する授業	1.105	0.628	0.058		1.682	0.654	0.079	**				
	グループで話し合う授業	-0.304	0.788	-0.013		-0.851	0.739	-0.037					
	学級全員で話し合う授業	0.085	0.636	0.004		-2.010	0.652	-0.097	**				
	ドリルやプリントの問題を解く授業	0.869	0.716	0.038		0.481	0.638	0.022					
学級風土	クラスの秩序	-0.804	0.740	-0.041		-2.029	0.709	-0.093	**				
	クラスの凝集性	0.196	0.839	0.008		-2.810	0.795	-0.113	***				
	教師の児童生徒理解	-0.472	0.651	-0.028		-0.341	0.613	-0.018					
授業態度	授業への集中	3.367	0.754	0.149	***	3.130	0.810	0.120	***				
	肯定的自己評価	-0.778	0.839	-0.033		3.284	0.887	0.115	***				
	向上心	6.353	0.918	0.252	***	6.443	0.929	0.232	***				
	発表積極性	-1.181	0.672	-0.056		2.606	0.691	0.112	***				
おや	単親ダミー	-2.005	1.246	-0.047		-1.096	1.265	-0.025					
帰宅後の 活動	学習塾	-1.018	1.694	-0.023		4.290	1.350	0.118	**				
	英語会話	0.591	1.736	0.010		-2.507	3.008	-0.024					
	ピアノ・ダンス・舞踊など	4.125	1.299	0.101	**	2.192	1.514	0.043					
	書道や絵画など	2.440	1.380	0.053		3.431	1.754	0.056					
	そろばん、パソコンなど	0.272	2.224	0.004		-3.146	3.965	-0.022					
	野球、サッカー、水泳などのスポーツ	1.499	1.032	0.045		-4.184	1.419	-0.085	**				
家庭での 学習	勉強日数(月-金)	0.878	0.294	0.096	**	0.206	0.284	0.026					
	平時の勉強時間(月-金)	1.353	0.585	0.075	*	0.140	0.551	0.009					
	学校の宿題	5.168	1.654	0.099	**	3.815	1.245	0.091	**				
	学校の授業の予習・復習	-0.381	1.188	-0.010		0.075	1.082	0.002					
	塾の宿題	0.869	1.763	0.019		-1.277	1.609	-0.030					
	通信教育の教材での勉強	4.300	1.496	0.087	**	3.076	1.291	0.071	*				
	R ² (adj. R ²)	0.312	(0.286)		***	0.292	(0.268)		***				
	N	874				950							

表4 モデル2-1

説明変数		被説明変数				小・総合偏差値				中・総合偏差値			
		偏回帰 係数	標準 誤差	標準 偏回帰	検定	偏回帰 係数	標準 誤差	標準 偏回帰	検定				
	(定数)	60.178	4.505		***	73.851	5.347		***				
性	性別ダミー	1.795	0.762	0.054	*	4.267	0.853	0.118	***				
所在地	広島ダミー	5.996	0.859	0.181	***	0.068	0.985	0.002					
	市街地ダミー	-0.430	1.180	-0.013		-0.808	1.109	-0.022					
学校・学級 規模	全校人数	-0.195	0.656	-0.013		-3.032	1.192	-0.109	*				
	学級人数	-0.382	0.351	-0.035		-0.002	0.651	0.000					
TT	TTダミー	0.383	0.876	0.010		3.264	1.323	0.063	*				
少人数	少人数ダミー	-0.882	0.812	-0.027		3.134	1.138	0.074	**				
授業方法	先生が1時間中説明し、子どもが聞いている授業	-1.741	0.450	-0.090	***	0.077	0.507	0.004					
	先生が子どもによく質問し、よく発表する授業	1.315	0.453	0.070	**	2.378	0.563	0.103	***				
	グループで話し合う授業	1.580	0.571	0.065	**	-2.763	0.603	-0.112	***				
	先生が、算数や数学のプリントやドリルを見てくれる	1.436	0.454	0.076	**	1.496	0.499	0.074	**				
	朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	3.118	0.638	0.113	***	0.465	0.683	0.017					
	放課後に、先生が分からないところを教えてくれる	-2.375	0.396	-0.145	***	-0.093	0.479	-0.005					
家庭での 学習	学校の宿題はきちんとやる	4.812	0.603	0.215	***	4.093	0.574	0.201	***				
	学校の授業の予習や復習をする	-0.810	0.474	-0.046		-1.875	0.582	-0.091	***				
	分からない問題があれば、教科書や参考書で調べる	0.614	0.440	0.036		2.485	0.514	0.129	***				
	テスト前には計画をたてて勉強する	-0.168	0.437	-0.010		-0.069	0.472	-0.004					
	家の人に言われなくても自分で進んで勉強する	-0.528	0.435	-0.031		1.143	0.523	0.062	*				
家庭での 生活	毎朝、朝食を食べる	2.155	0.613	0.083	***	3.151	0.613	0.122	***				
	夕食を、一人で食べることがある	-1.678	0.418	-0.092	***	-0.642	0.428	-0.036					
	学校に持っていく物は、前の日にそろえる	1.082	0.456	0.060	*	-0.493	0.410	-0.030					
	家の人とよく学校や友だちの話をする	-0.092	0.410	-0.005		-0.504	0.433	-0.028					
	R2 乗 (adjR2乗)	0.270	0.259		***	0.192	0.180		***				
	N	1503				1554							

表5 モデル2-2

被説明変数		小・総合偏差値				中・総合偏差値			
		偏回帰 係数	標準 誤差	標準偏 回帰係数	検 定	偏回帰 係数	標準 誤差	標準偏 回帰係数	検 定
	切片	63.141	4.655		***	65.008	5.384		***
性	女子ダミー	1.100	0.753	0.034		4.762	0.826	0.131	***
所在地	広島ダミー	6.289	0.830	0.195	***	1.733	0.948	0.048	
	市街地ダミー	-1.417	1.142	-0.044		-0.773	1.052	-0.021	
学校学級 規模	学校規模 (全校児童生徒数)	0.194	0.634	0.014		-2.995	1.133	-0.107	**
	学級規模 (学級人数)	-0.277	0.342	-0.026		0.217	0.614	0.012	
IT	ITを受けている (ダミー)	0.296	0.844	0.008		1.870	1.272	0.035	
少人数	少人数授業を受けている (ダミー)	-1.173	0.788	-0.036		2.280	1.091	0.053	*
授業方法	先生が1時間中説明し、子どもが聞いている授業	-1.479	0.440	-0.078	***	0.180	0.482	0.008	
	先生が子どもによく質問し、よく発表する授業	0.734	0.444	0.040		1.552	0.543	0.067	**
	グループで話し合う授業	0.532	0.559	0.023		-2.778	0.577	-0.112	***
	先生が、算数や数学のプリントやドリルを見てくれる	0.865	0.446	0.047		1.355	0.478	0.067	**
	朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	2.473	0.622	0.092	***	0.259	0.651	0.010	
	放課後に、先生が分からないところを教えてくれる	-1.948	0.393	-0.122	***	-0.126	0.463	-0.006	
学級風土	どの子ども学級の委員や係り活動を進んでやっている	-0.677	0.493	-0.034		-2.129	0.549	-0.093	***
	どの子ども学校のきまりを守っている	-0.044	0.495	-0.002		0.514	0.582	0.021	
	先生は私たちの話をよく聞いてくれる	-0.036	0.483	-0.002		0.699	0.522	0.033	
授業態度	授業中、大切だと思ったことはノートに書きとる	1.897	0.472	0.105	***	1.184	0.536	0.054	*
	学校での成績は、学年の中で良い方だと思う	2.333	0.437	0.129	***	5.875	0.477	0.292	***
	授業を休んだり、遅刻したりすることがある	-1.233	0.402	-0.071	**	-0.466	0.459	-0.023	
	解けるはずの問題を間違えるとくやしいと思う	2.090	0.412	0.121	***	3.165	0.523	0.146	***
家庭での 学習	学校の宿題はきちんとやる	3.535	0.575	0.162	***	2.136	0.530	0.105	***
	分からない問題があれば、教科書や参考書で調べる	0.165	0.420	0.010		0.832	0.478	0.043	
	テスト前には計画をたてて勉強する	-1.236	0.407	-0.075	**	-1.060	0.439	-0.058	*
家庭での 生活	毎朝、朝食を食べる	1.175	0.601	0.046		2.135	0.586	0.083	***
	夕食を、一人で食べることがある	-1.754	0.405	-0.098	***	-0.836	0.408	-0.046	*
	学校に持っていく物は、前の日にそろえる	0.684	0.440	0.039		-0.169	0.392	-0.010	
	家の人とよく学校や友だちの話をする	-0.465	0.399	-0.028		-0.984	0.414	-0.055	*
	R ² (adj. R ²)	0.311	(0.298)		***	0.301	(0.289)		***
	N	1,458				1,523			

第 5 部

中国における学校・学級規模と学校教育

第1章 中国の小中学校における「小班化教育」

蔣莉

I 研究の目的

本論文は、近年の中国の小中学校の学級規模縮小の動きについて考察し、「小班化教育」と呼ばれる取り組みの実態を明らかにすることである。

中国の国家教育部は1982年に「中等師範学校及び都市における一般小中学校の校舎面積に関する規定」を公布し、中学校の学級規模を近いうちに1学級50人、将来は45人、小学校では近いうちに1学級45人、将来は40人とするように規定した。1996年には国家教育委員会（旧）が「小学校管理規程」において、小学校の学級規模は45人が適正であると規定した。

近年、小中学校（主に小学校）の学級規模を25～30人に縮小する「小班化教育」の実験が、北京・上海・天津・広州・大連などの大都市部で実施されている。20数年間にわたる「計画生育」政策の実施の結果、近年、小学校新入生人口が持続的に減少している。経済発展が進んでいる地域における小学校での「小班化教育」が、近い将来、全国的に実現されると考えられる。

本論文では、まず、中国の小中学校の児童生徒数の変化と学級規模の現状について分析する。次に大都市部における小班化教育の実態を考察する。最後に得られた知見を述べる。

II 小中学校の児童生徒数の変化と学級規模

1. 児童生徒数・新入生数・学校数・学級数

中国では、20数年間にわたり「計画生育」政策、すなわち「一人っ子政策」が実施されてきた。その結果としての出生数の減少は、近年、学校の児童生徒数にも大きな影響を与え始めている。

表1は、1990年から2003年までの中国小中学校における在学者数・新入生数・学級数・教員数の変化を表している。図1-4は表1に基づいて作成したものである。

図1に示しているように、小学校においては1995年から今日まで、2002年を除いて新入生数が減少している。特に1997年から2000年までの4年間では大幅に減少した。一方、図2を見ると、中学校では、2000年をピークとして、その後減少を続けている。

小中学校の在学児童生徒数の変化（図1、2）を見ると、小学校では1997年をピークに、1998年以降減少に転じている。中学校においては、まだ生徒数は増加しているが、近い将来、減少することが見込まれる。学級数（図3、4）は、小学校では1997年をピークに減少しているが、中学校は増加している。教員数（図3、4）は、小学校では2001年から減少し始めたが、中学校では、1997年から持続的に増加している。

2. 学級規模の分布状況

表2は、2004年度の小中学校の学級規模の分布状況を示している。小学校をみると、農村では、25人以下の小規模学級の割合が39.3%と最も多く、大規模学級は少ない。しかし、都市と町においては、36人～55人学級の割合は高く、それぞれ51.6%と46.5%である。さらに66人以上の大規模学級はそれぞれ8.9%と11.2%を占めている。

中学校を見ると、全体で56人以上の学級が過半数を占めている。小学校と異なり、都市・町・農村の違いは少ない。どの地域でも46人～55人学級の割合が一番高く、都市では32.5%、町では30.7%、農村では30.6%を占めている。66人以上の大規模学級は、都市では全体の13.5%を占めているが、町では26.4%、農村では24.4%と、高くなっている。

表1 小中学校の在学者数・新入生数・学級数・教員数 (単位：万)

	年	在学者数	新入生数	学級数	教員数
小学校	1990	12241.4	2064.0	398.1	558.2
	1993	12421.2	2353.5	397.6	555.2
	1995	13195.2	2531.8	403.9	566.4
	1996	13615.0	2524.7	407.1	573.6
	1997	13995.3	2462.0	410.4	579.4
	1998	13953.8	2201.4	406.5	581.9
	1999	13548.0	2029.5	396.7	586.0
	2000	13013.3	1946.5	383.6	586.0
	2001	12543.5	1944.2	370.7	577.9
	2002	12156.7	1952.8	352.6	570.3
	2003	11689.7	1829.4	336.4	558.2
中学校	1990	3868.7	1370.0	78.7	247.0
	1993	4082.2	1478.9	82.6	260.8
	1995	4657.8	1752.2	89.9	333.4
	1996	4970.4	1760.7	93.9	289.3
	1997	5167.8	1805.6	96.3	298.2
	1998	5363.0	1961.4	99.4	305.5
	1999	5721.6	2149.7	104.5	314.8
	2000	6167.6	2263.3	132.8	324.9
	2001	6431.1	2257.9	115.4	343.0
	2002	6604.1	2252.3	116.5	346.7
	2003	6618.4	2195.3	116.5	343.0

出典：中華人民共和国国家教育委員会計画建設司編，1991，『中国教育統計年鑑 1990』。

中華人民共和国国家教育委員会計画建設司編，1993，1994，1996，1997，『中国教育事業統計年鑑 1992，1993，1995，1996』。

教育部計画建設司編，1998，『中国教育事業統計年鑑 1997』。

教育部發展企画司編，1999，『中国教育事業統計年鑑 1998』。

教育部發展企画司編，2000，2001，2003，2004，『中国教育統計年鑑 1999，2000，2002，2003』。

図1

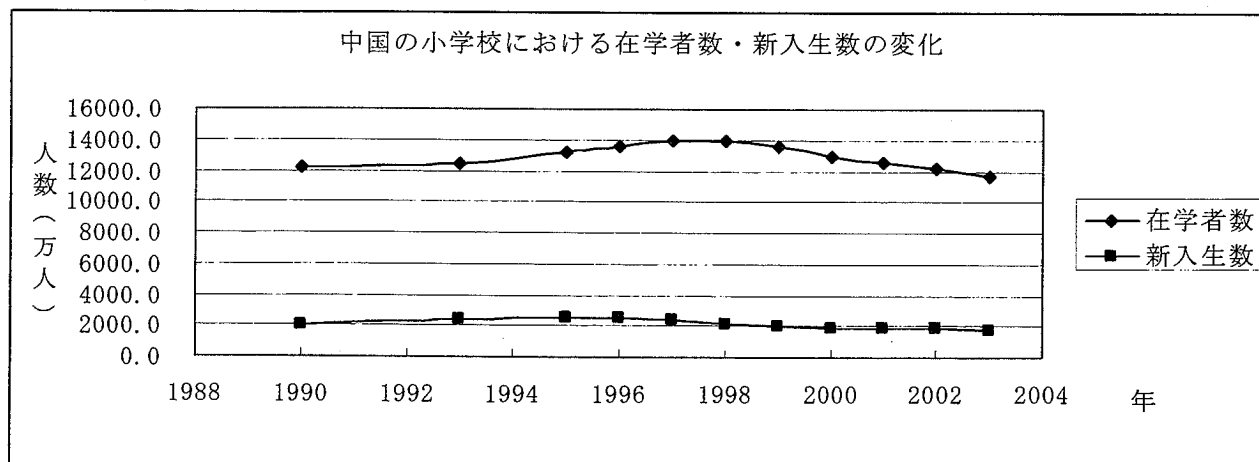


図2

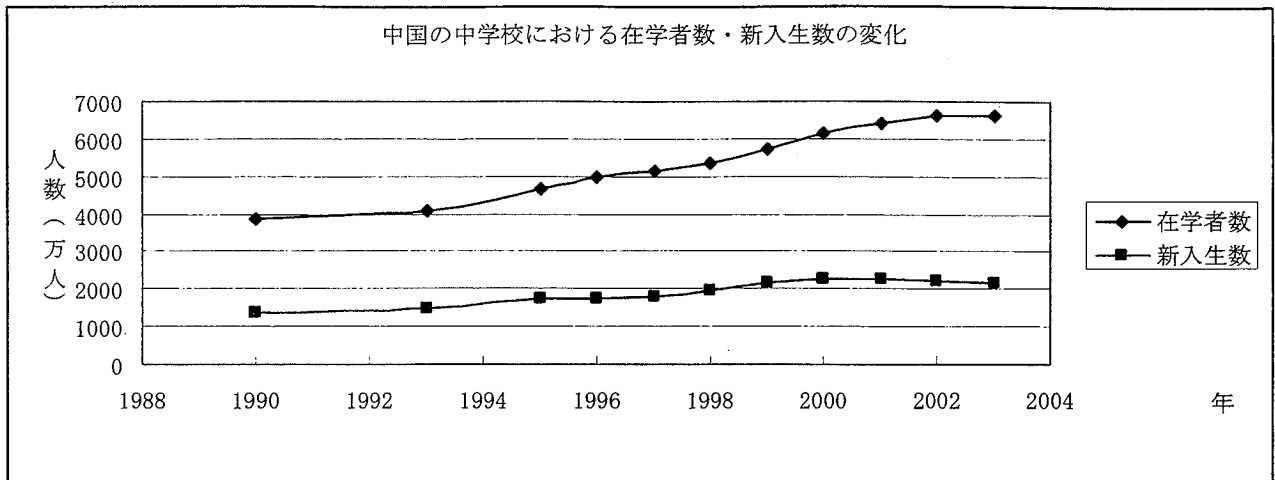


図3

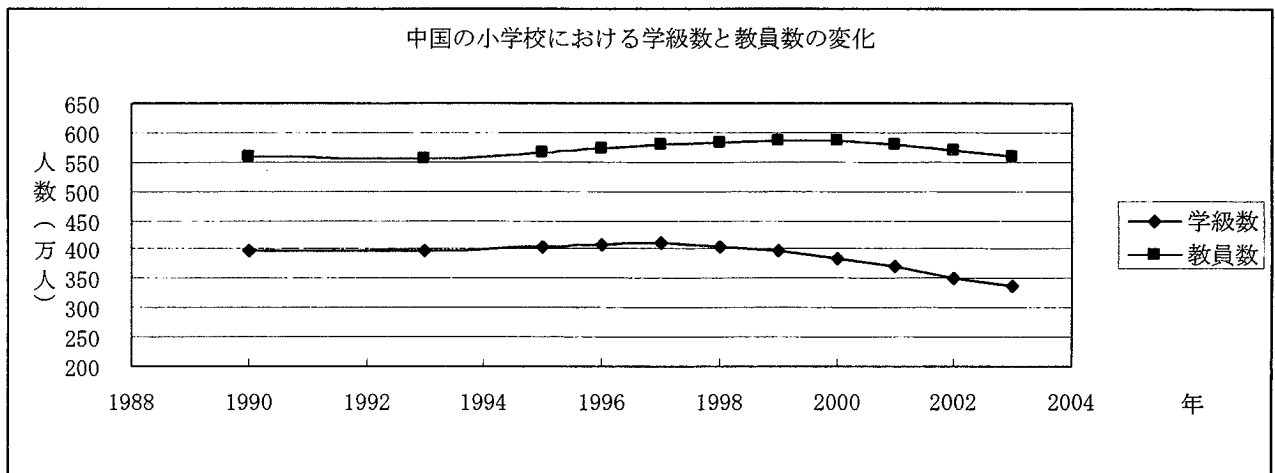


図4

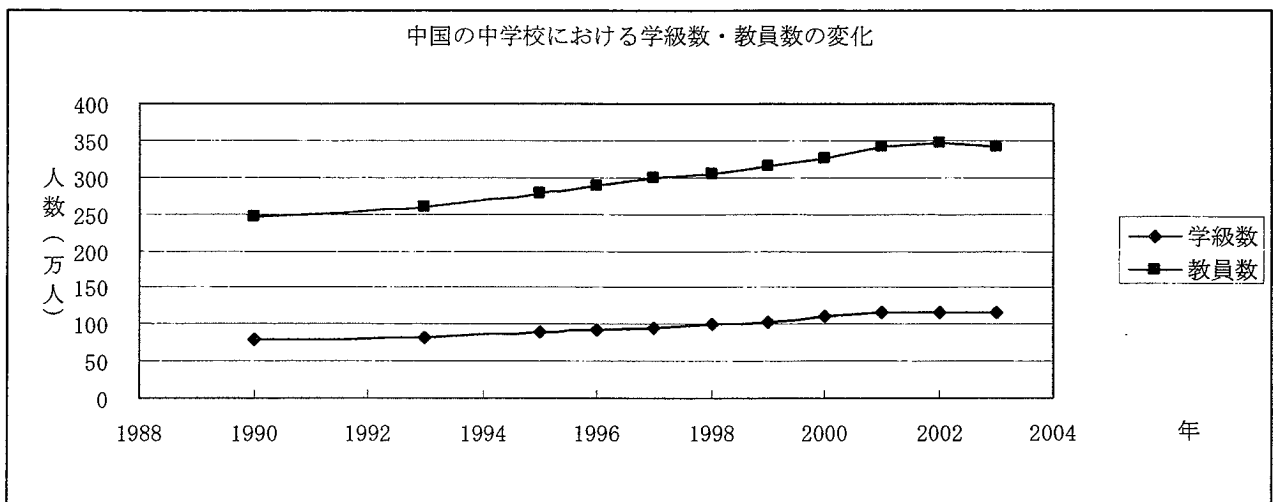


表2 小中学校における学級規模の分布状況：2004年（％）

		25人以下	26-35人	36-45人	46-55人	56-65人	66人以上	合計
小学校	都市	8.1	14.9	24.8	26.8	16.6	8.9	100.0
	町	11.9	15.3	22.7	23.8	15.0	11.2	100.0
	農村	39.3	23.7	18.7	11.4	4.8	2.1	100.0
	全体	31.5	21.4	20.0	15.1	7.7	4.3	100.0
中学校	都市	2.3	7.7	20.2	32.5	23.8	13.6	100.0
	町	0.7	2.7	10.8	30.7	28.8	26.4	100.0
	農村	1.0	3.4	12.9	30.6	27.7	24.4	100.0
	全体	1.1	4.0	13.6	31.0	27.3	23.0	100.0

出典：教育部発展企画司編, 2005, 『中国教育統計年鑑 2004』。

Ⅲ 中国における「小班化教育」

「小班化教育」とは、子どもの個性ある健全な成長を目指して、学級規模を縮小し、教育の内容・方法・様式・策略などの改革を行う学級教育である。「小班化教育」の過程においては、主体は教員から児童・生徒へと変換する（全力 2001）。すなわち、小班化教育とは、学級規模を小さくすることだけではなく、小規模化した学級にふさわしい教育を行うことである。

中国の「小班化教育」は、上海を始め、1990年代半ばから始まったが、まだ実験段階である。アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、日本などの先進国と比べると、実施するのが遅く、その規模はまだ小さいが、注目されている教育改革の一つである。

1. 「小班化教育」の実施背景

(1) 小学校新入学者総数の減少

1996年から、全国の小学校新入生総数が持続的に減少し、在学生総数も1998年以降、下降しつつある（図1）。このような状況は「小班化教育」の実施に客観的な環境を作り上げた。

(2) 素質教育の実現に有効な方法としての小班化

中国では、1985年から学校教育は受験型教育から素質教育に転換する政策がとられ、1999年以降、素質教育を全面的に促進する段階に入った。

素質教育は教育の様式ではなく、教育様式を指導する教育理念である。素質教育の理念は、人格の育成、教育の公平性、自主性・能動性・創造性を強調する。「小班化教育」はまず学級規模を縮小する。それにより、教員は児童生徒に適切な指導が行われる。また教育過程において、児童生徒の参加頻度・深度が高められ、児童生徒の主体性が発揮できる。沈克非（2001）が指摘するように、学級規模を縮小し、児童生徒の個性を重視して、能力を養うことに力を入れている「小班化教育」は、素質教育理念を反映し、実現する有効な方法である。

③教育資源の増加

急速な経済成長に伴い、各級の政府は学校教育の改善に力を入れるようになった。教育法令が改善され、教育の資金投入は増加されつつある。中央政府・国務院の『教育改革の深化および素質教育の全面推進に関する決定』では、教育投資は国民生産総額の4%を占めることを目標に掲げた。中央政府の指示に従い、地方の各級政府は各自の目標を定め、教育への投資を増している。

なお、1990年代に中国の高等教育機関は急速な規模拡大を遂げた。そのうち、師範専門学校や師範大学などの教員養成機関の拡大も著しかった。2001年には、教員免許制が実施された。質と量とともに教員資源は豊かになっているといえよう。

表3は、小中学校のPT比の変化を示している。図5は表3に基づいて、作成したものである。表3をみると、小学校は1997年の24.16人をピークに、減少している。中学校は1996年の17.20から2000年の19.30まで増加したが、2001年から減少傾向にあり、2003年には19.13人であった。

PT比は児童生徒数と教員数（図3、4）と深く関わっている。小学校では、教員数は2001年から減少しているが、

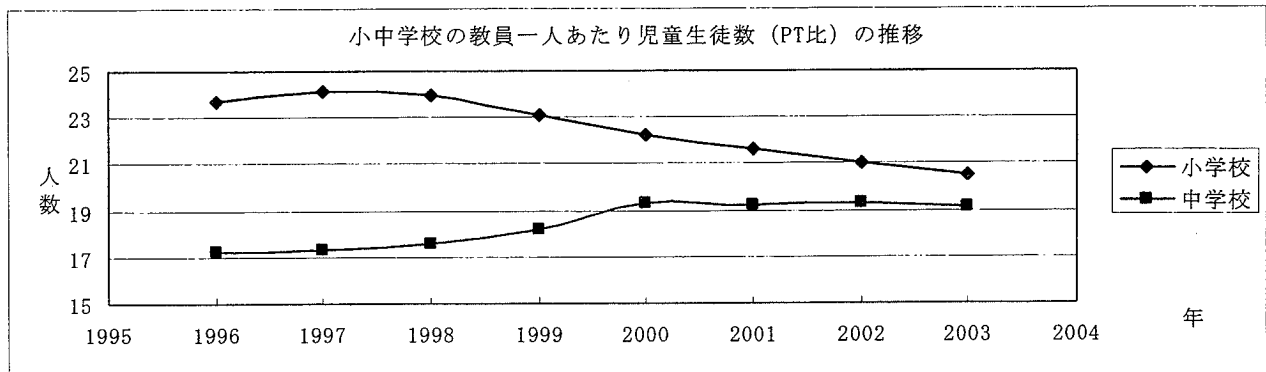
児童数の減少が著しいためPT比率は2003年まで下がり続けている。中学校では生徒数は持続的に増加しているが、教員数がそれを上回って増加しているため、PT比は減少傾向にあるのである。図5をみると、中国の小中学校において、PT比は減少している。

表3 小中学校の教員一人あたり児童生徒数（PT比）の推移

	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
小学校	23.70	24.16	24.00	23.12	22.21	21.64	21.04	20.50
中学校	17.20	17.37	17.56	18.23	19.30	19.24	19.29	19.13

出典：中国教育年鑑編集部編、各年度、『中国教育年鑑』。

図5



④学級規模に関する国内外の理論的研究と実践

アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、日本などの先進国の学級規模に関する理論や実践は、中国において進んだ教育様式と見なされ、経済発展の進んでいる地域では、学級規模を縮小した教育様式が実験的に実施されるようになった。

2. 「小班化教育」の実施状況

中国の「小班化教育」は、1996年に上海の小学校から始まった。2004年現在、上海の公立小学校の40.6%は一年生から「小班化教育」を実施している。中学校では52校が実施している。

天津直轄市は、1998年から「小班化教育」を試行し始めた。天津の教育委員会は、2006-2007年から、新しく入学した小学校1学年の学級規模を25-30人にし、小班を実現させることを目標にしている。

本研究のアンケート調査が行われた大連市では、1999年に大連市中山区の永和小学校で「小班化教育」を試行し始めた。永和小学校の「小班化教育」は学級規模を25人以下に規定している。小班化教育の実施により、永和小学校の授業は大きく変化し、教学環境や評価体制も変わった。

まず、児童の自主性・能力を養うために、児童が主体的に行う授業を開設した。たとえば、一年生を対象に履修科目が設置されている。具体的には、毎週火曜日の午後に課題研究の時間が設けられ、児童たちは様々なグループに分けられて、各自の分野について研究活動を行っている。次は教学環境の改善である。教室の中に収納用のダンスが設置され、授業内容に応じて、机の並び方をU型やO型に変えたりしている。リラックスした雰囲気作りを目指して、教室内部を学習コーナーと遊びコーナーと分けている。最後は評価体制である。「激励原則」に基づき、評価が行われている。また、評価の主体を教員だけではなく、児童と保護者に広げた。評価内容は成績ばかりではなく、認識・感情・心理なども含まれる。評価の頻度も変わった。半年もしくは1年に1回しか行われない定期的評価は、週もしくは月単位で随時に行われるようになった。

3. 中国の小班化教育の特徴

大連の事例からも読み取れるように、中国の「小班化教育」は、現在実施している普通の学級と比べると三つの特徴がある。①学級規模を縮小すること。1学級の人数を25-30人程度とする。②教室内の環境を革新すること。たとえば、机と椅子は以前の「田植え」様式から、「品」字型・「周辺形」型に変え、そして教室の中に本棚やおも

ちゃ・体育機材などを設置する。③学級活動における児童・生徒の主体性を強調し、個性を重視すること。この3点は中国の「小班化教育」の特徴であり、「小班化教育」改革の焦点でもある。

IV 終わりに

本論文では、まず、中国全国の小中学校の学校数、学級数、新入生数などの変化を整理し、一部の都市で実験的に実施されている「小班化教育」の実施背景、現状、特徴を紹介し、考察を行った。

中国では、日本のように公立学校の学級規模を法令上で厳格に規定されていないが、教育部の公文では、小学校45人、中学校（都市部）50人までと規定している。しかし、現状では、小中学校とも、56人以上の大規模学級がかなり存在している。特に中学校では、56人以上の大規模学級が5割を超えている（2003年現在）。

このような学級現状がありながら、近年、中国の小中学校では新入生数が大幅に減少し、政府の教育理念も素質教育と転換した。経済成長に伴い、教育資源が増加され、小規模学級での教育の実施が可能になった。そのため、経済発展が進んでいる地域では、素質教育の実施手段として、「小班化教育」が行われるようになった。

中国の「小班化教育」は、ただ学級規模を縮小するだけではなく、学習環境の改善から教育内容の多様化・充実化まで様々な取り組みが進められ、教育の質を高めることを目指している。都市部で実験され、全国に広げられることが期待されている。

参考文献

- 欧陽美梅, 2003年, 中米両国の小班化教育改革の比較『四川教育学院学報』第19巻, 第7期, 3-5頁。
- 教育部計画建設司編, 1998, 『中国教育事業統計年鑑1997』, 人民教育出版社。
- 教育部發展企画司編, 1999, 『中国教育事業統計年鑑1998』, 人民教育出版社。
- 教育部發展企画司編, 2000, 2001, 2003, 2004, 『中国教育統計年鑑1999, 2000, 2002, 2003』, 人民教育出版社。
- 教育部發展企画司編, 2005, 『中国教育統計年鑑2004』, 人民教育出版社。
- 越秀教育网「大連小班化教育 重推特長」www.dsedu.net 2003年3月30日
- 上海市怒江中学校, 2005年, 「中学校における自主・調和的な小班化教育様式の探索と実践」(www.msnj.pte.sh.cn/, 2005年11月21日現在。)
- 沈克非, 2001年, 「浅談小班化教育」『遼寧教育研究』第11期, 12-16頁。
- 孫剛, 「天津市今秋全面的に小班化を推進する」中国教育報, 2006年3月9日
- 全力, 2002, 「迈向新世纪的小班化教育」『教育發展研究』第3期, 82頁。
- 大連市中山区永和小学, 2002年, 「着眼理性 立足实践 重在發展—小班化教育の实践摸索」『遼寧教育研究』第3期, 6-7頁。
- 中華人民共和国国家教育委員会計画建設司編, 1991, 『中国教育統計年鑑1990』, 人民教育出版社。
- 中華人民共和国国家教育委員会計画建設司編, 1993, 1994, 1996, 1997, 『中国教育事業統計年鑑1992, 1993, 1995, 1996』, 人民教育出版社。
- 中国教育年鑑編集部編, 各年度, 『中国教育年鑑』, 人民教育出版社。
- 張寿松・劉為邦, 2003年, 「小班化教育と大班教育における比較研究」『麗水師範学校学報』, 第1期, 75-78頁。
- 水野考・藤井宣彰・田中春彦, 2005年, 「学校規模に隠れた学級規模の効果—公立小中学校の全国校長調査を中心に」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部, 第54号, 11-18頁。
- 山崎博敏・世羅博昭・伴恒信・金子之史・田中春彦, 2001年, 「学級規模の教育上の効果—教員調査を中心に」『教科教育学研究』第19集, 255-273頁。
- 山崎博敏・水野考・藤井宣彰・高旗浩志・田中春彦, 2006年, 「全国の小中学校における少人数教育とティーミング」『学校教育実践学研究』第12巻, 73-84頁。
- 湯丹文, 「中山区永和小学校」『大連日報』, 2005年6月13日

第2章 中国の小中学校における学級規模の教育的効果

李東林

I 研究の目的

本論文は、中国の小中学校の教員を対象にした質問紙調査をもとに、学級規模の大小による授業や学級生活の違いを分析し、教員から見た望ましい学級規模について考察することを目的とする。

中国の国家教育部は1982年に「中等師範学校及び都市における一般小中学校の校舎面積に関する規定」を公布し、中学校の学級規模を近いうちに1学級50人、将来は45人、小学校では近いうちに1学級45人、将来は40人とするように規定した。1996年には国家教育委員会（旧）が「小学校管理規程」において、小学校の学級規模は45人が適正であると規定した。

近年、中国の小中学校において（主に小学校）「小班化教育」と呼ばれる学級規模縮小の取り組みは実験的に実施されている。なお、このような学級規模の縮小に反する動きもある。他国と同様、児童生徒は居住地に最も近い小中学校に入学しなければならない。しかし、受験競争の激しい中国では、小中学校、特に重点高校への進学率の高い中学校には、その学校を慕ってくる「择校生」（学区外からの生徒）が多く集まり、60人以上の大規模学級は珍しくない。これは、中国の小中学校の学級規模に関する研究を行う際に注意を払わなければならない点である。

本論文では、まず、教員調査のデータをもとに学級規模の大小による授業や学級生活の違いを分析する。次に教員から見た望ましい学級規模について考察する。最後に、IV章で、日本での調査結果と照らし合わせながら、中国の小中学校における学級規模の教育的効果や影響力について考察する。

II 教員調査の概要

1. 概要

2005年9月に、中国沿海部の大連市の教育学院（大連市の小・中・高校に在職する教員の研修を行う高等教育機関）の協力を得て、大連市の公立小学校と中学校（各5校、計10校）の教員に対して質問紙調査を行った。回収部数は414部、有効部数369部であった。

調査対象校の10校の学校規模（学校の児童生徒総人数）は、500人以下が1校、500-999人が4校、1000-1500人が4校、1500人以上が1校であった。学校所在地は市街地と町・農村がそれぞれ5校であった。教員の属性とTT実施状況は、表1に示している。

表1 教員の属性とTTの実施状況

	人数			%		
	全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
全体	369	169	200	100.0	45.8	54.2
性別	男性	65	23	42	18.4	22.3
	女性	288	142	146	81.6	77.7
教職 経験 年数	5年未満	73	32	41	22.7	24.0
	5-9年	75	30	45	23.3	26.3
	10-19年	141	71	70	43.8	40.9
	20年以上	33	18	15	10.2	8.8
初任 時の 学歴	高校	10	9	1	2.8	0.5
	専門学校	90	87	3	25.2	1.5
	短大	124	57	67	34.7	34.4
	大学・大学院	133	9	124	37.3	63.6
TT実 施状 況	現在実施している	98	42	56	29.0	31.0
	以前実施したことがある	30	19	11	9.0	6.0
	実施したことがない	207	91	116	62.0	63.0

2. 学級規模の状況

(1) 教員の担当している学級の規模

表2に示しているように、教員は担任している学級又は主として授業を担当している学級の規模は、日本と比べると大規模である。小学校では、35人以下の相対的に小規模な学級は全体の4分の1を占めているにすぎず、41人以上の学級は60%近くになっている。中学校ではさらに大規模学級が多く、41人以上の学級は全体の73%にもなっている。小学校、中学校とも、50人以上の大規模な学級もみられる。これは上述の中国全国の小中学校の学級規模の現状とほぼ一致している。

表2 担当学級の規模

	小学校		中学校		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
26-30人	7	4.3	0	0.0	7	2.0
31-35人	34	21.1	6	3.1	40	11.0
36-40人	25	15.5	25	13.0	50	14.0
41-45人	20	12.4	62	33.0	82	23.0
46-50人	43	26.7	37	19.0	80	23.0
51-55人	30	18.6	28	15.0	58	17.0
56-60人	2	1.2	33	17.0	35	9.9
合計	161	100.0	191	100.0	352	100.0

(2) 教員の学級規模に対する意見

本調査では、適切な学級規模についても質問した。その結果(表3)、「適正規模だと思う」と答えた者の割合が最も高いのは、小学校、中学校とも、「31-35人」の学級の担当者であった。逆に、小学校、中学校とも、41人以上の学級の担当者は、過半数以上が「大きすぎる」と回答している。

ただし、本調査サンプルには小学校25人以下、中学校は30以下の学級が含まれていないため、学級規模の最適人数は、本調査からは判断できない。

表3 教員の学級規模に対する意見 (%)

学級規模	小学校			中学校		
	大きすぎる	適切	小さすぎる	大きすぎる	適切	小さすぎる
26-30人	28.6	71.4	0.0			
31-35人	17.6	76.5	5.9	0.0	100.0	0.0
36-40人	40.0	52.0	8.0	24.0	76.0	0.0
41-45人	95.0	5.0	0.0	50.0	50.0	0.0
46-50人	82.9	14.6	2.4	67.6	29.4	2.9
51-55人	88.9	11.1	0.0	68.0	32.0	0.0
56-60人	100.0	0.0	0.0	90.9	9.1	0.0
合計	62.2	34.6	3.2	57.8	41.6	0.5

注：有意確率 $p < 0.001$ 。

Ⅲ 教員から見た児童の学習と生活の状況—学級規模別分析—

1. 学級規模別にみた学習と学校生活の状況

質問紙には、児童生徒の学習と学校生活の状況に関して合計26の質問項目が設定されている。このうち、学習状況に関する質問は13項目であり、それは大きく「児童生徒の学習状況」8項目と「教員の学習指導」5項目からなる(表7参照)。また学校生活の状況に関する質問は13項目で、「児童生徒の学校生活」6項目と「教員の生徒指導」8項目からなっている(表8参照)。以上の各質問に「そう思う」「どちらでもない」「そう思わない」の3つの選択

肢から回答を求めた。

ここでは、学習と学校生活に関する回答状況が学級規模によってどの程度異なっているかを分析する。

(1) 児童生徒の学習状況

表4は、「児童生徒の学習状況」と「教員の学習指導」の実態が、学級規模によって異なっているかどうかを示している。表中の数値は、「そう思う+どちらでもない」の割合である(表8も同様)。

小学校では、「児童生徒の学習状況」の8項目のうち、4項目で学級規模により差が生じている。つまり、「チャイムが鳴ったら着席して教師の到着を待っている」「授業中、児童生徒は教師の話をよく聞いている」「分からないことがあると子どもはよく質問する」については、小規模学級ほど「そう思う+どちらでもない」と回答するものが多い。逆に、「学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎと思う」については、「そう思う+どちらでもない」と回答するものが少ない。

「教員の学習指導」の状況を見ると、「一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く」「理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある」「子どもをわかるまで指導するだけのゆとりがある」の項目で、小規模学級ほど「そう思う+どちらでもない」と回答する者が多い。

このことから、小学校では小規模学級の方が児童生徒の学習や教員の学習指導は順調である傾向が窺える。

しかし、中学校の場合、小規模学級ほど「児童生徒の学習状況」と「教員の学習指導」に関する全項目が順調であるというわけではない。13項目のうち差があった5項目については、「51人以上」の大規模学級を担当している教員の方が、学級での学習状況は順調であると思っている。

(2) 学校生活の状況

表5は、学級規模別の「児童生徒の学校生活」と「教員の生徒指導」に関する回答の状況を示している。

小学校では、まず、「児童生徒の学校生活」に関する質問をみると、「子どもたちは日常の基本的な生活習慣を身につけている」「子どもたちは全体に伸びのびとし

ている」「子どもたちは個性を伸ばしている」の項目で、「36-40人」の学級を担当している教員の方が、「そう思う+どちらでもない」と回答する者が最も多い。一方、「51人以上」の大規模学級では、「そう思う+どちらでもない」と回答する者が少ない。

次に、「教員の生徒指導」の状況を見ると、「一人ひとりの子どもの話を聞いてやるゆとりがある」「一人ひとりの子どもの心配事や悩みを把握している」「家庭や学校外での生活状況を把握している」「子どもたちの学校での日常生活に目が行き届いている」の4項目で、小規模学級ほど「そう思う+どちらでもない」と回答する者が多い。

中学校では、「児童生徒の学校生活」と「教員の生徒指導」における5つの項目において差があった。しかし、上述した児童生徒の学習状況と同じように、複雑な結果となった。つまり、「個性を伸ばしている」は大規模学級に多く、「指示に従わない子どもがいて困ることがある」は小規模学級に多いなど、学級規模が多いほど、「児童生徒の学校生活」が順調であるような結果も得られている

表4 学級規模別の児童生徒の学習状況：「そう思う+どちらでもない」の%

	小学校					中学校						
	26～35人	36～40人	41～45人	46～50人	51人以上	31～40人	41～45人	46～50人	51人以上			
生徒の学習状況	平常の授業内容を子どもたちはおおよそ理解している	94.7	95.8	94.0	92.0	90.3	96.7	96.4	93.5	98.1		
	授業内容が易しすぎて退屈している子どもがいる	52.8	58.2	55.0	60.0	55.5	58.6	60.5	62.1	43.1	*	
	チャイムが鳴ったら着席して教師の到着を待っている	87.6	81.7	75.0	78.0	67.4	*	86.7	89.1	80.6	83.0	
	授業中、児童生徒は教師の話をよく聞いている	83.1	87.5	80.0	75.6	46.7	**	72.4	76.4	70.0	79.6	
	分からないことがあると子どもはよく質問する	84.1	79.2	75.0	70.7	51.6	**	65.2	75.0	58.1	70.6	*
	宿題をやってこない子どもがいる	83.3	87.1	85.0	80.7	87.4		93.1	83.6	83.3	81.1	
	授業に集中しない子どもがいる	91.9	90.7	93.7	95.3	93.5		90.0	87.5	82.8	86.8	
	学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎと思う	61.4	71.7	80.0	84.1	87.4	**	79.3	79.6	65.5	75.5	
学習指導	理解不十分でも次の単元に進まざるを得ない	70.6	82.6	78.9	65.8	67.9		72.8	63.6	77.4	62.7	
	子どもがどの程度理解しているか把握できている	97.2	95.4	95.0	90.2	93.5		86.6	82.1	74.2	90.6	*
	一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	83.7	87.5	75.0	68.0	67.4	*	72.4	77.4	64.5	61.1	
	理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	41.1	46.5	25.0	22.5	16.1	**	26.6	25.5	21.4	46.3	*
	子どもをわかるまで指導するだけのゆとりがある	47.8	39.1	35.0	23.4	25.8	**	24.6	31.5	20.0	47.2	*

注：***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05 (以下の表も同様)

表5 学級規模別の学校生活の状況

		小学校					中学校				
		26～35人	36～40人	41～45人	46～50人	51人以上	31～40人	41～45人	46～50人	50人以上	
生徒 学校生活	子どもたちは日常の基本的な生活習慣を身につけている	69.2	76	72.5	67	58.1	*	60	59.1	63.3	51.8
	学級集団としてのまとまりがある	91.9	96	90	95.1	87.1		86.6	87.5	79	84.5
	子どもたちは全体に伸びのびとしている	83.3	92	85	85	80	*	73.3	81.8	74.2	84.5
	子どもたちは個性を伸ばしている	78.4	84	55	65.9	67.7	*	53.3	65.5	50	74.1
	指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある	35.9	32	47.3	46.3	38.7		70	60.7	71	52.7
	遅刻したり学校を休む子どもが多い	5.6	8	6.5	7.3	6.2		3.3	14.8	20	9.1
教員の 生徒指導	子どもたちの学校での日常生活に目が行き届いている	93.3	90	83.3	85.1	80.6	*	76.7	80.4	80	81
	子供どうしの人間関係に目が行き届いている	83.3	84	85	80.5	77.4		56.7	61	62.5	53.8
	一人ひとりの子どもの話を聞いてやるゆとりがある	62.2	80	47	46.3	35.5	**	50	47.2	42.7	55.4
	一人ひとりの子どもの心配事や悩みを把握している	55.5	76	38.5	36.6	32.3	*	41	33.9	43.3	42.9
	家庭や学校外での生活状況を把握している	63.9	56	51.2	43.9	45.2	*	44.8	38.9	23.2	45.2
	保護者とのコミュニケーションをとることは難しい	36.1	38	40	30.5	35.8		33.3	43.6	51.6	27.8
子どもの気持ちや考え方についていけないと思った	36.8	34	45	45	37.5		34.5	23.6	35.7	26.8	

2. 授業・学習順調度に対する学級規模の影響

以上の分析結果から、小中学校における児童生徒の学習と学校生活の多くの側面は、学級規模と深く関連していることが分かる。特に小学校の場合、小規模学級の方が児童生徒の学習や学校生活に有利な傾向が示されている。中学校では、学級規模以外にも影響要因があるように思われる。

児童生徒の学習や学校生活の状況に与える影響要因が様々であり、学級規模はその様々な要因と複雑に絡まって役割を果たしている。学級規模はその多くの変数の中でどの程度の影響力を持っているだろうか。

それを検討するために、ここでは、まず主成分分析を用いて児童生徒の学習や学校生活に関する26項目を少数の変数に縮約する。次いで、その単純化された指標を従属変数にして、またそれに影響を与えると考えられる学級規模、学校と教員の属性などを独立変数にとり、重回帰分析を行う。他変数の影響力を統制した後に、学級規模がどのような影響力を与えているかを検討する。

(1) 主成分分析による変数の縮約

表6は、児童生徒の学習に関する質問のうち、「児童生徒の学習状況」に関する8つの変数と、「教員の学習指導」に関する5つの変数を、それぞれ主成分分析した際の第1主成分の負荷量を示している。その第1主成分を、それぞれ「児童生徒の学習順調度」「教員の学習指導順調度」と呼ぶことにする。

表7は、学校生活の状況に関する質問のうち、「児童生徒の学校生活」に関する6つの変数と、「教員の生徒指導」に関する7つの変数を、それぞれ主成分分析した際の第1主成分の負荷量を示している。その第1主成分を、それぞれ「児童生徒の学校生活順調度」「教員の生徒指導順調度」と呼ぶことにする。

表6 児童生徒の学習に関する主成分分析

	成分1	
生徒の 学習状況	授業中、児童生徒は教師の話をよく聞いている	0.817
	チャイムが鳴ったら着席して教師の到着を待っている	0.660
	分からないことがあると子どもはよく質問する	0.634
	平常の授業内容を子どもたちはおおよそ理解している	0.420
	授業に集中しない子どもがいる	-0.015
	宿題をやってこない子どもがいる	0.036
	逆に授業内容が易しすぎて退屈している子どもがいる	-0.017
	学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う	-0.058
教員の 学習指導	理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	0.924
	子どもをわかるまで指導するだけのゆとりがある	0.907
	理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	-0.375
	子どもが授業をどの程度理解しているか、把握できている	-0.037
	一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	0.158

表7 学校生活に関する主成分分析

	成分1	
生徒の 学校生活	子どもたちは全体に伸びのびとしている	0.782
	子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている	0.747
	子どもたちは個性を伸ばしている	0.709
	学級集団としてのまとまりがある	0.687
	遅刻したり学校を休む子どもが多い	0.130
	指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある	-0.160
教員の 生徒指導	一人ひとりの子どもの心配事や悩みを把握している	0.839
	一人ひとりの子どもの話を聞いてやるゆとりがある	0.806
	子供どうしの人間関係に目が行き届いている	0.710
	子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している	0.624
	子どもたちの学校での日常生活に目が行き届いている	0.492
	保護者とのコミュニケーションをとることは難しい	-0.139
	子どもの気持ちや考え方についていけないと思ったことがある	0.060

(2) 重回帰分析による検討

ここでは、児童生徒の学習と学校生活に関する主成分分析によって抽出された「児童生徒の学習順調度」「教員の学習指導順調度」「児童生徒の学校生活順調度」「教員の生徒指導順調度」の4つの得点を従属変数として、教員の属性に関する性別、教職経験年数、初任時の学歴、学校の属性に関する学校の所在地、学校規模、学級規模、TT実施状況、学校の市内での学力水準を独立変数として、小中学校全体、小学校、中学校ごとに重回帰分析を行う。重回帰分析に用いた独立変数は、表8に説明している。

①児童生徒の学習順調度と教員の学習指導順調度

表9は、「児童生徒の学習順調度」を従属変数とした重回帰分析の結果である。学級規模は、全体と小学校でマイナスの影響がみられたが、中学校ではみられなかった。一方、TTの実施は、小学校、中学校とも、プラスの影響がみられた。つまり、小学校において、小規模学級の方が児童生徒の学習が順調であると解釈できる。

「教員の学習指導順調度」についての分析結果が、表10である。小学校の場合、「教員の学習指導順調度」には、学級規模、教員の初任時の学歴、TTの実施が有意な影響を及ぼしている。それに対して、中学校の場合、学級規模、教員の初任時の学歴の影響がみられず、代わりに、教育経験年数、学校の市内での学力水準が影響力をもっている。

表8 重回帰分析に用いた独立変数一覧

独立変数	内容	
男性ダミー	男性=1	女性=0
教職経験年数	5年未満=1 10-19年=3	5-9年=2 20年以上=4
初任時の学歴	高校=1 短大=3	専門学校=2 大学・大学院=4
市街地ダミー	市街地=1	その以外=0
学校規模	500人以下=1 1000-1500人=3	500-999人=2 1500人以上=4
学級規模	40人以下=1 45-50人=3	41-45人=2 50人以上=4
TT実施ダミー	現在実施している=1 実施していない=0	
学校の市内での学力水準ダミー	高い=1	平均・低い=0

表9 生徒の学習順調度の規定要因

	生徒学習順調度		
	全体	小学校	中学校
男性	0.013	0.102	-0.054
初任時の学歴	0.024	0.083	-0.009
教育に携わる年数	0.075	0.063	0.050
市街地	0.087	0.044	0.093
学校規模	-0.017	-0.018	-0.041
学級規模	-0.145 *	-0.167 **	-0.010
TT実施	0.164 **	0.162 **	0.182 **
学校の学力水準	0.032	-0.041	0.045
調整済み R2 乗	0.104	0.122	0.086

注：表中の数値はβ値である。以下の表も同様。

表10 教員の学習指導順調度の規定要因

	教員の学習指導順調度		
	全体	小学校	中学校
男性	0.090	0.104	0.096
初任時の学歴	0.166 *	0.143 *	0.095
教育に携わる年数	0.213 **	0.109	0.173 *
市街地	0.045	-0.087	-0.045
学校規模	-0.104	-0.087	-0.102
学級規模	-0.131 *	-0.238 **	0.047
TT実施	0.248 ***	0.195 **	0.211 ***
学校の学力水準	0.216 **	0.004	0.224 ***
調整済み R2 乗	0.203	0.184	0.216

②児童生徒の学校生活順調度と教員の生徒指導順調度

表11は、「児童生徒の学校生活順調度」についての重回帰分析結果を示している。小学校の場合、学校規模と学級規模が、「児童生徒の学校生活順調度」にマイナスの影響を与えている。一方、中学校の場合、学校規模と学級規模の影響はなく、初任時の学歴、市街地、TT実施、学校の学力水準がプラスの影響力を持っていた。

「教員の生徒指導順調度」について分析結果が、表12である。小学校の場合、学校規模と学級規模が、「教員の生徒指導順調度」にマイナスの影響を、TTの実施がプラスの影響を与えている。それに対して、中学校の場合、学

校規模がマイナスの影響があったが、学級規模の影響力はみられなかった。

表 11 児童生徒の学校生活順調度の規定要因

	生徒の学校生活順調度		
	全体	小学校	中学校
男性	0.082	-0.003	0.106
初任時の学歴	0.143 *	0.059	0.136 *
教育に携わる年数	-0.031	0.017	-0.003
市街地	0.153 **	0.003	0.138 *
学校規模	-0.096	-0.131 *	-0.06
学級規模	-0.13 *	-0.151 **	0.032
T T実施	0.194 **	0.089	0.189 **
学校の学力水準	0.148 *	-0.017	0.178 **
調整済み R2 乗	0.175	0.073	0.148

表 12 教員の生徒指導順調度の規定要因

	教員の生徒学校生活指導順調度		
	全体	小学校	中学校
男性	0.054	0.104	-0.007
初任時の学歴	0.071	0.048	0.073
教育に携わる年数	0.015	0.077	0.097
市街地	0.087	0.004	0.156 *
学校規模	-0.192 **	-0.122 *	-0.158 *
学級規模	-0.194 **	-0.173 *	-0.065
T T実施	0.255 ***	0.223 ***	0.219 ***
学校の学力水準	0.074	0.077	0.091
調整済み R2 乗	0.186	0.164	0.125

以上の重回帰分析結果を総括すると、小学校の場合、学級規模は、他変数を統制した場合、児童生徒の学習と学校生活に対してマイナスの影響を与えている。すなわち、学級規模が大きいほど児童生徒の学習と学校生活の順調度は低く、学級規模が小さいほどその順調度は高いという傾向がある。

しかし、中学校の場合、学級規模の影響がみられなく、代わりに市内レベルで学校の学力水準が高いほど教員の学習指導と児童生徒の学校生活の順調度は高い傾向がある。

IV まとめ

本論文では、小中学校の教員を対象にした質問紙調査に基づいて、児童生徒の学習と学校生活の状況を学級規模を中心に分析した。

それらを分析・検討した結果は、以下のようにまとめられよう。

①アンケート調査の分析の結果、中国の教員は、学級規模が小学校 35 人以下、中学校 40 人以下が適正だと考えている。日本の教員は小中学校とも 13 人以上 30 人未満の学級が最適だと考えている（山崎ほか, 2001）。日本と比べると、中国では学級規模の最適な上限は大幅に上回っている。中国の教員は、小学校 41 人以上、中学校 46 人以上の学級規模は大きすぎると考えている。

②学級規模は児童生徒の学習と学校生活と深く関連している。小学校の場合、学級規模が小さいほど児童生徒の学習と学校生活の順調度が高い。だが、中学校の場合、そのような傾向がみられなかった。また、小学校の場合、学級規模が小さいほど児童生徒の学習と学校生活の順調度が高い。

だが、中学校の場合、そのような傾向がみられなかった。代わりに学校の学力水準が高いほど教員の学習指導と児童生徒の学校生活の順調度は高い傾向があった。調査サンプル数が少ないから断定はできないが、その原因は、重点高校への進学率の高い中学校には学区外から多くの優秀な「择校生」が入学することと深く関連していると思われる。そのような学校の学級は大規模になり、生徒の学力が高く学級での行動も向学校的になるため、学校の学力水準のダミー変数が説明変数に組み込まれているとはいえ、学級規模の影響力が小さくなったものと思われる。

参考文献

- 上海市怒江中学校, 2005年, 「中学校における自主・調和的な小班化教育様式の探索と実践」(www.msnj,pte.sh.cn/, 2005年11月21日現在。)
- 沈克非, 2001年, 「浅談小班化教育」『遼寧教育研究』第11期, 12-16頁。
- 孫剛, 「天津市今秋全面的に小班化を推進する」中国教育報, 2006年3月9日
- 水野考・藤井宣彰・田中春彦, 2005年, 「学校規模に隠れた学級規模の効果—公立小中学校の全国校長調査を中心に」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部, 第54号, 11-18頁。
- 山崎博敏・世羅博昭・伴恒信・金子之史・田中春彦, 2001年, 「学級規模の教育上の効果—教員調査を中心に」『教科教育学研究』第19集, 255-273頁。
- 山崎博敏・水野考・藤井宣彰・高旗浩志・田中春彦, 2006年, 「全国の小中学校における少人数教育とチームティーチング」『学校教育実践学研究』第12巻, 73-84頁。

付 録

2004年度全国校長調査小中別単純集計表(公立のみ)

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
I-1	性別	男	612	316	936	82.1	96.9	86.7
		女	133	10	144	17.9	3.1	13.3
		合計	745	326	1080	100.0	100.0	100.0
I-2	年齢	20歳代	1	1	2	0.1	0.3	0.2
		30歳代	2	0	2	0.3	0.0	0.2
		40歳代	27	8	36	3.6	2.4	3.3
		50歳代	718	318	1044	96.0	97.2	96.3
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0
I-3	職位	校長	710	307	1026	95.2	93.9	94.8
		副校長・教頭	30	20	50	4.0	6.1	4.6
		教諭	6	0	6	0.8	0.0	0.6
		合計	746	327	1082	100.0	100.0	100.0
I-4	教職経験年数	5年未満	10	6	16	1.3	1.8	1.5
		5年以上	4	4	8	0.5	1.2	0.7
		10年以上	5	2	7	0.7	0.6	0.7
		20年以上	722	314	1045	97.4	96.3	97.1
		合計	741	326	1076	100.0	100.0	100.0
I-5	校長としての経験	2年以下	214	79	301	30.3	25.2	29.3
		3-5年	238	108	347	33.7	34.5	33.7
		6-7年	137	65	202	19.4	20.8	19.6
		8-10年	105	54	159	14.9	17.3	15.5
		11年以上	13	7	20	1.8	2.2	1.9
		合計	707	313	1029	100.0	100.0	100.0
I-6	異校種勤務経験	あり	326	178	510	44.5	54.4	47.7
		なし	407	149	559	55.5	45.6	52.3
		合計	733	327	1069	100.0	100.0	100.0
I-7	所在都道府県	北海道	35	17	55	4.7	5.2	5.1
		青森	23	11	34	3.1	3.4	3.1
		岩手	25	12	38	3.3	3.7	3.5
		宮城	28	11	39	3.7	3.4	3.6
		秋田	18	6	24	2.4	1.8	2.2
		山形	18	5	23	2.4	1.5	2.1
		福島	22	10	32	2.9	3.1	3.0
		茨城	22	7	29	2.9	2.1	2.7
		栃木	14	6	20	1.9	1.8	1.8
		群馬	16	7	23	2.1	2.1	2.1
		埼玉	13	7	20	1.7	2.1	1.8
		千葉	25	16	41	3.3	4.9	3.8
		東京	28	12	41	3.7	3.7	3.8
		神奈川	15	11	26	2.0	3.4	2.4
		新潟	25	11	36	3.3	3.4	3.3
		富山	9	1	10	1.2	0.3	0.9
		石川	9	3	12	1.2	0.9	1.1
		福井	11	3	15	1.5	0.9	1.4
		山梨	10	1	11	1.3	0.3	1.0
		長野	18	6	25	2.4	1.8	2.3
		岐阜	10	15	25	1.3	4.6	2.3
		静岡	19	5	24	2.5	1.5	2.2
		愛知	28	17	45	3.7	5.2	4.2
		三重	14	6	20	1.9	1.8	1.8
		滋賀	6	4	10	0.8	1.2	0.9
		京都	4	1	5	0.5	0.3	0.5
		大阪	12	9	21	1.6	2.8	1.9
		兵庫	18	12	30	2.4	3.7	2.8
		奈良	11	5	16	1.5	1.5	1.5
		和歌山	8	5	13	1.1	1.5	1.2
		鳥取	7	2	9	0.9	0.6	0.8
		島根	17	4	21	2.3	1.2	1.9
		岡山	23	12	35	3.1	3.7	3.2
		広島	27	5	32	3.6	1.5	3.0
		山口	16	8	24	2.1	2.4	2.2
		徳島	5	3	8	0.7	0.9	0.7
		香川	6	3	9	0.8	0.9	0.8
		愛媛	17	5	22	2.3	1.5	2.0
		高知	4	4	8	0.5	1.2	0.7
		福岡	22	2	24	2.9	0.6	2.2
		佐賀	8	3	11	1.1	0.9	1.0
長崎	8	5	14	1.1	1.5	1.3		

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
I-7	所在都道府県	熊本	24	5	29	3.2	1.5	2.7
		大分	11	5	16	1.5	1.5	1.5
		宮崎	8	5	13	1.1	1.5	1.2
		鹿児島	19	7	26	2.5	2.1	2.4
		沖縄	12	7	20	1.6	2.1	1.8
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0
I-9	共学・別学	共学	746	327	1082	100.0	100.0	100.0
		合計	746	327	1082	100.0	100.0	100.0
I-10	校種	合計	748	327	1075	69.6	30.4	100.0
I-11	所在地域	市街地	308	148	456	41.7	45.7	42.5
		農村部	297	128	427	40.2	39.5	39.8
		へき地(指定校)	134	48	189	18.1	14.8	17.6
		合計	739	324	1072	100.0	100.0	100.0
I-12	複式学級	あり	129	9	143	17.3	2.8	13.3
		なし	616	314	934	82.7	97.2	86.7
		合計	745	323	1077	100.0	100.0	100.0
I-13-A	小1学級数	1学級未満	42			5.9		
		1学級	324			45.6		
		2学級	173			24.4		
		3学級	98			13.8		
		4学級	50			7.0		
		5学級	21			3.0		
		6学級	2			0.3		
	合計	710			100.0			
	小2学級数	1学級未満	61			8.6		
		1学級	310			43.8		
		2学級	175			24.7		
		3学級	100			14.1		
		4学級	49			6.9		
		5学級	11			1.6		
		6学級	2			0.3		
	合計	708			100.0			
	小3学級数	1学級未満	89			12.6		
		1学級	284			40.1		
		2学級	190			26.8		
		3学級	104			14.7		
		4学級	24			3.4		
		5学級	17			2.4		
		6学級	0			0.0		
	合計	708			100.0			
小4学級数	1学級未満	81			11.5			
	1学級	274			38.9			
	2学級	182			25.8			
	3学級	113			16.0			
	4学級	44			6.2			
	5学級	10			1.4			
	6学級	1			0.1			
合計	705			100.0				
小5学級数	1学級未満	76			10.8			
	1学級	285			40.4			
	2学級	195			27.7			
	3学級	107			15.2			
	4学級	32			4.5			
	5学級	10			1.4			
	6学級				0.0			
合計	705			100.0				
小6学級数	1学級未満	64			9.1			
	1学級	292			41.5			
	2学級	189			26.9			
	3学級	109			15.5			
	4学級	43			6.1			
	5学級	5			0.7			
	6学級	1			0.1			
合計	703			100.0				

		度数			%			
		小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
I-13-A	中1学級数	1学級未満		3			1.0	
		1学級		74			23.6	
		2学級		53			16.9	
		3学級		50			15.9	
		4学級		53			16.9	
		5学級		37			11.8	
		6学級		20			6.4	
		7学級		13			4.1	
		8学級以上		11			3.5	
	合計		314			100.0		
	中2学級数	1学級未満		5			1.6	
		1学級		69			22.1	
		2学級		58			18.6	
		3学級		52			16.7	
		4学級		51			16.3	
		5学級		37			11.9	
		6学級		21			6.7	
		7学級		12			3.8	
		8学級以上		7			2.2	
	合計		312			100.0		
	中3学級数	1学級未満		4			1.3	
		1学級		64			20.4	
		2学級		58			18.5	
		3学級		56			17.9	
		4学級		51			16.3	
		5学級		39			12.5	
		6学級		26			8.3	
		7学級		8			2.6	
		8学級以上		7			2.2	
	合計		313			100.0		
	障害児学級	なし	256	94	354	38.1	30.6	35.9
		1学級	236	135	372	35.1	44.0	37.8
		2学級	135	64	199	20.1	20.8	20.2
		3学級	34	13	48	5.1	4.2	4.9
		4学級	7	0	7	1.0	0.0	0.7
		5学級	4	1	5	0.6	0.3	0.5
	合計	672	307	985	100.0	100.0	100.0	
	全校学級数	1-3学級	42	45	88	6.0	14.6	8.7
		4-6学級	180	53	235	25.7	17.2	23.1
		7-11学級	165	81	251	23.5	26.3	24.7
12-18学級		192	94	286	27.4	30.5	28.1	
19学級以上		122	35	157	17.4	11.4	15.4	
合計	701	308	1017	100.0	100.0	100.0		
I-13-B	小1児童数	(回答の平均値)	45.2					
	小2児童数	(回答の平均値)	45.2					
	小3児童数	(回答の平均値)	45.8					
	小4児童数	(回答の平均値)	47.8					
	小5児童数	(回答の平均値)	46.2					
	小6児童数	(回答の平均値)	46.7					
	中1生徒数	(回答の平均値)		103.9				
	中2生徒数	(回答の平均値)		102.3				
	中3生徒数	(回答の平均値)		104.5				
	障害児学級人数	(回答の平均値)	2.5	2.6	2.5			
	全校合計児童生徒数	(回答の平均値)	280.5	311.8	288.1			
	全校合計児童生徒数	49人以下	120	42	167	17.0	13.7	16.4
		50-99人	99	22	123	14.0	7.2	12.1
100-149人		77	29	106	10.9	9.5	10.4	
150-199人		46	21	68	6.5	6.9	6.7	
200-249人		43	23	66	6.1	7.5	6.5	
250-299人		44	24	68	6.2	7.8	6.7	
300-349人		41	18	59	5.8	5.9	5.8	
350-399人		37	21	58	5.2	6.9	5.7	
400-449人		33	25	58	4.7	8.2	5.7	
450-499人		35	15	50	5.0	4.9	4.9	
500-549人		21	20	41	3.0	6.5	4.0	
550-599人		18	11	29	2.5	3.6	2.8	
600-649人	24	9	33	3.4	2.9	3.2		
650-699人	23	11	34	3.3	3.6	3.3		
700-749人	13	3	16	1.8	1.0	1.6		

			度数			%			
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
		750-799人	4	3	7	0.6	1.0	0.7	
		800人以上	28	9	37	4.0	2.9	3.6	
		合計	706	306	1020	100.0	100.0	100.0	
I-14	校長	(回答の平均値)	1.00	1.00	1.00				
	教頭	(回答の平均値)	1.01	1.02	1.01				
	教諭	(回答の平均値)	12.83	17.43	14.19				
	養護教諭	(回答の平均値)	0.97	0.98	0.97				
	常勤講師	(回答の平均値)	0.80	1.22	0.92				
	非常勤講師	(回答の平均値)	0.72	1.28	0.89				
	ALT	(回答の平均値)	0.18	0.69	0.34				
	教員数合計	(回答の平均値)	16.70	21.66	18.19				
	教員数合計	10人以下		213	42	256	29.1	13.1	24.2
		11-20人		308	112	426	42.0	35.0	40.2
		21-30人		159	104	263	21.7	32.5	24.8
		31-40人		44	47	91	6.0	14.7	8.6
		41人以上		9	15	24	1.2	4.7	2.3
			合計	733	320	1060	100.0	100.0	100.0
I-15	全教科	(回答の平均値)	6.14	3.45	5.30				
	国語	(回答の平均値)	0.10	2.37	0.79				
	社会	(回答の平均値)	0.07	2.10	0.69				
	算数・数学	(回答の平均値)	0.24	2.68	0.98				
	理科	(回答の平均値)	0.23	2.12	0.81				
	保健体育	(回答の平均値)	0.08	2.03	0.67				
	音楽	(回答の平均値)	0.32	1.05	0.54				
II	美術・図工	(回答の平均値)	0.12	0.87	0.35				
	技術・家庭	(回答の平均値)	0.09	1.46	0.51				
	英語	(回答の平均値)	0.01	2.54	0.78				
	IT	(回答の平均値)	0.23	0.40	0.28				
	障害児学級	(回答の平均値)	0.63	0.92	0.71				
	その他	(回答の平均値)	0.30	0.16	0.26				
	特殊学級(常勤)	(回答の平均値)	0.19	0.16	0.18				
	特殊学級(非常勤)	(回答の平均値)	0.05	0.05	0.05				
	専科教員(常勤)	(回答の平均値)	0.18	0.08	0.14				
	専科教員(非常勤)	(回答の平均値)	0.04	0.10	0.06				
	IT(常勤)	(回答の平均値)	0.24	0.34	0.27				
	IT(非常勤)	(回答の平均値)	0.11	0.08	0.10				
	少人数教育(常勤)	(回答の平均値)	0.75	1.18	0.89				
	少人数教育(非常勤)	(回答の平均値)	0.12	0.19	0.15				
	長期研修代替(常勤)	(回答の平均値)	0.03	0.10	0.05				
	長期研修代替(非常勤)	(回答の平均値)	0.01	0.00	0.00				
	教育困難校(常勤)	(回答の平均値)	0.03	0.13	0.06				
	教育困難校(非常勤)	(回答の平均値)	0.01	0.01	0.01				
	大規模校 教頭複数配置(常勤)	(回答の平均値)	0.01	0.02	0.01				
	大規模校 教頭複数配置(非常勤)	(回答の平均値)	0.00	0.00	0.00				
	同和・人権教育(常勤)	(回答の平均値)	0.07	0.08	0.07				
	同和・人権教育(非常勤)	(回答の平均値)	0.00	0.00	0.00				
	産休代替(常勤)	(回答の平均値)	0.22	0.24	0.22				
産休代替(非常勤)	(回答の平均値)	0.01	0.00	0.01					
その他(常勤)	(回答の平均値)	0.26	0.45	0.32					
その他(非常勤)	(回答の平均値)	0.21	0.19	0.20					
III-1	あなたの学校における、平均的な学級規模についてご意見をお聞かせ下さい	大きすぎると思う	115	81	196	15.8	25.1	18.5	
		適正規模だと思う	387	170	557	53.0	52.6	52.4	
		小さすぎると思う	228	72	309	31.2	22.3	29.1	
		合計	730	323	1062	100.0	100.0	100.0	
III-2	現在の学級定数上限40人についてご意見をお聞かせ下さい	大きすぎると思う	687	289	984	93.3	89.5	92.1	
		適正規模だと思う	48	31	80	6.5	9.6	7.5	
		小さすぎると思う	1	3	4	0.1	0.9	0.4	
		合計	736	323	1068	100.0	100.0	100.0	
III-3	どの学年でも学級規模を一律に小さくする	思わない	269	97	371	36.0	29.7	34.2	
		思う	479	230	713	64.0	70.3	65.8	
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0	
	低学年など特定学年だけ学級規模を小さくする	思わない	622	311	939	83.2	95.1	86.6	
		思う	126	16	145	16.8	4.9	13.4	
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0	
	特殊学級の教育改善のために教員を増員する	思わない	629	301	938	84.1	92.0	86.5	
		思う	119	26	146	15.9	8.0	13.5	
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
Ⅲ-3	複式学級の解消を計るために教員を増員する	思わない	599	309	913	80.1	94.5	84.2
		思う	149	18	171	19.9	5.5	15.8
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0
	専科教員または特定教科の教員を増員する	思わない	487	264	755	65.1	80.7	69.6
		思う	261	63	329	34.9	19.3	30.4
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0
	TTのために教員を増員する	思わない	540	232	781	72.2	70.9	72.0
		思う	208	95	303	27.8	29.1	28.0
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0
	少人数学習をするために教員を増員する	思わない	321	105	430	42.9	32.1	39.7
		思う	427	222	654	57.1	67.9	60.3
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0
	教育困難校の教員を増員する	思わない	621	215	841	83.0	65.7	77.6
		思う	127	112	243	17.0	34.3	22.4
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0
	カウンセラーや養護教諭を増員する	思わない	666	269	944	89.0	82.3	87.1
		思う	82	58	140	11.0	17.7	12.9
		合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0
	コンピュータ利用教育のために教員を増員する	思わない	681	297	987	91.0	90.8	91.1
思う		67	30	97	9.0	9.2	8.9	
合計		748	327	1084	100.0	100.0	100.0	
「総合的な学習の時間」のために教員を増員する	思わない	692	287	988	92.5	87.8	91.1	
	思う	56	40	96	7.5	12.2	8.9	
	合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0	
学校運営の円滑化のため教頭を複数配置する	思わない	719	304	1032	96.1	93.0	95.2	
	思う	29	23	52	3.9	7.0	4.8	
	合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0	
教員の事務負担を軽減するために事務職員を増員する	思わない	711	312	1031	95.1	95.4	95.1	
	思う	37	15	53	4.9	4.6	4.9	
	合計	748	327	1084	100.0	100.0	100.0	
Ⅳ-5	ホームルーム習熟度別:小1	実施なし	745			99.7		
		実施あり	1			0.1		
		合計	747			100.0		
	ホームルーム習熟度別:小2	実施なし	743			99.5		
		実施あり	4			0.5		
		合計	747			100.0		
	ホームルーム習熟度別:小3	実施なし	739			98.9		
		実施あり	8			1.1		
		合計	747			100.0		
	ホームルーム習熟度別:小4	実施なし	737			98.7		
		実施あり	10			1.3		
		合計	747			100.0		
	ホームルーム習熟度別:小5	実施なし	736			98.5		
		実施あり	11			1.5		
		合計	747			100.0		
	ホームルーム習熟度別:小6	実施なし	735			98.4		
		実施あり	12			1.6		
		合計	747			100.0		
	ホームルーム習熟度別:中1	実施なし		323			98.8	
実施あり			4			1.2		
合計			327			100.0		
ホームルーム習熟度別:中2	実施なし		322			98.5		
	実施あり		5			1.5		
	合計		327			100.0		
ホームルーム習熟度別:中3	実施なし		323			98.8		
	実施あり		4			1.2		
	合計		327			100.0		
ホームルーム習熟度別:実施なし	非該当	459	113	578	61.4	34.6	53.4	
	該当	288	214	505	38.6	65.4	46.6	
	合計	747	327	1083	100.0	100.0	100.0	
Ⅳ-6	特定教科習熟度別:小1国語	編成なし	736			98.5		
		編成あり	11			1.5		
		合計	747			100.0		
	特定教科習熟度別:小1算数	編成なし	713			95.3		
		編成あり	35			4.7		
		合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小1英語	編成なし	748			100.0			
	合計	748			100.0			

		度数			%		
		小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
IV-6	特定教科習熟度別:小2国語	編成なし	733			98.0	
		編成あり	15			2.0	
		合計	748			100.0	
	特定教科習熟度別:小2算数	編成なし	697			93.2	
		編成あり	51			6.8	
		合計	748			100.0	
	特定教科習熟度別:小2英語	編成なし	748			100.0	
		合計	748			100.0	
	特定教科習熟度別:小3国語	編成なし	719			96.1	
		編成あり	29			3.9	
		合計	748			100.0	
	特定教科習熟度別:小3社会	編成なし	748			100.0	
		合計	748			100.0	
	特定教科習熟度別:小3算数	編成なし	633			84.6	
		編成あり	115			15.4	
		合計	748			100.0	
	特定教科習熟度別:小3理科	編成なし	747			99.9	
		編成あり	1			0.1	
		合計	748			100.0	
	特定教科習熟度別:小3英語	編成なし	748			100.0	
合計		748			100.0		
特定教科習熟度別:小4国語	編成なし	715			95.6		
	編成あり	33			4.4		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小4社会	編成なし	747			99.9		
	編成あり	1			0.1		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小4算数	編成なし	614			82.1		
	編成あり	134			17.9		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小4理科	編成なし	746			99.7		
	編成あり	2			0.3		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小4英語	編成なし	748			100.0		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小5国語	編成なし	716			95.7		
	編成あり	32			4.3		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小5社会	編成なし	747			99.9		
	編成あり	1			0.1		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小5算数	編成なし	605			80.9		
	編成あり	143			19.1		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小5理科	編成なし	746			99.7		
	編成あり	2			0.3		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小5英語	編成なし	748			100.0		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小6国語	編成なし	713			95.3		
	編成あり	35			4.7		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小6社会	編成なし	747			99.9		
	編成あり	1			0.1		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小6算数	編成なし	610			81.6		
	編成あり	138			18.4		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小6理科	編成なし	745			99.6		
	編成あり	3			0.4		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:小6英語	編成なし	748			100.0		
	合計	748			100.0		
特定教科習熟度別:中1国語	編成なし		320			97.9	
	編成あり		7			2.1	
	合計		327			100.0	
特定教科習熟度別:中1社会	編成なし		327			100.0	
	合計		327			100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
IV-6	特定教科習熟度別：中1数学	編成なし		271			82.9	
		編成あり		56			17.1	
		合計		327			100.0	
	特定教科習熟度別：中1理科	編成なし		325			99.4	
		編成あり		2			0.6	
		合計		327			100.0	
	特定教科習熟度別：中1英語	編成なし		296			90.5	
		編成あり		31			9.5	
		合計		327			100.0	
	特定教科習熟度別：中2国語	編成なし		318			97.2	
		編成あり		9			2.8	
		合計		327			100.0	
	特定教科習熟度別：中2社会	編成なし		325			99.4	
		編成あり		2			0.6	
		合計		327			100.0	
特定教科習熟度別：中2数学	編成なし		259			79.2		
	編成あり		68			20.8		
	合計		327			100.0		
特定教科習熟度別：中2理科	編成なし		325			99.4		
	編成あり		2			0.6		
	合計		327			100.0		
特定教科習熟度別：中2英語	編成なし		287			87.8		
	編成あり		40			12.2		
	合計		327			100.0		
特定教科習熟度別：中3国語	編成なし		317			96.9		
	編成あり		10			3.1		
	合計		327			100.0		
特定教科習熟度別：中3社会	編成なし		326			99.7		
	編成あり		1			0.3		
	合計		327			100.0		
特定教科習熟度別：中3数学	編成なし		259			79.2		
	編成あり		68			20.8		
	合計		327			100.0		
特定教科習熟度別：中3理科	編成なし		325			99.4		
	編成あり		2			0.6		
	合計		327			100.0		
特定教科習熟度別：中3英語	編成なし		283			86.5		
	編成あり		44			13.5		
	合計		327			100.0		
IV-7	専科教員による授業：小1算数	実施なし	742			99.2		
		実施あり	6			0.8		
		合計	748			100.0		
	専科教員による授業：小1音楽	実施なし	706			94.4		
		実施あり	42			5.6		
		合計	748			100.0		
	専科教員による授業：小1体育	実施なし	740			98.9		
		実施あり	8			1.1		
		合計	748			100.0		
	専科教員による授業：小2算数	実施なし	739			98.9		
		実施あり	8			1.1		
		合計	747			100.0		
	専科教員による授業：小2音楽	実施なし	692			92.5		
		実施あり	56			7.5		
		合計	748			100.0		
専科教員による授業：小2体育	実施なし	741			99.1			
	実施あり	7			0.9			
	合計	748			100.0			
専科教員による授業：小3算数	実施なし	733			98.1			
	実施あり	14			1.9			
	合計	747			100.0			
専科教員による授業：小3理科	実施なし	696			93.0			
	実施あり	52			7.0			
	合計	748			100.0			
専科教員による授業：小3音楽	実施なし	585			78.2			
	実施あり	163			21.8			
	合計	748			100.0			
専科教員による授業：小3家庭科	実施なし	745			99.7			
	実施あり	2			0.3			
	合計	747			100.0			

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
IV-7	専科教員による授業:小3体育	実施なし	736			98.5		
		実施あり	11			1.5		
		合計	747			100.0		
	専科教員による授業:小4算数	実施なし	726			97.2		
		実施あり	21			2.8		
		合計	747			100.0		
	専科教員による授業:小4理科	実施なし	666			89.0		
		実施あり	82			11.0		
		合計	748			100.0		
	専科教員による授業:小4音楽	実施なし	559			74.7		
		実施あり	189			25.3		
		合計	748			100.0		
	専科教員による授業:小4家庭科	実施なし	745			99.7		
		実施あり	2			0.3		
		合計	747			100.0		
	専科教員による授業:小4体育	実施なし	732			98.0		
		実施あり	15			2.0		
		合計	747			100.0		
	専科教員による授業:小5算数	実施なし	727			97.3		
		実施あり	20			2.7		
		合計	747			100.0		
	専科教員による授業:小5理科	実施なし	627			83.8		
		実施あり	121			16.2		
		合計	748			100.0		
	専科教員による授業:小5音楽	実施なし	539			72.1		
		実施あり	209			27.9		
		合計	748			100.0		
	専科教員による授業:小5家庭科	実施なし	638			85.4		
実施あり		109			14.6			
合計		747			100.0			
専科教員による授業:小5体育	実施なし	732			98.0			
	実施あり	15			2.0			
	合計	747			100.0			
専科教員による授業:小6算数	実施なし	731			97.9			
	実施あり	16			2.1			
	合計	747			100.0			
専科教員による授業:小6理科	実施なし	617			82.5			
	実施あり	131			17.5			
	合計	748			100.0			
専科教員による授業:小6音楽	実施なし	539			72.1			
	実施あり	209			27.9			
	合計	748			100.0			
専科教員による授業:小6家庭科	実施なし	634			84.9			
	実施あり	113			15.1			
	合計	747			100.0			
専科教員による授業:小6体育	実施なし	736			98.5			
	実施あり	11			1.5			
	合計	747			100.0			
IV-8	小学校での外国語(総合的学習)	実施なし	544			72.8		
		実施あり	203			27.2		
		合計	747			100.0		
	小学校での外国語(学校裁量の時間)	実施なし	729			97.5		
		実施あり	19			2.5		
		合計	748			100.0		
小学校での外国語(上記以外の時間)	実施なし	590			78.9			
	実施あり	158			21.1			
	合計	748			100.0			
IV-9	学期制	3学期制	598	270	876	89.8	88.8	89.6
		2学期制	67	34	101	10.1	11.2	10.3
		合計	666	304	978	100.0	100.0	100.0
IV-12	教育研究等指定校の指定者	国レベル	68	50	119	28.0	45.0	33.3
		都道府県レベル	66	30	96	27.2	27.0	26.9
		市町村レベル	94	28	124	38.7	25.2	34.7
		その他	14	3	17	5.8	2.7	4.8
		合計	243	111	357	100.0	100.0	100.0
V-1	あなたの学校では現在、TTを実施していますか	現在実施している	469	221	692	66.1	70.8	67.2
		かつて実施したことがある	88	53	142	12.4	17.0	13.8
		実施したことがない	152	38	195	21.4	12.2	19.0
		合計	709	312	1029	100.0	100.0	100.0

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
V-2	TT実施:小1国語	実施なし	387			82.5		
		実施あり	82			17.5		
		合計	469			100.0		
	TT実施:小1社会	実施なし	455			97.2		
		実施あり	13			2.8		
		合計	468			100.0		
	TT実施:小1算数	実施なし	258			54.4		
		実施あり	216			45.6		
		合計	474			100.0		
	TT実施:小1理科	実施なし	455			97.2		
		実施あり	13			2.8		
		合計	468			100.0		
	TT実施:小1英語	実施なし	453			96.8		
		実施あり	15			3.2		
		合計	468			100.0		
	TT実施:小1生活	実施なし	413			88.1		
		実施あり	56			11.9		
		合計	469			100.0		
	TT実施:小1体育	実施なし	424			90.0		
		実施あり	47			10.0		
		合計	471			100.0		
	TT実施:小1総合	実施なし	455			97.2		
		実施あり	13			2.8		
		合計	468			100.0		
	TT実施:小1その他	実施なし	451			96.4		
		実施あり	17			3.6		
		合計	468			100.0		
	TT実施:小2国語	実施なし	411			87.4		
実施あり		59			12.6			
合計		470			100.0			
TT実施:小2社会	実施なし	464			99.1			
	実施あり	4			0.9			
	合計	468			100.0			
TT実施:小2算数	実施なし	247			52.1			
	実施あり	227			47.9			
	合計	474			100.0			
TT実施:小2理科	実施なし	464			99.1			
	実施あり	4			0.9			
	合計	468			100.0			
TT実施:小2英語	実施なし	459			98.1			
	実施あり	9			1.9			
	合計	468			100.0			
TT実施:小2生活	実施なし	426			90.6			
	実施あり	44			9.4			
	合計	470			100.0			
TT実施:小2体育	実施なし	434			92.1			
	実施あり	37			7.9			
	合計	471			100.0			
TT実施:小2総合	実施なし	463			98.9			
	実施あり	5			1.1			
	合計	468			100.0			
TT実施:小2その他	実施なし	455			97.0			
	実施あり	14			3.0			
	合計	469			100.0			
TT実施:小3国語	実施なし	426			90.6			
	実施あり	44			9.4			
	合計	470			100.0			
TT実施:小3社会	実施なし	459			98.3			
	実施あり	8			1.7			
	合計	467			100.0			
TT実施:小3算数	実施なし	211			44.4			
	実施あり	264			55.6			
	合計	475			100.0			
TT実施:小3理科	実施なし	447			95.5			
	実施あり	21			4.5			
	合計	468			100.0			
TT実施:小3英語	実施なし	461			98.7			
	実施あり	6			1.3			
	合計	467			100.0			

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
V-2	TT実施:小3生活	実施なし	464			99.4		
		実施あり	3			0.6		
		合計	467			100.0		
	TT実施:小3体育	実施なし	439			93.6		
		実施あり	30			6.4		
		合計	469			100.0		
	TT実施:小3総合	実施なし	429			91.5		
		実施あり	40			8.5		
		合計	469			100.0		
	TT実施:小3その他	実施なし	456			97.6		
		実施あり	11			2.4		
		合計	467			100.0		
	TT実施:小4国語	実施なし	428			91.1		
		実施あり	42			8.9		
		合計	470			100.0		
	TT実施:小4社会	実施なし	462			98.9		
		実施あり	5			1.1		
		合計	467			100.0		
	TT実施:小4算数	実施なし	204			42.9		
		実施あり	271			57.1		
		合計	475			100.0		
	TT実施:小4理科	実施なし	441			94.4		
		実施あり	26			5.6		
		合計	467			100.0		
	TT実施:小4英語	実施なし	461			98.7		
		実施あり	6			1.3		
		合計	467			100.0		
	TT実施:小4生活	実施なし	464			99.4		
		実施あり	3			0.6		
		合計	467			100.0		
TT実施:小4体育	実施なし	441			93.6			
	実施あり	30			6.4			
	合計	471			100.0			
TT実施:小4総合	実施なし	426			90.8			
	実施あり	43			9.2			
	合計	469			100.0			
TT実施:小4その他	実施なし	452			96.6			
	実施あり	16			3.4			
	合計	468			100.0			
TT実施:小5国語	実施なし	437			93.2			
	実施あり	32			6.8			
	合計	469			100.0			
TT実施:小5社会	実施なし	461			98.7			
	実施あり	6			1.3			
	合計	467			100.0			
TT実施:小5算数	実施なし	214			45.0			
	実施あり	262			55.0			
	合計	476			100.0			
TT実施:小5理科	実施なし	430			91.9			
	実施あり	38			8.1			
	合計	468			100.0			
TT実施:小5英語	実施なし	461			98.7			
	実施あり	6			1.3			
	合計	467			100.0			
TT実施:小5生活	実施なし	465			99.6			
	実施あり	2			0.4			
	合計	467			100.0			
TT実施:小5体育	実施なし	439			93.4			
	実施あり	31			6.6			
	合計	470			100.0			
TT実施:小5総合	実施なし	427			91.4			
	実施あり	40			8.6			
	合計	467			100.0			
TT実施:小5その他	実施なし	447			95.3			
	実施あり	22			4.7			
	合計	469			100.0			
TT実施:小6国語	実施なし	433			92.3			
	実施あり	36			7.7			
	合計	469			100.0			

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
V-2	TT実施:小6社会	実施なし	462			98.9		
		実施あり	5			1.1		
		合計	467			100.0		
	TT実施:小6算数	実施なし	240			50.5		
		実施あり	235			49.5		
		合計	475			100.0		
	TT実施:小6理科	実施なし	430			92.1		
		実施あり	37			7.9		
		合計	467			100.0		
	TT実施:小6英語	実施なし	461			98.7		
		実施あり	6			1.3		
		合計	467			100.0		
	TT実施:小6生活	実施なし	465			99.6		
		実施あり	2			0.4		
		合計	467			100.0		
	TT実施:小6体育	実施なし	437			93.0		
		実施あり	33			7.0		
		合計	470			100.0		
	TT実施:小6総合	実施なし	428			91.5		
		実施あり	40			8.5		
		合計	468			100.0		
	TT実施:小6その他	実施なし	451			96.2		
		実施あり	18			3.8		
		合計	469			100.0		
	TT実施:中1国語	実施なし		210			95.0	
		実施あり		11			5.0	
		合計		221			100.0	
	TT実施:中1社会	実施なし		209			95.0	
		実施あり		11			5.0	
		合計		220			100.0	
	TT実施:中1数学	実施なし		130			58.0	
		実施あり		94			42.0	
		合計		224			100.0	
TT実施:中1理科	実施なし		186			83.8		
	実施あり		36			16.2		
	合計		222			100.0		
TT実施:中1英語	実施なし		128			56.9		
	実施あり		97			43.1		
	合計		225			100.0		
TT実施:中1体育	実施なし		202			91.4		
	実施あり		19			8.6		
	合計		221			100.0		
TT実施:中1総合	実施なし		214			97.3		
	実施あり		6			2.7		
	合計		220			100.0		
TT実施:中1その他	実施なし		210			95.0		
	実施あり		11			5.0		
	合計		221			100.0		
TT実施:中2国語	実施なし		212			95.9		
	実施あり		9			4.1		
	合計		221			100.0		
TT実施:中2社会	実施なし		213			96.8		
	実施あり		7			3.2		
	合計		220			100.0		
TT実施:中2数学	実施なし		130			58.3		
	実施あり		93			41.7		
	合計		223			100.0		
TT実施:中2理科	実施なし		186			84.2		
	実施あり		35			15.8		
	合計		221			100.0		
TT実施:中2英語	実施なし		128			57.4		
	実施あり		95			42.6		
	合計		223			100.0		
TT実施:中2体育	実施なし		200			90.5		
	実施あり		21			9.5		
	合計		221			100.0		
TT実施:中2総合	実施なし		214			97.3		
	実施あり		6			2.7		
	合計		220			100.0		

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
V-2	TT実施:中2その他	実施なし		206			93.2	
		実施あり		15			6.8	
		合計		221			100.0	
	TT実施:中3国語	実施なし		210			95.5	
		実施あり		10			4.5	
		合計		220			100.0	
	TT実施:中3社会	実施なし		216			98.2	
		実施あり		4			1.8	
		合計		220			100.0	
	TT実施:中3数学	実施なし		125			56.3	
		実施あり		97			43.7	
		合計		222			100.0	
	TT実施:中3理科	実施なし		198			89.6	
		実施あり		23			10.4	
		合計		221			100.0	
	TT実施:中3英語	実施なし		143			63.8	
		実施あり		81			36.2	
		合計		224			100.0	
TT実施:中3体育	実施なし		197			89.1		
	実施あり		24			10.9		
	合計		221			100.0		
TT実施:中3総合	実施なし		214			97.3		
	実施あり		6			2.7		
	合計		220			100.0		
TT実施:中3その他	実施なし		206			93.2		
	実施あり		15			6.8		
	合計		221			100.0		
V-3	TT実施期間	特定の教科について、1年間継続して実施	382	198	583	79.9	86.8	82.2
		特定の教科について、1学期間継続して実施	13	8	21	2.7	3.5	3.0
		特定の教科について、1つの単元全体について実施	33	6	39	6.9	2.6	5.5
		1つの単元の1部について実施	50	16	66	10.5	7.0	9.3
		合計	478	228	709	100.0	100.0	100.0
V-4	TTの授業時数に占める割合	(回答の平均値)				60.0	62.7	60.8
V-5	二人が役割分担し、交互に授業を進める	なし	388	172	562	82.6	77.5	81.0
		あり	82	50	132	17.4	22.5	19.0
		合計	470	222	694	100.0	100.0	100.0
	一方が主に授業し、他方がその補助をする	なし	220	80	300	46.0	35.1	42.3
		あり	258	148	409	54.0	64.9	57.7
		合計	478	228	709	100.0	100.0	100.0
一方が主に授業し、他方が児童生徒の個別指導をする	なし	185	112	299	38.6	49.8	42.4	
	あり	294	113	407	61.4	50.2	57.6	
	合計	479	225	706	100.0	100.0	100.0	
V-6	TT実施のための教員の確保	TTを担当する教諭(または常勤講師)が配置されている	237	144	382	49.6	63.4	54.0
		TTを担当する非常勤の教諭を配置されている	85	27	112	17.8	11.9	15.8
		TTを担当する教員は特に配置されていない	156	56	214	32.6	24.7	30.2
		合計	478	227	708	100.0	100.0	100.0
V-7	児童生徒の多様な学力水準に応じた指導ができた	そう思わない	15	6	21	3.2	2.7	3.0
		どちらでもない	124	60	185	26.2	26.7	26.4
		そう思う	334	159	495	70.6	70.7	70.6
		合計	473	225	701	100.0	100.0	100.0
	習熟の程度が高い児童生徒に対して、発展的な指導ができた	そう思わない	68	24	93	14.3	10.8	13.3
		どちらでもない	282	143	426	59.5	64.1	60.9
		そう思う	124	56	181	26.2	25.1	25.9
		合計	474	223	700	100.0	100.0	100.0
	習熟の程度が低い児童生徒に対して、わかるまで指導ができた	そう思わない	8	5	13	1.7	2.2	1.9
		どちらでもない	97	73	172	20.4	32.6	24.5
		そう思う	370	146	517	77.9	65.2	73.6
		合計	475	224	702	100.0	100.0	100.0
	児童生徒の多様な関心や、興味に応じた指導ができた	そう思わない	22	16	38	4.6	7.1	5.4
		どちらでもない	244	111	356	51.4	49.6	50.8
		そう思う	209	97	307	44.0	43.3	43.8
合計		475	224	701	100.0	100.0	100.0	
児童生徒の学力が向上した	そう思わない	3	2	5	0.6	0.9	0.7	
	どちらでもない	147	103	252	30.9	46.2	35.9	
	そう思う	325	118	444	68.4	52.9	63.3	
	合計	475	223	701	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
V-7	児童生徒の学習意欲が向上した	そう思わない	2	3	5	0.4	1.3	0.7
		どちらでもない	106	57	163	22.2	25.2	23.1
		そう思う	369	166	538	77.4	73.5	76.2
		合計	477	226	706	100.0	100.0	100.0
	生徒指導上の成果が得られた	そう思わない	6	6	12	1.3	2.7	1.7
		どちらでもない	217	90	309	45.8	40.4	44.1
		そう思う	251	127	379	53.0	57.0	54.1
		合計	474	223	700	100.0	100.0	100.0
	相手の教員のおかげで効果的な授業をすることができた	そう思わない	3	7	10	0.6	3.1	1.4
		どちらでもない	154	69	224	32.6	30.7	32.0
		そう思う	315	149	466	66.7	66.2	66.6
		合計	472	225	700	100.0	100.0	100.0
	教員間の協力が増えた	そう思わない	3	6	9	0.6	2.7	1.3
		どちらでもない	112	65	178	23.5	28.9	25.3
		そう思う	361	154	517	75.8	68.4	73.4
		合計	476	225	704	100.0	100.0	100.0
	相手の教員から学ぶことが多かった	そう思わない	1	4	5	0.2	1.8	0.7
		どちらでもない	177	82	259	37.3	36.4	36.8
		そう思う	297	139	439	62.5	61.8	62.4
合計		475	225	703	100.0	100.0	100.0	
教員間での事前の調整が大変であった	そう思わない	46	20	66	9.7	9.0	9.4	
	どちらでもない	173	94	269	36.5	42.2	38.4	
	そう思う	255	109	365	53.8	48.9	52.1	
	合計	474	223	700	100.0	100.0	100.0	
教員間の協力・連携が難しかった	そう思わない	97	52	149	20.5	23.3	21.3	
	どちらでもない	250	110	362	52.9	49.3	51.8	
	そう思う	126	61	188	26.6	27.4	26.9	
	合計	473	223	699	100.0	100.0	100.0	
チーム・ティーチングは実施するに値すると思う	そう思わない	5	3	8	1.0	1.3	1.1	
	どちらでもない	60	36	97	12.6	15.9	13.7	
	そう思う	413	187	602	86.4	82.7	85.1	
	合計	478	226	707	100.0	100.0	100.0	
チーム・ティーチングは労力の割には効果が少ない	そう思わない	307	114	422	64.6	50.9	60.1	
	どちらでもない	138	91	229	29.1	40.6	32.6	
	そう思う	30	19	51	6.3	8.5	7.3	
	合計	475	224	702	100.0	100.0	100.0	
指導上の工夫次第では、TTはもっとよくなると思う	そう思わない	2	1	4	0.4	0.4	0.6	
	どちらでもない	35	27	63	7.4	12.1	9.0	
	そう思う	439	196	636	92.2	87.5	90.5	
	合計	476	224	703	100.0	100.0	100.0	
TTを本格的に実施するには教員数が少なすぎる	そう思わない	8	7	16	1.7	3.1	2.3	
	どちらでもない	56	30	86	11.8	13.5	12.3	
	そう思う	411	186	599	86.5	83.4	85.4	
	合計	475	223	701	100.0	100.0	100.0	
VI-1	あなたの学校では現在、少人数学習を実施していますか	現在実施している	385	226	612	55.1	73.1	60.3
		かつて実施したことがある	34	20	54	4.9	6.5	5.3
		実施したことがない	280	63	349	40.1	20.4	34.4
		合計	699	309	1015	100.0	100.0	100.0
	少人数学習実施：小1国語	実施なし	359			93.2		
		実施あり	26			6.8		
		合計	385			100.0		
	少人数学習実施：小1社会	実施なし	378			98.4		
		実施あり	6			1.6		
		合計	384			100.0		
	少人数学習実施：小1算数	実施なし	292			75.5		
		実施あり	95			24.5		
		合計	387			100.0		
	少人数学習実施：小1理科	実施なし	378			98.4		
		実施あり	6			1.6		
		合計	384			100.0		
	少人数学習実施：小1英語	実施なし	377			98.2		
実施あり		7			1.8			
合計		384			100.0			
少人数学習実施：小1生活	実施なし	375			97.4			
	実施あり	10			2.6			
	合計	385			100.0			
少人数学習実施：小1体育	実施なし	375			97.7			
	実施あり	9			2.3			
	合計	384			100.0			

		度数			%		
		小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
VI-1	少人数学習実施:小1総合	実施なし		378		98.4	
		実施あり		6		1.6	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小1その他	実施なし		380		99.0	
		実施あり		4		1.0	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小2国語	実施なし		359		93.2	
		実施あり		26		6.8	
		合計		385		100.0	
	少人数学習実施:小2社会	実施なし		381		99.2	
		実施あり		3		0.8	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小2算数	実施なし		256		66.1	
		実施あり		131		33.9	
		合計		387		100.0	
	少人数学習実施:小2理科	実施なし		381		99.2	
		実施あり		3		0.8	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小2英語	実施なし		380		99.0	
		実施あり		4		1.0	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小2生活	実施なし		376		97.7	
		実施あり		9		2.3	
		合計		385		100.0	
	少人数学習実施:小2体育	実施なし		378		98.4	
		実施あり		6		1.6	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小2総合	実施なし		381		99.2	
		実施あり		3		0.8	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小2その他	実施なし		381		99.2	
		実施あり		3		0.8	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小3国語	実施なし		350		91.1	
		実施あり		34		8.9	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小3社会	実施なし		378		98.4	
		実施あり		6		1.6	
		合計		384		100.0	
	少人数学習実施:小3算数	実施なし		118		30.3	
		実施あり		271		69.7	
		合計		389		100.0	
少人数学習実施:小3理科	実施なし		375		97.4		
	実施あり		10		2.6		
	合計		385		100.0		
少人数学習実施:小3英語	実施なし		380		99.0		
	実施あり		4		1.0		
	合計		384		100.0		
少人数学習実施:小3生活	実施なし		381		99.2		
	実施あり		3		0.8		
	合計		384		100.0		
少人数学習実施:小3体育	実施なし		379		98.7		
	実施あり		5		1.3		
	合計		384		100.0		
少人数学習実施:小3総合	実施なし		371		96.4		
	実施あり		14		3.6		
	合計		385		100.0		
少人数学習実施:小3その他	実施なし		381		99.0		
	実施あり		4		1.0		
	合計		385		100.0		
少人数学習実施:小4国語	実施なし		352		91.7		
	実施あり		32		8.3		
	合計		384		100.0		
少人数学習実施:小4社会	実施なし		378		98.4		
	実施あり		6		1.6		
	合計		384		100.0		
少人数学習実施:小4算数	実施なし		95		24.3		
	実施あり		296		75.7		
	合計		391		100.0		

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
VI-1	少人数学習実施:小4理科	実施なし	375			97.7		
		実施あり	9			2.3		
		合計	384			100.0		
	少人数学習実施:小4英語	実施なし	380			99.0		
		実施あり	4			1.0		
		合計	384			100.0		
	少人数学習実施:小4生活	実施なし	381			99.2		
		実施あり	3			0.8		
		合計	384			100.0		
	少人数学習実施:小4体育	実施なし	379			98.4		
		実施あり	6			1.6		
		合計	385			100.0		
	少人数学習実施:小4総合	実施なし	372			96.4		
		実施あり	14			3.6		
		合計	386			100.0		
	少人数学習実施:小4その他	実施なし	382			99.2		
		実施あり	3			0.8		
		合計	385			100.0		
	少人数学習実施:小5国語	実施なし	347			90.4		
		実施あり	37			9.6		
		合計	384			100.0		
	少人数学習実施:小5社会	実施なし	378			98.4		
		実施あり	6			1.6		
		合計	384			100.0		
	少人数学習実施:小5算数	実施なし	94			24.2		
		実施あり	295			75.8		
		合計	389			100.0		
	少人数学習実施:小5理科	実施なし	373			97.1		
		実施あり	11			2.9		
		合計	384			100.0		
少人数学習実施:小5英語	実施なし	379			98.7			
	実施あり	5			1.3			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小5生活	実施なし	380			99.0			
	実施あり	4			1.0			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小5体育	実施なし	376			97.9			
	実施あり	8			2.1			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小5総合	実施なし	370			96.1			
	実施あり	15			3.9			
	合計	385			100.0			
少人数学習実施:小5その他	実施なし	382			99.5			
	実施あり	2			0.5			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小6国語	実施なし	347			90.4			
	実施あり	37			9.6			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小6社会	実施なし	380			99.0			
	実施あり	4			1.0			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小6算数	実施なし	110			28.4			
	実施あり	278			71.6			
	合計	388			100.0			
少人数学習実施:小6理科	実施なし	375			97.7			
	実施あり	9			2.3			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小6英語	実施なし	380			99.0			
	実施あり	4			1.0			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小6生活	実施なし	381			99.2			
	実施あり	3			0.8			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小6体育	実施なし	377			98.2			
	実施あり	7			1.8			
	合計	384			100.0			
少人数学習実施:小6総合	実施なし	371			96.4			
	実施あり	14			3.6			
	合計	385			100.0			

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
VI-1	少人数学習実施:小6その他	実施なし	381			99.2		
		実施あり	3			0.8		
		合計	384			100.0		
	少人数学習実施:中1国語	実施なし		212			94.2	
		実施あり		13			5.8	
		合計		225			100.0	
	少人数学習実施:中1社会	実施なし		220			97.8	
		実施あり		5			2.2	
		合計		225			100.0	
	少人数学習実施:中1数学	実施なし		105			45.9	
		実施あり		124			54.1	
		合計		229			100.0	
	少人数学習実施:中1理科	実施なし		207			91.6	
		実施あり		19			8.4	
		合計		226			100.0	
	少人数学習実施:中1英語	実施なし		142			62.3	
		実施あり		86			37.7	
		合計		228			100.0	
	少人数学習実施:中1生活	実施なし		223			99.1	
		実施あり		2			0.9	
		合計		225			100.0	
	少人数学習実施:中1体育	実施なし		218			96.9	
		実施あり		7			3.1	
		合計		225			100.0	
	少人数学習実施:中1総合	実施なし		221			98.2	
		実施あり		4			1.8	
		合計		225			100.0	
	少人数学習実施:中1その他	実施なし		217			96.4	
		実施あり		8			3.6	
		合計		225			100.0	
少人数学習実施:中2国語	実施なし		218			96.9		
	実施あり		7			3.1		
	合計		225			100.0		
少人数学習実施:中2社会	実施なし		222			98.7		
	実施あり		3			1.3		
	合計		225			100.0		
少人数学習実施:中2数学	実施なし		99			43.2		
	実施あり		130			56.8		
	合計		229			100.0		
少人数学習実施:中2理科	実施なし		205			90.7		
	実施あり		21			9.3		
	合計		226			100.0		
少人数学習実施:中2英語	実施なし		131			57.7		
	実施あり		96			42.3		
	合計		227			100.0		
少人数学習実施:中2生活	実施なし		225			100.0		
	実施あり		0			0.0		
	合計		225			100.0		
少人数学習実施:中2体育	実施なし		218			96.9		
	実施あり		7			3.1		
	合計		225			100.0		
少人数学習実施:中2総合	実施なし		223			99.1		
	実施あり		2			0.9		
	合計		225			100.0		
少人数学習実施:中2その他	実施なし		219			97.3		
	実施あり		6			2.7		
	合計		225			100.0		
少人数学習実施:中3国語	実施なし		214			95.1		
	実施あり		11			4.9		
	合計		225			100.0		
少人数学習実施:中3社会	実施なし		218			96.9		
	実施あり		7			3.1		
	合計		225			100.0		
少人数学習実施:中3数学	実施なし		93			40.8		
	実施あり		135			59.2		
	合計		228			100.0		
少人数学習実施:中3理科	実施なし		211			93.8		
	実施あり		14			6.2		
	合計		225			100.0		

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
VI-1	少人数学習実施:中3英語	実施なし		130			57.0	
		実施あり		98			43.0	
		合計		228			100.0	
	少人数学習実施:中3生活	実施なし		224			99.6	
		実施あり		1			0.4	
		合計		225			100.0	
	少人数学習実施:中3体育	実施なし		217			96.4	
		実施あり		8			3.6	
		合計		225			100.0	
	少人数学習実施:中3総合	実施なし		222			98.7	
		実施あり		3			1.3	
		合計		225			100.0	
	少人数学習実施:中3その他	実施なし		217			96.4	
		実施あり		8			3.6	
		合計		225			100.0	
VI-3	少人数学習実施期間	おおよそ1年間、実施している	293	209	504	74.9	90.9	80.9
		おおよそ1つの学期間、実施している	4	8	12	1.0	3.5	1.9
		一つの単元全体について実施している	46	4	50	11.8	1.7	8.0
		1つの単元の1部について実施している	48	9	57	12.3	3.9	9.1
		合計	391	230	623	100.0	100.0	100.0
VI-4	少人数学習の授業時数に占める割合	(回答の平均値)				64.0	79.4	69.7
VI-5	少人数学習集団はどのようにして編成していますか<学級集団との関係>	個々の学級を越えて編成している	158	43	201	41.1	18.9	32.8
		一つの学級集団を2つに分割して集団を編成している	226	185	412	58.9	81.1	67.2
		合計	384	228	613	100.0	100.0	100.0
VI-6	少人数学習集団は教科によって個別に編成していますか	教科によって異なった学習集団を編成している	246	156	402	84.5	80.0	82.7
		どの教科でも共通の学習集団を編成している	45	39	84	15.5	20.0	17.3
		合計	291	195	486	100.0	100.0	100.0
VI-7	<編成原理>習熟度別に編成している	している	235	132	368	100.0	100.0	100.0
		合計	235	132	368	100.0	100.0	100.0
	<編成原理>テーマ別・課題別に編成している	していない	235	132	368	81.6	86.8	83.4
		している	53	20	73	18.4	13.2	16.6
	合計	288	152	441	100.0	100.0	100.0	
	<編成原理>等質(ランダム)に集団を編成している	していない	235	132	368	72.3	63.5	68.9
している		90	76	166	27.7	36.5	31.1	
合計	325	208	534	100.0	100.0	100.0		
VI-8	少人数学習集団はどの程度永続的ですか	1年間、固定している	50	83	134	12.9	36.6	21.8
		1つの学期の間、固定している	30	50	80	7.7	22.0	13.0
		1つの単元の間、固定している	199	62	261	51.3	27.3	42.4
		随時、メンバーの移動がある	109	32	141	28.1	14.1	22.9
		合計	388	227	616	100.0	100.0	100.0
VI-9	ITや一斉学習との関係	少人数学習をITと組み合わせて実施している	197	86	283	50.6	38.1	46.0
		少人数学習を一斉学習と組み合わせて実施している	95	31	126	24.4	13.7	20.5
		他と組み合わせることなく、少人数学習だけを実施している	97	109	206	24.9	48.2	33.5
		合計	389	226	615	100.0	100.0	100.0
VI-10	少人数学習実施のための教員の確保	少人数学習を担当する教諭(または常勤講師)が配置されている	313	200	513	79.8	85.8	81.9
		少人数学習を担当する非常勤の教員を配置されている	37	18	55	9.4	7.7	8.8
		少人数学習を実施するための教員は特に配置されていない	42	15	58	10.7	6.4	9.3
		合計	392	233	626	100.0	100.0	100.0
VI-11	多様な学力水準の児童生徒に応じた指導ができた	そう思わない	7	4	11	1.7	1.7	1.7
		どちらでもない	89	62	151	21.9	27.0	23.7
		そう思う	310	164	475	76.4	71.3	74.6
		合計	406	230	637	100.0	100.0	100.0
	習熟の程度が高い児童生徒に対して、発展的な指導ができた	そう思わない	20	9	29	4.9	3.9	4.6
		どちらでもない	187	93	281	46.2	40.3	44.1
		そう思う	198	129	327	48.9	55.8	51.3
		合計	405	231	637	100.0	100.0	100.0
	習熟の程度が低い児童生徒に対して、分かるまで指導ができた	そう思わない	5	6	11	1.2	2.6	1.7
		どちらでもない	86	60	147	21.2	26.2	23.1
		そう思う	314	163	477	77.5	71.2	75.1
		合計	405	229	635	100.0	100.0	100.0
	児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた	そう思わない	10	7	17	2.5	3.0	2.7
		どちらでもない	174	103	277	43.0	44.4	43.4
		そう思う	221	122	344	54.6	52.6	53.9
		合計	405	232	638	100.0	100.0	100.0
	児童生徒の学力が向上した	そう思わない	5	0	5	1.2	0.0	0.8
		どちらでもない	81	77	158	20.0	33.5	24.9
そう思う		318	153	472	78.7	66.5	74.3	
合計		404	230	635	100.0	100.0	100.0	

		度数			%			
		小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
VI-11	児童生徒の学習意欲が向上した	そう思わない	2	0	2	0.5	0.0	0.3
		どちらでもない	69	44	114	17.0	19.0	17.9
		そう思う	334	188	522	82.5	81.0	81.8
		合計	405	232	638	100.0	100.0	100.0
	生徒指導上の成果が得られた	そう思わない	5	8	13	1.2	3.5	2.1
		どちらでもない	194	86	280	48.1	37.4	44.2
		そう思う	204	136	341	50.6	59.1	53.8
		合計	403	230	634	100.0	100.0	100.0
	教員間の協力が増えた	そう思わない	7	2	9	1.7	0.9	1.4
		どちらでもない	106	92	198	26.3	39.7	31.1
		そう思う	290	138	429	72.0	59.5	67.5
		合計	403	232	636	100.0	100.0	100.0
教員間での事前の調整が大変であった	そう思わない	39	27	66	9.7	11.7	10.4	
	どちらでもない	131	86	217	32.5	37.2	34.2	
	そう思う	233	118	352	57.8	51.1	55.4	
	合計	403	231	635	100.0	100.0	100.0	
教員間の協力・連携が難しかった	そう思わない	86	64	151	21.3	27.8	23.8	
	どちらでもない	192	100	292	47.6	43.5	46.1	
	そう思う	125	66	191	31.0	28.7	30.1	
	合計	403	230	634	100.0	100.0	100.0	
少人数学習は実施するに値すると思う	そう思わない	4	1	5	1.0	0.4	0.8	
	どちらでもない	22	15	37	5.4	6.4	5.8	
	そう思う	379	217	597	93.6	93.1	93.4	
	合計	405	233	639	100.0	100.0	100.0	
少人数学習は労力の割には効果が少ないと思う	そう思わない	283	157	441	69.9	68.0	69.2	
	どちらでもない	100	69	169	24.7	29.9	26.5	
	そう思う	22	5	27	5.4	2.2	4.2	
	合計	405	231	637	100.0	100.0	100.0	
指導の工夫次第では、少人数学習はもっとよくなる	そう思わない	3	2	5	0.7	0.9	0.8	
	どちらでもない	26	19	45	6.4	8.2	7.1	
	そう思う	376	211	588	92.8	90.9	92.2	
	合計	405	232	638	100.0	100.0	100.0	
少人数教育を本格的に実施するには教員数が少なすぎる	そう思わない	7	4	11	1.7	1.7	1.7	
	どちらでもない	35	23	58	8.7	9.9	9.1	
	そう思う	361	205	567	89.6	88.4	89.2	
	合計	403	232	636	100.0	100.0	100.0	
VII	平時の授業内容を子どもたちはおおよそ理解している	そう思わない	29	20	49	4.0	6.3	4.6
		どちらでもない	190	118	311	26.0	37.2	29.5
		そう思う	511	179	696	70.0	56.5	65.9
		合計	730	317	1056	100.0	100.0	100.0
	逆に授業内容がやさしすぎて退屈している子どもがいる	そう思わない	334	124	465	45.9	39.4	44.2
		どちらでもない	311	144	456	42.7	45.7	43.3
		そう思う	83	47	131	11.4	14.9	12.5
		合計	728	315	1052	100.0	100.0	100.0
	チャイムが鳴ったら着席して教員の到着を待っている	そう思わない	28	24	52	3.9	7.5	4.9
		どちらでもない	238	68	306	32.7	21.3	29.0
		そう思う	461	228	698	63.4	71.3	66.1
		合計	727	320	1056	100.0	100.0	100.0
授業中、児童生徒は教員の話をよく聞いている	そう思わない	8	3	11	1.1	0.9	1.0	
	どちらでもない	198	87	285	26.9	27.2	26.8	
	そう思う	530	230	769	72.0	71.9	72.2	
	合計	736	320	1065	100.0	100.0	100.0	
分からないことがあると子どもはよく質問する	そう思わない	56	27	83	7.7	8.5	7.8	
	どちらでもない	412	188	606	56.4	58.9	57.2	
	そう思う	263	104	370	36.0	32.6	34.9	
	合計	731	319	1059	100.0	100.0	100.0	
理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	そう思わない	60	11	72	8.2	3.4	6.8	
	どちらでもない	283	86	373	38.7	27.0	35.2	
	そう思う	388	222	614	53.1	69.6	58.0	
	合計	731	319	1059	100.0	100.0	100.0	
宿題をやってこない子どもがいる	そう思わない	73	13	88	10.0	4.1	8.3	
	どちらでもない	226	81	311	30.9	25.4	29.4	
	そう思う	432	225	660	59.1	70.5	62.3	
	合計	731	319	1059	100.0	100.0	100.0	
授業に集中しない子どもがいる	そう思わない	120	33	158	16.4	10.3	14.9	
	どちらでもない	233	105	339	31.8	32.9	32.0	
	そう思う	379	181	563	51.8	56.7	53.1	
	合計	732	319	1060	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
VII	教員は子どもが授業をどの程度理解しているか把握できている	そう思わない	10	10	20	1.4	3.1	1.9
		どちらでもない	186	108	296	25.3	33.9	27.8
		そう思う	539	201	747	73.3	63.0	70.3
		合計	735	319	1063	100.0	100.0	100.0
	一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	そう思わない	38	19	57	5.2	5.9	5.4
		どちらでもない	262	156	418	35.6	48.8	39.3
		そう思う	435	145	589	59.2	45.3	55.4
		合計	735	320	1064	100.0	100.0	100.0
	理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	そう思わない	267	146	414	36.4	45.6	38.9
		どちらでもない	327	114	443	44.6	35.6	41.7
		そう思う	140	60	206	19.1	18.8	19.4
		合計	734	320	1063	100.0	100.0	100.0
	一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある	そう思わない	379	184	563	51.8	57.5	53.1
		どちらでもない	291	111	408	39.8	34.7	38.5
		そう思う	61	25	89	8.3	7.8	8.4
		合計	731	320	1060	100.0	100.0	100.0
	学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う	そう思わない	53	15	70	7.3	4.7	6.6
		どちらでもない	219	58	279	30.0	18.2	26.4
		そう思う	457	246	708	62.7	77.1	67.0
		合計	729	319	1057	100.0	100.0	100.0
	あなたの学校の学力水準は、都道府県内の学校平均からみて、およそどの程度ですか	やや低いほうである	137	85	224	19.3	27.7	21.9
平均的である		494	177	676	69.6	57.7	66.0	
高いほうである		79	45	125	11.1	14.7	12.2	
合計		710	307	1025	100.0	100.0	100.0	
VIII	子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている	そう思わない	89	35	126	12.1	10.9	11.8
		どちらでもない	377	118	498	51.2	36.8	46.7
		そう思う	270	168	442	36.7	52.3	41.5
		合計	736	321	1066	100.0	100.0	100.0
	子どもたちの服装・身だしなみはよい	そう思わない	25	25	50	3.4	7.8	4.7
		どちらでもない	288	112	404	38.9	34.9	37.7
		そう思う	428	184	617	57.8	57.3	57.6
		合計	741	321	1071	100.0	100.0	100.0
	学級集団としてのまとまりがある	そう思わない	15	7	22	2.0	2.2	2.1
		どちらでもない	251	105	359	33.9	32.7	33.6
		そう思う	474	209	689	64.1	65.1	64.4
		合計	740	321	1070	100.0	100.0	100.0
	子どもたちは、全体的に伸びのびしている	そう思わない	7	6	13	0.9	1.9	1.2
		どちらでもない	109	59	169	14.7	18.3	15.8
		そう思う	624	257	889	84.3	79.8	83.0
		合計	740	322	1071	100.0	100.0	100.0
	子どもたちは、個性を伸ばしている	そう思わない	26	14	41	3.5	4.4	3.8
		どちらでもない	403	182	587	54.5	56.9	54.9
		そう思う	311	124	441	42.0	38.8	41.3
		合計	740	320	1069	100.0	100.0	100.0
	教員の指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある	そう思わない	320	153	481	43.3	47.8	45.0
どちらでもない		203	85	288	27.5	26.6	27.0	
そう思う		216	82	299	29.2	25.6	28.0	
合計		739	320	1068	100.0	100.0	100.0	
子どもたちの学校での日常生活に教員の目が行き届いている	そう思わない	30	13	43	4.0	4.0	4.0	
	どちらでもない	244	119	363	32.9	37.0	33.9	
	そう思う	467	190	666	63.0	59.0	62.1	
	合計	741	322	1072	100.0	100.0	100.0	
子どもどうしの人間関係に教員の目が行き届いている	そう思わない	25	19	44	3.4	5.9	4.1	
	どちらでもない	311	154	466	42.1	48.0	43.6	
	そう思う	403	148	559	54.5	46.1	52.3	
	合計	739	321	1069	100.0	100.0	100.0	
学級担任教員は子どもの話を聞いてやるゆとりがある	そう思わない	115	81	196	15.6	25.3	18.4	
	どちらでもない	365	149	515	49.4	46.6	48.2	
	そう思う	259	90	357	35.0	28.1	33.4	
	合計	739	320	1068	100.0	100.0	100.0	
学級担任教員は子どもの心配事や悩みをよく把握している	そう思わない	34	18	52	4.6	5.6	4.9	
	どちらでもない	368	177	548	49.7	55.5	51.3	
	そう思う	338	124	468	45.7	38.9	43.8	
	合計	740	319	1068	100.0	100.0	100.0	
遅刻したり学校を休む子どもが多い	そう思わない	506	148	663	68.5	46.3	62.1	
	どちらでもない	173	105	278	23.4	32.8	26.0	
	そう思う	60	67	127	8.1	20.9	11.9	
	合計	739	320	1068	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
Ⅷ	教職員に対して暴言や暴力をふるう子どもがいて困ったことがある	そう思わない	562	210	781	76.0	65.6	73.1
		どちらでもない	103	47	150	13.9	14.7	14.0
		そう思う	74	63	137	10.0	19.7	12.8
		合計	739	320	1068	100.0	100.0	100.0
	教員は子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している	そう思わない	35	31	67	4.7	9.7	6.3
		どちらでもない	401	190	592	54.3	59.4	55.4
		そう思う	303	99	409	41.0	30.9	38.3
		合計	739	320	1068	100.0	100.0	100.0
	保護者は自分の子どもに対して目が行き届いている	そう思わない	153	82	236	20.7	25.7	22.1
		どちらでもない	461	185	649	62.4	58.0	60.8
		そう思う	125	52	182	16.9	16.3	17.1
		合計	739	319	1067	100.0	100.0	100.0
	どの教員も全校の児童生徒の顔と名前がよくわかっている	そう思わない	150	57	207	20.4	17.9	19.4
		どちらでもない	213	101	314	28.9	31.7	29.5
		そう思う	374	161	544	50.7	50.5	51.1
		合計	737	319	1065	100.0	100.0	100.0
Ⅸ	基礎学力の育成	充実している	265	101	370	36.2	31.8	34.9
		ふつう	468	217	690	63.8	68.2	65.1
		合計	733	318	1060	100.0	100.0	100.0
	高度な学力の育成	充実している	7	7	14	1.0	2.2	1.3
		ふつう	726	314	1049	99.0	97.8	98.7
		合計	733	321	1063	100.0	100.0	100.0
	体験的な学習	充実している	459	174	638	61.9	54.4	59.6
		ふつう	282	146	432	38.1	45.6	40.4
		合計	741	320	1070	100.0	100.0	100.0
	総合的な学習	充実している	327	130	463	44.2	40.6	43.4
		ふつう	412	190	605	55.8	59.4	56.6
		合計	739	320	1068	100.0	100.0	100.0
	体力の向上	充実している	134	94	233	18.1	29.2	21.8
		ふつう	605	228	837	81.9	70.8	78.2
		合計	739	322	1070	100.0	100.0	100.0
	健康の維持	充実している	236	96	337	32.0	29.9	31.6
		ふつう	502	225	731	68.0	70.1	68.4
		合計	738	321	1068	100.0	100.0	100.0
	学校行事	充実している	481	222	711	64.9	68.9	66.3
		ふつう	260	100	361	35.1	31.1	33.7
		合計	741	322	1072	100.0	100.0	100.0
	学級活動	充実している	175	84	265	23.6	26.3	24.8
		ふつう	565	236	804	76.4	73.8	75.2
		合計	740	320	1069	100.0	100.0	100.0
	生徒会活動	充実している	148	146	297	21.9	45.3	29.5
		ふつう	527	176	709	78.1	54.7	70.5
		合計	675	322	1006	100.0	100.0	100.0
	奉仕活動	充実している	164	121	290	22.9	37.7	27.7
		ふつう	553	200	757	77.1	62.3	72.3
		合計	717	321	1047	100.0	100.0	100.0
	部活動の成績	充実している	88	146	238	22.5	45.3	33.0
		ふつう	303	176	484	77.5	54.7	67.0
		合計	391	322	722	100.0	100.0	100.0
	部活動による人格形成	充実している	69	126	198	17.6	39.1	27.4
		ふつう	322	196	524	82.4	60.9	72.6
		合計	391	322	722	100.0	100.0	100.0
個性の伸張	充実している	179	60	244	24.5	18.8	23.0	
	ふつう	553	260	817	75.5	81.3	77.0	
	合計	732	320	1061	100.0	100.0	100.0	
いじめの減少	充実している	477	151	635	65.5	47.0	60.0	
	ふつう	251	170	423	34.5	53.0	40.0	
	合計	728	321	1058	100.0	100.0	100.0	
不登校の減少	充実している	486	112	606	66.8	35.1	57.4	
	ふつう	242	207	450	33.2	64.9	42.6	
	合計	728	319	1056	100.0	100.0	100.0	
不法行為の予防	充実している	470	186	662	65.1	58.1	63.0	
	ふつう	252	134	389	34.9	41.9	37.0	
	合計	722	320	1051	100.0	100.0	100.0	
社会性の育成	充実している	138	70	210	18.8	21.7	19.7	
	ふつう	597	252	856	81.2	78.3	80.3	
	合計	735	322	1066	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
Ⅹ	自己表現力育成	充実している	179	54	235	24.5	16.8	22.1
		ふつう	553	267	827	75.5	83.2	77.9
		合計	732	321	1062	100.0	100.0	100.0
	障害児教育の充実	充実している	315	113	430	44.4	36.3	41.8
		ふつう	394	198	599	55.6	63.7	58.2
		合計	709	311	1029	100.0	100.0	100.0
	人権教育の充実	充実している	259	85	347	35.4	26.4	32.7
		ふつう	472	237	715	64.6	73.6	67.3
		合計	731	322	1062	100.0	100.0	100.0
	家庭との連携	充実している	419	138	564	57.2	43.0	53.1
		ふつう	314	183	499	42.8	57.0	46.9
		合計	733	321	1063	100.0	100.0	100.0
	地域との連携	充実している	437	151	595	59.6	47.2	56.0
		ふつう	296	169	467	40.4	52.8	44.0
		合計	733	320	1062	100.0	100.0	100.0
	教職員間の連携	充実している	483	190	680	66.0	59.2	64.0
		ふつう	249	131	382	34.0	40.8	36.0
		合計	732	321	1062	100.0	100.0	100.0
	教職員の学校改善意欲	充実している	267	109	379	36.4	34.2	35.7
		ふつう	466	210	682	63.6	65.8	64.3
		合計	733	319	1061	100.0	100.0	100.0
Ⅹ	バスケットボール	なし		88		27.3		
		あり		234		72.7		
		合計		322		100.0		
	サッカー	なし		140		43.5		
		あり		182		56.5		
		合計		322		100.0		
	バレーボール	なし		50		15.5		
		あり		272		84.5		
		合計		322		100.0		
	バトミントン	なし		218		67.7		
		あり		104		32.3		
		合計		322		100.0		
	テニス	なし		70		21.7		
		あり		252		78.3		
		合計		322		100.0		
	野球	なし		45		14.0		
		あり		277		86.0		
		合計		322		100.0		
	体操	なし		304		94.4		
		あり		18		5.6		
		合計		322		100.0		
陸上	なし		128		39.8			
	あり		194		60.2			
	合計		322		100.0			
卓球	なし		86		26.7			
	あり		236		73.3			
	合計		322		100.0			
剣道	なし		144		44.7			
	あり		178		55.3			
	合計		322		100.0			
柔道	なし		220		68.3			
	あり		102		31.7			
	合計		322		100.0			
新聞・文芸部	なし		301		93.5			
	あり		21		6.5			
	合計		322		100.0			
家庭科	なし		259		80.4			
	あり		63		19.6			
	合計		322		100.0			
パソコン	なし		256		79.5			
	あり		66		20.5			
	合計		322		100.0			
理科	なし		269		83.5			
	あり		53		16.5			
	合計		322		100.0			
美術	なし		137		42.5			
	あり		185		57.5			
	合計		322		100.0			

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
X	吹奏楽	なし		102			31.7	
		あり		220			68.3	
		合計		322			100.0	
	合唱	なし		277			86.0	
		あり		45			14.0	
		合計		322			100.0	
	書道	なし		310			96.3	
		あり		12			3.7	
		合計		322			100.0	
	茶道	なし		298			92.5	
		あり		24			7.5	
		合計		322			100.0	

2004年度全国教員調査小中別単純集計表(公立のみ)

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
I-1	性	男	1442	1180	2622	37.2	66.1	46.3
		女	2432	606	3038	62.8	33.9	53.7
		合計	3874	1786	5660	100.0	100.0	100.0
I-2	年齢	20歳代	318	183	501	8.2	10.3	8.8
		30歳代	971	559	1530	25.0	31.3	27.0
		40歳代	1888	808	2696	48.6	45.3	47.6
		50歳以上	708	234	942	18.2	13.1	16.6
		合計	3885	1784	5669	100.0	100.0	100.0
I-3	教職経験年数	2年未満	129	74	203	3.3	4.2	3.6
		2年以上	188	113	301	4.9	6.3	5.3
		5年以上	338	223	561	8.7	12.5	9.9
		10年以上	1250	680	1930	32.3	38.1	34.1
		20年以上	1966	693	2659	50.8	38.9	47.0
		合計	3871	1783	5654	100.0	100.0	100.0
I-4	勤務校の都道府県	北海道	145	78	223	3.7	4.3	3.9
		青森	128	63	191	3.3	3.5	3.4
		岩手	125	74	199	3.2	4.1	3.5
		宮城	142	61	203	3.6	3.4	3.6
		秋田	88	36	124	2.3	2.0	2.2
		山形	84	23	107	2.2	1.3	1.9
		福島	121	64	185	3.1	3.6	3.2
		茨城	112	32	144	2.9	1.8	2.5
		栃木	96	38	134	2.5	2.1	2.4
		群馬	95	33	128	2.4	1.8	2.2
		埼玉	61	45	106	1.6	2.5	1.9
		千葉	171	94	265	4.4	5.2	4.7
		東京	147	55	202	3.8	3.1	3.5
		神奈川	90	62	152	2.3	3.5	2.7
		新潟	140	55	195	3.6	3.1	3.4
		富山	51	2	53	1.3	0.1	0.9
		石川	46	17	63	1.2	0.9	1.1
		福井	68	18	86	1.7	1.0	1.5
		山梨	63	6	69	1.6	0.3	1.2
		長野	78	33	111	2.0	1.8	1.9
		岐阜	57	77	134	1.5	4.3	2.4
		静岡	105	45	150	2.7	2.5	2.6
		愛知	145	95	240	3.7	5.3	4.2
		三重	81	33	114	2.1	1.8	2.0
		滋賀	27	23	50	0.7	1.3	0.9
		京都	28	10	38	0.7	0.6	0.7
		大阪	52	48	100	1.3	2.7	1.8
		兵庫	100	66	166	2.6	3.7	2.9
		奈良	62	8	70	1.6	0.4	1.2
		和歌山	40	33	73	1.0	1.8	1.3
		鳥取	37	6	43	0.9	0.3	0.8
		島根	91	30	121	2.3	1.7	2.1
		岡山	100	59	159	2.6	3.3	2.8
		広島	123	34	157	3.2	1.9	2.8
		山口	82	54	136	2.1	3.0	2.4
		徳島	27	18	45	0.7	1.0	0.8
		香川	31	15	46	0.8	0.8	0.8
		愛媛	87	30	117	2.2	1.7	2.1
		高知	11	18	29	0.3	1.0	0.5
		福岡	109	12	121	2.8	0.7	2.1
		佐賀	37	30	67	0.9	1.7	1.2
		長崎	50	14	64	1.3	0.8	1.1
		熊本	115	34	149	2.9	1.9	2.6
		大分	61	23	84	1.6	1.3	1.5
		宮崎	43	27	70	1.1	1.5	1.2
		鹿児島	89	33	122	2.3	1.8	2.1
		沖縄	60	32	92	1.5	1.8	1.6
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
I-5	設置者	公立	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
I-6	学校種	小学校	3901	0	3901	100.0	0.0	68.5
		中学校	0	1796	1796	0.0	100.0	31.5
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
I-7	勤務校の児童生徒数	50人未満	444	207	651	11.4	11.5	11.4
		50-99人	553	133	686	14.2	7.4	12.0
		100-199人	751	282	1033	19.3	15.7	18.1
		200-499人	1373	760	2133	35.2	42.3	37.4
		500-999人	745	413	1158	19.1	23.0	20.3
		1000人以上	35	0	35	0.9	0.0	0.6
		合計	3901	1795	5696	100.0	100.0	100.0
I-8	勤務校の学級数	1-3	137	273	410	3.5	15.2	7.2
		4-6	982	268	1250	25.2	14.9	21.9
		7-11	993	512	1505	25.5	28.5	26.4
		12-18	1103	552	1655	28.3	30.7	29.1
		19以上	686	191	877	17.6	10.6	15.4
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
I-9	地域	市街地	1702	869	2571	43.6	48.4	45.1
		農村部	1576	675	2251	40.4	37.6	39.5
		へき地(指定校)	623	252	875	16.0	14.0	15.4
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
I-10	職位	常勤講師	149	60	209	3.8	3.4	3.7
		教諭	3619	1671	5290	93.1	93.4	93.2
		教頭	83	50	133	2.1	2.8	2.3
		その他	36	9	45	0.9	0.5	0.8
		合計	3887	1790	5677	100.0	100.0	100.0
I-11	担当学年	小1	653	0	653	17.2	0.0	11.7
		小2	579	0	579	15.2	0.0	10.4
		小3	682	0	682	17.9	0.0	12.2
		小4	594	0	594	15.6	0.0	10.7
		小5	676	0	676	17.8	0.0	12.1
		小6	618	0	618	16.3	0.0	11.1
		中1	0	765	765	0.0	43.3	13.7
		中2	0	534	534	0.0	30.2	9.6
		中3	0	467	467	0.0	26.4	8.4
		合計	3802	1766	5568	100.0	100.0	100.0
I-12	担当教科全教科	担当していない	1451	1796	3247	37.2	100.0	57.0
		担当している	2450	0	2450	62.8	0.0	43.0
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	担当教科国語	担当していない	3070	1505	4575	78.7	83.8	80.3
		担当している	831	291	1122	21.3	16.2	19.7
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	担当教科社会	担当していない	3246	1504	4750	83.2	83.7	83.4
		担当している	655	292	947	16.8	16.3	16.6
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	担当教科算数・数学	担当していない	2911	1422	4333	74.6	79.2	76.1
		担当している	990	374	1364	25.4	20.8	23.9
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	担当教科理科	担当していない	3379	1510	4889	86.6	84.1	85.8
		担当している	522	286	808	13.4	15.9	14.2
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	担当教科保健体育	担当していない	3232	1678	4910	82.9	93.4	86.2
		担当している	669	118	787	17.1	6.6	13.8
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	担当教科音楽	担当していない	3594	1739	5333	92.1	96.8	93.6
		担当している	307	57	364	7.9	3.2	6.4
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	担当教科美術・図工	担当していない	3324	1726	5050	85.2	96.1	88.6
		担当している	577	70	647	14.8	3.9	11.4
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	担当教科技術・家庭	担当していない	3632	1661	5293	93.1	92.5	92.9
		担当している	269	135	404	6.9	7.5	7.1
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	担当教科英語	担当していない	3862	1463	5325	99.0	81.5	93.5
担当している		39	333	372	1.0	18.5	6.5	
合計		3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
担当教科その他	担当していない	3688	1766	5454	94.5	98.3	95.7	
	担当している	213	30	243	5.5	1.7	4.3	
	合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
I-13	T担任	学級担任	3514	920	4434	91.7	51.8	79.1
		学級副担任	22	592	614	0.6	33.3	11.0
		いずれもしていない	294	264	558	7.7	14.9	10.0
		合計	3830	1776	5606	100.0	100.0	100.0

			度数			%			
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
I-14	T単複	単式学級	3506	1686	5192	92.1	96.6	93.5	
		複式学級	256	36	292	6.7	2.1	5.3	
		特殊教育学級(75条の学級)	46	24	70	1.2	1.4	1.3	
		合計	3808	1746	5554	100.0	100.0	100.0	
I-15	学級規模	7人以下	349	96	445	9.1	5.4	7.9	
		8-12人	428	83	511	11.2	4.7	9.1	
		13-20人	539	139	678	14.0	7.9	12.1	
		21-25人	555	165	720	14.5	9.4	12.9	
		26-30人	722	242	964	18.8	13.7	17.2	
		31-35人	771	518	1289	20.1	29.4	23.0	
		36-40人	458	520	978	11.9	29.5	17.5	
		41人以上	15	1	16	0.4	0.1	0.3	
合計	3837	1764	5601	100.0	100.0	100.0			
I-16	校務教務	担当していない	3298	1389	4687	84.5	77.3	82.3	
		担当している	603	407	1010	15.5	22.7	17.7	
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
	校務生徒指導	担当していない	3082	1365	4447	79.0	76.0	78.1	
		担当している	819	431	1250	21.0	24.0	21.9	
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
	校務進路指導	担当していない	3876	1605	5481	99.4	89.4	96.2	
		担当している	25	191	216	0.6	10.6	3.8	
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
	校務保健	担当していない	3482	1704	5186	89.3	94.9	91.0	
		担当している	419	92	511	10.7	5.1	9.0	
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
	校務図書	担当していない	3438	1625	5063	88.1	90.5	88.9	
		担当している	463	171	634	11.9	9.5	11.1	
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
	校務研究・研修	担当していない	2972	1438	4410	76.2	80.1	77.4	
		担当している	929	358	1287	23.8	19.9	22.6	
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
	校務その他	担当していない	2957	1383	4340	75.8	77.0	76.2	
		担当している	944	413	1357	24.2	23.0	23.8	
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
	I-17	Tクラブ	運動系	1343	1349	2692	36.2	75.8	49.1
			文化系	1397	171	1568	37.7	9.6	28.6
			音楽系	182	64	246	4.9	3.6	4.5
指導していない			786	196	982	21.2	11.0	17.9	
合計			3708	1780	5488	100.0	100.0	100.0	
I-18	学歴	短大	373	59	432	9.6	3.3	7.6	
		専門学校等	10	2	12	0.3	0.1	0.2	
		教員養成系大学・学部	2485	715	3200	64.0	40.0	56.4	
		大学一般学部(文・理など)	923	904	1827	23.8	50.6	32.2	
		大学院・専攻科	93	108	201	2.4	6.0	3.5	
合計	3884	1788	5672	100.0	100.0	100.0			
I-19	専攻	教育学・教科教育学系	3206	866	4072	82.8	48.5	72.0	
		非教育系(文学・理学・法学など)	667	920	1587	17.2	51.5	28.0	
		合計	3873	1786	5659	100.0	100.0	100.0	
II-1	あなたご自身は、少人数学習を実施していますか	現在実施している	1438	527	1965	37.9	29.9	35.4	
		かつて実施したことがある	948	283	1231	25.0	16.1	22.2	
		実施したことがない	1410	951	2361	37.1	54.0	42.5	
		合計	3796	1761	5557	100.0	100.0	100.0	
II-2	少人数学習実施校種	小学校	2307	21	2328	99.1	2.6	74.5	
		中学校	21	774	795	0.9	97.4	25.5	
		合計	2328	795	3123	100.0	100.0	100.0	
	再編少人数学習実施学年	小学校低学年	238	1	239	14.2	0.2	10.3	
		小学校中学年	674	1	675	40.1	0.2	29.0	
		小学校高学年	767	7	774	45.7	1.1	33.2	
		中学校1年年生	0	162	162	0.0	25.0	7.0	
		中学校2年年生	0	254	254	0.0	39.1	10.9	
		中学校3年年生	0	224	224	0.0	34.5	9.6	
		合計	1679	649	2328	100.0	100.0	100.0	
	少人数学習実施教科	国語	211	69	280	8.9	8.6	8.8	
		理科	32	71	103	1.3	8.8	3.2	
		算数・数学	2083	356	2439	87.4	44.1	76.4	
		英語	1	229	230	0.0	28.4	7.2	
		その他	57	82	139	2.4	10.2	4.4	
合計	2384	807	3191	100.0	100.0	100.0			

		度数			%			
		小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
II-2	少人数学習集団編成方法	個々の学級を越えて集団を編成した	966	208	1174	40.9	26.3	37.3
		一つの学級集団を2つに分割して集団を編成した	1394	583	1977	59.1	73.7	62.7
		合計	2360	791	3151	100.0	100.0	100.0
	少人数学習集団編成原理	習熟度の程度に応じて集団を編成した	1305	365	1670	55.6	46.3	53.2
		児童生徒の興味・関心のテーマに応じて集団を編成した	291	129	420	12.4	16.3	13.4
		等質(ランダム)に集団を編成した	753	295	1048	32.1	37.4	33.4
		合計	2349	789	3138	100.0	100.0	100.0
	少人数学習集団は、どの程度永続的ですか	1年間是不変であった	200	273	473	8.5	34.5	15.0
		学期中是不変であった	345	243	588	14.6	30.7	18.7
		単元毎に編成を変えた	1815	276	2091	76.9	34.8	66.3
		合計	2360	792	3152	100.0	100.0	100.0
	少人数学習は、主にどのように実施されましたか	1年間を通して実施した	1182	570	1752	49.9	71.0	55.2
		特定の学期を通して実施した	105	72	177	4.4	9.0	5.6
		単元の全体を通じて実施した	486	52	538	20.5	6.5	17.0
		単元の一部で実施した	596	109	705	25.2	13.6	22.2
	合計	2369	803	3172	100.0	100.0	100.0	
	授業の割合	10%以下	413	93.0	506	18.6	12.2	17.0
		10%より多く、20%以下	288	44.0	332	13.0	5.8	11.1
		20%より多く、30%以下	209	100.0	309	9.4	13.1	10.4
		30%より多く、40%以下	58	15.0	73	2.6	2.0	2.4
40%より多く、50%以下		135	33.0	168	6.1	4.3	5.6	
50%より多く、60%以下		71	16.0	87	3.2	2.1	2.9	
60%より多く、70%以下		90	29.0	119	4.1	3.8	4.0	
70%より多く、80%以下		215	33.0	248	9.7	4.3	8.3	
80%より多く、90%以下		266	62.0	328	12.0	8.1	11.0	
90%以上	475	336.0	811	21.4	44.2	27.2		
合計	2220	761.0	2981	100.0	100.0	100.0		
TTや一斉学習との関係	少人数学習とTTを組み合わせて実施した	1158	271	1429	49.6	34.5	45.8	
	少人数学習を一斉学習と組み合わせて実施した	542	169	711	23.2	21.5	22.8	
	他と組み合わせず、少人数学習を実施した	635	345	980	27.2	43.9	31.4	
	合計	2335	785	3120	100.0	100.0	100.0	
II-3	多様な学力水準の児童生徒に応じた指導ができた	そう思わない	72	37	109	3.0	4.6	3.4
		どちらでもない	608	237	845	25.1	29.4	26.2
		そう思う	1745	531	2276	72.0	66.0	70.5
		合計	2425	805	3230	100.0	100.0	100.0
	習熟の程度が高い児童生徒に対して、発展的な指導ができた	そう思わない	189	92	281	7.8	11.4	8.7
		どちらでもない	989	311	1300	40.8	38.6	40.3
		そう思う	1244	403	1647	51.4	50.0	51.0
		合計	2422	806	3228	100.0	100.0	100.0
	習熟の程度が低い児童生徒に対して、分かるまで指導ができた	そう思わない	126	77	203	5.2	9.6	6.3
		どちらでもない	583	300	883	24.0	37.2	27.3
		そう思う	1721	429	2150	70.8	53.2	66.4
		合計	2430	806	3236	100.0	100.0	100.0
	児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた	そう思わない	180	69	249	7.4	8.6	7.7
		どちらでもない	1305	386	1691	53.8	48.0	52.4
		そう思う	939	349	1288	38.7	43.4	39.9
		合計	2424	804	3228	100.0	100.0	100.0
	児童生徒の学力が向上した	そう思わない	43	23	66	1.8	2.9	2.0
		どちらでもない	749	343	1092	30.9	42.7	33.8
		そう思う	1635	438	2073	67.4	54.5	64.2
		合計	2427	804	3231	100.0	100.0	100.0
児童生徒の学習意欲が向上した	そう思わない	30	18	48	1.2	2.2	1.5	
	どちらでもない	548	207	755	22.5	25.7	23.3	
	そう思う	1856	580	2436	76.3	72.0	75.2	
	合計	2434	805	3239	100.0	100.0	100.0	
生徒指導上の成果が得られた	そう思わない	195	57	252	8.1	7.1	7.8	
	どちらでもない	1376	374	1750	56.9	46.5	54.3	
	そう思う	848	374	1222	35.1	46.5	37.9	
	合計	2419	805	3224	100.0	100.0	100.0	
教師間の協力が増えた	そう思わない	87	71	158	3.6	8.8	4.9	
	どちらでもない	758	337	1095	31.2	41.8	33.9	
	そう思う	1581	398	1979	65.2	49.4	61.2	
	合計	2426	806	3232	100.0	100.0	100.0	
教員間での事前の調整が大変であった	そう思わない	229	126	355	9.4	15.7	11.0	
	どちらでもない	787	273	1060	32.4	34.0	32.8	
	そう思う	1410	405	1815	58.1	50.4	56.2	
	合計	2426	804	3230	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
II-3	教師間の協力・連携が難しかった	そう思わない	523	208	731	21.6	25.9	22.7
		どちらでもない	1053	307	1360	43.5	38.2	42.2
		そう思う	847	288	1135	35.0	35.9	35.2
		合計	2423	803	3226	100.0	100.0	100.0
	少人数学習は実施するに値すると思う	そう思わない	84	17	101	3.5	2.1	3.1
		どちらでもない	489	137	626	20.1	17.0	19.3
		そう思う	1861	651	2512	76.5	80.9	77.6
		合計	2434	805	3239	100.0	100.0	100.0
	少人数学習は労力の割には効果が少ないと思う	そう思わない	1342	430	1772	55.3	53.5	54.8
		どちらでもない	888	292	1180	36.6	36.3	36.5
		そう思う	197	82	279	8.1	10.2	8.6
		合計	2427	804	3231	100.0	100.0	100.0
	少人数学習はTTと組み合わせると効果的である	そう思わない	110	71	181	4.5	8.8	5.6
		どちらでもない	788	275	1063	32.5	34.2	32.9
		そう思う	1527	457	1984	63.0	56.9	61.5
		合計	2425	803	3228	100.0	100.0	100.0
	指導の工夫次第では、少人数学習はもっとよくなる	そう思わない	41	6	47	1.7	0.7	1.5
		どちらでもない	369	90	459	15.2	11.2	14.2
		そう思う	2025	709	2734	83.2	88.1	84.4
		合計	2435	805	3240	100.0	100.0	100.0
	少人数学習を本格的に実施するには教員数が少なすぎる	そう思わない	35	14	49	1.4	1.7	1.5
		どちらでもない	217	61	278	8.9	7.6	8.6
		そう思う	2186	730	2916	89.7	90.7	89.9
		合計	2438	805	3243	100.0	100.0	100.0
III-1	あなたご自身は、チーム・ティーチングを実施していますか	現在、実施している	1574	531	2105	41.4	30.1	37.8
		かつて実施したことがある	1651	626	2277	43.4	35.5	40.9
		実施したことがない	580	605	1185	15.2	34.3	21.3
		合計	3805	1762	5567	100.0	100.0	100.0
III-2	TT実施校種	小学校	3088	56	3144	98.6	4.9	73.6
		中学校	43	1083	1126	1.4	95.1	26.4
		合計	3131	1139	4270	100.0	100.0	100.0
	再編TT実施学年	小学校低学年	521	12	533	24.7	1.4	17.9
		小学校中学年	811	10	821	38.4	1.2	27.6
		小学校高学年	760	18	778	36.0	2.1	26.1
		中学校1年	7	285	292	0.3	32.9	9.8
		中学校2年	9	342	351	0.4	39.5	11.8
		中学校3年	4	199	203	0.2	23.0	6.8
		合計	2112	866	2978	100.0	100.0	100.0
	TT実施教科国語	実施していない	3575	1720	5295	91.6	95.8	92.9
		実施した	326	76	402	8.4	4.2	7.1
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	TT実施教科社会	実施していない	3851	1736	5587	98.7	96.7	98.1
		実施した	50	60	110	1.3	3.3	1.9
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	TT実施教科理科	実施していない	3724	1664	5388	95.5	92.7	94.6
		実施した	177	132	309	4.5	7.3	5.4
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	TT実施教科生活科	実施していない	3625	1793	5418	92.9	99.8	95.1
		実施した	276	3	279	7.1	0.2	4.9
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	TT実施教科算数・数学	実施していない	1253	1330	2583	32.1	74.1	45.3
		実施した	2648	466	3114	67.9	25.9	54.7
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	TT実施教科保健体育	実施していない	3568	1733	5301	91.5	96.5	93.0
		実施した	333	63	396	8.5	3.5	7.0
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0
	TT実施教科音楽	実施していない	3764	1781	5545	96.5	99.2	97.3
		実施した	137	15	152	3.5	0.8	2.7
合計		3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
TT実施教科美術	実施していない	3856	1788	5644	98.8	99.6	99.1	
	実施した	45	8	53	1.2	0.4	0.9	
	合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
TT実施教科技術・家庭	実施していない	3864	1774	5638	99.1	98.8	99.0	
	実施した	37	22	59	0.9	1.2	1.0	
	合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
TT実施教科英語	実施していない	3828	1486	5314	98.1	82.7	93.3	
	実施した	73	310	383	1.9	17.3	6.7	
	合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	

			度数			%			
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
Ⅲ-2	TT実施教科総合学習	実施していない	3541	1731	5272	90.8	96.4	92.5	
		実施した	360	65	425	9.2	3.6	7.5	
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
	TT実施教科その他	実施していない	3838	1780	5618	98.4	99.1	98.6	
		実施した	63	16	79	1.6	0.9	1.4	
		合計	3901	1796	5697	100.0	100.0	100.0	
	教員の協力分担の方法	2人が役割分担し、交互に授業を進める	488	166	654	15.3	14.4	15.1	
		一方が主に授業し、他方がその補助をする	1477	635	2112	46.4	55.3	48.8	
		一方が主に授業し、他方が児童生徒の個別指導をする	1215	348	1563	38.2	30.3	36.1	
		合計	3180	1149	4329	100.0	100.0	100.0	
	Ⅲ-3	多様な学力水準の児童生徒に応じた指導ができた	そう思わない	149	87	236	4.6	7.6	5.4
			どちらでもない	1155	483	1638	35.9	42.0	37.5
そう思う			1910	581	2491	59.4	50.5	57.1	
合計			3214	1151	4365	100.0	100.0	100.0	
習熟の程度が高い児童生徒に対して、発展的な指導ができた		そう思わない	592	228	820	18.4	19.8	18.8	
		どちらでもない	1845	622	2467	57.3	53.9	56.4	
		そう思う	783	303	1086	24.3	26.3	24.8	
		合計	3220	1153	4373	100.0	100.0	100.0	
習熟の程度が低い児童生徒に対して、分かるまで指導ができた		そう思わない	109	90	199	3.4	7.8	4.5	
		どちらでもない	840	411	1251	26.0	35.6	28.5	
		そう思う	2283	653	2936	70.6	56.6	66.9	
		合計	3232	1154	4386	100.0	100.0	100.0	
児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた		そう思わない	282	136	418	8.7	11.8	9.5	
		どちらでもない	1921	597	2518	59.5	51.7	57.5	
		そう思う	1024	421	1445	31.7	36.5	33.0	
		合計	3227	1154	4381	100.0	100.0	100.0	
児童生徒の学力が向上した		そう思わない	78	68	146	2.4	5.9	3.3	
		どちらでもない	1312	641	1953	40.7	55.7	44.7	
		そう思う	1831	441	2272	56.8	38.3	52.0	
		合計	3221	1150	4371	100.0	100.0	100.0	
児童生徒の学習意欲が向上した		そう思わない	71	47	118	2.2	4.1	2.7	
		どちらでもない	1120	484	1604	34.7	41.9	36.6	
		そう思う	2035	623	2658	63.1	54.0	60.7	
		合計	3226	1154	4380	100.0	100.0	100.0	
生徒指導上の成果が得られた		そう思わない	195	58	253	6.1	5.0	5.8	
		どちらでもない	1649	483	2132	51.2	41.8	48.7	
		そう思う	1377	614	1991	42.8	53.2	45.5	
		合計	3221	1155	4376	100.0	100.0	100.0	
相手の教師のおかげで効果的な授業をすることができた		そう思わない	48	35	83	1.5	3.0	1.9	
		どちらでもない	710	314	1024	22.0	27.2	23.4	
		そう思う	2471	806	3277	76.5	69.8	74.7	
		合計	3229	1155	4384	100.0	100.0	100.0	
教師間の協力が増えた		そう思わない	75	41	116	2.3	3.6	2.6	
		どちらでもない	812	303	1115	25.1	26.3	25.4	
		そう思う	2344	810	3154	72.5	70.2	71.9	
		合計	3231	1154	4385	100.0	100.0	100.0	
相手の教師から学ぶことが多かった	そう思わない	63	33	96	1.9	2.9	2.2		
	どちらでもない	737	237	974	22.8	20.5	22.2		
	そう思う	2431	886	3317	75.2	76.6	75.6		
	合計	3231	1156	4387	100.0	100.0	100.0		
教員間での事前の調整が大変であった	そう思わない	428	197	625	13.3	17.1	14.3		
	どちらでもない	1348	438	1786	41.8	37.9	40.7		
	そう思う	1452	520	1972	45.0	45.0	45.0		
	合計	3228	1155	4383	100.0	100.0	100.0		
教師間の協力・連携が難しかった	そう思わない	709	313	1022	22.0	27.2	23.3		
	どちらでもない	1506	445	1951	46.7	38.6	44.6		
	そう思う	1010	394	1404	31.3	34.2	32.1		
	合計	3225	1152	4377	100.0	100.0	100.0		
TTは実施するに値すると思う	そう思わない	104	59	163	3.2	5.1	3.7		
	どちらでもない	823	327	1150	25.5	28.4	26.3		
	そう思う	2296	765	3061	71.2	66.5	70.0		
	合計	3223	1151	4374	100.0	100.0	100.0		
TTは労力の割には効果が少ない	そう思わない	1569	515	2084	48.7	44.7	47.7		
	どちらでもない	1335	484	1819	41.4	42.1	41.6		
	そう思う	318	152	470	9.9	13.2	10.7		
	合計	3222	1151	4373	100.0	100.0	100.0		

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
Ⅲ-3	指導の工夫次第では、TTはもっとよくなる	そう思わない	58	27	85	1.8	2.4	1.9
		どちらでもない	502	198	700	15.6	17.2	16.0
		そう思う	2661	923	3584	82.6	80.4	82.0
		合計	3221	1148	4369	100.0	100.0	100.0
	平常の授業内容を子どもたちはおおよそ理解している	そう思わない	172	129	301	4.5	7.3	5.4
		どちらでもない	1062	653	1715	28.0	37.1	30.9
		そう思う	2561	979	3540	67.5	55.6	63.7
		合計	3795	1761	5556	100.0	100.0	100.0
	逆に授業内容が易しすぎて退屈している子どもがいる	そう思わない	1233	540	1773	32.4	30.6	31.9
		どちらでもない	1497	694	2191	39.4	39.4	39.4
		そう思う	1072	528	1600	28.2	30.0	28.8
		合計	3802	1762	5564	100.0	100.0	100.0
	チャイムが鳴ったら着席して教師の到着を待っている	そう思わない	346	184	530	9.1	10.4	9.5
		どちらでもない	1334	521	1855	35.0	29.6	33.3
		そう思う	2133	1056	3189	55.9	60.0	57.2
		合計	3813	1761	5574	100.0	100.0	100.0
	授業中、児童生徒は教師の話をよく聞いている	そう思わない	194	87	281	5.1	4.9	5.0
		どちらでもない	1585	625	2210	41.6	35.4	39.6
		そう思う	2032	1052	3084	53.3	59.6	55.3
		合計	3811	1764	5575	100.0	100.0	100.0
	分からないことがあると子どもはよく質問する	そう思わない	365	310	675	9.6	17.6	12.1
		どちらでもない	1707	809	2516	44.7	45.8	45.1
		そう思う	1743	646	2389	45.7	36.6	42.8
		合計	3815	1765	5580	100.0	100.0	100.0
	理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	そう思わない	383	101	484	10.0	5.7	8.7
		どちらでもない	932	324	1256	24.5	18.4	22.5
		そう思う	2496	1338	3834	65.5	75.9	68.8
		合計	3811	1763	5574	100.0	100.0	100.0
	宿題をやっていない子どもがいる	そう思わない	799	109	908	20.9	6.2	16.3
		どちらでもない	764	352	1116	20.0	19.9	20.0
		そう思う	2254	1304	3558	59.1	73.9	63.7
		合計	3817	1765	5582	100.0	100.0	100.0
IV	授業に集中しない子どもがいる	そう思わない	466	142	608	12.2	8.0	10.9
		どちらでもない	1057	375	1432	27.7	21.3	25.6
		そう思う	2296	1247	3543	60.1	70.7	63.5
		合計	3819	1764	5583	100.0	100.0	100.0
	子どもが授業をどの程度理解しているか、把握できている	そう思わない	72	53	125	1.9	3.0	2.2
		どちらでもない	1202	764	1966	31.6	43.4	35.3
		そう思う	2533	945	3478	66.5	53.6	62.5
		合計	3807	1762	5569	100.0	100.0	100.0
	一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	そう思わない	430	308	738	11.3	17.5	13.3
		どちらでもない	1835	916	2751	48.2	52.2	49.5
		そう思う	1542	532	2074	40.5	30.3	37.3
		合計	3807	1756	5563	100.0	100.0	100.0
	理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	そう思わない	1976	1116	3092	51.8	63.2	55.5
		どちらでもない	1209	476	1685	31.7	27.0	30.2
		そう思う	626	173	799	16.4	9.8	14.3
		合計	3811	1765	5576	100.0	100.0	100.0
	一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある	そう思わない	2530	1335	3865	66.4	75.7	69.3
		どちらでもない	1046	365	1411	27.4	20.7	25.3
		そう思う	235	64	299	6.2	3.6	5.4
		合計	3811	1764	5575	100.0	100.0	100.0
	学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う	そう思わない	386	133	519	10.3	7.7	9.5
		どちらでもない	1053	333	1386	28.1	19.3	25.4
		そう思う	2307	1255	3562	61.6	72.9	65.2
		合計	3746	1721	5467	100.0	100.0	100.0
	あなたの授業内容を十分に理解できない子どもはどの程度いますか	50%以上	41	35	76	1.1	2.1	1.4
		40-50%位	43	50	93	1.2	3.0	1.7
		30-40%位	132	186	318	3.6	11.0	6.0
		20-30%位	893	688	1581	24.5	40.7	29.6
		10-20%位	2540	732	3272	69.6	43.3	61.3
		合計	3649	1691	5340	100.0	100.0	100.0
V	子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている	そう思わない	807	379	1186	21.2	21.5	21.3
		どちらでもない	2024	791	2815	53.2	44.8	50.5
		そう思う	973	595	1568	25.6	33.7	28.2
		合計	3804	1765	5569	100.0	100.0	100.0

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
V	学級集団としてのまとまりがある	そう思わない	229	167	396	6.0	9.5	7.1
		どちらでもない	1478	803	2281	38.8	45.5	40.9
		そう思う	2102	796	2898	55.2	45.1	52.0
		合計	3809	1766	5575	100.0	100.0	100.0
	子どもたちは全体に伸びのびとしている	そう思わない	52	77	129	1.4	4.4	2.3
		どちらでもない	668	456	1124	17.5	25.8	20.1
		そう思う	3101	1236	4337	81.2	69.9	77.6
		合計	3821	1769	5590	100.0	100.0	100.0
	子どもたちは個性を伸ばしている	そう思わない	124	161	285	3.3	9.1	5.1
		どちらでもない	1846	960	2806	48.5	54.4	50.3
		そう思う	1839	643	2482	48.3	36.5	44.5
		合計	3809	1764	5573	100.0	100.0	100.0
	教師の指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある	そう思わない	1924	786	2710	50.4	44.6	48.6
		どちらでもない	1018	481	1499	26.7	27.3	26.9
		そう思う	875	497	1372	22.9	28.2	24.6
		合計	3817	1764	5581	100.0	100.0	100.0
子どもたちの学校での日常生活に目が行き届いている	そう思わない	368	249	617	9.6	14.1	11.0	
	どちらでもない	2370	1043	3413	62.1	59.1	61.1	
	そう思う	1081	473	1554	28.3	26.8	27.8	
	合計	3819	1765	5584	100.0	100.0	100.0	
子どもどうしの人間関係に目が行き届いている	そう思わない	364	284	648	9.5	16.1	11.6	
	どちらでもない	2337	1078	3415	61.2	61.0	61.2	
	そう思う	1115	405	1520	29.2	22.9	27.2	
	合計	3816	1767	5583	100.0	100.0	100.0	
一人ひとりの子どもの話を聞いてやるゆとりがある	そう思わない	1354	782	2136	35.5	44.3	38.2	
	どちらでもない	1796	777	2573	47.0	44.0	46.1	
	そう思う	669	208	877	17.5	11.8	15.7	
	合計	3819	1767	5586	100.0	100.0	100.0	
一人ひとりの子どもの心配事や悩みを把握している	そう思わない	878	565	1443	23.0	32.0	25.8	
	どちらでもない	2464	1060	3524	64.5	60.0	63.1	
	そう思う	477	143	620	12.5	8.1	11.1	
	合計	3819	1768	5587	100.0	100.0	100.0	
遅刻したり学校を休む子どもが多い	そう思わない	2922	822	3744	76.5	46.5	67.0	
	どちらでもない	652	563	1215	17.1	31.8	21.7	
	そう思う	246	383	629	6.4	21.7	11.3	
	合計	3820	1768	5588	100.0	100.0	100.0	
子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している	そう思わない	849	607	1456	22.3	34.4	26.1	
	どちらでもない	2444	1006	3450	64.1	57.0	61.9	
	そう思う	521	151	672	13.7	8.6	12.0	
	合計	3814	1764	5578	100.0	100.0	100.0	
保護者とのコミュニケーションをとることは難しい	そう思わない	1188	502	1690	31.1	28.4	30.3	
	どちらでもない	1950	894	2844	51.1	50.7	50.9	
	そう思う	680	369	1049	17.8	20.9	18.8	
	合計	3818	1765	5583	100.0	100.0	100.0	
子どもの気持ちや考え方についていけないと思ったことがある	そう思わない	1518	444	1962	39.8	25.2	35.2	
	どちらでもない	1563	765	2328	41.0	43.4	41.8	
	そう思う	729	553	1282	19.1	31.4	23.0	
	合計	3810	1762	5572	100.0	100.0	100.0	
VI-1	あなたが日常授業をしている学級の規模についてご意見をお聞かせください	大きすぎると思う	1230	794	2024	32.5	45.3	36.5
		適正規模だと思う	1909	792	2701	50.4	45.2	48.7
		小さすぎると思う	650	167	817	17.2	9.5	14.7
		合計	3789	1753	5542	100.0	100.0	100.0
VI-2	現在の学級定数上限40人についてご意見をお聞かせください	大きすぎると思う	3695	1641	5336	97.4	93.3	96.1
		適正規模だと思う	90	117	207	2.4	6.7	3.7
		小さすぎると思う	7	1	8	0.2	0.1	0.1
		合計	3792	1759	5551	100.0	100.0	100.0
VI-3	ITのために教員を加配するよりも、学級自体の規模を小さくした方がよい	そう思わない	541	261	802	14.3	14.9	14.5
		そう思う	3241	1492	4733	85.7	85.1	85.5
		合計	3782	1753	5535	100.0	100.0	100.0
	少人数学習のために教員を加配するよりも、学級規模を小さくした方がよい	そう思わない	712	382	1094	18.9	21.8	19.8
		そう思う	3063	1369	4432	81.1	78.2	80.2
		合計	3775	1751	5526	100.0	100.0	100.0
小学校の専科教員を増やすよりも、学級規模を小さくした方がよい	そう思わない	1588	487	2075	42.2	29.2	38.2	
	そう思う	2176	1180	3356	57.8	70.8	61.8	
		合計	3764	1667	5431	100.0	100.0	100.0

2005年度児童生徒調査

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
1	性別	男	828	855	1683	51.0	50.6	50.8
		女	795	834	1629	49.0	49.4	49.2
		合計	1623	1689	3312	100.0	100.0	100.0
	学級人数	7人以下	39	0	39	2.3	0.0	1.2
		8-12人	50	0	50	3.0	0.0	1.5
		13-20人	208	66	274	12.5	3.8	8.1
		21-25人	263	138	401	15.8	8.0	11.8
		26-30人	431	79	510	25.9	4.6	15.1
		31-35人	352	848	1200	21.2	49.3	35.5
		36-40人	321	589	810	19.3	34.2	26.9
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	担任の性別	男	716	1169	1886	43.0	68.0	55.7
		女	948	551	1498	57.0	32.0	44.3
合計		1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
2	国語	とても好き	187	117	304	11.3	6.8	9.0
		好き	586	572	1158	35.3	33.4	34.3
		どちらともいえない	633	732	1365	38.1	42.7	40.5
		きらい	184	235	419	11.1	13.7	12.4
		とてもきらい	70	58	128	4.2	3.4	3.8
		合計	1660	1714	3374	100.0	100.0	100.0
	社会	とても好き	211	212	423	12.8	12.4	12.6
		好き	499	471	970	30.2	27.6	28.9
		どちらともいえない	620	665	1285	37.5	38.9	38.2
		きらい	244	273	517	14.8	16.0	15.4
		とてもきらい	80	87	167	4.8	5.1	5.0
		合計	1654	1708	3362	100.0	100.0	100.0
	算数/数学	とても好き	421	198	619	25.6	11.6	18.5
		好き	517	448	965	31.4	26.2	28.8
		どちらともいえない	434	552	986	26.4	32.3	29.4
		きらい	188	343	531	11.4	20.1	15.8
		とてもきらい	85	167	252	5.2	9.8	7.5
		合計	1645	1708	3353	100.0	100.0	100.0
	理科	とても好き	471	226	697	28.9	13.2	20.9
		好き	540	530	1070	33.1	31.0	32.0
		どちらともいえない	416	614	1030	25.5	35.9	30.8
		きらい	146	264	410	8.9	15.5	12.3
		とてもきらい	59	74	133	3.6	4.3	4.0
		合計	1632	1708	3340	100.0	100.0	100.0
体育/保健体育	とても好き	964	606	1570	58.7	35.5	46.9	
	好き	380	533	913	23.1	31.2	27.3	
	どちらともいえない	206	387	593	12.5	22.7	17.7	
	きらい	64	129	193	3.9	7.6	5.8	
	とてもきらい	28	53	81	1.7	3.1	2.4	
	合計	1642	1708	3350	100.0	100.0	100.0	
音楽	とても好き	517	425	942	31.4	24.8	28.0	
	好き	520	526	1046	31.6	30.7	31.1	
	どちらともいえない	375	579	954	22.8	33.8	28.4	
	きらい	156	127	283	9.5	7.4	8.4	
	とてもきらい	78	56	134	4.7	3.3	4.0	
	合計	1646	1713	3359	100.0	100.0	100.0	
図工/美術	とても好き	808	378	1186	48.9	22.1	35.3	
	好き	495	584	1079	30.0	34.1	32.1	
	どちらともいえない	260	535	795	15.7	31.3	23.6	
	きらい	59	171	230	3.6	10.0	6.8	
	とてもきらい	30	44	74	1.8	2.6	2.2	
	合計	1652	1712	3364	100.0	100.0	100.0	
家庭/技術家庭	とても好き	651	251	902	39.6	14.7	26.9	
	好き	542	565	1107	33.0	33.1	33.0	
	どちらともいえない	344	660	1004	21.0	38.6	30.0	
	きらい	73	181	254	4.4	10.6	7.6	
	とてもきらい	32	52	84	1.9	3.0	2.5	
	合計	1642	1709	3351	100.0	100.0	100.0	
英語	とても好き	234	192	426	29.5	11.3	17.1	
	好き	229	409	638	28.9	24.0	25.6	
	どちらともいえない	215	592	807	27.1	34.7	32.3	
	きらい	76	320	396	9.6	18.8	15.9	
	とてもきらい	38	192	230	4.8	11.3	9.2	
	合計	792	1705	2497	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
2	道徳	とても好き	340	151	491	20.7	8.9	14.7
		好き	474	348	822	28.9	20.4	24.6
		どちらともいえない	606	865	1471	36.9	50.7	43.9
		きらい	163	254	417	9.9	14.9	12.5
		とてもきらい	58	88	146	3.5	5.2	4.4
	合計	1641	1706	3347	100.0	100.0	100.0	
	総合的な学習	とても好き	591	245	836	35.8	14.3	24.9
		好き	589	484	1073	35.7	28.3	31.9
		どちらともいえない	372	772	1144	22.5	45.1	34.0
		きらい	66	149	215	4.0	8.7	6.4
		とてもきらい	33	62	95	2.0	3.6	2.8
	合計	1651	1712	3363	100.0	100.0	100.0	
	特別活動	とても好き	292	106	398	56.2	20.4	38.3
		好き	137	154	291	26.3	29.6	28.0
		どちらともいえない	79	216	295	15.2	41.5	28.4
きらい		8	32	40	1.5	6.2	3.8	
とてもきらい		4	12	16	0.8	2.3	1.5	
合計	520	520	1040	100.0	100.0	100.0		
3	国語	ほとんど分かる	438	189	627	26.4	11.0	18.6
		だいたい分かる	798	811	1609	48.0	47.3	47.7
		半分くらい分かる	296	513	809	17.8	29.9	24.0
		あまり分からない	106	166	272	6.4	9.7	8.1
		ほとんど分からない	23	36	59	1.4	2.1	1.7
		合計	1661	1715	3376	100.0	100.0	100.0
	社会	ほとんど分かる	372	237	609	22.5	13.8	18.1
		だいたい分かる	744	660	1404	44.9	38.5	41.6
		半分くらい分かる	383	488	871	23.1	28.5	25.8
		あまり分からない	137	254	391	8.3	14.8	11.6
		ほとんど分からない	21	76	97	1.3	4.4	2.9
		合計	1657	1715	3372	100.0	100.0	100.0
	算数/数学	ほとんど分かる	560	262	822	33.8	15.3	24.4
		だいたい分かる	634	557	1191	38.3	32.6	35.4
		半分くらい分かる	296	448	744	17.9	26.2	22.1
		あまり分からない	133	311	444	8.0	18.2	13.2
		ほとんど分からない	32	133	165	1.9	7.8	4.9
		合計	1655	1711	3366	100.0	100.0	100.0
	理科	ほとんど分かる	499	219	718	30.2	12.8	21.3
		だいたい分かる	727	622	1349	44.0	36.3	40.1
		半分くらい分かる	312	514	826	18.9	30.0	24.5
		あまり分からない	98	279	377	5.9	16.3	11.2
		ほとんど分からない	18	79	97	1.1	4.6	2.9
		合計	1654	1713	3367	100.0	100.0	100.0
英語	ほとんど分かる	15	225	240	16.0	13.1	13.3	
	だいたい分かる	23	467	490	24.5	27.2	27.1	
	半分くらい分かる	25	481	506	26.6	28.0	27.9	
	あまり分からない	18	352	370	19.1	20.5	20.4	
	ほとんど分からない	13	192	205	13.8	11.2	11.3	
	合計	94	1717	1811	100.0	100.0	100.0	
4	クラスの人数	もっと多い方がよい	304	184	488	18.3	10.8	14.5
		いまがちょうどよい	1172	1305	2477	70.6	76.4	73.5
		もっと少ない方がよい	185	220	405	11.1	12.9	12.0
		合計	1661	1709	3370	100.0	100.0	100.0
	国語の授業	もっと多い方がよい	127	67	194	7.7	3.9	5.8
		いまがちょうどよい	1271	1416	2687	76.6	82.8	79.8
		もっと少ない方がよい	261	227	488	15.7	13.3	14.5
		合計	1659	1710	3369	100.0	100.0	100.0
	算数や数学	もっと多い方がよい	203	138	341	12.2	8.1	10.1
		いまがちょうどよい	1151	1240	2391	69.4	72.6	71.0
		もっと少ない方がよい	304	331	635	18.3	19.4	18.9
		合計	1658	1709	3367	100.0	100.0	100.0
	社会	もっと多い方がよい	145	90	235	8.7	5.3	7.0
		いまがちょうどよい	1277	1375	2652	77.0	80.4	78.7
		もっと少ない方がよい	237	245	482	14.3	14.3	14.3
		合計	1659	1710	3369	100.0	100.0	100.0
	理科	もっと多い方がよい	265	111	376	16.0	6.5	11.2
		いまがちょうどよい	1143	1353	2496	69.1	79.1	74.2
		もっと少ない方がよい	246	247	493	14.9	14.4	14.7
		合計	1654	1711	3365	100.0	100.0	100.0

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
4	音楽	もっと多い方がよい	381	234	615	23.1	13.7	18.3
		いまがちょうどよい	1074	1340	2414	65.2	78.6	72.0
		もっと少ない方がよい	193	131	324	11.7	7.7	9.7
		合計	1648	1705	3353	100.0	100.0	100.0
	図工や美術	もっと多い方がよい	390	157	547	23.7	9.2	16.3
		いまがちょうどよい	1067	1368	2435	64.9	80.3	72.7
		もっと少ない方がよい	188	179	367	11.4	10.5	11.0
		合計	1645	1704	3349	100.0	100.0	100.0
	体育	もっと多い方がよい	586	286	872	35.6	16.8	26.0
		いまがちょうどよい	887	1189	2076	53.9	69.7	62.0
		もっと少ない方がよい	173	230	403	10.5	13.5	12.0
		合計	1646	1705	3351	100.0	100.0	100.0
	家庭・技術家庭	もっと多い方がよい	278	130	408	16.9	7.6	12.2
		いまがちょうどよい	1151	1434	2585	70.1	84.2	77.3
		もっと少ない方がよい	213	139	352	13.0	8.2	10.5
		合計	1642	1703	3345	100.0	100.0	100.0
	英語	もっと多い方がよい	20	147	167	17.5	8.6	9.2
		いまがちょうどよい	80	1293	1373	70.2	75.8	75.4
		もっと少ない方がよい	14	266	280	12.3	15.6	15.4
		合計	114	1706	1820	100.0	100.0	100.0
5	授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている	よくあてはまる	420	357	777	25.3	20.8	23.0
		すこしあてはまる	1015	1075	2090	61.1	62.8	62.0
		あまりあてはまらない	203	259	462	12.2	15.1	13.7
		まったくあてはまらない	22	22	44	1.3	1.3	1.3
		合計	1660	1713	3373	100.0	100.0	100.0
	授業中、進んで発表したり、質問したりする	よくあてはまる	302	236	538	18.2	13.8	16.0
		すこしあてはまる	529	477	1006	31.9	27.9	29.9
		あまりあてはまらない	626	720	1346	37.8	42.1	40.0
		まったくあてはまらない	199	279	478	12.0	16.3	14.2
		合計	1656	1712	3368	100.0	100.0	100.0
	授業中、大切だと思ったことはノートに書きとる	よくあてはまる	555	594	1149	33.6	34.7	34.2
		すこしあてはまる	613	706	1319	37.1	41.3	39.2
		あまりあてはまらない	395	344	739	23.9	20.1	22.0
		まったくあてはまらない	90	66	156	5.4	3.9	4.6
		合計	1653	1710	3363	100.0	100.0	100.0
	考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる	よくあてはまる	277	117	394	16.7	6.8	11.7
		すこしあてはまる	592	506	1098	35.7	29.5	32.6
		あまりあてはまらない	651	871	1522	39.3	50.8	45.1
		まったくあてはまらない	138	221	359	8.3	12.9	10.6
		合計	1658	1715	3373	100.0	100.0	100.0
	みんなの前で、自分の考えを説明する	よくあてはまる	238	99	337	14.4	5.8	10.0
		すこしあてはまる	406	318	724	24.6	18.6	21.5
		あまりあてはまらない	702	868	1570	42.5	50.8	46.7
		まったくあてはまらない	306	424	730	18.5	24.8	21.7
		合計	1652	1709	3361	100.0	100.0	100.0
	学校の授業は楽しい	よくあてはまる	543	240	783	32.9	14.0	23.3
		すこしあてはまる	623	729	1352	37.8	42.6	40.2
		あまりあてはまらない	341	529	870	20.7	30.9	25.9
まったくあてはまらない		142	214	356	8.6	12.5	10.6	
合計		1649	1712	3361	100.0	100.0	100.0	
がんばれば、もっとよい成績がとれると思う	よくあてはまる	866	770	1636	52.5	45.0	48.7	
	すこしあてはまる	552	706	1258	33.5	41.2	37.4	
	あまりあてはまらない	179	182	361	10.9	10.6	10.7	
	まったくあてはまらない	52	55	107	3.2	3.2	3.2	
	合計	1649	1713	3362	100.0	100.0	100.0	
学校での成績は、学年の中で良い方だと思う	よくあてはまる	179	127	306	10.9	7.4	9.1	
	すこしあてはまる	491	324	815	29.8	18.9	24.3	
	あまりあてはまらない	682	713	1395	41.4	41.6	41.5	
	まったくあてはまらない	294	548	842	17.9	32.0	25.1	
	合計	1646	1712	3358	100.0	100.0	100.0	
授業中、ぼんやりとすることがある	よくあてはまる	339	434	773	20.6	25.4	23.1	
	すこしあてはまる	655	774	1429	39.9	45.3	42.7	
	あまりあてはまらない	414	404	818	25.2	23.7	24.4	
	まったくあてはまらない	235	95	330	14.3	5.6	9.9	
	合計	1643	1707	3350	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
5	授業を休んだり、遅刻したりすることがある	よくあてはまる	113	96	209	6.9	5.6	6.2
		すこしあてはまる	238	263	501	14.5	15.4	14.9
		あまりあてはまらない	418	440	858	25.4	25.8	25.6
		まったくあてはまらない	877	907	1784	53.3	53.2	53.2
		合計	1646	1706	3352	100.0	100.0	100.0
	わたしは、勉強が好きな方だと思う	よくあてはまる	201	63	264	12.2	3.7	7.9
		すこしあてはまる	491	290	781	29.9	17.0	23.4
		あまりあてはまらない	632	749	1381	38.5	44.0	41.3
		まったくあてはまらない	317	600	917	19.3	35.3	27.4
		合計	1641	1702	3343	100.0	100.0	100.0
	授業中、授業と関係ないことをすることがある	よくあてはまる	189	218	407	11.5	12.9	12.2
		すこしあてはまる	640	738	1378	38.9	43.6	41.3
		あまりあてはまらない	576	566	1142	35.0	33.4	34.2
		まったくあてはまらない	240	171	411	14.6	10.1	12.3
		合計	1645	1693	3338	100.0	100.0	100.0
	解けるはずの問題を間違えるとかやしいと思う	よくあてはまる	925	933	1858	55.8	54.4	55.1
すこしあてはまる		404	508	912	24.4	29.6	27.0	
あまりあてはまらない		216	198	414	13.0	11.5	12.3	
まったくあてはまらない		114	76	190	6.9	4.4	5.6	
合計		1659	1715	3374	100.0	100.0	100.0	
6	人前で質問や発表することがはずかしいから	あてはまらない	899	967	1866	54.0	56.2	55.1
		あてはまる	765	753	1518	46.0	43.8	44.9
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	だれかが質問や発表をと思うから	あてはまらない	1308	1167	2475	78.6	67.8	73.1
		あてはまる	356	553	909	21.4	32.2	26.9
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	授業の進み方がおそくなるから	あてはまらない	1569	1645	3214	94.3	95.6	95.0
		あてはまる	95	75	170	5.7	4.4	5.0
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	すぐにことばにできないから	あてはまらない	671	1043	1714	40.3	60.6	50.7
		あてはまる	993	677	1670	59.7	39.4	49.3
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	あとで友だちに聞かから	あてはまらない	1527	1404	2931	91.8	81.6	86.6
		あてはまる	137	316	453	8.2	18.4	13.4
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	あとで先生に質問するから	あてはまらない	1601	1530	3131	96.2	89.0	92.5
あてはまる		63	190	253	3.8	11.0	7.5	
合計		1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
あとで自分で調べるから	あてはまらない	1552	1506	3058	93.3	87.6	90.4	
	あてはまる	112	214	326	6.7	12.4	9.6	
	合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
わからなくても平気だから	あてはまらない	1580	1618	3198	95.0	94.1	94.5	
	あてはまる	84	102	186	5.0	5.9	5.5	
	合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
7	先生が1時間中説明し、子どもが聞いている授業	よくある	68	119	187	4.1	7.0	5.5
		ときどきある	416	616	1032	25.1	36.0	30.6
		あまりない	649	695	1344	39.1	40.6	39.9
		ほとんどない	527	281	808	31.7	16.4	24.0
		合計	1660	1711	3371	100.0	100.0	100.0
	先生が子どもによく質問し、よく発表する授業	よくある	424	418	842	25.6	24.5	25.0
		ときどきある	675	852	1527	40.8	49.9	45.4
		あまりない	443	373	816	26.8	21.8	24.3
		ほとんどない	113	66	179	6.8	3.9	5.3
		合計	1655	1709	3364	100.0	100.0	100.0
	グループで話し合う授業	よくある	358	165	523	21.7	9.7	15.6
		ときどきある	992	946	1938	60.0	55.5	57.7
		あまりない	262	479	741	15.8	28.1	22.1
		ほとんどない	41	115	156	2.5	6.7	4.6
		合計	1653	1705	3358	100.0	100.0	100.0
	学級全員で話し合う授業	よくある	296	75	371	18.0	4.4	11.1
ときどきある		716	469	1185	43.4	27.6	35.4	
あまりない		493	766	1259	29.9	45.0	37.6	
ほとんどない		143	392	535	8.7	23.0	16.0	
合計		1648	1702	3350	100.0	100.0	100.0	
ドリルやプリントの問題を解く授業	よくある	492	326	818	29.9	19.2	24.4	
	ときどきある	839	902	1741	50.9	53.0	52.0	
	あまりない	274	383	657	16.6	22.5	19.6	
	ほとんどない	43	91	134	2.6	5.3	4.0	
	合計	1648	1702	3350	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
7	国語で、1時間に1人が1回以上発表する	よくある	367	433	800	22.3	25.4	23.9
		ときどきある	458	492	950	27.8	28.9	28.3
		あまりない	500	458	958	30.3	26.9	28.6
		ほとんどない	324	322	646	19.6	18.9	19.3
		合計	1649	1705	3354	100.0	100.0	100.0
	書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる	よくある	533	251	784	32.3	14.7	23.4
		ときどきある	586	565	1151	35.6	33.1	34.3
		あまりない	374	642	1016	22.7	37.7	30.3
		ほとんどない	155	247	402	9.4	14.5	12.0
		合計	1648	1705	3353	100.0	100.0	100.0
	先生が、算数や数学のプリントやドリルを見てくれる	よくある	744	442	1186	45.1	25.9	35.3
		ときどきある	529	676	1205	32.1	39.6	35.9
		あまりない	299	459	758	18.1	26.9	22.6
		ほとんどない	78	129	207	4.7	7.6	6.2
		合計	1650	1706	3356	100.0	100.0	100.0
	算数や数学の問題を解いて、みんなの前で説明する	よくある	449	484	933	27.3	28.5	27.9
		ときどきある	595	594	1189	36.2	34.9	35.5
		あまりない	425	443	868	25.9	26.0	25.9
		ほとんどない	175	180	355	10.6	10.6	10.6
		合計	1644	1701	3345	100.0	100.0	100.0
わかっていない子どもに先生はいていねいに教えてくれる	よくある	832	534	1366	50.3	31.3	40.6	
	ときどきある	562	745	1307	34.0	43.6	38.9	
	あまりない	207	329	536	12.5	19.3	15.9	
	ほとんどない	54	99	153	3.3	5.8	4.6	
	合計	1655	1707	3362	100.0	100.0	100.0	
理科の授業で、実験器具を使って子どもが実験する	よくある	1150	1166	2316	69.8	68.1	68.9	
	ときどきある	403	452	855	24.5	26.4	25.5	
	あまりない	73	72	145	4.4	4.2	4.3	
	ほとんどない	21	22	43	1.3	1.3	1.3	
	合計	1647	1712	3359	100.0	100.0	100.0	
理科の授業で、道具や器具が足りないことがある	よくある	236	215	451	14.3	12.6	13.4	
	ときどきある	570	583	1153	34.6	34.1	34.4	
	あまりない	444	580	1024	27.0	34.0	30.5	
	ほとんどない	397	330	727	24.1	19.3	21.7	
	合計	1647	1708	3355	100.0	100.0	100.0	
先生は、宿題をたくさん出す	よくある	368	207	575	22.3	12.1	17.1	
	ときどきある	604	628	1232	36.5	36.7	36.6	
	あまりない	493	662	1155	29.8	38.7	34.4	
	ほとんどない	188	212	400	11.4	12.4	11.9	
	合計	1653	1709	3362	100.0	100.0	100.0	
先生は、宿題をよくみしてくれる	よくある	936	374	1310	56.6	22.0	39.1	
	ときどきある	478	660	1138	28.9	38.9	33.9	
	あまりない	198	503	701	12.0	29.6	20.9	
	ほとんどない	43	161	204	2.6	9.5	6.1	
	合計	1655	1698	3353	100.0	100.0	100.0	
朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	よくある	1334	1416	2750	80.7	83.3	82.0	
	ときどきある	234	140	374	14.1	8.2	11.2	
	あまりない	62	101	163	3.7	5.9	4.9	
	ほとんどない	24	43	67	1.5	2.5	2.0	
	合計	1654	1700	3354	100.0	100.0	100.0	
放課後に、先生が分からないところを教えてくれる	よくある	178	134	312	10.7	7.9	9.3	
	ときどきある	382	431	813	23.1	25.3	24.2	
	あまりない	507	624	1131	30.6	36.6	33.7	
	ほとんどない	589	516	1105	35.6	30.3	32.9	
	合計	1656	1705	3361	100.0	100.0	100.0	
8	わたしのクラスは、集団としてのまとまりがある	よくあてはまる	326	332	658	19.7	19.4	19.6
		すこしあてはまる	816	845	1661	49.3	49.5	49.4
		あまりあてはまらない	428	439	867	25.8	25.7	25.8
		まったくあてはまらない	86	92	178	5.2	5.4	5.3
		合計	1656	1708	3364	100.0	100.0	100.0
	どの子ども、授業をおおよそ理解している	よくあてはまる	272	87	359	16.5	5.1	10.7
		すこしあてはまる	992	802	1794	60.2	47.0	53.5
		あまりあてはまらない	351	732	1083	21.3	42.9	32.3
		まったくあてはまらない	34	84	118	2.1	4.9	3.5
		合計	1649	1705	3354	100.0	100.0	100.0

		度数			%			
		小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
8	チャイムが鳴ったらどの子も席に座って先生を待っている	よくあてはまる	152	215	367	9.2	12.6	11.0
		すこしあてはまる	498	558	1056	30.2	32.8	31.5
		あまりあてはまらない	724	733	1457	43.9	43.1	43.5
		まったくあてはまらない	274	195	469	16.6	11.5	14.0
		合計	1648	1701	3349	100.0	100.0	100.0
	授業中、どの子も先生の話をよく聞いている	よくあてはまる	180	96	276	10.9	5.6	8.2
		すこしあてはまる	793	690	1483	48.1	40.5	44.2
		あまりあてはまらない	591	805	1396	35.9	47.2	41.6
		まったくあてはまらない	83	114	197	5.0	6.7	5.9
		合計	1647	1705	3352	100.0	100.0	100.0
	授業では、いろいろな人から意見がでる	よくあてはまる	513	229	742	31.1	13.5	22.1
		すこしあてはまる	666	644	1310	40.4	37.8	39.1
		あまりあてはまらない	421	731	1152	25.5	42.9	34.4
		まったくあてはまらない	49	98	147	3.0	5.8	4.4
		合計	1649	1702	3351	100.0	100.0	100.0
	先生の言うことを聞かない子どもがクラスにいる	よくあてはまる	312	281	593	27.8	23.7	25.7
すこしあてはまる		416	500	916	37.1	42.2	39.7	
あまりあてはまらない		270	314	584	24.1	26.5	25.3	
まったくあてはまらない		123	91	214	11.0	7.7	9.3	
合計		1121	1186	2307	100.0	100.0	100.0	
私のクラスは何でも言い合えるふんいきがある	よくあてはまる	332	226	558	20.2	13.3	16.7	
	すこしあてはまる	623	563	1186	37.9	33.1	35.4	
	あまりあてはまらない	579	692	1271	35.2	40.7	38.0	
	まったくあてはまらない	111	221	332	6.7	13.0	9.9	
	合計	1645	1702	3347	100.0	100.0	100.0	
クラスに遅刻したり学校を休む子どもがいる	よくあてはまる	375	500	875	33.4	42.2	37.9	
	すこしあてはまる	387	470	857	34.5	39.7	37.1	
	あまりあてはまらない	219	153	372	19.5	12.9	16.1	
	まったくあてはまらない	142	62	204	12.6	5.2	8.8	
	合計	1123	1185	2308	100.0	100.0	100.0	
どの子も運動会などの行事に熱心に参加している	よくあてはまる	879	580	1459	53.4	34.1	43.6	
	すこしあてはまる	569	723	1292	34.6	42.5	38.6	
	あまりあてはまらない	168	340	508	10.2	20.0	15.2	
	まったくあてはまらない	29	57	86	1.8	3.4	2.6	
	合計	1645	1700	3345	100.0	100.0	100.0	
どの子も児童会や生徒会の活動に進んで参加している	よくあてはまる	447	260	707	27.2	15.3	21.1	
	すこしあてはまる	663	700	1363	40.3	41.1	40.7	
	あまりあてはまらない	450	646	1096	27.4	38.0	32.8	
	まったくあてはまらない	84	96	180	5.1	5.6	5.4	
	合計	1644	1702	3346	100.0	100.0	100.0	
どの子も学級の委員や係り活動を進んでやっている	よくあてはまる	472	282	754	28.6	16.6	22.5	
	すこしあてはまる	694	747	1441	42.0	44.0	43.0	
	あまりあてはまらない	430	591	1021	26.0	34.8	30.5	
	まったくあてはまらない	57	79	136	3.4	4.6	4.1	
	合計	1653	1699	3352	100.0	100.0	100.0	
どの子もクラブ活動に参加している	よくあてはまる	1134	610	1744	70.0	35.9	52.6	
	すこしあてはまる	327	715	1042	20.2	42.1	31.4	
	あまりあてはまらない	119	327	446	7.4	19.2	13.4	
	まったくあてはまらない	39	47	86	2.4	2.8	2.6	
	合計	1619	1699	3318	100.0	100.0	100.0	
どの子もそうじを一生懸命している	よくあてはまる	302	143	445	18.3	8.4	13.3	
	すこしあてはまる	744	639	1383	45.2	37.6	41.3	
	あまりあてはまらない	507	765	1272	30.8	45.0	38.0	
	まったくあてはまらない	93	153	246	5.7	9.0	7.4	
	合計	1646	1700	3346	100.0	100.0	100.0	
どの子も学校のきまりを守っている	よくあてはまる	189	138	327	11.5	8.1	9.8	
	すこしあてはまる	726	693	1419	44.2	40.8	42.5	
	あまりあてはまらない	607	728	1335	37.0	42.9	40.0	
	まったくあてはまらない	120	138	258	7.3	8.1	7.7	
	合計	1642	1697	3339	100.0	100.0	100.0	
先生は私の学習状況をよく分かっている	よくあてはまる	448	188	636	27.2	11.1	19.0	
	すこしあてはまる	742	764	1506	45.1	45.1	45.1	
	あまりあてはまらない	382	602	984	23.2	35.5	29.4	
	まったくあてはまらない	75	141	216	4.6	8.3	6.5	
	合計	1647	1695	3342	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
8	先生は私の心配事や悩みを理解してくれている	よくあてはまる	320	159	479	19.5	9.4	14.3
		すこしあてはまる	559	490	1049	34.1	28.8	31.4
		あまりあてはまらない	549	725	1274	33.5	42.7	38.2
		まったくあてはまらない	212	325	537	12.9	19.1	16.1
		合計	1640	1699	3339	100.0	100.0	100.0
	先生は私の家庭や学校外での生活をよく分かってくれている	よくあてはまる	248	89	337	15.1	5.3	10.1
		すこしあてはまる	546	382	928	33.3	22.6	27.9
		あまりあてはまらない	613	838	1451	37.4	49.5	43.6
		まったくあてはまらない	231	384	615	14.1	22.7	18.5
		合計	1638	1693	3331	100.0	100.0	100.0
	先生は私たちの話をよく聞いてくれる	よくあてはまる	671	312	983	40.7	18.4	29.4
		すこしあてはまる	613	727	1340	37.2	42.8	40.0
		あまりあてはまらない	280	527	807	17.0	31.0	24.1
		まったくあてはまらない	83	133	216	5.0	7.8	6.5
		合計	1647	1699	3346	100.0	100.0	100.0
	先生は子どもたちの人間関係をよく知っている	よくあてはまる	471	251	722	28.5	14.8	21.6
		すこしあてはまる	649	628	1277	39.3	37.1	38.2
		あまりあてはまらない	430	588	1018	26.0	34.8	30.4
		まったくあてはまらない	103	225	328	6.2	13.3	9.8
		合計	1653	1692	3345	100.0	100.0	100.0
	先生は私の親とよく知り合っている	よくあてはまる	280	114	394	16.9	6.7	11.7
		すこしあてはまる	496	380	876	30.0	22.4	26.1
		あまりあてはまらない	587	792	1379	35.5	46.6	41.1
		まったくあてはまらない	292	413	705	17.6	24.3	21.0
合計		1655	1699	3354	100.0	100.0	100.0	
どの子ども先生のいうことをよく聞いている	よくあてはまる	89	41	130	17.1	8.0	12.6	
	すこしあてはまる	264	247	511	50.8	48.3	49.6	
	あまりあてはまらない	154	197	351	29.6	38.6	34.0	
	まったくあてはまらない	13	26	39	2.5	5.1	3.8	
	合計	520	511	1031	100.0	100.0	100.0	
9-1	今年、二人の先生が教える授業(TT)を受けたことがありますか	受けた	1209	1478	2687	74.3	88.6	81.5
		受けていない	419	191	610	25.7	11.4	18.5
		合計	1628	1669	3297	100.0	100.0	100.0
9-2	TT実施:国語	受けた	1581	1543	3124	95.0	89.7	92.3
		受けていない	83	177	260	5.0	10.3	7.7
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	TT実施:社会	受けた	1652	1586	3238	99.3	92.2	95.7
		受けていない	12	134	146	0.7	7.8	4.3
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	TT実施:算数/数学	受けた	804	869	1673	48.3	50.5	49.4
		受けていない	860	851	1711	51.7	49.5	50.6
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	TT実施:理科	受けた	1620	1520	3140	97.4	88.4	92.8
		受けていない	44	200	244	2.6	11.6	7.2
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	TT実施:体育/保健体育	受けた	1289	1554	2843	77.5	90.3	84.0
		受けていない	375	166	541	22.5	9.7	16.0
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	TT実施:音楽	受けた	1617	1692	3309	97.2	98.4	97.8
		受けていない	47	28	75	2.8	1.6	2.2
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	TT実施:図工/美術	受けた	1621	1662	3283	97.4	96.6	97.0
		受けていない	43	58	101	2.6	3.4	3.0
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	TT実施:家庭/技術家庭科	受けた	1546	1670	3216	92.9	97.1	95.0
		受けていない	118	50	168	7.1	2.9	5.0
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
TT実施:英語	受けた	1181	565	1746	71.0	32.8	51.6	
	受けていない	483	1155	1638	29.0	67.2	48.4	
	合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
TT実施:道徳	受けた	1600	1720	3320	96.2	100.0	98.1	
	受けていない	64	0	64	3.8	0.0	1.9	
	合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
9-3	その時、二人の先生はどのように授業を進めていますか	二人の先生が交代で授業を進めている	74	168	242	6.7	12.7	10.0
		二人の先生が授業を進め、もう一人の先生はその手伝いをしている	431	610	1041	39.2	46.1	43.0
		一人の先生が授業を進め、もう一人の先生は子どもに教えている	594	545	1139	54.0	41.2	47.0
		合計	1099	1323	2422	100.0	100.0	100.0

		度数			%			
		小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
9-4	二人の先生が教える授業は好きである	よくあてはまる	360	288	648	29.2	19.1	23.6
		すこしあてはまる	535	683	1218	43.4	45.3	44.5
		あまりあてはまらない	264	435	699	21.4	28.9	25.5
		まったくあてはまらない	74	101	175	6.0	6.7	6.4
		合計	1233	1507	2740	100.0	100.0	100.0
	二人の先生が教える授業は楽しい	よくあてはまる	365	251	616	29.7	16.7	22.5
		すこしあてはまる	478	575	1053	38.8	38.2	38.5
		あまりあてはまらない	300	561	861	24.4	37.3	31.5
		まったくあてはまらない	88	117	205	7.1	7.8	7.5
		合計	1231	1504	2735	100.0	100.0	100.0
	授業の内容がいつもよりよくわかる	よくあてはまる	387	275	662	31.6	18.3	24.2
		すこしあてはまる	524	625	1149	42.7	41.5	42.1
		あまりあてはまらない	265	497	762	21.6	33.0	27.9
		まったくあてはまらない	50	108	158	4.1	7.2	5.8
		合計	1226	1505	2731	100.0	100.0	100.0
	質問がしやすい	よくあてはまる	282	400	682	23.0	26.6	25.0
		すこしあてはまる	410	522	932	33.4	34.8	34.2
		あまりあてはまらない	420	451	871	34.2	30.0	31.9
		まったくあてはまらない	115	128	243	9.4	8.5	8.9
		合計	1227	1501	2728	100.0	100.0	100.0
わからないことは、先生にすぐ教えてもらえる	よくあてはまる	390	382	772	31.9	25.4	28.3	
	すこしあてはまる	483	649	1132	39.5	43.2	41.5	
	あまりあてはまらない	275	396	671	22.5	26.4	24.6	
	まったくあてはまらない	76	75	151	6.2	5.0	5.5	
	合計	1224	1502	2726	100.0	100.0	100.0	
自分の興味や関心にそった勉強ができる	よくあてはまる	191	143	334	15.6	9.5	12.2	
	すこしあてはまる	490	482	972	40.1	32.0	35.6	
	あまりあてはまらない	440	739	1179	36.0	49.1	43.2	
	まったくあてはまらない	102	141	243	8.3	9.4	8.9	
	合計	1223	1505	2728	100.0	100.0	100.0	
いつもより難しい内容の勉強ができる	よくあてはまる	213	102	315	17.4	6.8	11.5	
	すこしあてはまる	456	423	879	37.2	28.1	32.2	
	あまりあてはまらない	437	785	1222	35.6	52.2	44.7	
	まったくあてはまらない	120	195	315	9.8	13.0	11.5	
	合計	1226	1505	2731	100.0	100.0	100.0	
クラスのふんいきがよくなる	よくあてはまる	275	207	482	22.4	13.7	17.6	
	すこしあてはまる	493	499	992	40.1	33.1	36.3	
	あまりあてはまらない	357	605	962	29.1	40.1	35.2	
	まったくあてはまらない	103	196	299	8.4	13.0	10.9	
	合計	1228	1507	2735	100.0	100.0	100.0	
授業に集中しやすい	よくあてはまる	298	212	510	24.2	14.1	18.7	
	すこしあてはまる	452	556	1008	36.8	37.0	36.9	
	あまりあてはまらない	368	577	945	29.9	38.4	34.6	
	まったくあてはまらない	111	159	270	9.0	10.6	9.9	
	合計	1229	1504	2733	100.0	100.0	100.0	
担任の先生でないと話が通じにくい	よくあてはまる	155	84	239	12.9	5.6	8.8	
	すこしあてはまる	338	276	614	28.0	18.4	22.7	
	あまりあてはまらない	457	741	1198	37.9	49.4	44.3	
	まったくあてはまらない	256	400	656	21.2	26.6	24.2	
	合計	1206	1501	2707	100.0	100.0	100.0	
授業中、のんびりできない	よくあてはまる	244	225	469	20.3	15.0	17.4	
	すこしあてはまる	313	421	734	26.0	28.1	27.2	
	あまりあてはまらない	396	659	1055	32.9	43.9	39.0	
	まったくあてはまらない	250	195	445	20.8	13.0	16.5	
	合計	1203	1500	2703	100.0	100.0	100.0	
先生が多いので、落ち着かない	よくあてはまる	142	167	309	11.8	11.1	11.4	
	すこしあてはまる	198	275	473	16.4	18.3	17.5	
	あまりあてはまらない	423	653	1076	35.0	43.5	39.7	
	まったくあてはまらない	444	406	850	36.8	27.0	31.4	
	合計	1207	1501	2708	100.0	100.0	100.0	
10-1	いつものクラスより少ない人数の授業をうけたことがありますか	受けた	766	1314	2080	54.5	82.7	69.5
		受けていない	640	274	914	45.5	17.3	30.5
		合計	1406	1588	2994	100.0	100.0	100.0
10-2	少人数実施:国語	受けていない	1550	1482	3032	93.1	86.2	89.6
		受けた	114	238	352	6.9	13.8	10.4
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	少人数実施:算数/数学	受けていない	929	638	1567	55.8	37.1	46.3
		受けた	735	1082	1817	44.2	62.9	53.7
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
10-2	少人数実施:理科	受けていない	1595	1650	3245	95.9	95.9	95.9
		受けた	69	70	139	4.1	4.1	4.1
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	少人数実施:英語	受けていない	1655	989	2644	99.5	57.5	78.1
		受けた	9	731	740	0.5	42.5	21.9
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	少人数実施:その他	受けていない	1619	1356	2975	97.3	78.8	87.9
		受けた	45	364	409	2.7	21.2	12.1
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
10-3	編成:いつものクラスが2つのグループに分かれた	あてはまらない	975	84	1059	58.6	7.3	37.6
		あてはまる	689	1068	1757	41.4	92.7	62.4
		合計	1664	1152	2816	100.0	100.0	100.0
	編成:他のクラスの人と混じったグループに分かれた	あてはまらない	1558	498	2056	93.6	62.1	83.4
		あてはまる	106	304	410	6.4	37.9	16.6
		合計	1664	802	2466	100.0	100.0	100.0
10-4	期間:1年間ずっと	分かれていない	1482	310	1792	89.1	36.0	71.0
		分かれた	182	551	733	10.9	64.0	29.0
		合計	1664	861	2525	100.0	100.0	100.0
	期間:学期の間だけ	分かれていない	1572	317	1889	94.5	41.2	77.6
		分かれた	92	452	544	5.5	58.8	22.4
		合計	1664	769	2433	100.0	100.0	100.0
	期間:ひとつの単元だけ	分かれていない	1138	417	1555	68.4	51.1	62.7
		分かれた	526	399	925	31.6	48.9	37.3
		合計	1664	816	2480	100.0	100.0	100.0
10-5	グループにはどのようにして分かれ ましたか	めいば順に分かれた(またはくじ引き)	141	266	407	21.1	24.5	23.2
		勉強の難しさによって、グループに分かれた(基礎・発展など)	442	642	1084	66.3	59.2	61.9
		勉強する内容によって、グループに分かれた(興味)	84	176	260	12.6	16.2	14.8
		合計	667	1084	1751	100.0	100.0	100.0
10-6	どのように少人数のグループは決ま りましたか	自分の考えで決めた	264	501	765	36.9	39.9	38.8
		先生と相談をして決めた	83	62	145	11.6	4.9	7.4
		先生から言われた	368	692	1060	51.5	55.1	53.8
		合計	715	1255	1970	100.0	100.0	100.0
	少ない人数の授業は好きである	よくあてはまる	334	509	843	40.7	37.7	38.9
		すこしあてはまる	300	563	863	36.6	41.7	39.8
		あまりあてはまらない	130	211	341	15.9	15.6	15.7
		まったくあてはまらない	56	66	122	6.8	4.9	5.6
	合計	820	1349	2169	100.0	100.0	100.0	
	少ない人数の授業は楽しい	よくあてはまる	300	416	716	36.6	30.8	33.0
		すこしあてはまる	271	549	820	33.1	40.7	37.8
		あまりあてはまらない	181	313	494	22.1	23.2	22.8
		まったくあてはまらない	67	71	138	8.2	5.3	6.4
	合計	819	1349	2168	100.0	100.0	100.0	
	授業の内容がいつもよりよくわかる	よくあてはまる	314	463	777	38.7	34.4	36.0
		すこしあてはまる	315	566	881	38.8	42.1	40.9
		あまりあてはまらない	145	261	406	17.9	19.4	18.8
		まったくあてはまらない	38	54	92	4.7	4.0	4.3
	合計	812	1344	2156	100.0	100.0	100.0	
	質問がしやすい	よくあてはまる	303	461	764	37.1	34.2	35.3
		すこしあてはまる	252	495	747	30.9	36.8	34.6
		あまりあてはまらない	202	313	515	24.8	23.3	23.8
		まったくあてはまらない	59	77	136	7.2	5.7	6.3
	合計	816	1346	2162	100.0	100.0	100.0	
わからないことは、先生にすぐに教え てもらえる	よくあてはまる	257	370	627	31.5	27.6	29.1	
	すこしあてはまる	320	568	888	39.3	42.3	41.2	
	あまりあてはまらない	194	347	541	23.8	25.9	25.1	
	まったくあてはまらない	44	57	101	5.4	4.2	4.7	
合計	815	1342	2157	100.0	100.0	100.0		
自分の興味や関心にそった勉強がで きる	よくあてはまる	199	266	465	24.4	19.8	21.5	
	すこしあてはまる	324	483	807	39.8	35.9	37.3	
	あまりあてはまらない	236	509	745	29.0	37.8	34.5	
	まったくあてはまらない	56	88	144	6.9	6.5	6.7	
合計	815	1346	2161	100.0	100.0	100.0		
いつもより難しい内容の勉強ができる	よくあてはまる	201	217	418	24.7	16.1	19.4	
	すこしあてはまる	288	427	715	35.3	31.7	33.1	
	あまりあてはまらない	265	579	844	32.5	43.0	39.1	
	まったくあてはまらない	61	122	183	7.5	9.1	8.5	
合計	815	1345	2160	100.0	100.0	100.0		

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
10-6	クラスのふんいきがよくなる	よくあてはまる	202	215	417	24.8	16.0	19.3
		すこしあてはまる	264	452	716	32.4	33.7	33.2
		あまりあてはまらない	281	542	823	34.4	40.4	38.2
		まったくあてはまらない	69	132	201	8.5	9.8	9.3
		合計	816	1341	2157	100.0	100.0	100.0
	授業に集中しやすい	よくあてはまる	308	381	689	38.2	28.4	32.1
		すこしあてはまる	282	584	866	35.0	43.5	40.3
		あまりあてはまらない	164	299	463	20.3	22.3	21.6
		まったくあてはまらない	52	78	130	6.5	5.8	6.1
		合計	806	1342	2148	100.0	100.0	100.0
	いつもの先生でないから話が通じにくい	よくあてはまる	74	60	134	9.2	4.5	6.2
		すこしあてはまる	154	163	317	19.2	12.1	14.8
		あまりあてはまらない	333	688	1021	41.4	51.3	47.6
		まったくあてはまらない	243	431	674	30.2	32.1	31.4
		合計	804	1342	2146	100.0	100.0	100.0
	授業中、のんびりできない	よくあてはまる	128	123	251	15.9	9.2	11.7
		すこしあてはまる	182	318	500	22.6	23.7	23.3
		あまりあてはまらない	287	639	926	35.6	47.7	43.2
		まったくあてはまらない	209	259	468	25.9	19.3	21.8
		合計	806	1339	2145	100.0	100.0	100.0
	いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	よくあてはまる	161	155	316	19.8	11.6	14.7
		すこしあてはまる	183	285	468	22.5	21.3	21.7
		あまりあてはまらない	263	543	806	32.3	40.6	37.4
		まったくあてはまらない	208	355	563	25.5	26.5	26.1
合計		815	1338	2153	100.0	100.0	100.0	
授業の人数が少なすぎて、活気がない	よくあてはまる	78	96	174	9.5	7.1	8.0	
	すこしあてはまる	143	225	368	17.5	16.7	17.0	
	あまりあてはまらない	295	619	914	36.1	46.0	42.3	
	まったくあてはまらない	301	405	706	36.8	30.1	32.7	
	合計	817	1345	2162	100.0	100.0	100.0	
11	参加しているクラブ/部活動の種類	運動系	716	1195	1911	49.6	74.7	62.8
		音楽系	84	169	253	5.8	10.6	8.3
		文科系	420	88	508	29.1	5.5	16.7
		どれにも参加していない	224	147	371	15.5	9.2	12.2
		合計	1444	1599	3043	100.0	100.0	100.0
	クラブ活動は1週間に何日活動しているか	1日未満	288	8	296	24.6	0.5	11.2
		1日～2日未満	605	14	619	51.6	1.0	23.4
		2日～3日未満	37	13	50	3.2	0.9	1.9
		3日～4日未満	102	34	136	8.7	2.3	5.1
		4日～5日未満	67	69	136	5.7	4.7	5.1
		5日～6日未満	40	411	451	3.4	28.0	17.1
		6日～7日未満	20	669	689	1.7	45.5	26.1
		毎日	13	251	264	1.1	17.1	10.0
	合計	1172	1469	2641	100.0	100.0	100.0	
	クラブ活動は1日に何時間か	1時間未満	254	32	286	22.0	2.2	10.9
		1時間～2時間未満	665	567	1232	57.5	38.6	47.0
2時間～3時間未満		140	559	699	12.1	38.1	26.6	
3時間～4時間未満		78	263	341	6.7	17.9	13.0	
4時間以上		19	47	66	1.6	3.2	2.5	
合計	1156	1468	2624	100.0	100.0	100.0		
12-1	学習塾	通っていない	1368	1176	2544	82.2	68.4	75.2
		通っている	296	544	840	17.8	31.6	24.8
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	英語会話	通っていない	1499	1677	3176	90.1	97.5	93.9
		通っている	165	43	208	9.9	2.5	6.1
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	ピアノ・ダンス・舞踊など	通っていない	1280	1482	2762	76.9	86.2	81.6
		通っている	384	238	622	23.1	13.8	18.4
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	書道や絵画など	通っていない	1402	1590	2992	84.3	92.4	88.4
		通っている	262	130	392	15.7	7.6	11.6
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	そろばん、パソコンなど	通っていない	1586	1704	3290	95.3	99.1	97.2
		通っている	78	16	94	4.7	0.9	2.8
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0
	野球、サッカー、水泳などのスポーツ	通っていない	832	1488	2320	50.0	86.5	68.6
		通っている	832	232	1064	50.0	13.5	31.4
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0

			度数			%			
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
12-1	その他	通っていない	1606	1655	3261	96.5	96.2	96.4	
		通っている	58	65	123	3.5	3.8	3.6	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
12-2	あなたは、家で1週間に何日くらい勉強をしますか(塾での勉強は除く)	1日	97	361	458	6.0	23.0	14.3	
		2日	85	221	306	5.2	14.1	9.6	
		3日	92	239	331	5.6	15.2	10.3	
		4日	71	135	206	4.4	8.6	6.4	
		5日	337	223	560	20.7	14.2	17.5	
		6日	417	197	614	25.6	12.5	19.2	
		7日(毎日)	531	195	726	32.6	12.4	22.7	
		合計	1630	1571	3201	100.0	100.0	100.0	
12-3	ふだん(月曜-金曜)、家では1日何時間勉強しますか(塾や家庭教師を除きます)	しない	56	297	353	3.4	18.1	10.8	
		30分以下	279	174	453	17.1	10.6	13.8	
		30分以上1時間以下	761	673	1434	46.6	41.0	43.8	
		1時間以上2時間以下	403	362	765	24.7	22.0	23.4	
		2時間以上3時間以下	94	114	208	5.8	6.9	6.3	
		3時間以上	40	23	63	2.4	1.4	1.9	
		合計	1633	1643	3276	100.0	100.0	100.0	
12-4	学校の宿題	しない	169	385	554	10.2	22.4	16.4	
		する	1495	1335	2830	89.8	77.6	83.6	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	学校の授業の予習・復習	しない	1248	1074	2322	75.0	62.4	68.6	
		する	416	646	1062	25.0	37.6	31.4	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	塾の宿題	しない	1382	1360	2742	83.1	79.1	81.0	
		する	282	360	642	16.9	20.9	19.0	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	通信教育の教材での勉強	しない	1464	1445	2909	88.0	84.0	86.0	
		する	200	275	475	12.0	16.0	14.0	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	本屋で買った問題集・参考書での勉強	しない	1381	1408	2789	83.0	81.9	82.4	
		する	283	312	595	17.0	18.1	17.6	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	その他	しない	1607	1648	3255	96.6	95.8	96.2	
		する	57	72	129	3.4	4.2	3.8	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	12-5	ふだん(月曜-金曜)、1日何時間テレビを見ますか	見ない	19	23	42	1.2	1.4	1.3
			1時間以下	91	79	170	5.7	4.8	5.3
			1時間以上2時間以下	301	356	657	19.0	21.8	20.4
			2時間以上3時間以下	357	406	763	22.5	24.9	23.7
			3時間以上4時間以下	348	360	708	21.9	22.1	22.0
			4時間以上	471	408	879	29.7	25.0	27.3
合計			1587	1632	3219	100.0	100.0	100.0	
12-6	ふだん(月曜-金曜)、1日何時間ゲームをしますか	しない	429	806	1235	26.8	48.9	38.0	
		1時間以下	466	285	751	29.1	17.3	23.1	
		1時間以上2時間以下	353	308	661	22.0	18.7	20.3	
		2時間以上3時間以下	172	100	272	10.7	6.1	8.4	
		3時間以上4時間以下	86	56	142	5.4	3.4	4.4	
		4時間以上	95	93	188	5.9	5.6	5.8	
		合計	1601	1648	3249	100.0	100.0	100.0	
12-7	一人でテレビを見る	しない	881	591	1472	52.9	34.4	43.5	
		する	783	1129	1912	47.1	65.6	56.5	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	一人で勉強する	しない	758	1210	1968	45.6	70.3	58.2	
		する	906	510	1416	54.4	29.7	41.8	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	友だちと家で遊ぶ	しない	965	1433	2398	58.0	83.3	70.9	
		する	699	287	986	42.0	16.7	29.1	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	公園などで遊ぶ	しない	1365	1648	3013	82.0	95.8	89.0	
		する	299	72	371	18.0	4.2	11.0	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
	友だちと商店などへ行く	しない	1486	1523	3009	89.3	88.5	88.9	
		する	178	197	375	10.7	11.5	11.1	
		合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0	
塾やクラブに行く	しない	1087	1171	2258	65.3	68.1	66.7		
	する	577	549	1126	34.7	31.9	33.3		
	合計	1664	1720	3384	100.0	100.0	100.0		

		度数			%			
		小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均	
12-8	ふだん(月曜-金曜)、1日の睡眠時間はどのくらいですか	6時間未満	50	130	180	3.2	8.1	5.7
		6時間～7時間未満	89	307	396	5.7	19.1	12.5
		7時間～8時間未満	219	597	816	14.1	37.2	25.9
		8時間～9時間未満	527	425	952	34.0	26.5	30.2
		9時間～10時間未満	489	115	604	31.5	7.2	19.1
		10時間以上	177	31	208	11.4	1.9	6.6
		合計	1551	1605	3156	100.0	100.0	100.0
13	父	一緒に生活していない	181	186	367	15.9	15.5	15.7
		一緒に生活している	957	1012	1969	84.1	84.5	84.3
		合計	1138	1198	2336	100.0	100.0	100.0
	母	一緒に生活していない	70	83	153	6.2	6.9	6.5
		一緒に生活している	1068	1115	2183	93.8	93.1	93.5
		合計	1138	1198	2336	100.0	100.0	100.0
	祖父	一緒に生活していない	895	956	1851	78.6	79.8	79.2
		一緒に生活している	243	242	485	21.4	20.2	20.8
		合計	1138	1198	2336	100.0	100.0	100.0
	祖母	一緒に生活していない	795	847	1642	69.9	70.7	70.3
		一緒に生活している	343	351	694	30.1	29.3	29.7
		合計	1138	1198	2336	100.0	100.0	100.0
	兄	一緒に生活していない	758	800	1558	66.6	66.8	66.7
		一緒に生活している	380	398	778	33.4	33.2	33.3
		合計	1138	1198	2336	100.0	100.0	100.0
	弟	一緒に生活していない	795	821	1616	69.9	68.5	69.2
		一緒に生活している	343	377	720	30.1	31.5	30.8
		合計	1138	1198	2336	100.0	100.0	100.0
	姉	一緒に生活していない	780	840	1620	68.5	70.1	69.3
		一緒に生活している	358	358	716	31.5	29.9	30.7
		合計	1138	1198	2336	100.0	100.0	100.0
	妹	一緒に生活していない	819	806	1625	72.0	67.3	69.6
		一緒に生活している	319	392	711	28.0	32.7	30.4
		合計	1138	1198	2336	100.0	100.0	100.0
	その他	一緒に生活していない	1098	1151	2249	96.5	96.1	96.3
		一緒に生活している	40	47	87	3.5	3.9	3.7
		合計	1138	1198	2336	100.0	100.0	100.0
14	学校の宿題はきちんとやる	よくあてはまる	1010	604	1614	61.0	36.0	48.5
		すこしあてはまる	466	669	1135	28.2	39.9	34.1
		あまりあてはまらない	146	300	446	8.8	17.9	13.4
		まったくあてはまらない	33	103	136	2.0	6.1	4.1
		合計	1655	1676	3331	100.0	100.0	100.0
	学校の授業の予習や復習をする	よくあてはまる	236	130	366	14.3	7.8	11.0
		すこしあてはまる	557	556	1113	33.8	33.2	33.5
		あまりあてはまらない	562	650	1212	34.1	38.9	36.5
		まったくあてはまらない	292	337	629	17.7	20.1	18.9
		合計	1647	1673	3320	100.0	100.0	100.0
	学校や塾の宿題以外に進んで勉強する	よくあてはまる	200	127	327	12.2	7.6	9.9
		すこしあてはまる	372	356	728	22.7	21.3	22.0
		あまりあてはまらない	605	754	1359	36.9	45.2	41.1
		まったくあてはまらない	462	431	893	28.2	25.8	27.0
		合計	1639	1668	3307	100.0	100.0	100.0
	分からない問題があれば、教科書や参考書で調べる	よくあてはまる	547	302	849	33.3	18.1	25.6
		すこしあてはまる	593	618	1211	36.1	37.0	36.5
		あまりあてはまらない	337	512	849	20.5	30.6	25.6
		まったくあてはまらない	166	239	405	10.1	14.3	12.2
		合計	1643	1671	3314	100.0	100.0	100.0
	分からない問題があれば、家の人に教えてもらう	よくあてはまる	741	252	993	45.0	15.1	29.9
		すこしあてはまる	564	520	1084	34.3	31.1	32.7
		あまりあてはまらない	234	491	725	14.2	29.4	21.9
		まったくあてはまらない	107	407	514	6.5	24.4	15.5
		合計	1646	1670	3316	100.0	100.0	100.0
	家で落ち着いて勉強できる	よくあてはまる	451	271	722	40.2	23.0	31.4
		すこしあてはまる	381	433	814	33.9	36.7	35.4
あまりあてはまらない		210	329	539	18.7	27.9	23.4	
まったくあてはまらない		81	146	227	7.2	12.4	9.9	
合計		1123	1179	2302	100.0	100.0	100.0	
テレビやラジオ、音楽をつけながら勉強する	よくあてはまる	432	548	980	26.3	32.8	29.6	
	すこしあてはまる	351	500	851	21.4	29.9	25.7	
	あまりあてはまらない	331	321	652	20.2	19.2	19.7	
	まったくあてはまらない	528	303	831	32.2	18.1	25.1	
	合計	1642	1672	3314	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
14	テスト前には計画をたてて勉強する	よくあてはまる	223	326	549	13.6	19.5	16.6
		すこしあてはまる	390	518	908	23.8	31.0	27.4
		あまりあてはまらない	627	545	1172	38.2	32.6	35.4
		まったくあてはまらない	400	282	682	24.4	16.9	20.6
		合計	1640	1671	3311	100.0	100.0	100.0
	家の人に言われなくても自分で進んで勉強する	よくあてはまる	512	293	805	31.2	17.6	24.3
		すこしあてはまる	545	534	1079	33.2	32.1	32.6
		あまりあてはまらない	411	553	964	25.0	33.2	29.2
		まったくあてはまらない	174	284	458	10.6	17.1	13.9
		合計	1642	1664	3306	100.0	100.0	100.0
	時間をみつけて物語や小説を読む	よくあてはまる	373	373	746	22.7	22.3	22.5
		すこしあてはまる	379	388	767	23.1	23.2	23.1
あまりあてはまらない		470	439	909	28.6	26.3	27.4	
まったくあてはまらない		421	472	893	25.6	28.2	26.9	
合計		1643	1672	3315	100.0	100.0	100.0	
新聞を読む	よくあてはまる	323	230	553	19.6	13.8	16.7	
	すこしあてはまる	463	497	960	28.1	29.7	28.9	
	あまりあてはまらない	435	489	924	26.4	29.2	27.8	
	まったくあてはまらない	428	456	884	26.0	27.3	26.6	
	合計	1649	1672	3321	100.0	100.0	100.0	
15	毎朝、朝食を食べる	よくあてはまる	1356	1302	2658	82.3	77.8	80.0
		ややあてはまる	187	225	412	11.3	13.4	12.4
		あまりあてはまらない	73	100	173	4.4	6.0	5.2
		まったくあてはまらない	32	46	78	1.9	2.7	2.3
		合計	1648	1673	3321	100.0	100.0	100.0
	夕食を、一人で食べることがある	よくあてはまる	101	162	263	6.2	9.7	8.0
		ややあてはまる	177	260	437	10.8	15.6	13.2
		あまりあてはまらない	307	463	770	18.7	27.8	23.3
		まったくあてはまらない	1056	780	1836	64.4	46.8	55.5
		合計	1641	1665	3306	100.0	100.0	100.0
	学校に持っていく物は、前の日にそえる	よくあてはまる	870	641	1511	53.3	38.6	45.9
		ややあてはまる	423	390	813	25.9	23.5	24.7
あまりあてはまらない		230	358	588	14.1	21.6	17.9	
まったくあてはまらない		108	271	379	6.6	16.3	11.5	
合計		1631	1660	3291	100.0	100.0	100.0	
ふだん(月-金)朝起きり、夜寝たりする時間が決まっている	よくあてはまる	470	448	918	28.7	26.8	27.8	
	ややあてはまる	495	578	1073	30.2	34.6	32.4	
	あまりあてはまらない	362	400	762	22.1	24.0	23.0	
	まったくあてはまらない	310	244	554	18.9	14.6	16.8	
	合計	1637	1670	3307	100.0	100.0	100.0	
家の人とよく学校や友だちの話をする	よくあてはまる	706	480	1186	43.1	28.7	35.8	
	ややあてはまる	478	527	1005	29.2	31.5	30.3	
	あまりあてはまらない	311	438	749	19.0	26.1	22.6	
	まったくあてはまらない	144	230	374	8.8	13.7	11.3	
	合計	1639	1675	3314	100.0	100.0	100.0	
家の方は、自分のことをよく分かってくれている	よくあてはまる	850	485	1335	51.9	29.1	40.4	
	ややあてはまる	506	650	1156	30.9	38.9	34.9	
	あまりあてはまらない	207	378	585	12.6	22.6	17.7	
	まったくあてはまらない	76	156	232	4.6	9.3	7.0	
	合計	1639	1669	3308	100.0	100.0	100.0	
家の人に「勉強しなさい」とよく言われる	よくあてはまる	416	452	868	25.5	27.0	26.3	
	ややあてはまる	406	390	796	24.9	23.3	24.1	
	あまりあてはまらない	442	458	900	27.1	27.4	27.2	
	まったくあてはまらない	369	371	740	22.6	22.2	22.4	
	合計	1633	1671	3304	100.0	100.0	100.0	
家には本がたくさんある	よくあてはまる	770	505	1275	46.9	30.2	38.5	
	ややあてはまる	413	514	927	25.1	30.8	28.0	
	あまりあてはまらない	347	494	841	21.1	29.6	25.4	
	まったくあてはまらない	113	157	270	6.9	9.4	8.1	
	合計	1643	1670	3313	100.0	100.0	100.0	
家の方は私の成績を知っている	よくあてはまる	1130	1159	2289	68.9	69.3	69.1	
	ややあてはまる	361	405	766	22.0	24.2	23.1	
	あまりあてはまらない	105	87	192	6.4	5.2	5.8	
	まったくあてはまらない	43	21	64	2.6	1.3	1.9	
	合計	1639	1672	3311	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
15	学校から帰った時には、家にはいつも大人がいる	よくあてはまる	666	619	1285	40.6	37.1	38.8
		ややあてはまる	389	492	881	23.7	29.5	26.6
		あまりあてはまらない	308	361	669	18.8	21.6	20.2
		まったくあてはまらない	276	197	473	16.8	11.8	14.3
		合計	1639	1669	3308	100.0	100.0	100.0
	私は、親を尊敬している	よくあてはまる	594	356	950	36.4	21.5	28.8
		ややあてはまる	589	660	1249	36.0	39.8	37.9
		あまりあてはまらない	326	454	780	20.0	27.4	23.7
		まったくあてはまらない	125	189	314	7.6	11.4	9.5
		合計	1634	1659	3293	100.0	100.0	100.0
	寝坊しそうになったら、家の誰かが私を起こしてくれる	よくあてはまる	925	856	1781	56.2	51.1	53.6
		ややあてはまる	389	485	874	23.6	29.0	26.3
あまりあてはまらない		169	201	370	10.3	12.0	11.1	
まったくあてはまらない		164	133	297	10.0	7.9	8.9	
合計		1647	1675	3322	100.0	100.0	100.0	
16	勉強を教えてくれた	よくあてはまる	614	491	1105	54.8	41.6	48.0
		すこしあてはまる	308	401	709	27.5	34.0	30.8
		あまりあてはまらない	126	186	312	11.2	15.7	13.6
		まったくあてはまらない	73	103	176	6.5	8.7	7.6
		合計	1121	1181	2302	100.0	100.0	100.0
	図鑑をそろえてくれた	よくあてはまる	180	156	336	16.2	13.2	14.7
		すこしあてはまる	220	247	467	19.8	20.9	20.4
		あまりあてはまらない	346	437	783	31.1	37.1	34.2
		まったくあてはまらない	367	339	706	33.0	28.8	30.8
		合計	1113	1179	2292	100.0	100.0	100.0
	参考書をそろえてくれた	よくあてはまる	177	164	341	16.0	13.9	14.9
		すこしあてはまる	247	232	479	22.3	19.7	21.0
		あまりあてはまらない	353	431	784	31.9	36.6	34.3
		まったくあてはまらない	331	349	680	29.9	29.7	29.8
		合計	1108	1176	2284	100.0	100.0	100.0
	絵本を読んでもらった	よくあてはまる	329	341	670	29.7	28.9	29.3
		すこしあてはまる	235	276	511	21.2	23.4	22.4
		あまりあてはまらない	217	327	544	19.6	27.8	23.8
		まったくあてはまらない	326	234	560	29.4	19.9	24.5
		合計	1107	1178	2285	100.0	100.0	100.0
	図書館や美術館に連れて行ってくれた	よくあてはまる	264	167	431	23.8	14.2	18.8
		すこしあてはまる	251	242	493	22.6	20.6	21.6
		あまりあてはまらない	289	390	679	26.0	33.1	29.7
		まったくあてはまらない	306	378	684	27.6	32.1	29.9
合計		1110	1177	2287	100.0	100.0	100.0	
習い事(ピアノなど)をさせてくれた	よくあてはまる	481	457	938	43.4	38.8	41.0	
	すこしあてはまる	133	195	328	12.0	16.5	14.3	
	あまりあてはまらない	123	166	289	11.1	14.1	12.6	
	まったくあてはまらない	372	361	733	33.5	30.6	32.0	
	合計	1109	1179	2288	100.0	100.0	100.0	
17	テレビのニュース番組をみる	よくする	776	773	1549	69.0	65.5	67.2
		すこしする	254	307	561	22.6	26.0	24.3
		あまりしない	59	76	135	5.2	6.4	5.9
		ほとんどしない	35	25	60	3.1	2.1	2.6
		合計	1124	1181	2305	100.0	100.0	100.0
	スポーツ中継をみる	よくする	454	404	858	40.6	34.3	37.4
		すこしする	349	391	740	31.2	33.2	32.2
		あまりしない	210	261	471	18.8	22.1	20.5
		ほとんどしない	105	123	228	9.4	10.4	9.9
		合計	1118	1179	2297	100.0	100.0	100.0
	歌番組をみる	よくする	465	473	938	41.7	40.0	40.8
		すこしする	368	397	765	33.0	33.6	33.3
		あまりしない	186	220	406	16.7	18.6	17.7
		ほとんどしない	97	92	189	8.7	7.8	8.2
		合計	1116	1182	2298	100.0	100.0	100.0
	新聞を読む	よくする	674	663	1337	60.4	56.3	58.3
すこしする		185	247	432	16.6	21.0	18.8	
あまりしない		104	136	240	9.3	11.6	10.5	
ほとんどしない		152	131	283	13.6	11.1	12.3	
合計		1115	1177	2292	100.0	100.0	100.0	

			度数			%		
			小学校	中学校	合計	小学校	中学校	平均
17	クラシックの音楽を聴く	よくする	105	84	189	9.5	7.1	8.3
		すこしする	123	127	250	11.1	10.8	10.9
		あまりしない	285	314	599	25.7	26.6	26.2
		ほとんどしない	598	654	1252	53.8	55.5	54.7
		合計	1111	1179	2290	100.0	100.0	100.0
	ピアノをひく	よくする	98	56	154	8.8	4.7	6.7
		すこしする	99	97	196	8.9	8.2	8.6
		あまりしない	128	156	284	11.5	13.2	12.4
		ほとんどしない	785	872	1657	70.7	73.8	72.3
		合計	1110	1181	2291	100.0	100.0	100.0
	歴史小説や歴史の本を読む	よくする	116	78	194	10.5	6.6	8.5
		すこしする	112	128	240	10.1	10.9	10.5
		あまりしない	267	261	528	24.1	22.2	23.1
		ほとんどしない	614	710	1324	55.4	60.3	57.9
		合計	1109	1177	2286	100.0	100.0	100.0
	文学作品や小説を読む	よくする	164	172	336	14.7	14.7	14.7
		すこしする	150	205	355	13.4	17.5	15.5
		あまりしない	258	238	496	23.1	20.3	21.7
		ほとんどしない	544	558	1102	48.7	47.6	48.1
		合計	1116	1173	2289	100.0	100.0	100.0
パソコンやワープロをする	よくする	432	379	811	38.7	32.0	35.3	
	すこしする	204	271	475	18.3	22.9	20.7	
	あまりしない	150	170	320	13.4	14.4	13.9	
	ほとんどしない	330	363	693	29.6	30.7	30.1	
	合計	1116	1183	2299	100.0	100.0	100.0	
18	あなたは、将来、どのような学校に進学したいですか	中学校まで	96	30	126	5.9	1.8	3.9
		高校まで	747	601	1348	46.0	36.9	41.4
		大学や専門学校まで	780	999	1779	48.1	61.3	54.7
		合計	1623	1630	3253	100.0	100.0	100.0
小学校算数								
1-1	1237659840000の千億の位の数字	(正答率)	81.1	-	-			
1-2	500億を10で割った数	(正答率)	90.3	-	-			
1-3	1を7こと、0.1を3こあわせた数	(正答率)	90.4	-	-			
1-4	2.5は0.1を何個あつめたものか	(正答率)	94.2	-	-			
2	四捨五入で37000になる数字	(正答率)	73.5	-	-			
3	三角定規を二枚組み合わせてできる角度	(正答率)	58.2	-	-			
小学校国語								
1-1	包帯	(正答率)	59.1	-	-			
1-2	飛行機	(正答率)	64.8	-	-			
1-3	働く	(正答率)	79.1	-	-			
1-4	貯金	(正答率)	48.6	-	-			
1-5	粉雪	(正答率)	80.7	-	-			
1-6	喜ぶ	(正答率)	72.3	-	-			
1-7	試合	(正答率)	74.1	-	-			
1-8	必ず	(正答率)	73.9	-	-			
1-9	卒業	(正答率)	70.4	-	-			
1-10	祝う	(正答率)	55.4	-	-			
2-1	生き物について(調査する)	(正答率)	91.9	-	-			
2-2	図書館を(利用する)	(正答率)	92.9	-	-			
2-3	すがたを(消す)	(正答率)	93.0	-	-			
2-4	声を(かける)	(正答率)	96.8	-	-			
3-1	まっすぐにするの意味1	(正答率)	91.9	-	-			
3-2	まっすぐにするの意味2	(正答率)	92.3	-	-			
3-3	たてものをつくるの意味1	(正答率)	93.4	-	-			
3-4	たてものをつくるの意味2	(正答率)	90.4	-	-			
3-5	はっきり決めるの意味1	(正答率)	92.7	-	-			
3-6	はっきり決めるの意味2	(正答率)	91.2	-	-			
中学校数学								
1-1	計算問題1	(正答率)	-	92.9	-			
1-2	計算問題2	(正答率)	-	60.6	-			
1-3	計算問題3	(正答率)	-	61.3	-			
1-4	計算問題4	(正答率)	-	45.1	-			
2-1	aを使った式で料金をあらわす	(正答率)	-	71.2	-			
2-2	aを使った式で道のりをあらわす	(正答率)	-	28.9	-			
2-3	YとXを使った式でおつりをあらわす	(正答率)	-	59.5	-			
中学校国語								
1-1	意外	(正答率)	-	48.5	-			
1-2	周囲	(正答率)	-	76.3	-			
1-3	訪ねる	(正答率)	-	52.4	-			

			度数		
			小学校	中学校	合計
1-4	招く	(正答率)	-	67.9	-
1-5	くちょう	(正答率)	-	93.7	-
1-6	むじゆん	(正答率)	-	89.5	-
1-7	そなえて	(正答率)	-	92.8	-
1-8	なかば	(正答率)	-	78.7	-
2-1-1	少こし→少し	(正答率)	-	59.2	-
2-1-2	成積→成績	(正答率)	-	30.0	-
2-2	ところがの言い換え	(正答率)	-	24.2	-
2-3	文節の抜き出し	(正答率)	-	31.4	-

2004年12月1日

学級規模と少人数学習に関する「校長調査」と「教員調査」のお願い

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。先生には年末を控え、ご多忙のことと拝察いたします。

さて、ご存じのように、第6次義務教育諸学校教職員配置改善計画(1993-2000 年度)では、40人学級の実現やチーム・ティーチングの導入がなされましたが、第7次計画(2001-05)では、40人の学級定員は維持しつつも、主要3教科において20人以下の少人数学習が実施されております。全国の各学校では、多様な取り組みがされているところです。

私たちは、文部科学省科学研究費 基盤研究(B)の助成を受けて、平成16年度から3年計画で、学級編成、チーム・ティーチング、少人数学習の実施状況を調査するとともに、チーム・ティーチングや少人数学習の導入によってどのような教育上の効果が得られるかを分析することにしました。1年目の本年度は、全国の国公私立の小・中学校の「校長調査」と「教員調査」を企画しました。

全国の学校名簿より原則として1/10の割合でランダムに学校を抽出し、2つの調査票を約4000校の校長先生(国立の場合は副校長)に配布させていただきました。貴校が、それらについてどのように取り組んでおられるか、情報を提供していただければ幸いに存じます。

「校長調査」には、校長先生ご自身にご回答をお願いいたします。「教員調査」は、小学校の場合、1年から6年までの各学年の担当教員に1枚ずつ、中学校の場合、国・数・社・理・英の5つの教科の担当教員とその他の教科1教科担当教員に1枚ずつ、それぞれ配布していただき、ご回答を願えれば幸いです。なお、学校の事情によってそのような配布が難しい場合は、校長先生のご判断にお任せいたしますので、よろしくをお願いいたします。

お手数をおかけしますが、回答済みの「校長調査」と「教員調査」の調査票は、おとりまとめの上、一括して、12月末日までに同封の返信用封筒にてご返送ください。

なお、回答は無記名で、統計的に処理し、勤務校や先生個人のお名前を公表することはなく、ご迷惑をおかけすることはまったくありません。調査にご協力いただく先生方には、ご多忙中にもかかわらず時間をおとりいただくことになり恐縮ですが、なにとぞ、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

この調査の集計結果は、2005年9月に開催される「日本教育社会学会大会」において口頭発表する予定です。また、来年9月頃、中間報告冊子を作成しますので、郵送ご希望の方は、同封の小片に郵送先を記入後、調査票にご同封ください。

何卒、多数の先生方からご回答をいただきますよう重ねてよろしくお願い申し上げます。

敬具

学級規模研究プロジェクト 代表

山崎 博敏 (広島大学大学院教育学研究科・教授)
田中 春彦 (広島大学大学院教育学研究科・教授)
須田 康之 (北海道教育大学旭川校・助教授)
高旗 浩志 (島根大学教育学部・助教授)
西本 裕輝 (琉球大学大学教育センター・助教授)

この調査に関するご質問は下記をお願いいたします。

〒739-8524 東広島市鏡山1丁目1-1 山崎博敏

電話:082-424-6740, 6741 Fax:082-424-6740

Email hyamasak@hiroshima-u.ac.jp

http://home.hiroshima-u.ac.jp/hyamasak/

学級規模と少人数学習に関する全国校長調査

この質問紙は大きく11の部分から成っております。ほとんどの質問は該当する番号に○をつけるようになっていますが、一部、数字や簡単な文章の記入をお願いしているところがあります。

ご多忙のところ、お手数をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

質問Ⅰ. まず、あなたとあなたの学校について伺います。該当する番号に○をつけて下さい。また、()には該当する数字をご記入下さい。

1. 性別	1. 男	2. 女				
2. 年齢	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳以上		
3. 職位	1. 校長	2. 副校長・教頭	3. 教諭			
4. 教職経験年数	1. 5年未満	2. 5年以上	3. 10年以上	4. 20年以上		
5. 校長としての経験	() 年					
6. 異なる学校種勤務経験	1. あり		2. なし			
以下、あなたの学校についての質問です						
7. 所在都道府県	() 都道府県					
8. 設置者	1. 国立	2. 公立	3. 私立			
9. 共学・別学	1. 共学	2. 男子のみ	3. 女子のみ			
10. 校種	1. 小学校	2. 中学校	3. 中高併置	4. 特殊教育学校		
11. 所在地域	1. 市街地	2. 農村部	3. へき地(指定校)			
12. 複式学級	1. あり		2. なし			
13. 学年別 学級数・児童生徒数	1. 小1	学級	人	7. 中1	学級	人
	2. 小2	学級	人	8. 中2	学級	人
	3. 小3	学級	人	9. 中3	学級	人
	4. 小4	学級	人	10. 障害児学級	学級	人
	5. 小5	学級	人			
	6. 小6	学級	人	11. 全校合計	学級	人
14. 教員数	1. 教頭	人	3. 養護教諭	人	5. 非常勤講師	人
	2. 教諭	人	4. 常勤講師	人	6. ALT	人
15. 担当教科別教員数 (教諭と常勤講師のみ) (小学校の場合、各教科には専科教員の数をご記入ください)	1. 全教科	人	6. 保健体育	人	11. TT	人
	2. 国語	人	7. 音楽	人	12. 障害児学級	人
	3. 社会	人	8. 美術・図工	人	13. その他	人
	4. 算数・数学	人	9. 技術・家庭	人		
	5. 理科	人	10. 英語	人		

質問Ⅱ. 加配教員あるいは予算措置を受けて雇用している教員がいる場合、人数をご記入ください。

	常勤	非常勤		常勤	非常勤
特殊学級	人	人	教育困難校	人	人
専科教員	人	人	大規模校 教頭複数配置	人	人
TT	人	人	同和・人権教育	人	人
少人数教育	人	人	産休代替	人	人
長期研修代替	人	人	その他()	人	人

質問Ⅲ. 学級定数等の改善についてのあなたのご意見を伺います。

Q 1. あなたの学校における、平均的な学級の規模についてご意見をお聞かせ下さい。
 1. 大きすぎると思う 2. 適正規模だと思う 3. 小さすぎると思う

Q 2. 現在の学級定数上限 40 人についてご意見をお聞かせ下さい。
 1. 大きすぎると思う 2. 適正規模だと思う 3. 小さすぎると思う

Q3. 学校の教職員数を増加させる場合、下の方法はどの程度望ましいですか。
 下の13項目から、最も望ましいと思うものを3つだけ選択し、カッコ内に番号をご記入下さい。
 () () ()

1. どの学年でも、学級規模を一律に小さくする	8. 教育困難校の教員を増員する
2. 低学年など特定学年だけ学級規模を小さくする	9. カウンセラーや養護教諭を増員する
3. 特殊学級の教育改善のために教員を増員する	10. コンピュータ利用教育のための教員を増員する
4. 複式学級の解消を計るために教員を増員する	11. 「総合的な学習の時間」のために教員を増員する
5. 専科教員または特定教科の教員を増員する	12. 学校運営の円滑化のため教頭を複数配置する
6. ティームティーティングのために教員を増員する	13. 教員の事務負担を軽減するために事務職員を増員する
7. 少人数学習をするために教員を増員する	

質問Ⅳ. 貴校の教育課程と学級編成等について伺います。

Q 1. 貴校の平成 16 年度における授業時数をご記入ください。

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
国語									
社会	—	—							
算数・数学									
理科	—	—							
生活			—	—	—	—	—	—	—
音楽									
図工・美術									
体育・保健体育									
技術・家庭									
外国語									
道徳									
特別活動									
総合的な学習の時間									
選択教科									
その他									
合 計									

Q2. 選択教科について、該当教科名と簡単な説明をご記入ください。

教科等	
-----	--

Q3. 上記の「その他」に該当する学習の名称と内容をご記入ください。

名称	
----	--

Q4. 朝や放課後など、正規の授業以外に実施されている学習がありましたら、名称とその内容をご記入ください。

始業前	
放課後	

Q5. ホームルームを習熟度に応じて編成している場合、実施している学年に○をつけてください。

1. 小1	2. 小2	3. 小3	4. 小4	5. 小5	6. 小6
7. 中1	8. 中2	9. 中3	10. 実施していない		

Q6. 特定教科だけ、習熟度に応じた学級編成をしている場合、教科名と簡単な説明をご記入ください。

小1		小4		中1	
小2		小5		中2	
小3		小6		中3	

Q7. 小学校で、専科教員による授業がある場合、実施している教科をご記入ください。

小1		小3		小5	
小2		小4		小6	

Q8. 小学校で、外国語会話を実施している場合、実施教科等と年間時間数をご記入ください。

小1		小3		小5	
小2		小4		小6	

Q9. 貴校は、3学期制ですか、2学期制ですか。

1. 3学期制である 2. 2学期制である

Q10. 各学期の始業日と終了日をご記入ください。

1学期	4月()日から	()月()日まで
2学期	()月()日から	()月()日まで
3学期	()月()日から	()月()日まで

Q11. 貴校の本年度の研究主題をご記入ください。

--

Q12. 貴校が、本年度、教育研究等の指定校に指定されている場合、その内容をご記入ください。

指定者	1. 国レベル 2. 都道府県レベル 3. 市町村レベル 4. その他 ()
研究課題	
指定年度	平成 () - () 年度

質問Ⅴ ティーム・ティーチング（TT）について伺います。

Q 1. あなたの学校では現在、TTを実施していますか 1. 現在、実施している 2. かつて実施したことがある 3. 実施したことがない			
Q 2. 以下は、「現在、実施している」学校について伺います。学年ごとに実施している教科をご記入ください。学年を越えたTTの場合、学年を囲んでください。			
小1	() ()	小4	() ()
小2	() ()	小5	() ()
小3	() ()	小6	() ()
中1	() ()	中2	() ()
中3	() ()		
Q 3. TTを実施している期間はどの程度ですか。 1. 特定の教科について、1年間継続して実施している。 2. 特定の教科について、1学期間継続して、実施している。 3. 特定の教科について、一つの単元全体について実施している。 4. 特定の教科について、一つの単元の一部について実施している。			
Q 4. TTの授業時数は、その教科の年間あるいは学期の授業時数全体のどの程度を占めますか。 約 () パーセント			
Q 5. 貴校で最もよく採用されている協力分担の方法はどれですか。どれか一つをお選びください。 1. 2人が役割分担し、交互に授業を進める 2. 一方が主に授業し、他方がその補助をする 3. 一方が主に授業し、他方が児童生徒の個別指導をする			
Q 6. ティーム・ティーチングを実施するために、教員をどのように確保していますか。 1. TTを担当する教諭（または常勤講師）が配置されている 2. TTを担当する非常勤の教員を配置されている 3. TTを実施するための教員は特に配置されていない			
Q 7. ティーム・ティーチングに対するあなたの評価をお聞かせ下さい。			
		そう 思う	どちらで もない
		3	2
		1	1
1. 児童生徒の多様な学力水準に応じた指導ができた	3	2	1
2. 習熟の程度が高い児童生徒に対して、発展的な指導ができた	3	2	1
3. 習熟の程度が低い児童生徒に対して、分かるまで指導ができた	3	2	1
4. 児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた	3	2	1
5. 児童生徒の学力が向上した	3	2	1
6. 児童生徒の学習意欲が向上した	3	2	1
7. 生徒指導上の成果が得られた	3	2	1
8. 相手の教員のおかげで効果的な授業をすることができた	3	2	1
9. 教員間の協力が増えた	3	2	1
10. 相手の教員から学ぶことが多かった	3	2	1
11. 教員間での事前の調整が大変であった	3	2	1
12. 教員間の協力・連携が難しかった	3	2	1
13. ティーム・ティーチングは実施するに値すると思う	3	2	1
14. ティーム・ティーチングは労力の割には効果が少ない	3	2	1
15. 指導上の工夫次第では、TTはもっとよくなると思う	3	2	1
16. TTを本格的に実施するには教員数が少なすぎる	3	2	1

質問Ⅵ 少人数学習について伺います。

<p>Q 1. あなたの学校では、現在、少人数学習を実施していますか 1. 現在実施している 2. かつて実施したことがある 3. 実施したことがない</p>		
<p>Q 2. 以下、「現在実施している」学校に伺います。実施している教科を学年別にご記入ください。</p>		
小 1	小 4	中 1
小 2	小 5	中 2
小 3	小 6	中 3
<p>Q 3. 少人数学習を実施している期間は、一つの教科について、どの程度ですか。 1. おおよそ1年間、実施している。 2. おおよそ1つの学期間、実施している。 3. 一つの単元全体について実施している。 4. 一つの単元の一部について実施している。</p>		
<p>Q 4. 少人数学習の授業時数は、実施教科の年間又は学期の授業時数全体のどの程度を占めますか。 約 () パーセント</p>		
<p>Q 5. 少人数学習集団はどのようにして編成していますか。〈学級集団との関係〉 1. 個々の学級を越えて編成している (2学級を3集団など) 2. 一つの学級集団を2つに分割して集団を編成している</p>		
<p>Q 6. 少人数学習集団は教科によって個別に編成していますか。 1. 教科によって異なった学習集団を編成している 2. どの教科でも共通の学習集団を編成している</p>		
<p>Q 7. 少人数学習集団はどのようにして編成していますか。〈編成原理〉 1. 習熟度別に編成している 2. テーマ別・課題別に編成している 3. 等質 (ランダム) に集団を編成している</p>		
<p>Q 8. 少人数学習集団は、どの程度永続的ですか。 1. 1年間、固定している 2. 1つの学期の間、固定している 3. 1つの単元の間、固定している 4. 随時に、メンバーの異動がある</p>		
<p>Q 9. TTや一斉学習との関係について伺います 1. 少人数学習をTTと組み合わせて実施している 2. 少人数学習を一斉学習と組み合わせて実施している 3. 他と組み合わせることなく、少人数学習だけを実施している</p>		
<p>Q 10. 少人数学習を実施するために、教員をどのように確保していますか。 1. 少人数学習を担当する教諭 (または常勤講師) が配置されている 2. 少人数学習を担当する非常勤の教員を配置されている 3. 少人数学習を実施するための教員は特に配置されていない</p>		

Q 1 1. 少人数学習に対するあなたの評価をお聞かせ下さい。	そう 思う	どちらで もない	そう思 わない
1. 多様な学力水準の児童生徒に応じた指導ができた	3	2	1
2. 習熟の程度が高い児童生徒に対して、発展的な指導ができた	3	2	1
3. 習熟の程度が低い児童生徒に対して、分かるまで指導ができた	3	2	1
4. 児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた	3	2	1
5. 児童生徒の学力が向上した	3	2	1
6. 児童生徒の学習意欲が向上した	3	2	1
7. 生徒指導上の成果が得られた	3	2	1
8. 教員間の協力が増えた	3	2	1
9. 教員間での事前の調整が大変であった	3	2	1
10. 教員間の協力・連携が難しかった	3	2	1
11. 少人数学習は実施するに値すると思う	3	2	1
12. 少人数学習は労力の割には効果が少ないと思う	3	2	1
13. 指導の工夫次第では、少人数学習はもっとよくなる	3	2	1
14. 少人数教育を本格的に実施するには教員数が少なすぎる	3	2	1
Q 1 2. 少人数教育やTTを充実したものにするには、一斉授業とは異なる指導が必要だ、との意見があります。貴校で何か指導上工夫していることがありましたら、具体的にお書きください。			

質問Ⅷ. 全員に伺います。貴校の児童生徒の学習の状況について所見をお聞かせ下さい。

(以下の質問は、学級規模の大小によりどのように回答状況が異なるかを分析するためのものです。

学級規模や少人数学習には直接関係ない質問もありますが、ぜひご回答下さい。)

	そ う 思 う	ど ち ら で も な い	そ う 思 わ な い
Q 1. 平常の授業内容を子どもたちはおおそ理解している	3	2	1
Q 2. 逆に授業内容が易しすぎて退屈している子どもがいる	3	2	1
Q 3. チャイムが鳴ったら着席して教員の到着を待っている	3	2	1
Q 4. 授業中、児童生徒は教員の話をよく聞いている	3	2	1
Q 5. 分からないことがあると子どもはよく質問する	3	2	1
Q 6. 理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	3	2	1
Q 7. 宿題をやってこない子どもがいる	3	2	1
Q 8. 授業に集中しない子どもがいる	3	2	1
Q 9. 教員は子どもが授業をどの程度理解しているか把握できている	3	2	1
Q10. 一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	3	2	1
Q11. 理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	3	2	1
Q12. 一人ひとりの子どもを分かるまで指導するだけのゆとりがある	3	2	1
Q13. 学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う	3	2	1
Q14. あなたの学校の学力水準は、都道府県内の学校平均からみて、おおそどの程度ですか。 3. 高い方である 2. 平均的である 1. やや低い方である			

質問Ⅷ. 児童生徒の学校での生活についてあなたの所見や意見をお聞かせ下さい。

	そう 思う	どちらで もない	そう思 わない
Q 1. 子どもたちは、日常の基本的生活習慣を身につけている	3	2	1
Q 2. 子どもたちの服装・身だしなみはよい	3	2	1
Q 3. 学級集団としてのまとまりがある	3	2	1
Q 4. 子どもたちは、全体に伸びのびとしている	3	2	1
Q 5. 子どもたちは、個性を伸ばしている	3	2	1
Q 6. 教員の指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある	3	2	1
Q 7. 子どもたちの学校での日常生活に教員の目が行き届いている	3	2	1
Q 8. 子どもどうしの人間関係に教員の目が行き届いている	3	2	1
Q 9. 学級担任教員は子どもの話を聞いてやるゆとりがある	3	2	1
Q 10. 学級担任教員は子どもの心配事や悩みをよく把握している	3	2	1
Q 11. 遅刻したり学校を休む子どもが多い	3	2	1
Q 12. 教職員に対して暴言や暴力をふるう子どもがいて困ったことがある	3	2	1
Q 13. 教員は子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している	3	2	1
Q 14. 保護者は自分の子どもに対して目が行き届いている	3	2	1
Q 15. どの教員も全校の児童生徒の顔と名前がよくわかっている	3	2	1

質問Ⅸ. 以下の事項は、貴校において、どの程度充実していると自己評価されますか。

1. 基礎学力の育成	1. 充実している 2. ふつう	13. 個性の伸張	1. 充実している 2. ふつう
2. 高度な学力の育成	1. 充実している 2. ふつう	14. いじめの減少	1. 充実している 2. ふつう
3. 体験的な学習	1. 充実している 2. ふつう	15. 不登校の減少	1. 充実している 2. ふつう
4. 総合的な学習	1. 充実している 2. ふつう	16. 不法行為の予防	1. 充実している 2. ふつう
5. 体力の向上	1. 充実している 2. ふつう	17. 社会性の育成	1. 充実している 2. ふつう
6. 健康の維持	1. 充実している 2. ふつう	18. 自己表現力の育成	1. 充実している 2. ふつう
7. 学校行事	1. 充実している 2. ふつう	19. 障害児教育の充実	1. 充実している 2. ふつう
8. 学級活動	1. 充実している 2. ふつう	20. 人権教育の充実	1. 充実している 2. ふつう
9. 生徒会活動	1. 充実している 2. ふつう	21. 家庭との連携	1. 充実している 2. ふつう
10. 奉仕活動	1. 充実している 2. ふつう	22. 地域との連携	1. 充実している 2. ふつう
11. 部活動の成績	1. 充実している 2. ふつう	23. 教職員間の連携	1. 充実している 2. ふつう
12. 部活動による 人格形成	1. 充実している 2. ふつう	24. 教職員の 学校改善意欲	1. 充実している 2. ふつう

質問Ⅹ. 中学校の校長先生に伺います。

次の部活動のクラブのうち、貴校にあるクラブについて、番号に○をおつけください。

1	バスケットボール	6	野球	11	柔道	16	美術
2	サッカー	7	体操	12	新聞・文芸部	17	吹奏楽
3	バレーボール	8	陸上	13	家庭科	18	合唱
4	バドミントン	9	卓球	14	パソコン	19	書道
5	テニス	10	剣道	15	理科	20	茶道

質問ⅩⅠ. 全員に伺います。

少人数学習は、現在、基本3教科（小：国・算・理、中：英・数・理）で実施されていますが、これだけで十分でしょうか。他に実施した方がよい教科があれば、ご記入ください。

() () () ()

また、チーム・ティーチングにふさわしい教科やテーマがありましたら、ご記入ください。

() () () () () ()

チーム・ティーチングのメリットとデメリット、運用上の問題等について自由にお書きください。

少人数学習のメリットとデメリット、運用上の問題等について自由にお書きください。

少人数学習やチーム・ティーチングをもっと活用する方法があれば、自由にお書きください。

最後に、この調査に対するご意見がありましたら自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

回答済みの調査票は、教員調査の調査票と一括して、返信用封筒にて12月末までにご返送ください。
なお、中間報告冊子が必要な方は、同封の小片に郵送先をご記入の上、返信用封筒に同封ください。

学級規模と少人数学習に関する全国教員調査

この調査は、文部科学省科学研究費基盤研究（B）の助成を受けて、全国の約 4000 校の小・中学校の教員を対象に、学級規模、学級編成の現状、ティーム・ティーチングと少人数学習の実施状況を調査するとともに、それらの導入によってどのような教育上の効果が得られるかを研究することを目的とするものです。全国の学校名簿より原則として1/10の割合でランダムに学校を抽出し、校長（国立の場合は副校長）先生を通して、質問紙を配布させていただきました。

質問紙は、大きく6つの部分から成っております。ほとんどの質問は該当する番号に○をつけるようになっていますが、一部、数字や簡単な文章の記入をお願いしているところがあります。校務ご多忙中のところ、お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

回答済みの調査票は、学校ごとに一括して郵送していただきますので、校長先生にお渡しください。

質問 I. まず、あなたとあなたの学校について伺います。

1. 性別	1. 男	2. 女				
2. 年齢	1. 20 歳代	2. 30 歳代	3. 40 歳代	4. 50 歳以上		
3. 教職経験年数	1. 2 年未満	2. 2 年以上	3. 5 年以上	4. 10 年以上	5. 20 年以上	
4. 勤務校の都道府県	() 都 道 府 県					
5. 勤務校の設置者	1. 国立	2. 公立	3. 私立			
6. 勤務校の校種	1. 小学校	2. 中学校	3. 特殊教育学校			
7. 勤務校の児童生徒数	1. 50 人未満	2. 50-99 人	3. 100-199 人	4. 200-499 人		
	5. 500-999 人	6. 1000 人以上				
8. 勤務校の学級数	() 学級					
9. 勤務校の所在地域	1. 市街地	2. 農村部	3. へき地(指定校)			
10. あなたの職位	1. 常勤講師	2. 教諭	3. 教頭	4. その他		
11. 主な担当学年	1. 小 1	2. 小 2	3. 小 3	4. 小 4	5. 小 5	6. 小 6
	7. 中 1	8. 中 2	9. 中 3			
12. 担当教科 (複数回答可)	1. 全教科	2. 国語	3. 社会	4. 算数・数学	5. 理科	6. 保健体育
	7. 音楽	8. 美術・図工	9. 技術・家庭	10. 英語	11. その他()	
13. 学級担任状況	1. 学級担任	2. 学級副担任	3. いずれもしていない			
14. 担任 (又は主に授業) している学級のタイプ						
	1. 単式学級	2. 複式学級	3. 特殊教育学級(75 条の学級)			
15. 担任 (又は主に授業) している学級規模						
	1. 7 人以下	2. 8-12 人	3. 13-20 人	4. 21-25 人		
	5. 26-30 人	6. 31-35 人	7. 36-40 人	8. 41 人以上		
16. 校務分掌状況 (複数回答可)	1. 教務関係	2. 生徒指導関係	3. 進路指導関係	4. 保健関係		
	5. 図書関係	6. 研究・研修関係	7. その他 ()			
17. クラブ活動指導	1. 運動系	2. 文化系	3. 音楽系	4. 指導していない		
18. 卒業された機関	1. 短大	2. 専門学校等	3. 教員養成系大学・学部			
	4. 大学一般学部 (文・理など)		5. 大学院・専攻科			
19. 当時の専攻分野	1. 教育学・教科教育学系		2. 非教育系(文学・理学・法学など)			

質問Ⅱ 少人数学習について伺います。

Q 1. あなたご自身は、少人数学習を実施していますか 1. 現在実施している 2. かつて実施したことがある 3. 実施したことがない			
Q 2. 以下は、「現在」または「かつて」実施したことがあると答えた方に伺います。 典型的なもの1つを念頭に浮かべ、ご回答下さい。			
(1) それは、どのような学年で実施されましたか。 1. 小学校 2. 中学校 第()学年			
(2) どのような教科でしたか 1. 国語 2. 理科 3. 算数・数学 4. 英語 5. その他()			
(3) 少人数学習集団はどのようにして編成しましたか。 1. 個々の学級を越えて集団を編成した(2学級を3集団など) 2. 一つの学級集団を2つに分割して集団を編成した			
(4) 少人数学習集団はどのようにして編成していますか。 1. 習熟度の程度に応じて集団を編成した 2. 児童生徒の興味・関心のテーマに応じて集団を編成した 3. 等質(ランダム)に集団を編成した			
(5) 少人数学習集団は、どの程度永続的ですか。 1. 1年間是不変であった 2. 学期中是不変であった 3. 単元毎に編成を変えた			
(6) 少人数学習は、主にどのように実施されましたか。 1. 1年間を通して実施した 2. 特定の学期を通して実施した 3. 単元の全体を通じて実施した 4. 単元の一部で実施した			
(7) 少人数学習の授業時数が、その教科の年間又は学期の授業時数に占める割合はどの程度ですか。 約()パーセント			
(8) TTや一斉学習との関係について伺います。 1. 少人数学習をTTと組み合わせて実施した 2. 少人数学習を一斉学習と組み合わせて実施した 3. 他と組み合わせず、少人数学習を実施した			
Q 3. 少人数学習に対するあなたの評価をお聞かせ下さい。	そう 思う	どちらで もない	そう思 わない
1. 多様な学力水準の児童生徒に応じた指導ができた	3	2	1
2. 習熟の程度が高い児童生徒に対して、発展的な指導ができた	3	2	1
3. 習熟の程度が低い児童生徒に対して、分かるまで指導ができた	3	2	1
4. 児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた	3	2	1
5. 児童生徒の学力が向上した	3	2	1
6. 児童生徒の学習意欲が向上した	3	2	1
7. 生徒指導上の成果が得られた	3	2	1
8. 教師間の協力が増えた	3	2	1
9. 教員間での事前の調整が大変であった	3	2	1
10. 教師間の協力・連携が難しかった	3	2	1
11. 少人数学習は実施するに値すると思う	3	2	1
12. 少人数学習は労力の割には効果が少ないと思う	3	2	1
13. 少人数学習はTTと組み合わせると効果的である	3	2	1
14. 指導の工夫次第では、少人数学習はもっとよくなる	3	2	1
15. 少人数教育を本格的に実施するには教員数が少なすぎる	3	2	1

質問Ⅲ ティーム・ティーチング（TT）について伺います。

Q 1. あなたご自身は、ティーム・ティーチングを実施していますか 1. 現在、実施している 2. かつて実施したことがある 3. 実施したことがない			
Q 2. 以下は、TT経験者の方に伺います。典型的なもの1つを念頭に浮かべ、ご回答下さい。 (1) どのような学年で実施されましたか。 1. 小学校 2. 中学校 第() 学年			
(2) それは、どのような教科・科目でしたか 1. 国語 2. 社会 3. 理科 4. 生活科 5. 算数・数学 6. 保健体育 7. 音楽 8. 美術 9. 技術・家庭 10. 英語 11. 総合的な学習の時間 12. その他()			
(3) 先生方の協力分担の方法をご記入下さい 1. 2人が役割分担し、交互に授業を進める 2. 一方が主に授業し、他方がその補助をする 3. 一方が主に授業し、他方が児童生徒の個別指導をする			
Q 3. ティーム・ティーチングに対するあなたの評価をお聞かせ下さい。			
	そう 思う	どちらで もない	そう思 わない
1. 多様な学力水準の児童生徒に応じた指導ができた	3	2	1
2. 習熟の程度が高い児童生徒に対して、発展的な指導ができた	3	2	1
3. 習熟の程度が低い児童生徒に対して、分かるまで指導ができた	3	2	1
4. 児童生徒の多様な関心や興味に応じた指導ができた	3	2	1
5. 児童生徒の学力が向上した	3	2	1
6. 児童生徒の学習意欲が向上した	3	2	1
7. 生徒指導上の成果が得られた	3	2	1
8. 相手の教師のおかげで効果的な授業をすることができた	3	2	1
9. 教師間の協力が増えた	3	2	1
10. 相手の教師から学ぶことが多かった	3	2	1
11. 教員間での事前の調整が大変であった	3	2	1
12. 教師間の協力・連携が難しかった	3	2	1
13. ティーム・ティーチングは実施するに値すると思う	3	2	1
14. ティーム・ティーチングは労力の割には効果が少ない	3	2	1
15. 指導の工夫次第では、TTはもっとよくなる	3	2	1
Q 4. 少人数学習のメリットとデメリットを自由にお書きください。			
Q 5. ティーム・ティーチングのメリットとデメリットを自由にお書きください。			
Q 6. 少人数学習やTTをもっと活用する方法がありましたら、自由にお書きください。			

質問Ⅳ. 全員に伺います。児童生徒の学習の状況について所見や意見をお聞かせ下さい。

	そう 思う	どちらで もない	そう思 わない
Q 1. 平常の授業内容を子どもたちはおおそ理解している	3	2	1
Q 2. 逆に授業内容が易しすぎて退屈している子どもがいる	3	2	1
Q 3. チャイムが鳴ったら着席して教師の到着を待っている	3	2	1
Q 4. 授業中、児童生徒は教師の話をよく聞いている	3	2	1
Q 5. 分からないことがあると子どもはよく質問する	3	2	1
Q 6. 理解不十分でも次の単元に進まざるを得ないことがある	3	2	1
Q 7. 宿題をやってこない子どもがいる	3	2	1
Q 8. 授業に集中しない子どもがいる	3	2	1
Q 9. 子どもが授業をどの程度理解しているか、把握できている	3	2	1
Q 10. 一人ひとりの子どもの学習状況によく目が行き届く	3	2	1
Q 11. 理解できない子どもに繰り返して指導する時間がある	3	2	1
Q 12. 一人ひとりの子どもの分かるまで指導するだけのゆとりがある	3	2	1
Q 13. 学級内の児童生徒の到達度に幅がありすぎると思う	3	2	1
Q 14. あなたの授業内容を十分に理解できない子どもはどの程度いますか			
	5. 10-20%位	4. 20-30%位	3. 30-40%位 2. 40-50%位 1. 50%以上

質問Ⅴ. 児童生徒の学校での生活についてあなたの所見や意見をお聞かせ下さい。

	そう 思う	どちらで もない	そう思 わない
Q 1. 子どもたちは、日常の基本的な生活習慣を身につけている	3	2	1
Q 2. 学級集団としてのまとまりがある	3	2	1
Q 3. 子どもたちは全体に伸びのびとしている	3	2	1
Q 4. 子どもたちは個性を伸ばしている	3	2	1
Q 5. 教師の指示に従わない子どもがクラスにいて困ることがある	3	2	1
Q 6. 子どもたちの学校での日常生活に目が行き届いている	3	2	1
Q 7. 子どもどうしの人間関係に目が行き届いている	3	2	1
Q 8. 一人ひとりの子どもの話を聞いてやるゆとりがある	3	2	1
Q 9. 一人ひとりの子どもの心配事や悩みを把握している	3	2	1
Q 10. 遅刻したり学校を休む子どもが多い	3	2	1
Q 11. 子どもたちの家庭や学校外での生活状況を把握している	3	2	1
Q 12. 保護者とのコミュニケーションをとることは難しい	3	2	1
Q 13. 子どもの気持ちや考え方についていけないと思ったことがある	3	2	1

質問Ⅵ. 学級定数等の改善についてのあなたのご意見を伺います。

Q 1. あなたが日常授業をしている学級の規模についてご意見をお聞かせ下さい。 1. 大きすぎると思う 2. 適正規模だと思う 3. 小さすぎると思う		
Q 2. 現在の学級定数上限 40 人についてご意見をお聞かせ下さい。 1. 大きすぎると思う 2. 適正規模だと思う 3. 小さすぎると思う		
Q 3. 学校の教員数を増加させる場合、様々な方法があります。あなたのご意見をお聞かせください。		
	そう思う	そう思わない
1 TTのために教員を加配するよりも、学級自体の規模を小さくした方がよい	2	1
2 少人数学習のために教員を加配するよりも、学級規模を小さくした方がよい	2	1
3 小学校の専科教員を増やすよりも、学級規模を小さくした方がよい	2	1

ご協力ありがとうございました。ご回答済みの調査票は校長先生にお渡し下さい。一括して返送していただきます。

少人数学習・TTと家庭での学習についての児童生徒調査

このアンケートは、皆さんの学校や家庭での勉強や生活について考えをたずねるものです。学校のテストではありませんので、自分の気持ちのとおりにお答えください。

アンケートは全部で8頁あります。最初に7頁（算数・数学）の問題を10分、次に8頁（国語）の問題を10分で回答してください。

その後、この頁にもどり、質問紙の問題に答えて下さい。（ ）には文字や数字を書き込み、番号がついているものは○をつけてください。

1. まず、あなたとあなたの学級について聞きます。

学年、クラス、番号	()年()組()番			
性別	1. 男	2. 女		
学級の人数	1. 7人以下	2. 8-12人	3. 13-20人	4. 21-25人
	5. 26-30人	6. 31-35人	7. 36-40人	8. 41人以上
担任の先生の性別	1. 男	2. 女		

2. あなたは、つぎの教科の学習がどのくらい好きですか。

番号	教科	とても好き	好き	どちらとも いえない	きらい	とても きらい
1	国語	1	2	3	4	5
2	社会	1	2	3	4	5
3	算数/数学	1	2	3	4	5
4	理科	1	2	3	4	5
5	体育/保健体育	1	2	3	4	5
6	音楽	1	2	3	4	5
7	図工/美術	1	2	3	4	5
8	家庭/技術家庭	1	2	3	4	5
9	英語	1	2	3	4	5
10	道徳	1	2	3	4	5
11	総合的な学習	1	2	3	4	5

3. あなたは授業がどのくらい分かりますか。

番号	教科	ほとんど 分かる	だいたい 分かる	半分くらい 分かる	あまり 分からない	ほとんど 分からない
1	国語	1	2	3	4	5
2	社会	1	2	3	4	5
3	算数/数学	1	2	3	4	5
4	理科	1	2	3	4	5
5	英語(中学校だけ)	1	2	3	4	5

4. あなたは、自分のクラスの人数や各教科の授業の人数について、どのように思いますか。

		人数について				授業の人数について			
		もっと 多い方 がよい	いまが ちょうど よい	もっと 少ない方 がよい		もっと 多い方 がよい	いまが ちょうど よい	もっと 少ない方 がよい	
1	クラスの人数	1	2	3	6	音楽の授業	1	2	3
2	国語の授業	1	2	3	7	図工や美術	1	2	3
3	算数や数学	1	2	3	8	体育	1	2	3
4	社会	1	2	3	9	家庭・技家	1	2	3
5	理科	1	2	3	10	英語(中学校)	1	2	3

5. あなたの学校での学習の状況について聞きます。あてはまる番号に○をつけて下さい。

番号	内容	あてはまる よく	あてはまる すこし	あてはまる あまり ない	あてはまる まったく ない
1	授業中、先生の話や友達の発表をよく聞いている	1	2	3	4
2	授業中、進んで発表したり、質問したりする	1	2	3	4
3	授業中、大切だと思ったことはノートに書きとる	1	2	3	4
4	考えたこと、調べたことなどを文や図でまとめる	1	2	3	4
5	みんなの前で、自分の考えを説明する	1	2	3	4
6	学校の授業は楽しい	1	2	3	4
7	がんばれば、もっとよい成績がとれると思う	1	2	3	4
8	学校での成績は、学年の中で良い方だと思う	1	2	3	4
9	授業中、ぼんやりとすることがある	1	2	3	4
10	授業を休んだり、遅刻したりすることがある	1	2	3	4
11	わたしは、勉強が好きな方だと思う	1	2	3	4
12	授業中、授業と関係ないことをすることがある	1	2	3	4
13	解けるはずの問題を間違えるとくやしいと思う	1	2	3	4

6. あなたが授業で質問や発表をしないとしたら、なぜですか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 人前で質問や発表することがはずかしいから	5. あとで友だちに聞くから
2. だれかが質問や発表すると思うから	6. あとで先生に質問するから
3. 授業の進み方がおそくなるから	7. あとで自分で調べるから
4. すぐにことばにできないから	8. わからなくても平気だから

7. あなたの学級での授業について聞きます。つぎのことはどのくらいありますか。

番号	内容	よく ある	とき ある	あ まり ない	ほと んど ない
1	先生が1時間中説明し、生徒が聞いている授業	1	2	3	4
2	先生が生徒によく質問し、生徒がよく発表する授業	1	2	3	4
3	グループで話し合う授業	1	2	3	4
4	学級全員で話し合う授業	1	2	3	4
5	ドリルやプリントの問題をとく授業	1	2	3	4
6	国語で、1時間に1人が1回以上発表する	1	2	3	4
7	書いた作文を先生がほめたり直したりしてくれる	1	2	3	4
8	先生が、算数や数学のプリントやドリルを見せてくれる	1	2	3	4
9	算数や数学の問題を解いて、みんなの前で説明する	1	2	3	4
10	わかっていない子どもに先生はていねいに教えてくれる	1	2	3	4
11	理科の授業で、実験器具を使って生徒が実験する	1	2	3	4
12	理科の授業で、道具や器具が足りないことがある	1	2	3	4
13	先生は、宿題をたくさん出す	1	2	3	4
14	先生は、宿題をよくみてる	1	2	3	4
15	朝の授業の前に、学習や読書の時間がある	1	2	3	4
16	放課後に、先生が分からないところを教えてくれる	1	2	3	4

8. あなたの学級や先生について聞きます。どのくらいあてはまりますか。

番号	内容	あてはまる よく	あてはまる すこし	あてはまらない あまり	あてはまらない まったく
1	わたしのクラスは、集団としてのまとまりがある	1	2	3	4
2	どの子ども、授業をおおよそ理解している	1	2	3	4
3	チャイムが鳴ったらどの子ども席に座って先生を待っている	1	2	3	4
4	授業中、どの子ども先生の話をよく聞いている	1	2	3	4
5	授業では、いろいろな人から意見がでる	1	2	3	4
6	先生の言うことをきかない子どもがクラスにいる	1	2	3	4
7	私のクラスは何でも言い合えるふんいきがある	1	2	3	4
8	クラスに遅刻したり学校を休む子どもがいる	1	2	3	4
9	どの子ども運動会などの行事に熱心に参加している	1	2	3	4
10	どの子ども児童会や生徒会の活動に進んで参加している	1	2	3	4
11	どの子ども学級の委員や係活動を進んでやっている	1	2	3	4
12	どの子どもクラブ活動に参加している	1	2	3	4
13	どの子どもそうじを一生懸命している	1	2	3	4
14	どの子ども学校のきまりを守っている	1	2	3	4
15	先生は私の学習状況をよく分かってきている	1	2	3	4
16	先生は私の心配事や悩みを理解してくれている	1	2	3	4
17	先生は私の家庭や学校外での生活をよく分かってきている	1	2	3	4
18	先生は私たちの話をよく聞いてくれる	1	2	3	4
19	先生は子どもたちの人間関係をよく知っている	1	2	3	4
20	先生は私の親とよく知り合っている	1	2	3	4

9. 二人の先生が教える授業（ティーム・ティーチング、TT）について聞きます。

1	今年、二人の先生が教える授業（TT）を受けたことがありますか					
	1. 受けた 2. 受けていない					
以下、1. 受けた と答えた人だけに聞きます。2. 受けていない人は、11に進んで下さい。						
2	それは、どのような教科ですか					
	1. 国語 4. 理科 7. 図工／美術					
	2. 社会 5. 体育／保健体育 8. 家庭／技術家庭科					
	3. 算数／数学 6. 音楽 9. 英語					
3	そのとき、二人の先生はどのように授業を進めていますか					
	1. 二人の先生が交代で授業を進めている					
	2. 一人の先生が授業をすすめ、もう一人の先生はその手伝いをしている					
	3. 一人の先生が授業をすすめ、もう一人の先生は子どもに教えている					
4	二人の先生が教える授業について、あなたの考えにあてはまる番号を選んでください。					
		内容	あてはまる よく	あてはまる すこし	あてはまらない あまり	あてはまらない まったく
	1	二人の先生が教える授業は好きである	1	2	3	4
	2	二人の先生が教える授業は楽しい	1	2	3	4
	3	授業の内容がいつもよりよくわかる	1	2	3	4
	4	質問がしやすい	1	2	3	4
	5	わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	1	2	3	4
	6	自分の興味や関心にそった勉強ができる	1	2	3	4
	7	いつもより難しい内容の勉強ができる	1	2	3	4
	8	クラスのふんいきがよくなる	1	2	3	4
	9	授業に集中しやすい	1	2	3	4

10	担任の先生でないと話が通じにくい	1	2	3	4
11	授業中、のんびりできない	1	2	3	4
12	先生が多いので、落ち着かない	1	2	3	4

10. いつものクラスより少ない人数の授業（少人数）についてお聞きします。

1	いつものクラスより少ない人数の授業を受けたことがありますか				
	1. 受けた		2. 受けていない		
以下、1. 受けた と答えた人だけに聞きます。2. 受けていない人は、質問 12 に進んで下さい。					
2	それは、どのような教科でしたか				
	1. 国語	2. 算数/数学	3. 理科	4. 英語	5. その他()
3	そのとき、どのような人といっしょのグループになりましたか				
	1. いつものクラスが2つのグループに分かれた		2. 他のクラスの人と混じったグループに分かれた		
4	グループにはどのくらいの期間（長さ）、分かれましたか				
	1. 1年間ずっと		2. 学期の間だけ		3. ひとつの単元の間だけ
5	グループにはどのようにして分かれましたか				
	1. めいば順に分かれた（またはくじびき）				
	2. 勉強の難しさによって、グループに分かれた（基礎・発展コースなど）				
	3. 勉強する内容によって、グループに分かれた（自分の興味あるテーマ）				
	どのように少人数のグループはきまりましたか				
	1. 自分の考えで決めた				
	2. 先生と相談して決めた				
	3. 先生から言われた				
少ない人数の授業について、あなたの考えにあてはまる番号を選んでください。					
	内容	あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
		よく	すこ	あまり	まったく
		る	し	り	く
6	1 少ない人数の授業は好きである	1	2	3	4
	2 少ない人数の授業は楽しい	1	2	3	4
	3 授業の内容がいつもよりよくわかる	1	2	3	4
	4 質問がしやすい	1	2	3	4
	5 わからないことは、先生にすぐに教えてもらえる	1	2	3	4
	6 自分の興味や関心にそった勉強ができる	1	2	3	4
	7 いつもより難しい内容の勉強ができる	1	2	3	4
	8 クラスのふんいきがよくなる	1	2	3	4
	9 授業に集中しやすい	1	2	3	4
	10 いつもの先生でないから話が通じにくい	1	2	3	4
	11 授業中、のんびりできない	1	2	3	4
	12 いつものクラスの友だちと勉強できず、残念だ	1	2	3	4
	13 授業の人数が少なすぎて、活気がない	1	2	3	4

11. あなたは、学校のクラブ活動に参加していますか。参加しているものをえらび、○をつけてください。クラブに入っている人は、右の質問に答えて下さい。

はいっているクラブの種類	クラブに入っている人に聞きます。
1. 運動クラブ	1 週間に何日くらい活動していますか。
2. 音楽クラブ	おおよそ () 日
3. 文化クラブ	1 日の活動時間は、
4. どれにも入っていない	おおよそ () 時間

12. 家庭での勉強や生活について聞きます。

1	あなたはどのような塾や学校以外のクラブに通っていますか。 あてはまるものに○をつけて下さい。いくつ○をつけてもかまいません。		
	1. 学習塾 2. 英語会話 3. ピアノ・ダンス・舞踊など	4. 書道や絵画など 5. そろばん、パソコンなど 6. 野球、サッカー、水泳などスポーツ	
2	あなたは、家で1週間に何日くらい勉強をしますか。(塾での勉強は除く)		
	1. 1日 5. 5日	2. 2日 6. 6日	3. 3日 7. 7日(毎日)
3	ふだん(月曜一金曜)、家では1日何時間勉強しますか。(塾や家庭教師を除きます)		
	1. しない 2. 30分以下	3. 30分以上,1時間以下 4. 1時間以上,2時間以下	5. 2時間以上,3時間以下 6. 3時間以上
4	家ではどのような勉強をしますか。あてはまるものにいくつでも○をしてください。		
	1. 学校の宿題 2. 学校の授業の予習・復習 3. 塾の宿題	4. 通信教育の教材での勉強 5. 本屋で買った問題集・参考書での勉強 6. その他()	
5	ふだん(月曜一金曜)、1日何時間テレビを見ますか。		
	1. みない 2. 1時間以下	3. 1時間以上,2時間以下 4. 2時間以上,3時間以下	5. 3時間以上,4時間以下 6. 4時間以上
6	ふだん(月一金)、1日何時間ゲームをしますか。(テレビゲーム、ゲームボーイ、カードゲームなど)		
	1. しない 2. 1時間以下	3. 1時間以上,2時間以下 4. 2時間以上,3時間以下	5. 3時間以上,4時間以下 6. 4時間以上
7	学校から帰った後、あなたがよくするものに、いくつでも○をしてください。		
	1. 一人でテレビをみる 2. 一人で勉強する	3. 友だちと家で遊ぶ 4. 公園などで遊ぶ	5. 友だちと商店などへ行く 6. 塾やクラブに行く
8	ふだん(月曜一金曜)、1日の睡眠時間はどのくらいですか。時間を書いてください。 ()時間くらい		

13. あなたの家族構成を聞きます。家で一緒に生活している人に○をつけて下さい。

1. 父	3. 祖父	5. 兄	7. 姉	9. その他(書いて下さい)
2. 母	4. 祖母	6. 弟	8. 妹	()

14. 家庭での学習について聞きます。あてはまる番号に○をつけて下さい。

番号	内容	あてはまる よく	あてはまる すこし	あてはまる あまり ない	あてはまる まったく ない
1	学校の宿題はきちんとやる	1	2	3	4
2	学校の授業の予習や復習をする	1	2	3	4
3	学校や塾の宿題以外に進んで勉強する	1	2	3	4
4	分からない問題があれば、教科書や参考書で調べる	1	2	3	4
5	分からない問題があれば、家の人におしえてもらう	1	2	3	4
6	家で落ち着いて勉強できる	1	2	3	4
7	テレビやラジオ、音楽をつけながら勉強する	1	2	3	4
8	テスト前には計画をたてて勉強する	1	2	3	4
9	家の人に言われなくても自分で進んで勉強する	1	2	3	4
10	時間をみつけて物語や小説を読む	1	2	3	4
11	新聞を読む	1	2	3	4

15. あなたの家での生活について聞きます。あてはまる番号に○をつけて下さい。

番号	内容	あてはまる よく	あてはまる やや	あてはまる ない あまり	あてはまる ない まったく
1	毎朝、朝食を食べる	1	2	3	4
2	夕食を一人で食べることがある	1	2	3	4
3	学校に持っていく物は、前の日にそろえる	1	2	3	4
4	ふだん（月一金）朝起きたり、夜寝たりする時間が決まっている	1	2	3	4
5	家の人とよく学校や友だちの話をする	1	2	3	4
6	家の方は、自分のことをよく分かってくれている	1	2	3	4
7	家の人に「勉強しなさい」とよく言われる	1	2	3	4
8	家には本がたくさんある	1	2	3	4
9	おやは私の成績を知っている	1	2	3	4
10	学校から帰った時には、家にはいつも大人がいる	1	2	3	4
11	私は、おやを尊敬している	1	2	3	4
12	寝坊しそうになったら、家のだれかが私を起こしてくれる	1	2	3	4

16. あなたが小さい頃（小学2年生くらいまで）、家の方はどんなことをしてくれましたか。

番号	内容	あてはまる よく	あてはまる すこし	あてはまる ない あまり	あてはまる ない まったく
1	勉強を教えてくれた	1	2	3	4
2	図鑑をそろえてくれた	1	2	3	4
3	参考書をそろえてくれた	1	2	3	4
4	絵本を読んでくれた	1	2	3	4
5	図書館や美術館に連れて行ってくれた	1	2	3	4
6	習い事（ピアノなど）をさせてくれた	1	2	3	4

17. あなたの家の人は、次のようなことをどのくらいしますか。

番号	内容	よくする	する すこし	しない あまり	ほとんど しない
1	テレビのニュース番組をみる	1	2	3	4
2	スポーツ中継をみる	1	2	3	4
3	歌番組をみる	1	2	3	4
4	新聞を読む	1	2	3	4
5	クラシックの音楽を聴く	1	2	3	4
6	ピアノをひく	1	2	3	4
7	歴史小説や歴史の本を読む	1	2	3	4
8	文学作品や小説を読む	1	2	3	4
9	パソコンやワープロをする	1	2	3	4

18. あなたは、将来、どのような学校に進学したいですか。

1.	中学校を卒業したら就職したい
2.	高校まで進学して就職したい
3.	大学や専門学校まで進学したい

- ① ————や————のことばを漢字で書きましょう。
 (は、送りがなも書きましょう。)
- ① ほうたいをまく。 ()
- ② ひこうきに乘る。 ()
- ③ 熱心ねっしんにはたらく。 ()
- ④ ちよきんをする。 ()
- ⑤ こなゆきがふる。 ()
- ⑥ 勝利をよろこぶ。 ()
- ⑦ 次のしあいでは、かならず勝つ。 ()
- ⑧ 姉のそつぎようを家族でいわう。 ()

② ()に合うことばを選び、記号を書きましょう。

- ① 海にすむ生き物について ()。
- ② 調べ学習に地いきの図書館を ()。
- ③ 古いコンピュータがすがたを ()。
- ④ 先生とすれちがって声を ()。

ア かける イ 利用する ウ 消す
 エ ふり返る オ 調査さする

③ 「たてる」が次の意味で使われているものを二つずつさがし、記号を書きましょう。

- ① まっすぐにする。 …… () ・ ()
- ② たてものをつくる。 …… () ・ ()
- ③ はっきり決める。 …… () ・ ()

ア 家をたてる。 イ 本をたてる。
 ウ 計画をたてる。 エ 旗をたてる。
 オ ビルをたてる。 カ 予定をたてる。

① □にあてはまる数字や数をかきなさい。

① 1237659840000の千億おくの位くわいの数字は、
□です。

()

② 500億を10でわった数は、□億です。

()

③ 1を7こと、0.1を3こあわせた数は、□です。

()

④ 2.5は、0.1を□こ集めた数です。

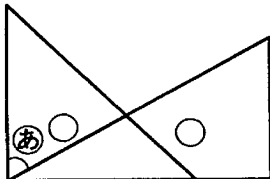
()

② 四捨五入ししゃごにゅうして千の位すうまでのがい数で表したとき、37000になる数はどれですか。全部えらんで記号で答えなさい。

ア 37800	イ 36719
ウ 37214	エ 36480

()

③ 下のように、三角じょうぎを2まい組み合わせせてできる②の角度は何度ですか。



()

中2国語 (時間10分)

1 次の文の——線のひらがなは漢字(楷書)に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

- (1) いがいな結果に驚く。
- (2) 池のしゅういを走る。
- (3) 古い寺院をたずねる。
- (4) 誕生日に友達をまねく。
- (5) きびしい口調で話す。
- (6) 彼の話は矛盾している。
- (7) 試合に備えて練習する。
- (8) 一月半ばの寒さだ。

2 次の作文を読んで、あとの問いに答えなさい。

二学期を振り返ってみると、わたしは、一学期に比べて勉強の量が少なかったように思います。

わたしが中学校に入ったとき、父母から「一年生からよく勉強しておかないと、あとになって後悔するから、しっかり勉強しなさい。」と言われたことを、今でもはっきり覚えている。そして、一学期の終わりまでは、「よし！がんばろう。」という気持ちがわいて、毎日、予習や復習をしました。ところが、一学期の成績はとてよくなりました。でも、二学期は少し怠けてしまい、この間の期末テストはとてよ下がつてしまいました。

そこで、今度の冬休みには不得意な教科をしっかりと勉強して、三学期には、また中学校へ入学した当時の気持ちでがんばっていきましょう。

- (1) 文章中に、①送りがな、②漢字の誤りが一か所ずつある。その部分を一単語で抜き出し、正しく書き直しなさい。
- (2) 文章中に、文と文のつながりの不適切なところが一カ所ある。その部分のつなぎ言葉を抜き出し、正しく書き直しなさい。
- (3) 敬体(です・ます体)で書くべきところを、常体(だ・である体)で書いてあるところがある。その部分を二文節で正しく書き直しなさい。

回答欄

2			1								
(3)	(2)	(1)		(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
		②	①								
	↓	↓	↓	ば	え			く	ね		

中2数学

(時間 10分)

1 次の計算をしなさい。

(1) $-8+3$

(2) $63 \div (-3^2)$

(3) $\frac{1}{5} \times 30 \div \left(-\frac{3}{8}\right)$

(4) $(-2)^2 + (7-4) \times \left(-\frac{2}{3}\right)$

1	(1)	
	(2)	
	(3)	
	(4)	

2 次の問いに答えなさい。

(1) 1本80円の鉛筆を a 本と100円の消しゴムを1個買ったときの代金を、 a を使った式で表しなさい。

(2) 時速 a kmで2時間30分走ったときの道のりを、 a を使った式で表しなさい。

(3) 1個 x 円のりんごを12個買った。2000円出したときのおつりを y 円とすると、 y を x を使った式で表しなさい。

2	(1)		円
	(2)		km
	(3)	$y =$	